

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門	看護学科 (3年)	夜・通信	2,925	240	
	看護学科 (2年)	夜・通信	2,925	160	
教育・社会福祉専門	介護福祉学科 (2年)	夜・通信	2,540	160	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ (http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html) で公開する。 年度初めのオリエンテーションにて、学生・保護者に対して冊子にて配布 パンフレット
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ (<http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html>) で公開する。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	相談役	H30.4.1 ～R3.3.31	企画
非常勤	取締役営業本部長	H30.4.1 ～R3.3.31	コンプライアンス
非常勤	支店長	H30.4.1 ～R3.3.31	労務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名(学部等名)	水戸看護福祉専門学校(看護学科、介護福祉学科)
設置者名	学校法人 八文字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの作成過程及び時期 <ul style="list-style-type: none"> 10月 教育課程(案)の内容を検討 11月 教育課程編成会議において審議 2月 授業計画(シラバス)の決定 ・シラバスの公開時期 翌年 4月 入学オリエンテーションにて、学生保護者へ配布説明。 	
<p>授業計画の公表方法</p>	<p>ホームページ (http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html)で公開する。</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>・成績の評価は、学科試験及び実習の成績により判定する。学業成績は、各授業科目のいずれも100点満点とする。A・B・C・Dの評語をもって表し、A(80点以上)・B(70～80点未満)・C(60点～70点未満)を合格とし、D(60点未満)は不合格とする。看護学科の実習を含む履修認定については、授業時間数の3分の2以上の出席を必要とする。介護福祉学科は、授業時間数の3分の2以上の出席、実習時間数の5分の4以上の出席とする。</p> <p>授業計画に成績評価の方法・基準を示したうえで、成績評価のための試験を実施し、実習成果及び授業履修状況を勘案し、学修成果を判定している。</p>	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<p>・履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100点満点で点数化) 下位1/4に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>ホームページ (http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html)で公開する。</p>
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・ 人間尊重の理念に基づく看護師・介護福祉士に関する教育を行い，社会に貢献しうる有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし，授業を進めていく。
 - ・ 就業年限以上を在学していること。
 - ・ 授業科目及び授業時間数を履修していること。
 - ・ 出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。
- 以上の要件を満たした学生を認定会議にて，社会に貢献する有能な看護師・介護福祉士となる学生を決定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページ

(<http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html>
!) で公開する。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html
財産目録	学校事務局に備え付け・閲覧
事業報告書	学校事務局に備え付け・閲覧
監事による監査報告（書）	学校事務局に備え付け・閲覧

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門	看護学科3年制	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,000 単位時間/単位	1,965 単位 時間/ 単位	単位時 間/単 位	1,035 単位 時間/ 単位	単位時 間/単 位	単位時 間/単 位
			3,000 単位時間/単位				
生徒総定員 数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		124人	0人	12人	75人	87人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
・シラバスの作成過程及び時期 10月 教育課程（案）の内容を検討 11月 教育課程編成会議において審議 2月 授業計画（シラバス）の決定
・シラバスの公開時期 翌年 4月 入学オリエンテーションにて、学生保護者へ配布説明。
成績評価の基準・方法
・履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 （100点満点で点数化）下位 1/4 に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。

卒業・進級の認定基準
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間尊重の理念に基づく看護師・介護福祉士に関する教育を行い、社会に貢献しうる有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。 ・ 就業年限以上を在学していること。 ・ 授業科目及び授業時間数を履修していること。 ・ 出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。 以上の要件を満たした学生を認定会議にて、社会に貢献する有能な看護師・介護福祉士となる学生を決定する。
学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学時に、学業特待制度、資格特待制度があり、評定の平均が3.5以上の者は、国語、数学、英語、作文の4科目の試験を受け、成績によって授業料を免除。また、各種資格取得している者は、授業料の免除がある。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	0人 (%)	33人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 病院			
(就職指導内容) 求人紹介、病院見学、病院説明会			
(主な学修成果(資格・検定等)) 看護師(国家試験)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
118人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門	看護学科通信制				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,925 単位時間/単位	2,205 単位時 間/単 位	単位時 間/単 位	720 単位 時間 /単 位	単位時 間/単 位	単位時 間/単 位
			2,925 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
300人	121人	0人	8人	2人	10人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ・ シラバスの作成過程及び時期 10月 教育課程(案)の内容を検討 11月 教育課程編成会議において審議 2月 授業計画(シラバス)の決定 ・ シラバスの公開時期 翌年 4月 入学オリエンテーションにて、学生保護者へ配布説明。
成績評価の基準・方法
(概要) ・ 履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100点満点で点数化)下位 1/4 に位置する学生に対して、個別指導等 により成績の改善を促す。
卒業・進級の認定基準
(概要) ・ 人間尊重の理念に基づく看護師・介護福祉士に関する教育を行い、社会に 貢献しうる有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、 授業を進めていく。 ・ 就業年限以上を在学していること。 ・ 授業科目及び授業時間数を履修していること。 ・ 出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。 以上の要件を満たした学生を認定会議にて、社会に貢献する有能な看護師・ 介護福祉士となる学生を決定する。
学修支援等
(概要) ・ 入学時に、学業特待制度、資格特待制度があり、評定の平均が3.5以上の者は、 国語、数学、英語、作文の4科目の試験を受け、成績によって授業料を免除。ま た、各種資格取得している者は、授業料の免除がある。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
58人 (100%)	0人 (0%)	58人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 病院			
(就職指導内容) 求人紹介、病院見学、病院説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師（国家試験）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
130人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門	介護福祉学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,540 単位時間/単位	1,148 単位 時間/ 単位	942 単 位時間 /単位	450 単位 時間 /単位	単位時 間/単 位	単位時 間/単 位
			2540 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		9人	0人	3人	7人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの作成過程及び時期 <ul style="list-style-type: none"> 10月 教育課程（案）の内容を検討 11月 教育課程編成会議において審議 2月 授業計画（シラバス）の決定 ・ シラバスの公開時期 翌年 4月 入学オリエンテーションにて、学生保護者へ配布説明。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 （100点満点で点数化）下位 1/4 に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間尊重の理念に基づく看護師・介護福祉士に関する教育を行い、社会に貢献しうる有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。 ・ 就業年限以上を在学していること。 ・ 授業科目及び授業時間数を履修していること。 ・ 出席すべき日数の 3 分の 2 以上を出席していること。 以上の要件を満たした学生を認定会議にて、社会に貢献する有能な看護師・介護福祉士となる学生を決定する。
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学時に、学業特待制度、資格特待制度があり、評定の平均が 3.5 以上の者は、国語、数学、英語、作文の 4 科目の試験を受け、成績によって授業料を免除。 また、各種資格取得している者は、授業料の免除がある。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	9人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>福祉施設 介護職</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>就職相談、履歴書およびエントリーシート作成指導、マナー指導 面接練習</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>介護福祉学科（国家試験）、介護事務管理士、福祉住環境ディネーター 認知症ライフパートナー、メイクセラピー すべて 100%合格</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考
看護学科 3年	150,000 円	600,000 円	647,000 円	施設設備費、実習費、教材費、実習着代、模擬試験料、学校行事費
看護学科 通信	100,000 円	400,000 円	90,000 円	実習費、国家試験対策費、模擬試験料、
介護福祉学科	100,000 円	600,000 円	425,000 円	施設設備費、実習費、教材費、実習着代、学校行事費
修学支援				
学業特待制度…試験を受け結果により授業料の免除。 資格特待制度…取得している資格によって授業料の免除を受けられる。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html) で公開する。		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
学校自ら自己評価をおこなうとともに、病院・福祉施設他業界団体が委員として参画する学校関係者評価を実施・公表し、評価結果に基づき学校運営体制の改善を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
介護老人保健施設みがわ	2019年4月1日～2021年3月31日	卒業生
グループホームぐるんぱの杜	2019年4月1日～2021年3月31日	卒業生
障害者支援施設あいの家	2019年4月1日～2021年3月31日	保護者
和田瓦工業	2019年4月1日～2021年3月31日	保護者
障害児通所支援事業所樹の子	2019年4月1日～2021年3月31日	地域住民
学童保育施設ひまわり学童クラブ	2019年4月1日～2021年3月31日	地域住民
常磐大学助教	2019年4月1日～2021年3月31日	学識経験者
介護老人保健施設小川敬愛の杜	2019年4月1日～2021年3月31日	学識経験者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html) で公開する。		
第三者による学校評価		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

ホームページ (<http://www.mito.ac.jp/disclosure/index.html>) で公開する。

茨城県専修学校各種学校連合会発行 スクールガイド (各高等学校・中学校へ配置)

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載

授業科目の一覧表 看護学科(3年制)

区分	教育内容	教科目	全 体		1年		2年		3年		実務者		
			時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	実務者	内 容	
基礎分野	科学的思考の基礎	論理的思考	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
		物理学	15	1	15	1							
		情報科学と統計	30	1	30	1					有	情報処理検定取得会社5年以上	
	人間の生活と社会の理解	哲学	30	1	30	1					有	看護師5年以上	
		心理学	30	1			30	1			有	認定心理士5年以上	
		家族と社会	30	1	30	1					有	看護師5年以上	
		教育学	15	1	15	1					有	看護師5年以上	
		人間関係論Ⅰ(コミュニケーション)	30	1	30	1					有	認定心理士5年以上	
		人間関係論Ⅱ(討議法)	15	1			15	1			有	認定心理士5年以上	
		人間関係論Ⅲ(カウンセリング)	30	1			30	1			有	認定心理士5年以上	
専門基礎分野	人体の構造と機能	健康と障がい	15	1	15	1							
		臨床英語の基礎	30	1			30	1					
		看護コミュニケーション論	15	1	15	1							
		生化学	30	1	30	1					有	医師5年以上	
	疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学Ⅰ	30	1	30	1					有	医師5年以上	
		解剖生理学Ⅱ	30	1	30	1					有	医師5年以上	
		解剖生理学Ⅲ	30	1	30	1					有	医師5年以上	
		解剖生理学Ⅳ	15	1	15	1					有	医師5年以上	
		薬理学の基礎	30	1	30	1					有	医師5年以上	
		臨床病態学Ⅰ(診断と治療*がんの診断と治療)	30	1	30	1					有	医師5年以上	
臨床病態学Ⅱ(呼吸器・循環器疾患)		30	1	30	1					有	医師5年以上		
臨床病態学Ⅲ(血液・造血器疾患、消化器疾患)		30	1	30	1					有	医師5年以上		
臨床病態学Ⅳ(腎、泌尿器、生殖器疾患)		30	1	30	1					有	医師5年以上		
臨床病態学Ⅴ(脳神経、運動器疾患とリハビリ)		30	1	30	1					有	医師5年以上		
健康支援と社会保障制度	臨床病態学Ⅵ(精神障害)	30	1	30	1					有	医師5年以上		
	臨床病態学Ⅶ(小児・女性生殖器)	30	1	30	1					有	医師5年以上		
	微生物学	30	1			30	1			有	医師5年以上		
	栄養学	30	1			30	1			有	栄養士5年以上		
	医療概論	15	1	15	1					有	医師5年以上		
	医療安全	15	1					15	1	有	看護師5年以上		
	公衆衛生	15	1			15	1			有	看護師5年以上		
	関係法規	15	1			15	1			有	医師5年以上		
	社会福祉	30	2	30	2					有	社会福祉士5年以上		
	専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ(概論)	30	1	30	1					有	看護師5年以上
基礎看護学Ⅱ(コミュニケーション、看護教育)			30	1	30	1					有	看護師5年以上	
基礎看護学Ⅲ(活動と休息、環境整備)			30	1	30	1					有	看護師5年以上	
基礎看護学Ⅳ(清潔・衣生活と排泄)			30	1	30	1					有	看護師5年以上	
基礎看護学Ⅴ(栄養、呼吸・循環を整える技)			30	1	30	1					有	看護師5年以上	
基礎看護学Ⅵ(薬・注射・創傷管理)			30	1	30	1					有	看護師5年以上	
基礎看護学Ⅶ(フィジカルアセスメント)			30	1	30	1					有	看護師5年以上	
基礎看護学Ⅷ(フィジカルアセスメント2)			30	1	30	1					有	看護師5年以上	
基礎看護学Ⅷ(看護過程)			30	1	30	1					有	看護師5年以上	
基礎看護学Ⅸ(臨床看護学)			30	1	30	1					有	看護師5年以上	
*臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	45	1	45	1					有	看護師5年以上		
	基礎看護学実習Ⅱ	90	2			90	2			有	看護師5年以上		
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学Ⅰ:成人看護学概論	30	1	30	1					有	看護師5年以上	
		成人看護学Ⅱ:経過別看護(リハビリテーション)	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
		成人看護学Ⅲ:経過別看護(リハビリテーション)	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
		成人看護学Ⅳ:経過別看護(周手術期)	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
		成人看護学Ⅴ:経過別看護(慢性期)	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
		成人看護学Ⅵ:経過別看護(ターミナル期)	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
	老年看護学	老年看護学Ⅰ:概論	30	1	30	1					有	看護師5年以上	
		老年看護学Ⅱ:高齢者の生活を整える看護	30	1	30	1					有	看護師5年以上	
	小児看護学	老年看護学Ⅲ:高齢者の看護	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
		老年看護学Ⅳ:看護過程	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
小児看護学Ⅰ:概論		30	1	30	1					有	看護師5年以上		
小児看護学Ⅱ:健康障害をもつ小児の生活と		30	1			30	1			有	看護師5年以上		
母性看護学	小児看護学Ⅲ:病児の看護	30	1			30	1			有	看護師5年以上		
	小児看護学Ⅳ:看護過程	30	1			30	1			有	看護師5年以上		
	母性看護学Ⅰ:概論	30	1	30	1					有	看護師5年以上		
	母性看護学Ⅱ:性と生殖	15	1			15	1			有	助産師5年以上		
	母性看護学Ⅲ:マタニティサイクル	30	1			30	1			有	助産師5年以上		
	母性看護学Ⅳ:看護過程	30	1			30	1			有	助産師5年以上		
	精神看護学	精神看護学Ⅰ:概論	30	1	30	1					有	看護師5年以上	
		精神看護学Ⅱ:援助論1	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
		精神看護学Ⅲ:援助論2	30	1			30	1			有	看護師5年以上	
		精神看護学Ⅳ:看護過程	15	1			15	1			有	看護師5年以上	
*臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	90	2					90	2	有	看護師5年以上		
	成人看護学実習Ⅱ	90	2					90	2	有	看護師5年以上		
	成人看護学実習Ⅲ	90	2					90	2	有	看護師5年以上		
	老年看護学実習Ⅰ	90	2			90	2			有	看護師5年以上		
	老年看護学実習Ⅱ	90	2					90	2	有	看護師5年以上		
	小児看護学実習Ⅰ	45	1			45	1			有	看護師5年以上		
	小児看護学実習Ⅱ	45	1					45	1	有	看護師5年以上		
	母性看護学実習	90	2					90	2	有	看護師5年以上		
	精神看護学実習	90	2					90	2	有	看護師5年以上		
	統合分野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ:概論	15	1			15	1			有	看護師5年以上
在宅看護論Ⅱ:看護技術			30	1			30	1			有	看護師5年以上	
在宅看護論Ⅲ:看護過程			30	1			30	1			有	看護師5年以上	
在宅看護論Ⅳ:地域看護			15	1			15	1			有	看護師5年以上	
看護の統合と実践		看護の統合と実践Ⅰ	15	1					15	1	有	看護師5年以上	
		看護の統合と実践Ⅱ	30	1					30	1	有	看護師5年以上	
		看護の統合と実践Ⅲ	30	1					30	1	有	看護師5年以上	
		看護の統合と実践Ⅳ	30	1					30	1	有	看護師5年以上	
		*臨地実習	在宅看護論実習	90	2					90	2	有	看護師5年以上
		看護の統合と実践実習	90	2					90	2	有	看護師5年以上	
実務経験の有る教員等による授業(A)			2925	93	###	38	960	33	885	22			
上記以外教員等による授業(B)			75	4	45	3	30	1	0	0			
総合計 (A)+(B)			3000	97	1125	41	990	34	885	22			

授業科目一覧表（看護学科通信制）

区分	教育内容	科目名	単位	時間	1年次	2年次	実務者	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	2	90	○		有	臨床心理士5年以上
		心理学	1	45		○	有	臨床心理士5年以上
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	2	90	○		有	臨床心理士5年以上
		社会学	2	90	○		有	看護師5年以上
	小計		7	315				
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	2	90	○		有	看護師5年以上
		栄養学	2	90	○		有	看護師5年以上
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	2	90	○		有	看護師5年以上
		微生物学	2	90	○		有	看護師5年以上
		薬理学	2	90	○		有	看護師5年以上
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生	2	90	○		有	看護師5年以上
		社会福祉	2	90		○	有	介護福祉士5年以上
小計		14	630					
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	2	90	○		有	看護師5年以上
		看護の共通基本技術	1	45	○		有	看護師5年以上
		看護過程の基礎	1	45	○		有	看護師5年以上
		日常生活の援助技術	1	45	○		有	看護師5年以上
		診療に伴う援助技術	1	45	○		有	看護師5年以上
	基礎看護学実習	基礎看護学事例演習	1	45	○		有	看護師5年以上
		基礎看護学実習	1	45	○		有	看護師5年以上
	小計		8	360				
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	45	○		有	看護師5年以上
		成人看護学方法論	2	90	○		有	看護師5年以上
	老年看護学	老年看護学概論	2	90	○		有	看護師5年以上
		老年看護学方法論	1	45	○		有	看護師5年以上
	小児看護学	小児看護学概論	2	90	○		有	看護師5年以上
		小児看護学方法論	1	45	○		有	看護師5年以上
	母性看護学	母性看護学概論	2	90	○		有	看護師5年以上
		母性看護学方法論	1	45	○		有	看護師5年以上
	精神看護学	精神看護学概論	2	90	○		有	看護師5年以上
		精神看護学方法論	1	45	○		有	看護師5年以上
	成人看護学実習	成人看護学事例演習	1	45	○		有	看護師5年以上
		成人看護学実習	1	45	○		有	看護師5年以上
	老年看護学実習	老年看護学事例演習	1	45	○		有	看護師5年以上
		老年看護学実習	1	45	○		有	看護師5年以上
	小児看護学実習	小児看護学事例演習	1	45	○		有	看護師5年以上
		小児看護学実習	1	45	○	○	有	看護師5年以上
	母性看護学実習	母性看護学事例演習	1	45	○		有	看護師5年以上
		母性看護学実習	1	45	○	○	有	看護師5年以上
	精神看護学実習	精神看護学事例演習	1	45	○		有	看護師5年以上
		精神看護学実習	1	45	○	○	有	看護師5年以上
小計		25	1125					
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	2	90	○		有	看護師5年以上
		在宅看護方法論	1	45	○		有	看護師5年以上
	看護の統合と実践	看護管理	1	45	○		有	看護師5年以上
		医療安全	1	45	○		有	看護師5年以上
		災害・国際看護	2	90	○		有	看護師5年以上
	在宅看護論実習	在宅看護論事例演習	1	45	○		有	看護師5年以上
		在宅看護論実習	1	45		○	有	看護師5年以上
	看護の統合と実践実習	看護の統合と実践事例演習	1	45	○		有	看護師5年以上
		看護の統合と実践実習	1	45		○	有	看護師5年以上
	小計		11	495				
	合計		65	2925				

授業科目一覧表（介護福祉学科）

教育内容	科目名	総合計		1年		2年		実務経験		
		時間	単位	時間	単位	時間	単位	内容		
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間福祉論	30	2	30	2			有	社会福祉士、社会福祉主事 5年以上
	人間関係とコミュニケーション	人間関係論	30	2	30	2			有	介護福祉士 5年以上
		手話	30	1	30	1			有	手話通訳士 10年以上
	社会の理解	法と社会保障	30	2	30	2			有	介護福祉士 5年以上
		社会福祉の基礎	30	2	30	2			有	介護福祉士 5年以上
	必須科目	文化と礼作法Ⅰ（国際教養）	30	2	30	2			有	介護福祉士 5年以上
		文化と礼作法Ⅱ（美容）	60	4			60	4	有	美容師 10年以上
		情報リテラシー	30	1	30	1			有	文書処理検定取得後5年以上
合計		270	16	210	12	60	4			
介護	介護の基本	介護福祉論Ⅰ	60	4	60	4			有	介護福祉士 5年以上
		介護福祉論Ⅱ	30	2	30	2			有	介護福祉士 5年以上
		介護福祉論Ⅲ	30	2			30	2	有	介護福祉士 5年以上
		介護の基本（リハビリ）	30	2			30	2	有	理学療法士 10年以上
		行動支援（応用行動分析）	30	2			30	2	有	介護福祉士 5年以上
	コミュニケーション技術	コミュニケーション	30	1	30	1			有	手話通訳士 10年以上
		対人関係論	30	2			30	2	有	介護福祉士 5年以上
	生活支援技術	生活自立支援Ⅰ	60	2	60	2			有	介護福祉士 5年以上
		生活自立支援Ⅱ	60	2	60	2			有	介護福祉士 5年以上
		生活自立支援Ⅲ	30	1			30	1	有	介護福祉士 5年以上
		生活自立支援Ⅳ	30	1			30	1	有	介護福祉士 5年以上
		家政学	30	2			30	2	有	介護福祉士 5年以上
		レクリエーション活動援助法Ⅰ	60	2	60	2			有	レクリエーションインストラクター10年以上
		レクリエーション活動援助法Ⅱ	30	1	30	1			有	レクリエーションインストラクター10年以上
		生きがい支援技術Ⅰ	30	1	30	1			有	福祉レクリエーションインストラクター10年以上
		生きがい支援技術Ⅱ	60	2			60	2	有	福祉レクリエーションインストラクター10年以上
		生きがい支援技術Ⅲ	60	2			60	2	有	福祉レクリエーションインストラクター10年以上
	介護過程	介護過程理論Ⅰ	60	4	60	4			有	介護福祉士 5年以上
		介護過程理論Ⅱ	30	2	30	2			有	介護福祉士 5年以上
		介護過程実践	30	2			30	2	有	介護福祉士 5年以上
		介護サービス論	30	2			30	2	有	介護福祉士 5年以上
介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	60	2	60	2			有	介護福祉士 5年以上	
	介護総合演習Ⅱ	60	2	60	2			有	介護福祉士 5年以上	
	介護総合演習Ⅲ	30	1			30	1	有	介護福祉士 5年以上	

教育内容		科目名	総合計		1年		2年		実務経験		
			時間	単位	時間	単位	時間	単位		内容	
介護実習	介護実習Ⅰ	介護実習Ⅰ	45	1	45	1			有	介護福祉士 5年以上	
	介護実習Ⅱ	介護実習Ⅱ	90	2	90	2			有	介護福祉士 5年以上	
	介護実習Ⅲ	介護実習Ⅲ	135	3	135	3			有	介護福祉士 5年以上	
	介護実習Ⅳ	介護実習Ⅳ	135	3			135	3	有	介護福祉士 5年以上	
	在宅介護実習	在宅介護実習	45	1			45	1	有	介護福祉士 5年以上	
合 計			1440	56	840	31	600	25			
からだのしくみ	発達と老化の理解	基礎心理	30	2	30	2			有	介護福祉士 5年以上	
		生涯過程	30	2			30	2	有	介護福祉士 5年以上	
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	30	2	30	2			有	介護福祉士 5年以上	
		認知症の理解Ⅱ	30	2	30	2			有	介護福祉士 5年以上	
	障害の理解	障害の理解Ⅰ	30	2	30	2			有	看護師 10年以上	
		障害の理解Ⅱ	30	2			30	2	有	看護師 5年以上	
	こころとからだのしくみ	基礎医学Ⅰ	30	2	30	2			有	看護師 5年以上	
		基礎医学Ⅱ	30	2	30	2			有	看護師 5年以上	
		基礎医学Ⅲ	30	2	30	2			有	看護師 5年以上	
		精神保健	30	2			30	2	有	介護福祉士 5年以上	
	合 計			300	20	210	14	90	6		
	医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	34	2	34	2			有	看護師 10年以上
医療的ケアⅡ			34	2	34	2			有	看護師 10年以上	
医療的ケアⅢ			36	1			36	1	有	看護師 10年以上	
医療的ケアⅣ			36	1			36	1	有	看護師 10年以上	
合 計			140	6	68	4	72	2			
その他	その他	介護事務	90	3	30	1	60	2	有	介護事務管理士 3年以上	
		住環境支援技術Ⅰ	30	2	30	2			有	福祉住環境コーディネーター5年以上	
		住環境支援技術Ⅱ	30	2	30	2			有	福祉住環境コーディネーター5年以上	
		国試対策	120	8	60	4	60	4	有	介護福祉士 5年以上	
		卒業研究	120	4			120	4	有	介護福祉士 5年以上	
	合 計			390	19	150	9	240	10		
総 合 計			2540	117	1410	66	990	45			

1年次シラバス



第7期生

水戸看護福祉専門学校 看護学科

授業科目： 物理学	単位（時間）： 1単位 （15時間）								
授業担当： 鬼沢 邦夫	開講時期： 1年次 前期								
<p>科目の概要</p> <p>看護の対象である人間の活動を、論理的法則により考えるためには、物理学の知識が必要である。また、診療の場面でも物理学の知識をもとに理解することで、より深い理解が得られる。</p> <p>以上より、物理学の中の力学を中心に、看護との関わりについて、事例を用いて理解を深める。</p> <p>物理学(Physics)とは、自然界のあらゆる現象を、包括的に理解するための理論を構築する自然科学のひとつであり、その性質上、強力な論理的言語が必要とされる。そのため数学との関係が深く、物理学を理解するためにはある程度の数学的知識が必要となる。</p> <p>目的</p> <p>看護を論理的に理解するために必要な、物理学の基本的知識を身につける</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 力学の一般的な法則を理解する 2. 力学の法則をもとに身体の姿勢、活動の基本を理解する 3. 溶液（消毒液）の計算、点滴計算、酸素ボンベの残量計算方法を修得する 4. 医療機器の原理を理解する 5. 看護場面における物理学を応用した援助方法について理解する 									
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 看護に物理学の応用が必要な理由 個体、液体、気体の関係 溶液（消毒液）の計算</td> <td>6. 熱とエネルギー 代謝とカロリー</td> </tr> <tr> <td>2. 点滴計算</td> <td>7. 物体の基本物質 素粒子、原子、放射線 レント ゲンの原理 電気と磁気の活用</td> </tr> <tr> <td>3. 酸素ボンベの残量計算 浸透圧、能動輸送 浮力</td> <td>8. 医療機器の原理 看護実践の適応 まとめ／終講試験</td> </tr> <tr> <td>4～5. てこの原理 運動の法則 慣性の法則 トルクの原理</td> <td></td> </tr> </table>		1. 看護に物理学の応用が必要な理由 個体、液体、気体の関係 溶液（消毒液）の計算	6. 熱とエネルギー 代謝とカロリー	2. 点滴計算	7. 物体の基本物質 素粒子、原子、放射線 レント ゲンの原理 電気と磁気の活用	3. 酸素ボンベの残量計算 浸透圧、能動輸送 浮力	8. 医療機器の原理 看護実践の適応 まとめ／終講試験	4～5. てこの原理 運動の法則 慣性の法則 トルクの原理	
1. 看護に物理学の応用が必要な理由 個体、液体、気体の関係 溶液（消毒液）の計算	6. 熱とエネルギー 代謝とカロリー								
2. 点滴計算	7. 物体の基本物質 素粒子、原子、放射線 レント ゲンの原理 電気と磁気の活用								
3. 酸素ボンベの残量計算 浸透圧、能動輸送 浮力	8. 医療機器の原理 看護実践の適応 まとめ／終講試験								
4～5. てこの原理 運動の法則 慣性の法則 トルクの原理									
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習復習をし、数字を変えたり求める数値を変えたりして応用し、計算に慣れる 2. 生化学、解剖整理学を理解するうえで物理学の基本を応用する 									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 									

使用テキスト

1. 新体系看護学全集 物理学 メヂカルフレンド社

参考図書

1. [布宮](#)・[菊池](#)・[中村](#) 共著：ポケット版 最新ケアにいかす看護数値の事典 [単行本]
2. [野中 広志](#) 著：ポケット版 看護の数式「なぜ・何」事典 [単行本]

DVD 講義の際に提示

授業科目： 情報科学と統計	単位（時間）： 1 単位（30 時間）														
授業担当： 長谷川 福子	開 講 時 期： 1 年次 前期														
実務経験のある教員等による授業科目（情報処理検定取得会社 5 年以上）															
<p>科目の概要</p> <p>現在は情報が氾濫し、インターネットで容易に情報が入手できる。一方で情報の信頼性や、倫理性などの問題もあり、情報の取り扱いが難しい時代である。</p> <p>情報科学は、組織体における情報の適用・活用、あるいは情報システムと人々・組織との相互作用についての研究であり、情報技術の様々な問題を扱う。</p> <p>統計は情報を適切に使いこなすために必要な道具である。</p> <p>看護は対象の情報を適切に処理・分析し、課題を明確にし、課題解決に向けて援助し、結果情報に基づいて評価し、適切な援助を行う。さらに、看護活動で得た情報を研究的視点で系統的に分析する活動も行う。</p> <p>本授業科目では、Word や Excel、インターネットを使い、情報処理の目的、方法と情報を分析するために必要な基本的な統計方法を学び、さらに、情報検索・収集、分析方法の基礎と、課題レポートの効果的な作成について学ぶ。</p>															
<p>目的</p> <p>情報処理の方法と課題について理解し、看護場面での情報活用方法について理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <p>*コンピュータ・サイエンス、情報工学、認知科学、各種社会科学などと部分的に重なる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報処理の基礎、特に情報を取り扱う上での倫理性について理解する 2. ワードプロ（Word）や表計算（Excel）などの規制ソフトの基本操作を修得する 3. インターネットを活用した情報収集の仕方を理解する 4. 情報を整理するための基礎的な文書処理や、数値処理の統計的処理の仕方を修得する 5. 看護活動場面での情報活用の実際を理解する 															
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 健康の指標の見方と統計について</td> <td>5. ワードプロソフト操作（レポート作成）</td> </tr> <tr> <td>2. 情報収集から分析までの流れ</td> <td>6. 表計算ソフト基本操作</td> </tr> <tr> <td>情報取り扱い上の倫理、注意点</td> <td>7～8. 計算ソフト基本操作演習</td> </tr> <tr> <td>インターネット検索</td> <td>9～13. 統計の基礎</td> </tr> <tr> <td>3. 情報検索の方法</td> <td>14. 病院、施設でのデータの流れと</td> </tr> <tr> <td>4. PCの基本操作と電子メールの</td> <td>ワードプロソフトの基本操作</td> </tr> <tr> <td>利用法 情報処理の実際</td> <td>15. まとめ／終講試験（課題レポート提出）</td> </tr> </table>		1. 健康の指標の見方と統計について	5. ワードプロソフト操作（レポート作成）	2. 情報収集から分析までの流れ	6. 表計算ソフト基本操作	情報取り扱い上の倫理、注意点	7～8. 計算ソフト基本操作演習	インターネット検索	9～13. 統計の基礎	3. 情報検索の方法	14. 病院、施設でのデータの流れと	4. PCの基本操作と電子メールの	ワードプロソフトの基本操作	利用法 情報処理の実際	15. まとめ／終講試験（課題レポート提出）
1. 健康の指標の見方と統計について	5. ワードプロソフト操作（レポート作成）														
2. 情報収集から分析までの流れ	6. 表計算ソフト基本操作														
情報取り扱い上の倫理、注意点	7～8. 計算ソフト基本操作演習														
インターネット検索	9～13. 統計の基礎														
3. 情報検索の方法	14. 病院、施設でのデータの流れと														
4. PCの基本操作と電子メールの	ワードプロソフトの基本操作														
利用法 情報処理の実際	15. まとめ／終講試験（課題レポート提出）														
<p>学習上の注意</p>															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 															

使用テキスト

1. 統計学：医学書院
2. 自作資料

参考図書 講義の際に提示

DVD 講義の際に提示

授業科目： 哲学	単位（時間）： 1単位 （30時間）														
授業担当： 渡辺修宏	開講時期： 1年次 後期														
実務経験のある教員等による授業科目（看護師5年以上）															
<p>科目の概要</p> <p>哲学とは、すべての物事を説明する普遍的原理を追求するものである。</p> <p>人間存在について、全人間的視野をもとに、一人ひとりの患者に関わることの意味や、態度について追及するために哲学を学ぶ。さらに、看護を必要とする対象と向き合うことで、そこにある世界（環境）と、人間のもつ現実の意味を洞察できる能力を養う。</p> <p>目的</p> <p>人間存在について、全人的視野をもとに、対象に関わる意味や態度を理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアを通して対象への向き合い方を考える 2. 倫理的思想を理解し、看護における正しい倫理的行動を考える 3. ホリスティックな人間理解をもとに、人間観、看護観を考え、深める 4. 見えないところまでも見通す姿勢とEBM、クリティカルシンキングについて理解する 5. 人間への注意深い探求と、感銘を行う中で、自分への新たな発見をする 6. 医療・看護現場での倫理的課題を考える 															
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 看護にとって哲学の知識は必要か</td> <td>9. ケアの倫理とは</td> </tr> <tr> <td>2. 看護とは</td> <td>10. 生命科学とバイオエシックス</td> </tr> <tr> <td>3. 人間理解のための哲学の歴史</td> <td>11. 看護師と哲学</td> </tr> <tr> <td>4. 医とは何か</td> <td>12. ホリスティック看護</td> </tr> <tr> <td>5. 人間の尊厳、人格とは</td> <td>13～14. 看護場面での看護的な行動とは</td> </tr> <tr> <td>6～7. 人間とはの問い</td> <td>事例からの学び</td> </tr> <tr> <td>8. 東洋哲学とは</td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 看護にとって哲学の知識は必要か	9. ケアの倫理とは	2. 看護とは	10. 生命科学とバイオエシックス	3. 人間理解のための哲学の歴史	11. 看護師と哲学	4. 医とは何か	12. ホリスティック看護	5. 人間の尊厳、人格とは	13～14. 看護場面での看護的な行動とは	6～7. 人間とはの問い	事例からの学び	8. 東洋哲学とは	15. まとめ／終講試験
1. 看護にとって哲学の知識は必要か	9. ケアの倫理とは														
2. 看護とは	10. 生命科学とバイオエシックス														
3. 人間理解のための哲学の歴史	11. 看護師と哲学														
4. 医とは何か	12. ホリスティック看護														
5. 人間の尊厳、人格とは	13～14. 看護場面での看護的な行動とは														
6～7. 人間とはの問い	事例からの学び														
8. 東洋哲学とは	15. まとめ／終講試験														
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概念や事象の意味や、真実について求める姿勢を養うために、日々の暮らしの中の経験を振り返る習慣をつける 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学：看護と人間に向き合う哲学 ニューヴェルヒロカワ <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>															

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	1. 医療にとって哲学の知識は必要か (1) 患者とはどのようなものか (2) 看護にとって観察の意義 (3) 根拠に基づく医療の必要性 (4) 先入観なしでありのままに見て考えること (5) 看護にとって哲学がなぜ必要か	講義	
2 回	2. 看護とは (1) 看護の構成要素とは (2) 人間とは人間観とは (3) 健康と病気とは (4) 看護観をもつということ	講義 演習	・グループワークで事例を基に話し合う ・テーマ「自分たちが考える看護とは、病気の人と向き合うとは」
3 回	3. 人間理解のための哲学の歴史 (1) ソクラテス、プラトン、アリストテレスの変遷 (2) 哲学者が説いた人間の良い生き方とは	講義	
4 回	4. 医とは何か (1) ヒポクラテスの誓いについて (2) 自然治癒力とは (3) ナイチンゲールへの影響	講義	
5 回	5. 人間の尊厳、人格とは (1) パスカルの考え (2) 人間の理性と能動性 (3) 人間の弱さと受動性 (4) 共感と人間の尊厳	講義	
6～7 回	6. 人間とは の問い (1) 近代の持つ問題 (2) 不安を克服すること (3) 内省手技と構成主義 (4) 近代から現代への変遷 (5) こころとからだの二元論の脱却 (6) 世界内蔵性について	講義	

8回	7. 東洋哲学とは (1) 倫理思想と儒教思想 (2) 宗教のちがい (3) インドと中国の思想 (4) 東洋医学 (5) 気功	講義	
9回	8. ケアの倫理とは (1) コールバークの道徳性発達理論 (2) ケアの倫理の発達と意義 (3) 看護場面でのケアの倫理	講義	
10回	9. 生命科学とバイオエシックス (1) バイオエシックスとは (2) 全人医療 (3) QOL 重視の考え方	講義	
11回	10. 看護師と哲学 (1) 生きることの意味 (2) 看護専門職としてのあり方 (3) 科学の限界	講義	
12回	11. ホリスティック看護 (1) ホリスティックと全体論 (2) 人間を全体として見るとは (3) 患者のセルフケア能力を高めるとは	講義	
13～ 14回	12. 看護場面での看護的な行動とは 13. 事例からの学び (1) ナラティブとは (2) 弁証法的視点とは (3) ただそばにいたこととは (4) 自己概念・自尊心について (5) 最期の迎え方 (6) 精神看護の限界 (7) 加齢ということ	講義 演習	・グループワークで例 を基に話し合う ・テーマ「人を援助する とは」
15回	14. まとめ／終講試験		

授業科目： 家族と社会	単位（時間）： 1単位 （30時間）										
授業担当： 小笠原 尚宏	開講時期： 1年次 前期～										
実務経験のある教員等による授業科目（看護師5年以上）											
<p>科目の概要</p> <p>人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間と社会について学ぶ。特に、人々の生活基盤・ライフスタイルの変化と健康問題、看護の意義の重要性について考える。</p> <p>目的</p> <p>看護の対象である人間を、社会的存在として理解するための知識を身につける</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活基盤としての生活単位と、家庭生活の基本について理解する 2. 生活基盤としての生活の場と、労働および健康について理解する 3. 人々のライフスタイルと、家族の機能・役割について理解する 4. 人々のライフスタイルの変化と、生活習慣について理解する 5. 人間の集団と働きについて理解する 6. 地域・職場における人間関係について理解する 7. 人間の社会生活と健康について理解する 8. 家族や社会に関連する健康上の課題について理解する 											
<p>学習概要</p> <table> <tr> <td>1～2. 生活基盤</td> <td>10～11. 社会調査（実態調査）調査実施</td> </tr> <tr> <td>3～5. ライフスタイル</td> <td>12～13. 社会調査（実態調査）発表準備および発表</td> </tr> <tr> <td>6～8. 人間の集団としての働き</td> <td>14. 家族や社会に関する看護上の問題点と</td> </tr> <tr> <td>9. 社会生活と健康 社会調査</td> <td>支援方法</td> </tr> <tr> <td>（実態調査）計画立案</td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1～2. 生活基盤	10～11. 社会調査（実態調査）調査実施	3～5. ライフスタイル	12～13. 社会調査（実態調査）発表準備および発表	6～8. 人間の集団としての働き	14. 家族や社会に関する看護上の問題点と	9. 社会生活と健康 社会調査	支援方法	（実態調査）計画立案	15. まとめ／終講試験
1～2. 生活基盤	10～11. 社会調査（実態調査）調査実施										
3～5. ライフスタイル	12～13. 社会調査（実態調査）発表準備および発表										
6～8. 人間の集団としての働き	14. 家族や社会に関する看護上の問題点と										
9. 社会生活と健康 社会調査	支援方法										
（実態調査）計画立案	15. まとめ／終講試験										
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の家族に関する興味深いトピックスを取り上げて、社会的に考えていく 2. 家族・家庭に関するトピックスについての情報・資料を集めておく 											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護学 南江堂 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 湯沢雅彦・宮本みち子共著：新版 データで読む家族 NHK ブックス 2. 21世紀家族へ 一家族の戦後体制の見かた、超えかたー 有斐閣選書 <p>DVD</p>											

<p>1. ドキュメンタリー映画 「ヒバクシャ ～世界の終りに～」</p> <p>2. 教育教材映画 「生まれる」</p>			
授業回数	内 容	方法	備考
1～2回	<p>1. 生活基盤</p> <p>(1)生活単位： 人口動向（少子高齢化、総人口の減少）、家族と世帯、ライフサイクル</p> <p>(2)家庭生活の基本機能： 生産・労働、教育・労働、保健・福祉、生殖、慰安・交流</p> <p>(3)生活の場と健康： 都市と農・漁村（人口集中と過疎化）</p> <p>(4)労働と健康： 就業構造、労働時間、仕事と余暇、所得</p>	講義	
3～5回	<p>2. ライフスタイル</p> <p>(1)家族の機能と役割： 夫婦の役割機能の変化、家庭内介護者の変化、育児と介護の社会化、家事機能の変化</p> <p>(2)ライフスタイルの変化： 雇用労働の進行、女性労働の変化、少子化、健康寿命の延長、余暇時間、生涯学習、地域活動への参加、家族観の多様化</p> <p>(3)生活習慣の確立： 生活習慣病の概念、発達課題別生活習慣、セルフケアの確立</p>	講義	新聞等のコラムから社会生活に関する、現状及び課題等を持ちよる
6～8回	<p>3. 人間の集団としての働き</p> <p>(1)集団の形成・発達： 集団の凝集性、集団の意思決定、グループダイミックス、自身の学校集団の働きを考える</p> <p>(2)地域における人間関係： 親族・近隣・交際のネットワーク、地域のソーシャルサポートネットワーク、学校における人間関係</p> <p>(3)職場における人間関係： 組織の中での役割、上司との関係、同僚との関係</p>	講義	

9回	4. 社会生活と健康 (1)社会調査（実態調査）：計画立案 (2)健康に影響する社会生活要因を明らかにする	演習	グループ ワーク
10～ 11回	5. 社会調査（実態調査）：調査実施	演習	グループ ワーク
12～ 13回	6. 社会調査（実態調査）：発表準備 －実態調査の発表－	演習	グループ ワーク
14回	7. 家族や社会に関する看護上の問題と支援方法 8. 事例参照	講義	
15回	9. まとめ／終講試験		

授業科目： 教育学	単位（時間）： 1 単位（15 時間）
授業担当： 市村 國夫	開 講 時 期： 1 年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（看護師 5 年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>人間は、学校生活はもとより、生涯を通じて学習し、教育の恩恵をうけている。教育とは教える側と、教えられる側の相互関係の中で成り立つものであり、看護と共通するものがある。</p> <p>看護は、対象の健康問題に向けて、指導援助を行いながら、教育的な関わりを常に行っている。また、小児はもとより、教育場面で様々なストレスを抱えている人に対し、教育者とともに援助することも重要な役割である。さらに、自己の成長における教育の意義を理解する。</p> <p>目的</p> <p>人々の健康に向けた援助を行う看護師として必要な健康教育の意義と実際を理解し、教育的な関わり教育的関わりができる能力を養う</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長における、教育の役割と意義を理解する 2. 健康教育の意義と方法について理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義 2. 教育の変遷、展望 3. 学習の理論と指導方法 4. 健康教育の展開 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日々、自身が学習することで、成長するという気持ちで学校生活を送る 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全集－教育学 メヂカルフレンド社 <p>参考図書</p> <p>講義の際に提示</p> <p>DVD</p> <p>講義の際に提示</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	1. 教育の意義 (1)成長発達と教育 (2)健康と教育 (3)人間社会と教育	講義	
2～3 回	2. 教育の変遷 (1)教育論 (2)教育制度 (3)学校の歴史 3. 教育の展望 (1)現代社会の特徴と教育的問題 (2)教育が学力や価値観におよぼす影響	講義	
4～5 回	4. 学習の理論 (1)教育方法 (2)教育評価 (3)教師の指導 (4)動機づけとセルフエスティーム 5. 学習者の理解と指導方法 (1)学習者のレディネス (2)コミュニケーション (3)集団指導と個別指導	講義	
6～7 回	6. 健康教育の展開 (1) 保健活動の実際 ・健康教育のニーズ ・カウンセリングマインド (2) 子どもの健康教育 ・生活指導 ・養育者や地域との協力 ・障害児への健康教育 ・学校教育の問題と心の援助 (3) 地域住民への健康教育の実際	講義	
8 回	8. まとめ／終講試験		

授業科目： 人間関係論 I (コミュニケーション)	単位 (時間)： 1 単位 (30 時間)																
授業担当： 長谷川 福子	開 講 時 期： 1 年次 前期																
実務経験のある教員等による授業科目 (認定心理士 5 年以上)																	
<p>科目の概要</p> <p>看護師同士、看護師と患者との関係、看護師と医師との関係、看護師と医療従事者との関係など、さまざまな人との関係にとって大切なことは、どのように話すか、即ちコミュニケーション技術とスタイルである。自分自身のコミュニケーション技術の傾向を知り、コミュニケーション技術の向上を目指す。また、自己啓発の一助にしていく。</p> <p>目的</p> <p>対象との関係性を築くための、コミュニケーション能力を身につける</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分をよく知る 2. コミュニケーションの、それぞれ違ったスタイルを見分ける 3. 気づいた事柄をよりはっきりと、直接的に率直的に表現できるような技法を身につける 4. 相手の言うことを正確に聴き、理解するための技法を身につける 5. 自分とパートナーの、自尊心を養うための技法を身につける 6. あることについての、話のきっかけをつくる技法を身につける 																	
<p>学習概要</p> <table> <tr> <td>1.</td> <td>カップル・コミュニケーション</td> <td>10～12.</td> <td>信頼関係の構築</td> </tr> <tr> <td>2～4.</td> <td>自己への気づき</td> <td>13～14.</td> <td>まとめ/発表</td> </tr> <tr> <td>5～6.</td> <td>他者への気づき</td> <td>15.</td> <td>まとめ/終講試験</td> </tr> <tr> <td>7～9.</td> <td>コミュニケーションの型</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		1.	カップル・コミュニケーション	10～12.	信頼関係の構築	2～4.	自己への気づき	13～14.	まとめ/発表	5～6.	他者への気づき	15.	まとめ/終講試験	7～9.	コミュニケーションの型		
1.	カップル・コミュニケーション	10～12.	信頼関係の構築														
2～4.	自己への気づき	13～14.	まとめ/発表														
5～6.	他者への気づき	15.	まとめ/終講試験														
7～9.	コミュニケーションの型																
学習上の注意																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 																	
<p>使用テキスト</p> <p>講義の際に資料提示する</p> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 河津良子・河津雄介著：エクササイズによる看護のための自己開発，ナカニシア出版 2. 系統看護学講座 基礎看護学 I 医学書院 <p>DVD</p> <p>講義の際に提示</p>																	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. カップル・コミュニケーション (1)カップル・コミュニケーションの概要、 授業の進め方	講義	
2～4回	2. 自己への気づき (1)自分自身にダイヤルを合わせる	講義 演習	1 人用練習問題 2 人用練習問題
5～6回	3. 他者への気づき (1)パートナーにダイヤルを合わせる	講義 演習	1 人用練習問題 2 人用練習問題
7～9回	4. コミュニケーションの型 (1)4つの話し方スタイル	講義 演習	1 人用練習問題 2 人用練習問題
10～ 12回	5. 信頼関係の構築 (1)自分も相手も尊重する	講義 演習	1 人用練習問題 2 人用練習問題
13～ 14回	6. まとめ (1)コミュニケーション技術について学んだ こと	演習 発表	グループワーク パワーポイント使用
15回	7. まとめ／終講試験		

授業科目： 健康と障がい	単位（時間）： 1 単位(15 時間)		
授業担当： 武島 玲子	開講時期： 1 年次		
<p>科目の概要</p> <p>健康を維持・増進していくための基礎となる科学的知識について理解する。現代社会における健康問題について理解を深める。さらに障がいを持ち介護を受ける人について理解をする。</p> <p>目的</p> <p>健康の概念を理解し、健康の維持・増進を図るための知識を習得する。さらに介護について考える。</p>			
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康について理解し、現代の問題点を学ぶ。 2 健康づくりの必要性を理解する。 3 介護を受ける人について理解する。 			
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康の概念について理解する。 2 現代社会における健康問題について理解する。 3 様々な健康指標について理解する。 4 栄養・運動と健康の関連について理解する。 5 障がいの概念について理解する。 7 日本の福祉介護の現状を理解し、今後の対応を考える。 			
<p>学習上の注意</p> <p>学習内容を理解し、看護場面での活用方法について考える。</p>			
<p>成績評価の方法</p> <p>終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</p>			
<p>使用テキスト</p> <p>参考図書 講義の際に提示</p>			
授業回数	内容	方法	備考
1 回	1. 健康の概念	講義	武島
2 回	2. 現代社会における健康問題 (1) 現状 (2) 健康への取り組み	講義	

3回	3. 喫煙と健康 (1) これまでの経緯 (2) 今後の課題	講義	武島
4回	4. 栄養・運動と健康 (1) 健康づくりのための食生活 (2) アルコールと健康	講義	武島
5回	5. 障がいの理解 (1) 障がいの概念の理解 (2) 障がい別の理解	講義	山口 誠子
6回	6. 障がいのある人への支援 (1) 障害に応じた支援 (2) 介護保険	講義	山口 誠子
7回	7. 健康と障がいのある人への地域での支援 (1) 地域での支援体制の理解 (2) 家族への支援	講義	山口 誠子

授業科目：看護コミュニケーション論	単位（時間）： 1 単位(15 時間)
授業担当： 菅野 哲夫 他	開講時期： 1 年次 後期
<p>科目の概要</p> <p>看護師の活躍の場は多岐にわたっているのが現状である。そのため看護師は他患者を含め他者との濃密な関係を築く職業である。そのため、自己の人間性を豊かにし、他者とのコミュニケーションを構築する必要がある。社会で様々な人と気持ちよく円滑に仕事を進めるために必要な基本を学習する。</p> <p>目的</p> <p>看護場面でのコミュニケーション形成の方法について理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護師として社会に通じるための礼儀作法を学ぶ。 2 他者と接せるためのマナーを理解する。 3 理解したマナーを看護師として応用できる。 4 美容やファッションと健康の関連を学び、看護師として患者など他者への応用を考えることができる。 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネスマナーについて理解し、身に着ける。 2 ビジネスマナーの基礎知識（言葉遣い、敬語の使い方等）を学ぶ。 3 ビジネスマナーの基礎知識（立ち振る舞い、身だしなみ等）を学ぶ。 4 ビジネスマナーの基礎知識（職務知識、電子メール等） 5 文書の書き方を学び、医療現場での書類作成に応用できる。 6 美容関連の基礎知識を学ぶ。 7 美容関連の基礎知識から看護への応用を学ぶ。 	
<p>学習上の注意</p> <p>日常生活の場面と関連させながら学習する。また、学習したことは実践して身に着けていく。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</p>	
<p>使用テキスト</p> <p>参考図書 講義の際に提示</p>	

授業回数	内容	方法	備考
1回	1. ビジネスマナーの理解	講義	
2回	2. ビジネスマナーの基礎知識Ⅰ (1) 言葉遣い (2) 敬語の使い方	講義	
3回	3. ビジネスマナーの基礎知識Ⅱ (1) 電話応対 (2) 身だしなみ (3) 立ち振る舞い	講義	
4回	4. ビジネスマナーの基礎知識Ⅲ (1) 職務知識 (2) 電子メールの知識	講義	
5回	5. 文書の書き方 (1) 文書の基本 (2) レポートの書き方	講義	
6回	6. 美容関連の基礎知識 (1) 身だしなみの基本 (2)	講義	
7回	7. 美容関連の基礎知識から看護への応用 (1) 病院実習時の身だしなみ (2) 患者への美容（化粧、整髪等）	講義	
8回	まとめ・終講試験		

授業科目： 生化学	単位（時間）： 1 単位（30 時間）														
授業担当： 藤井 有起	開 講 時 期： 1 年次 前期														
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で 5 年以上）															
<p>科目の概要</p> <p>人間は生物であり、有機化学物質で造られている。また生命維持活動は代謝という化学反応によりエネルギーが作られている。さらに、恒常性により一定の体の状態に維持されるように調整されている。このような、生命維持活動に必要な化学的メカニズムを生体の基本構成物質の働きとともに学習する。</p> <p>目的</p> <p>栄養代謝により人間の生命の維持、成長について化学的反応を細胞レベルで理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の成り立ちにおよぼす細胞の働きを理解する 2. 生体を構成している基本物質と、その化学反応について理解する 3. 環境に適応しながら生き続ける人間の遺伝子情報について、核酸の働きをもとに理解する 4. 体の内部環境維持のメカニズムと、水の働きについて理解する 															
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 基礎知識</td> <td>7. 遺伝子と核酸</td> </tr> <tr> <td>2. 代謝の基礎と酵素・補酵素</td> <td>8～9. 遺伝子の転写・修復・組換え</td> </tr> <tr> <td>3. 糖質の構造と機能・代謝</td> <td>10～11. 転写</td> </tr> <tr> <td>4. 脂質の構造と機能・代謝</td> <td>12. 翻訳と翻訳後修飾</td> </tr> <tr> <td>5～6. タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝</td> <td>13. シグナル伝達</td> </tr> <tr> <td>7. ポルフィリン代謝と異常代謝</td> <td>14. がん</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 終講試験</td> </tr> </table>		1. 基礎知識	7. 遺伝子と核酸	2. 代謝の基礎と酵素・補酵素	8～9. 遺伝子の転写・修復・組換え	3. 糖質の構造と機能・代謝	10～11. 転写	4. 脂質の構造と機能・代謝	12. 翻訳と翻訳後修飾	5～6. タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝	13. シグナル伝達	7. ポルフィリン代謝と異常代謝	14. がん		15. 終講試験
1. 基礎知識	7. 遺伝子と核酸														
2. 代謝の基礎と酵素・補酵素	8～9. 遺伝子の転写・修復・組換え														
3. 糖質の構造と機能・代謝	10～11. 転写														
4. 脂質の構造と機能・代謝	12. 翻訳と翻訳後修飾														
5～6. タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝	13. シグナル伝達														
7. ポルフィリン代謝と異常代謝	14. がん														
	15. 終講試験														
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校までの生物、化学、保健体育等の知識を整理して臨む 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 人体の構造と機能 2 生化学 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統看護学講座 栄養学 医学書院 <p>DVD 講義の際に提示</p>															

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 基礎知識 (1) 生体の化学の基礎知識 (2) 生命とは (3) 細胞の構造と機能	講義	
2回	2. 代謝の基礎と酵素・補酵素 (1) 代謝と生体のエネルギー (2) 酵素 (3) 補因子 (4) ビタミン 他	講義	
3回	3. 糖質の構造と機能 (1) 単糖の構造と機能 (2) 二糖の構造と機能 (3) 多糖の構造と機能 4. 糖質の代謝 (1) 糖質の消化吸収 (2) グルコースの分解 (3) グリコーゲン代謝 (4) 糖新生 他	講義	
4回	5. 脂質の構造と機能 (1) 脂質の種類 (2) リポタンパク質 6. 脂質代謝 (1) 脂肪酸の分解 (2) 脂質の合成 他	講義	
5~6回	7. タンパク質の構造と機能 (1) アミノ酸 (2) タンパク質の構造 8. タンパク質代謝 (1) タンパク質の消化と吸収 (2) アミノ酸の分解 9. ポルフィリン代謝と異物代謝 (1) ポルフィリン (2) 生体異物代謝	講義	
7回	10. 遺伝子と核酸 (1) 遺伝情報 (2) 核酸の構造と機能 (3) 核酸の代謝	講義	
8~9回	11. 遺伝子の複写・修復・組換え (1) DNAの複製 (2) DNAの修復 (3) DNAの組換え (4) 遺伝子多型	講義	

10～11回	<p>12. 転写</p> <p>(1) 転写とは (2) RNA 鎖</p> <p>(3) RNA のプロセッシング</p> <p>(4) 遺伝子の発現調節</p>	講義	
12回	<p>13. 翻訳と翻訳後修飾</p> <p>(1) 翻訳のメカニズム</p> <p>(2) 翻訳後修飾</p>	講義	
13回	<p>14. シグナル伝達</p> <p>(1) シグナル伝達の概要</p> <p>(2) 細胞内シグナル伝達の機序</p> <p>(3) 内分泌の生化学的基盤</p>	講義	
14回	<p>15. がん</p> <p>(1) がんの性質 (2) 細胞周期とがん</p> <p>(3) がん遺伝子 (4) がん抑制遺伝子</p> <p>(5) がん薬物療法 他</p>	講義	
15回	終講試験		

授業科目： 解剖生理学 I	単位（時間）： 1 単位（30 時間）
授業担当： 安 まゆみ	開 講 時 期： 1 年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>解剖生理学では、健康な人の「人体の構造と機能」を学ぶ。人体を構成している部分の構造、及び構成部分がどのように機能しているかを系統的に学習していく。</p> <p>生化学で、生体の成り立ちと生命活動を、細胞レベルで起きている化学反応として学習した知識を基本に、臓器や組織が神経やホルモンを介して協働し、維持されていることを学習し、それらの知識を確実に身につけ、看護活動に発展させていく。</p> <p>①生命の維持活動に関連する構造と機能 ②栄養、代謝に関連する器官の構造と機能 ③活動、思考に関連する器官の構造と機能 ④生殖・発生に関する器官の構造と機能</p> <p>に概ね分けて、学習する。</p> <p>目的</p> <p>人体の構造と機能を系統的に理解し、人間の生命維持におけるメカニズムを理解する</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する、各部分の構造と機能について理解する 2. 人体の機能が、人間の生命活動にどのような意義をもつのか理解する 3. 生命の維持するための体のしくみと、働きの全体像を理解する 4. 生命維持のための呼吸循環、血液の働きについて理解する 5. 生命誕生の成り立ちとしくみについて理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学の概観／構造と機能からみた人体 2. 体液・血液 3. 体液・血液とホメオスターシス 4～7. 呼吸器系 －呼吸と血液の働き－ 8～14. 循環器系の構造と機能 －血液循環とその調節－ 15. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を実践していく上で最も重要で、基礎となる知識であるため、テキストや参考書を用いて予習・復習を行う 2. 人体の構造は、立体的にイメージできるように学習していく 3. 人体の機能については、自分自身の身体の中で、何が起きているのかを常に念頭に置いて学習していく 	

成績評価の方法

1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する

使用テキスト

1. 人体の構造と機能 医学書院
2. 解剖トレーニングノート 医学教育出版会
3. カラースケッチ解剖学 廣川書店
4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 医学書院

参考図書

1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学 NOUVELLE HIROKAWA
2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学 医学書院
3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ 医歯薬出版
4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き 医歯薬出版

DVD

1. 目で見る解剖と生理

授業科目： 解剖生理学Ⅱ	単位（時間）： 1 単位（30 時間）
授業担当： 安 まゆみ	開 講 時 期： 1 年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>解剖生理学では、健康な人の「人体の構造と機能」を学ぶ。人体を構成している部分の構造、及び構成部分がどのように機能しているかを系統的に学習していく。</p> <p>生化学で、生体の成り立ちと生命活動を、細胞レベルで起きている化学反応として学習した知識を基本に、臓器や組織が神経やホルモンを介して協働し、維持されていることを学習し、それらの知識を確実に身につけ、看護活動に発展させていく。</p> <p>①生命の維持活動に関連する構造と機能 ②栄養、代謝に関連する器官の構造と機能 ③活動、思考に関連する器官の構造と機能 ④生殖・発生に関する器官の構造と機能</p> <p>に概ね分けて、学習する。</p> <p>目的</p> <p>栄養代謝に関連する人体の構造と機能を系統的に理解する</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する、各部分の構造と機能について理解する 2. 人体の機能が、人間の生命活動にどのような意義をもつのか理解する 3. 栄養代謝を司るための、身体の機能と構造について理解する 4. 身体の恒常性のしくみについて理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～6. 消化器系の構造と機能 ー栄養の消化と吸収ー 7. 排便に関連する機能 8～10. 腎機能系 ー体液調節と尿の生成ー 11～13. 自律神経系と内分泌系 ー内蔵機能の調節ー 14. 体液量の調整と排泄 15. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を実践していく上で最も重要で、基礎となる知識であるため、テキストや参考書を用いて予習・復習を行う 2. 人体の構造は、立体的にイメージできるように学習していく 3. 人体の機能については、自分自身の身体の中で、何が起きているのかを常に念頭に置いて学習していく 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	

使用テキスト

1. 人体の構造と機能 医学書院
2. 解剖トレーニングノート 医学教育出版会
3. カラースケッチ解剖学 廣川書店
4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 医学書院

参考図書

1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学 NOUVELLE HIROKAWA
2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学 医学書院
3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ 医歯薬出版
4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き 医歯薬出版

DVD

1. 目で見える解剖と生理

使用テキスト

1. 人体の構造と機能 医学書院
2. 解剖トレーニングノート 医学教育出版会
3. カラースケッチ解剖学 廣川書店
4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 医学書院

参考図書

1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学 NOUVELLE HIROKAWA
2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学 医学書院
3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ 医歯薬出版
4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き 医歯薬出版

DVD

1. 目で見える解剖と生理

使用テキスト

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 人体の構造と機能 | 医学書院 |
| 2. 解剖トレーニングノート | 医学教育出版会 |
| 3. カラースケッチ解剖学 | 廣川書店 |
| 4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック | 医学書院 |

参考図書

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| 1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学 | NOUVELLE HIROKAWA |
| 2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学 | 医学書院 |
| 3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ | 医歯薬出版 |
| 4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き | 医歯薬出版 |

DVD

1. 目で見る解剖と生理

授業科目： 薬理学の基礎	単位（時間）： 1単位 （30時間）														
授業担当： 椿 浩之	開講時期： 1年次														
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）															
<p>科目の概要</p> <p>看護師の薬物療法への理解が十分あることは、治療効果を高めることにつながる。薬物の生体への作用を知り、安全で効果的な薬物療法が提供できるよう、看護師として必要な知識について学ぶ。また、医師・薬剤師・看護師の連携についても学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>薬物療法の効果を高めるための、薬物に対する基本的な知識を身につける</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物に対する、生体の応答（作用・有害作用）について理解する 2. 生体の状態を調整する、輸液・輸血について理解する 3. 主な薬剤に対する服薬指導、看護のポイントを理解する 4. 処方箋や添付文書の読み方について理解する 															
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 薬理学とは</td> <td>9. 泌尿器系に作用する薬</td> </tr> <tr> <td>2～3. 神経系に作用する薬</td> <td>10～11. 内分泌系に作用する薬</td> </tr> <tr> <td>4. 呼吸器系に作用する薬</td> <td>12～13. 抗腫瘍薬.</td> </tr> <tr> <td>5～6. 消化器系に作用する薬</td> <td>14. 目に作用する薬</td> </tr> <tr> <td>循環器系・血液に作用する薬</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>7～8. 炎症・免疫系に作用する薬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>抗感染症薬</td> <td></td> </tr> </table>		1. 薬理学とは	9. 泌尿器系に作用する薬	2～3. 神経系に作用する薬	10～11. 内分泌系に作用する薬	4. 呼吸器系に作用する薬	12～13. 抗腫瘍薬.	5～6. 消化器系に作用する薬	14. 目に作用する薬	循環器系・血液に作用する薬	15. 終講試験	7～8. 炎症・免疫系に作用する薬		抗感染症薬	
1. 薬理学とは	9. 泌尿器系に作用する薬														
2～3. 神経系に作用する薬	10～11. 内分泌系に作用する薬														
4. 呼吸器系に作用する薬	12～13. 抗腫瘍薬.														
5～6. 消化器系に作用する薬	14. 目に作用する薬														
循環器系・血液に作用する薬	15. 終講試験														
7～8. 炎症・免疫系に作用する薬															
抗感染症薬															
<p>学習上の注意</p> <p>薬の効能書をもとに薬の作用や使用方法の実際を理解する</p>															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いちばんやさしい薬理学 成美堂出版 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 堀坂和敬、木皿憲佐訳：問題を中心とした薬理学 廣川書店 2. 高久史磨修：治療薬マニュアル 医学書院 3. 新体系看護学全集 薬理学 メヂカルフレンド社 <p>DVD 講義の際に提示</p>															

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	1. 薬理学とは (1) 医薬品の定義と分類 (2) 薬の投与経路 (3) 薬の効果・作用 (4) 自律神経のはたらき 他	講義	臨床病態学の関連する分野を復習しておく
2～3 回	2. 神経系に作用する薬	講義	
4 回	3. 呼吸器系に作用する薬	講義	
5～6 回	4. 消化器系に作用する薬 5. 循環器系・血液に作用する薬	講義	
7～8 回	6. 炎症・免疫系に作用する薬 7. 抗感染症薬	講義	
9 回	8. 泌尿器系に作用する薬	講義	
10～11 回	9. 内分泌系に作用する薬	講義	
12～13 回	10. 抗腫瘍薬	講義	
14 回	11. 目に作用する薬	講義	
15 回	12. まとめ／終講試験	講義	

授業科目： 臨床病態学 I (診断と治療・がんの診断と治療)	単位 (時間)： 1 単位 (30 時間)
授業担当： 高屋敷典生	開 講 時 期： 1 年次
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で 5 年以上)	
<p>科目の概要</p> <p>臨床病態学は医学を理解する基礎となる学問である。臨床病態学 I では、正常状態との比較において病的な状態、つまり、病気の成り立ちや、身体内での病的変化が、実際にはどのようなものであるかを学習する。医学用語に慣れ、これらの知識を自分のものにして、看護の実践力にしていきます。</p> <p>臨床病態学は、臨床病態学 I から VII に大別するが、ここでは、病気の成り立ちと、医学診断に必要な検査、主な治療方法について学んでいきます。また、死亡率、有病率とも高いがんの診断と治療について理解し、現代医療の知識を深めます。</p>	
<p>目的</p> <p>病気の成り立ちと、主な診断法・治療法を理解する</p>	
<p>授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気の原因・誘因を理解する 2. 身体の中で、どのような変化が生じているのか理解する 3. 疾病予防について理解する 4. 疾病の診断法や治療法および、検査を理解する 5. がんの診断と治療を学び、現代医学の最新医療について理解する 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床病態学 I から VII は、常に関連づけて学習していく 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 	

授業回数	内 容	方法 担当講師	備考
1 回	1 臨床病態学序論 看護と病理学、病気の原因、疾病の分類 病態学の学び方	講義	病理学 (医学書院) P4～P12
2 回	2 細胞・組織の障害と修復 細胞の損傷と適応、組織の修復と創傷治癒 3 老化と死 個体の老化と老年症候群、加齢に伴う諸臓器の 変化、個体の死と終末期医療	講義 高屋敷	病理学 (医学書院) P14～P26 P109～114
3 回	4 先天異常と遺伝子異常 先天異常とは、遺伝子異常と疾患、 先天異常・遺伝子異常の診断と治療	講義	病理学 (医学書院) P116～P134
4 回	5 代謝障害 脂質代謝障害、タンパク質代謝障害、糖尿病 そのほかの代謝障害	講義	病理学 (医学書院) P94～P104
5 回	6 循環障害 循環系の概要、浮腫、充血とうっ血、出血、 血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、側副循環による 障害、高血圧症、播種性血管内凝固症候群	講義	病理学 (医学書院) P28～P48
6～7 回	7 炎症と免疫 炎症とその分類、免疫と免疫不全 アレルギーと自己免疫疾患 手術侵襲と回復過程、創傷治癒	講義	病理学 (医学書院) P50～P69 *手術侵襲は 別紙資料
8 回	8 感染症 感染と宿主の防御機構、おもな病原体と感染症 感染症の治療と予防	講義	病理学 (医学書院) P76～P92
9～10 回	9 画像診断 被ばくと防御 X線検査各種方法と診断 超音波検査方法と診断 10 核医学検査方法と診断	講義	別紙資料

11 回	11 内視鏡検査 内視鏡検査とは 各種内視鏡検査の種類と診断	講義	別紙資料
12～ 13 回	12 腫瘍 腫瘍の定義と分類 悪性腫瘍の広がりと影響 腫瘍の発生病理 腫瘍の診断と治療 13 移植と再生医療	講義 高屋敷	病理学 (医学書院) P136～P166 P69～P74
14 回	14 がんの診断と治療 肺がん 胃がん 乳がん	講義 高屋敷	病理学 (医学書院) P218～P221 P231～P234 P272～P274
15 回	16. まとめ／終講試験		

授業科目：臨床病態学Ⅱ (呼吸器、循環器疾患)	単位 (時間)： 1 単位 (30 時間)										
授業担当： 武島、渡辺 (重)、安	開 講 時 期： 1 年次 後期										
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で 5 年以上)											
<p>科目の概要</p> <p>本科目では、呼吸器・循環器における疾患の診断と治療について学習します。</p> <p>心臓や肺は、互いに関連しながら、生命の維持活動を行う大切な臓器であり、症状や、病気のメカニズムを基本から学習します。</p> <p>また、胸部エックス線所見や心電図などの診断方法の基本を学び、フィジカルアセスメントにその知識を活用できるようにします。</p> <p>目的</p> <p>酸素化の障害に関連する身体のメカニズムを理解し、呼吸器・循環器疾患の診断・治療に関する基本的な知識を身につける</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガス交換のメカニズムと障害による症状を理解する 2. 心循環と体循環の役割と障害による症状を理解する 3. 心不全、呼吸不全のメカニズムと、診断方法及び経過に伴う治療方法を理解する 4. 救急処置に使用する、機器の作用について理解する 											
<p>学習上の注意</p> <p>生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める</p>											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野Ⅱ</td> <td>成人看護学</td> <td>呼吸器 2</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>循環器 3</td> <td>医学書院</td> </tr> </table> <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>		系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	呼吸器 2	医学書院				循環器 3	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	呼吸器 2	医学書院							
			循環器 3	医学書院							

授 業 回数	内 容	方 法 担当講師	備 考
1 回	1.呼吸器疾患の動向・患者の特徴 2.呼吸器の構造と機能 (1)呼吸器の構造 (2)呼吸の生理	講義	成人看護学2 P6～P39
2 回	3.症状とその病態生理 (1)自覚症状 ・喀痰・血痰・咳嗽・胸痛・呼吸困難 (2)他覚症状 ・チアノーゼ・ばち指・発熱・呼吸の異常・声の異常	講義	成人看護学2 P42～P69
3 回	4.検査・治療・処置 (1)診察と診断の流れ (2)検査 ・血液検査・喀痰検査・胸水検査・画像検査・内視鏡 検査・生検・呼吸機能検査 (3)治療・処置 ・吸入療法・酸素療法・人工呼吸療法・呼吸理学療法・ 気道確保・胸腔ドレナージ	講義	成人看護学2 P70～P126
4 回	5.疾患の理解 (1)呼吸器の感染症 (2)間質性肺疾患 (3)気道疾患	講義 武島	成人看護学2 P138～P187
5 回	6.疾患の理解 (1)肺血栓塞栓症 (2)呼吸不全 (3)呼吸調節に関する疾患 (4)肺腫瘍*外科的治療を除く	講義 武島	成人看護学2 P188～P210
6 回	7.病態と外科的治療法 (1)胸腔外科の手術 (2)肺腫瘍（外科的治療） (3)肺移植 (4)胸部外傷 (5)胸膜・縦隔・横隔膜の疾患	講義 武島	成人看護学2 P127～P136 P206 P212～P225

7回	8.循環器疾患の動向・患者の特徴 9.循環器の構造と機能	講義	成人看護学3 P6~P13 P16~P30
8回	10.症状とその病態生理 (1)胸痛 (2)動悸 (3)呼吸困難 (4)浮腫 (5)チアノーゼ (6)めまい・失神 (7)四肢の疼痛 (8)ショック	講義 安	成人看護学3 P32~P47
9回	11.検査と治療・処置 (1)診察と診断の流れ (2)検査 心電図・心エコー・心臓カテーテル法・血行動態モニタリング・動脈血ガス分析	講義 渡辺(重)	成人看護学3 P48~82
10回	12.疾患の理解 (1)虚血性心疾患	講義 渡辺(重)	成人看護学3 P120~P149
11回	13 疾患の理解 (1)心不全 (2)心膜炎・心筋疾患	講義 渡辺(重)	成人看護学3 P149~161 P204~P210
12回	14 疾患の理解と内科的治療 (1)血圧異常 (2) PCI	講義 渡辺(重)	成人看護学3 P161~P171 P82~85
13回	15 疾患の理解と内科的治療 (1)弁膜症 (2)不整脈 (3)ペースメーカー 16 外科的治療・補助循環装置	講義 渡辺(重)	成人看護学3 P198~203 P171~P198 P86~P90 P90~P117
14回	17.先天性心疾患 18.動脈系疾患 19.静脈系・リンパ系疾患	講義 渡辺(重)	成人看護学3 P211~P231
15回	まとめ/終講試験		

授業科目：臨床病態学Ⅲ (血液・造血器、消化器疾患)	単位(時間)： 1単位(30時間)												
授業担当： 武島玲子、伊藤寛之	開講時期： 1年次 後期												
実務経験のある教員等による授業科目(病院等で5年以上)													
<p>科目の概要・目的</p> <p>本科目では、血液・造血器、消化器における、疾患の診断と治療について学習する。成人看護学を中心に、各領域の看護の基礎的知識として学習し、看護過程につなげる。</p> <p>血液は血球と血漿からなり、生命活動及び防御等の様々な役割を担っている。血液のもとである造血幹細胞を造る骨髄が障害を受けると、重篤な疾患となりやすく、全身性の症状におよぶ。血球の作用と内呼吸、感染防御、免疫、止血等の絡んだ障害を根本から理解することで、病気の理解を深める。</p> <p>消化器は、食物の栄養の代謝に絡む大切な臓器である。ここでは、主に食物の消化、栄養の吸収、老廃物の排泄を取扱い、それらに障害が生じることによっておこる症状や疾患を学習する。</p> <p>目的</p> <p>血液・造血器及び消化器の機能と障害のメカニズムを理解し、診断と治療に関する基本的な知識を身につける</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の成分による機能と、それらの障害について理解する 2. 血液・造血器疾患の、病態及び治療方法について理解する 3. 消化器の消化・吸収・排泄機能と、それらの障害による症状について理解する 4. 各消化器器官の障害による、疾患の診断と治療法を理解する 5. 歯科・口腔に関する病変について理解する 													
<p>学習上の注意</p> <p>生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める。</p>													
<p>成績評価の方法</p> <p>・終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</p>													
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 系統看護学講座</td> <td>成人看護学 4</td> <td>血液・造血器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td></td> <td>成人看護学 5</td> <td>消化器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td></td> <td>成人看護学 15</td> <td>歯科口腔</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>		1. 系統看護学講座	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院		成人看護学 5	消化器	医学書院		成人看護学 15	歯科口腔	医学書院
1. 系統看護学講座	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院										
	成人看護学 5	消化器	医学書院										
	成人看護学 15	歯科口腔	医学書院										

参考図書			
VTR・DVD			
授業回数	内容	方法 講師	備考
1回	1. 血液、造血器疾患概要 検査・診断と症状・病態生理 2. 白血球の働きと障害 ・白血球減少症 ・白血球増加症 ・感染と免疫	講義	成人看護学4 P6 ～P48
2回	3. 赤血球の働きと障害 ・貧血 ・出血傾向 ・血栓 ・リンパ節腫大、脾腫 4. 赤血球系疾患の診断と治療	講義	成人看護学4 P50～P67
3回～ 4回	5. 造血器腫瘍の診断と治療 ・造血器腫瘍の分類 ・造血器腫瘍の主な治療 6. 白血病の診断と治療 ・急性白血病 ・骨髄異型性症候群 ・慢性骨髄白血病 ・骨髄増殖腫瘍 他 7. リンパ性疾患の診断と治療 ・悪性リンパ腫 ・骨髄腫 他	講義	成人看護学4 P74～P134
5回	8. 出血性疾患の診断と治療 ・紫斑病 ・血友病 ・DIC 他	講義	成人看護学4 P125～P132
6回	1. 消化器の構造と機能 2. 消化器の障害で生じる症状の病態 ・食欲不振 ・嚥下障害 ・悪心嘔吐 ・下痢 ・便秘 ・下血 ・吐血 ・肝性脳腫 ・腹痛 ・黄疸 3. 検査 レントゲン検査、内視鏡検査 他	講義	成人看護学5 P16～P67 P87～p110
7回	3. 消化器腫瘍の診断と治療 *手術療法 放射線療法 ・食道がん ・胃がん	講義 武島	成人看護学5 p127～P139 P142～P148 P166～P173

8回	<ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん ・直腸がん ・結腸がん ・肝臓がん ・すい臓がん 他 <p>4. 肛門疾患</p>	<p>講義</p> <p>武島</p>	<p>成人看護学 5</p> <p>P243～P247</p> <p>P253～262～</p> <p>P207 から</p> <p>209</p>
9回	<p>5. 食道の疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食道アカラシア ・胃食道逆流症 <p>6. 胃・十二指腸疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃炎 ・胃十二指腸潰瘍 	<p>講義</p> <p>武島</p>	<p>成人看護学 5</p> <p>P148～P166</p>
10回	<p>7. 腸および腹膜疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過敏性腸症候群 ・腸炎 ・腹膜炎 ・虫垂炎 ・ヘルニア ・イレウス ・憩室 他 	<p>講義</p> <p>武島</p>	<p>成人看護学 5</p> <p>P173～P205</p>
11回	<p>8. 肝疾患の診断と治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎 ・アルコール性肝障害 ・肝硬変 ・門脈圧亢進症 ・肝寄生虫疾患 	<p>講義</p> <p>武島</p>	<p>成人看護学 5</p> <p>P209～P246</p>
12回	<p>9. 胆嚢・膵臓疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胆石症 ・胆嚢炎 ・膵炎 <p>10. 急性腹症 腹部外傷</p>	<p>講義</p> <p>武島</p>	<p>成人看護学 5</p> <p>P246～P264</p>
13回	<p>1. 歯及び歯周組織の疾患（診断と治療法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・齲歯 ・歯の形成異常 ・歯周組織の炎症 ・顎骨の炎症 <p>2. 口腔粘膜の主な疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフター ・カンジタ ・ヘルペス ・ガマ腫 	<p>講義</p> <p>伊藤</p>	<p>成人看護学 15</p> <p>P106～P120</p> <p>P120～P135</p>
14回	<p>3. 舌の疾患</p> <p>4. 腫瘍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯原性腫瘍他 ・がん腫 他 <p>5. 顎関節疾患</p> <p>6. 唾液腺の疾患</p>	<p>講義</p> <p>伊藤</p>	<p>成人看護学 15</p> <p>P126～P151</p> <p>P151～P153</p> <p>P153～P157</p>
15回	<p>まとめ 終講試験</p>		

授業科目：臨床病態学Ⅳ (腎・泌尿器、生殖器、内分泌疾患)	単位 (時間)： 1 単位 (30 時間)
授業担当： 武島、 田口	開 講 時 期： 1 年次
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で5年以上)	
<p>科目の概要・目的</p> <p>疾患の診断と治療における腎疾患、泌尿器生殖器疾患、内分泌疾患について学習します。成人看護学を中心に、各領域の看護の基礎的知識として学習し、看護過程につなげます。人体における腎臓の役割は内部環境の恒常性を維持する役割にあります。細胞外液を一定の水準に保つための役割を腎臓が担っています。また、腎臓機能の低下により日常生活を維持するために長い間の治療を行わなくてはなりません。</p> <p>腎機能の障害と病態と治療方法について理解し、患者の生活を整えるための看護につなげていきます。尿を生成し対外に排泄するための、尿路系の障害と男性生殖器の障害については泌尿器の分野になります。尿の生成と排泄を協働して行う腎・泌尿器系を関連付けて学習します。</p> <p>なお、内分泌疾患の糖尿病については栄養学で学習し、その他のホルモン異常による疾患をここで学習します。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎機能の役割と、その障害による疾患の病態が理解できる 2. 尿の成分と腎機能との関係について理解できる 3. 透析療法メカニズムと障害を理解できる 4. 尿路系障害による、疾患の診断と治療法を理解できる 5. 男性生殖器系の障害による、疾患の診断と治療法を理解できる 6. ホルモン分泌異常による内分泌疾患の診断と治療法を理解できる 7. 皮膚の障害に関する疾患の診断と治療法が理解できる 	
<p>学習上の注意</p> <p>生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>・終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</p>	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 成人看護学6 内分泌 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学8 腎、泌尿器 医学書院 3. 系統看護学講座 成人看護学12 皮膚 医学書院 4. 皮膚病変の見極め術 南山堂 	
<p>参考図書 適宜提示します</p>	
<p>VTR・DVD</p>	

授業回数	内容	方法 担当講師	備考
1回	1. 腎の構造と機能 (1) 腎臓の機能 (2) 腎機能障害による症状 ・浮腫 ・高血圧 ・心不全 ・尿毒症 ・低タンパク血症 ・酸塩基平衡の障害 ・貧血他 2. 検査概要 (1) 尿の検査 (2) 腎機能検査	講義	成人看護学 8 P18～P30 P40～P45 P49～P51 P52～P53 P58～P60 P70～P79
2回	4. 疾患の診断と治療 (1) 腎不全と慢性腎臓病 ※血液透析 腹膜透析 (2) ネフローゼ症候群 (3) 糸球体腎炎	講義 武島	成人看護学 8 P102～P132
3回	(4) 全身性疾患による腎障害 ・糖尿病性腎症 ・感染症に伴う腎炎 ・全身性エリテマトーデス ・ループス腎炎 (5) 腎血管性病変 他	講義 武島	成人看護学 8 P133～P150
4回	5. 尿路系の構造と機能と症状 (1) 尿路系の構造と機能 (2) 排尿に関連した症状 (3) 経尿道的検査	講義	成人看護学 8 P30～P37 P46～P49 P87～P94 P154～P159
5回 ～ 8回	6. 尿路・性器の感染症 (1) 腎盂腎炎 (2) 膀胱炎 他 (3) 尿路結核 (4) 性感染症 7. 尿路の通過障害と機能障害 (1) 水腎症 (2) 膀胱尿管逆流 (3) 神経性膀胱 (4) 尿失禁 (5) 前立腺肥大症 9. 尿路損傷および異物 尿路結石症	講義	成人看護学 8 P152～P184

	<p>10. 腎・泌尿器系の治療</p> <p>(1) 尿路変向術</p> <p>(2) がん治療 ・放射線治療・薬物療法</p> <p>11. 尿路・性器の腫瘍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腎実質がん ・ウィルムス腫瘍 ・腎盂がん ・尿管がん ・膀胱がん ・尿道がん ・前立腺がん ・精巣腫瘍 ・陰茎がん <p>12. 発生発育の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性不妊症、性機能障害 	講義	<p>成人看護学 8 P94～P101</p> <p>成人看護学 8 P175～P192</p>
9回	<p>13. 内分泌器官とホルモンの機能</p> <p>14. 内分泌器官の障害による症状</p> <p>15. 内分泌器官の主な検査</p>	講義	成人看護学 6 P16～P79
10回 ～ 11回	<p>16. 視床下部・下垂体疾患と診断と治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロラクチノーマ ・巨人症 ・クッシング病 ・尿崩症他 ・水中毒 <p>17. 甲状腺、副甲状腺疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パセドー病 ・その他 <p>18. 副腎疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原発性アルドステロン ・その他 <p>19. 内分泌疾患の救急治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲状腺クリーゼ ・高カルシウムクリーゼ ・粘液水腫昏睡 その他 	<p>講義</p> <p>武島</p>	<p>成人看護学 6 P82～P125</p> <p>P129～P132</p>
12回 ～ 14回	<p>20. 皮膚科疾患</p> <p>(1)皮膚の構造と機能</p> <p>(2) 症状とその病態生理 ・発疹 ・掻痒</p> <p>(3)表在性皮膚疾患群</p> <p>(4)血管系皮膚疾患</p> <p>(5)熱傷と放射線障害</p> <p>(6)腫瘍 (7)感染症</p> <p>(8)アレルギー性皮膚炎</p>	<p>講義</p> <p>田口</p>	皮膚病変の見極め術
15回	まとめ 終講試験		

授業科目： 臨床病態学Ⅴ (脳神経疾患、運動器疾患とリハビリ、眼科疾患)	単位 (時間)： 1 単位 (30 時間)
授業担当：武島、岡本、秋月	開講時期： 1 年次 後期
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で 5 年以上)	
<p>科目の概要</p> <p>脳神経は感覚器、運動器に関与し、生命活動、身体活動のすべてに大きな影響を与えている。本科目では、解剖生理学や臨床病態学Ⅰで学んだことを基にして、運動器系・脳神経系・感覚器系の疾患の病態・診断・治療について学ぶ。</p> <p>成人看護学、老年看護学での看護の展開では疾患の症状、経過、治療等の知識を用いる。特に、これらに障害がおこった後は、リハビリテーションが機能回復につながることから、リハビリテーションの実際についても学習する。</p> <p>目的</p> <p>身体活動に障害をおよぼす疾患のメカニズムを理解し、脳神経、感覚器、運動器系の疾患の診断と、治療に関する基本的な知識を身につける</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経機能の障害による、疾患の診断と治療を理解する 2. 運動器の障害による、疾患の診断と治療について理解する 3. 感覚器の障害による、疾患の診断と治療について理解する 4. リハビリの意義と目的と実際について理解する 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学、解剖生理学の既習の知識のもとに学習を深める 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 10 運動器 医学書院 2. 成人看護学 7 脳・神経 医学書院 3. 成人看護学 13 眼 医学書院 4. 成人看護学 14 耳鼻・咽喉 医学書院 	

授業回数	内容	方法 担当講師	備考
1～2回	<p>1. 脳・神経系の主な症状と病態生理（脳・神経系の構造と機能と合わせて学習する）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①意識障害・脳死 ②高次機能障害 ③運動機能障害 ④感覚機能障害 ⑤反射性運動障害 <ul style="list-style-type: none"> ・対光反射の障害 ・嚥下障害 ・排泄障害 ⑥頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア ⑦バイタルサインの変化 ⑧髄膜刺激症状 ⑨頭痛 	講義	成人看護学7 p18～P88
3回～4回	<p>2. 脳血管障害の診断・検査・治療</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 診断と診察の流れ (2) 検査 <ul style="list-style-type: none"> ①神経学的診察 ②補助的検査 (3) 治療・処置 <ul style="list-style-type: none"> ①外科的治療法 ②内科的治療法 ③放射線治療 <p>3. 脳血管障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ①脳内出血 ②脳梗塞 ③くも膜下出血 <p>4. 脳腫瘍</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 主な脳腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> ①神経膠腫（グリオーマ） ②髄膜腫 ③下垂体腺腫 ④聴神経鞘腫 <p>5. 脳の感染症</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 脳膿瘍 (2) 静脈洞血栓症 <p>6. 頭部外傷</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 頭部外傷とは (2) 頭部外傷の分類 (3) 脳損傷を伴う外傷（急・慢性硬膜下血腫） (4) 脳損傷を伴わない外傷 (5) 頭部外傷の合併症 <p>7. 脳脊髄液の異常</p>	<p>講義</p> <p>武島</p>	<p>成人看護学7 P88～P168</p> <p>P205～214</p>

	<p>(1) 水頭症</p> <p>8. 脊髄疾患</p> <p>(1) 脊髄血管障害 (2) 脊髄動静脈奇形</p> <p>(3) 脊髄炎 (4) 脊髄腫瘍</p> <p>(5) 脊髄空洞症</p>		
5回	<p>9. 末梢神経障害</p> <p>(1) 多発性ニューロパチー (多発神経炎)</p> <p>(2) 糖尿病性ニューロパチー</p> <p>(3) ギランバレー症候群</p> <p>10. 末梢性顔面神経麻痺</p> <p>11. 神経・筋疾患</p> <p>(1) 重症筋無力症 (2) 進行性筋ジストロフィー</p> <p>(3) 筋委縮性側索硬化症</p>	講義	成人看護学 7 P168~P184
6回	<p>12. 脱髄・変性疾患</p> <p>(1) 脱髄疾患</p> <p>13. 脳・神経の変性疾患</p> <p>(1)パーキンソン病</p> <p>(2)脊髄小脳変性症</p> <p>(3)多系統委縮症</p> <p>14. 脳・神経系の感染症</p> <p>(1)脳炎 (2)髄膜炎</p> <p>(3)その他の神経系感染症</p> <p>①HTLV-1 関連脊髄症</p> <p>②HIV 感染症に伴う神経障害</p> <p>③神経梅毒 ④破傷風</p> <p>⑤クロイツフェルト-ヤコブ病</p>	講義	成人看護学 7 P188~P215
7回	<p>15. 運動器の主な症状と病態生理 (骨・関節・筋・神経・腱・靭帯の構造と機能と合わせて学習する)</p> <p>①疼痛</p> <p>②形態の異常 (奇形と変形)</p> <p>③関節運動の異常 (関節拘縮、強直、動揺関節)</p> <p>④神経の障害 (運動麻痺、知覚障害)</p> <p>⑤異常歩行 (跛行) ⑥筋肉の障害</p>	講義	成人看護学 10 P20~P61

8回	<p>16. 運動器疾患の診断・治療・検査</p> <p>①画像検査（X線、MRI、超音波、関節造影、骨密度、電気生理学的検査、関節鏡検査など）</p> <p>②保存的療法（非観血的治療）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギプス包帯法 ・牽引 ・理学療法と作業療法 <p>③手術療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植皮術 ・腱・筋肉・骨の手術療法 ・神経の手術療法 <p>④義肢と装具</p>	講義	成人看護学 10 P62～P82
9回	<p>17. 骨折</p> <p>(1) 骨折の分類</p> <p>(2) 病態生理</p> <p>(3) 症状・治療</p> <p>(4) 各種骨折（鎖骨・肋骨・上腕骨・大腿骨・下腿骨・骨盤・脊椎）</p> <p>(5) 脱臼（先天性・後天性各種脱臼）</p> <p>(6) 捻挫・打撲</p> <p>18. 神経の損傷</p> <p>(1) 脊髄損傷</p> <p>(2) 末梢神経損傷</p> <p>①分類と診断</p> <p>②腕神経叢麻痺、頭骨神経麻痺、尺骨神経麻痺、正中神経麻痺、坐骨神経麻痺、非骨神経麻痺</p> <p>19. 筋・腱・靭帯損傷</p> <p>(1) 筋断裂</p> <p>(2) アキレス腱断裂</p> <p>(3) 手指の腱断裂</p> <p>(4) 膝内障</p> <p>(5) 区画症候群（コンパートメント症候群）</p>	講義	成人看護学 10 P86～P122
10回	<p>20. 内因性の運動器疾患</p> <p>(1) 骨・関節の炎症性疾患</p> <p>①骨髄炎 ②化膿性関節炎</p> <p>③骨・関節結核</p> <p>④変形性関節症（変形性股関節賞、変形性膝関節症）</p> <p>⑤関節リウマチ</p>	講義	成人看護学 10 P129～P150

	⑥痛風 ⑦その他のリウマチ性疾患 21. 骨腫瘍および軟部腫瘍 (1) 良性腫瘍 (2) 悪性腫瘍 (3) 良性軟部腫瘍 (4) 悪性軟部腫瘍		
11回	22. 代謝性骨疾患 23. 筋および腱の疾患 24. 上肢および上肢帯の疾患 (1) 頸肩腕症候群 (2) 胸郭出口症候群 25. 脊椎の疾患 (1) 頸部脊椎症性脊髄症・神経根症 (2) 椎間板ヘルニア (3) 脊椎分離症・脊椎圧り症 (4) 変形性脊椎症 (5) 骨粗しょう症 (6) 姿勢異常 ①脊椎の変形 ②側弯症 26. 下肢および下肢帯の疾患 (1) ペルテス病 (2) 下肢深部静脈血栓症	講義	成人看護学 10 P150~P185
12~ 13回	32. 眼科疾患 (1) 症状とその病態生理（目の構造と機能と合わせて学習する） ①視力障害 ②視野異常 ③色覚異常 ④夜盲 ⑤飛蚊症 ⑥変視症 ⑦小視症 ⑧虹視症 (2) 検査・治療・処置 ①視力検査 ②屈折検査 ③開瞼法 ④眼底検査 ⑤眼圧検査 ⑥視野検査など ⑦点眼法 ⑧洗眼法 ⑨注射 ⑩光凝固、冷凍凝固 ⑪屈折矯正 (3) 疾患の理解 ①眼瞼の疾患 ②結膜炎 ③涙器の疾患 ④角膜の試験 ⑤網膜症 ⑥黄斑変症 ⑦白内障 ⑧白内障 ⑨異物	講義 岡本	成人看護学 13 P28~P33 (P14~P26 構造と機能と関連付けて) P36~P120

14 回	<p>33. 耳鼻咽喉疾患</p> <p>(1) 症状とその病態 (耳鼻咽喉・頸部の構造と機能と合わせて学習する)</p> <p>①耳に現れる症状と病態生理</p> <p>②鼻に現れる症状と病態生理</p> <p>③口腔・唾液腺・咽頭に現れる症状と病態生理</p> <p>④喉頭にあらわれる症状と病態生理</p> <p>(5) 耳の疾患</p> <p>①中耳炎 ②メニエル病 ③難聴 他</p> <p>(6) 鼻の疾患</p> <p>①鼻中隔湾曲症 ②鼻炎</p> <p>③副鼻腔炎 ④上顎癌</p> <p>(7) 咽頭炎 扁桃炎 (周囲炎) 他</p>	<p>講義</p> <p>秋月</p>	<p>成人看護学 14 耳鼻咽喉</p> <p>P46～P56</p> <p>P106～P175</p>
15 回	まとめ／終講試験		

授業科目： 臨床病態学VI（精神障害）	単位（時間）： 1単位（30時間）																
授業担当：木村 裕一	開講時期： 1年次 後期																
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）																	
<p>科目の概要</p> <p>精神障害は、脳神経の器質的障害と言われているが、ストレスの多い現代社会の中で、その病態は複雑化し、患者数も増えている状況である。また、看護領域においても、すべての発達段階の対象の健康問題として、専門の知識が必要である。</p> <p>そこで、本科目では、精神医学の歴史を学び、精神医学と精神医療の現状と課題を明らかにする。また、小児期の神経発達障害、高齢者の痴呆性疾患等についても学び、ますます高度・複雑化する臨床において求められるリエゾン精神看護、司法精神医学と看護、災害時の精神医療活動についても学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>精神障害の原因および症状を理解し、精神疾患の診断と治療に関する基本的な知識を身につける</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学の歴史を学び、精神医学と精神医療の現状と課題を理解する 2. 病の特徴、精神疾患の症状、検査、診断、治療を理解する 3. リエゾン精神医学、司法精神医学、災害時の精神保健医療活動について考える 4. 精神障害の治療上不可欠な、精神科リハビリテーションについて、その理論と実際を知る 																	
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 精神疾患の基礎知識</td> <td>9. 神経症と心因性精神病</td> </tr> <tr> <td>2. 精神障害をもつ人の症状</td> <td>10. 器質性精神障害：認知症を伴う疾患</td> </tr> <tr> <td>3. 精神障害の診断の為の検査</td> <td>11. アルコール依存・物質関連障害及び嗜癖性障害群</td> </tr> <tr> <td>4. 精神障害の主な治療法</td> <td>12. 身体疾患を合併している患者への関わり</td> </tr> <tr> <td>5. 神経発達症群/神経発達障害群</td> <td>13. リエゾン・司法精神医学・災害時の保健医療</td> </tr> <tr> <td>6. 統合失調症</td> <td>14. 〃</td> </tr> <tr> <td>7. 気分障害（躁うつ病）</td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> <tr> <td>8. 人格障害の分類と症状</td> <td></td> </tr> </table>		1. 精神疾患の基礎知識	9. 神経症と心因性精神病	2. 精神障害をもつ人の症状	10. 器質性精神障害：認知症を伴う疾患	3. 精神障害の診断の為の検査	11. アルコール依存・物質関連障害及び嗜癖性障害群	4. 精神障害の主な治療法	12. 身体疾患を合併している患者への関わり	5. 神経発達症群/神経発達障害群	13. リエゾン・司法精神医学・災害時の保健医療	6. 統合失調症	14. 〃	7. 気分障害（躁うつ病）	15. まとめ／終講試験	8. 人格障害の分類と症状	
1. 精神疾患の基礎知識	9. 神経症と心因性精神病																
2. 精神障害をもつ人の症状	10. 器質性精神障害：認知症を伴う疾患																
3. 精神障害の診断の為の検査	11. アルコール依存・物質関連障害及び嗜癖性障害群																
4. 精神障害の主な治療法	12. 身体疾患を合併している患者への関わり																
5. 神経発達症群/神経発達障害群	13. リエゾン・司法精神医学・災害時の保健医療																
6. 統合失調症	14. 〃																
7. 気分障害（躁うつ病）	15. まとめ／終講試験																
8. 人格障害の分類と症状																	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習復習を十分に行い、疑問は、講師及び精神看護学担当教員に積極的に質問する 																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、出席状況・授業態度を総合して評価する 																	

使用テキスト			
1. 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護		メヂカルフレンド社	
2. 講義ごとに配布する資料をテキストとして使用する			
参考図書			
1. 『看護のための最新医学講座第 12 巻精神疾患』		中山書店	
2. 『看護のための最新医学講座第 13 巻痴呆』		中山書店	
DVD 講義の際に提示			
回数	内 容	方法	備考
1 回	1.精神疾患の基礎知識 (1)精神医療の歴史と現状 (2)脳と心と精神疾患の関係 (3)病の定義 (4)精神科医療における「障害」 (5)異常と正常 (6)疾病性と事例性	講義	②精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド P2～19
2 回	2. 精神障害をもつ人の症状 (1)精神障害を学ぶ必要性 (2)精神症状の分類 (3)状態像(症候群) (4)中枢神経症状	講義	メヂカルフレンド P22～41
3 回	3. 精神障害の診断の為の検査 (1)精神科的診察：診察、一般検査・画像検査、 心理検査 (2)精神障害の診断基準・分類	講義	メヂカルフレンド P42～57 P62～63
4 回	4. 精神障害の主な治療法 (1)薬物療法 (2)電気痙攣療法 (3)社会復帰療法 (4)精神療法	講義	メヂカルフレンド P148～183
5 回	5. 主な精神障害① 神経発達症群/神経発達障害群 (1)知的能力障害群 (2)コミュニケーション症群 (3)自閉症スペクトラム症 (4)注意欠如・多動症 (5)限局性学習症 (6)運動症群	講義	メヂカルフレンド P64～71 P312～323
6 回	6. 主な精神障害② 統合失調症スペクトラム障害 (1)統合失調症 (2)妄想性障害 (3)緊張病	講義	メヂカルフレンド P34 P71～76 P270～284
7 回	7.主な精神障害③ 気分障害(躁鬱病) (1)双極性障害及び関連障害群 (2)抑うつ障害群	講義	メヂカルフレンド P76～97

	(3)不安症群/不安障害群 (4)強迫性障害及び関連障害群		P289～300 P324～329
8回	8. 主な精神障害④ 人格障害 (1)人格形成の因子・定義・種類 (2)パーソナリティ障害群	講義	メヂカルフレンド P39～41 P55～59 P134～137
9回	9. 主な精神障害⑤ 神経症と心因性精神病 (1)神経症の概念 (2)心因性精神病 (3)外傷後 ストレス障害 (4)解離症群/解離性障害群 (5)身体 症状症及び関連症群 (6)食行動障害及び摂食障害 群 (7)睡眠覚醒障害群	講義	メヂカルフレンド P97～120 P329～333
10回	10. 主な精神障害⑥ 器質性精神障害:認知症を伴 う疾患 (1)アルツハイマー病の病気による症状 (2)レビー小体型認知症 (3)ピック病 (4)血管性認知症 (5)その他認知症	講義	メヂカルフレンド P127～134 P306～311
11回	12. 主な精神障害⑦ アルコール依存と物質関連 障害及び嗜癖性障害群 (1)アルコール依存 (2)薬物依存 (3)その他の依存 13. 主な精神障害⑨ てんかん (1)てんかんの分類・症状・治療	講義	メヂカルフレンド P121～127 P137～144 P300～306
12回	14. 身体疾患を合併している患者への関わり (1)がん (2)肺炎 (3)骨折	講義	メヂカルフレンド P333～348
13回 14回	15.リエゾン精神医学 16.司法精神医学 17.災害時の精神保健医療活動	講義	メヂカルフレンド P424～470
15回	18. まとめ/終講試験		

授業科目： 臨床病態学Ⅶ（小児・女性生殖器）	単位（時間）： 1単位 （30時間）
授業担当：重光先生、伊部先生、矢内先生、堀米先生、加藤先生、太田先生	開講時期： 1年次 後期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>本科目では、小児及び女性特有の疾患における診断と治療について学習する。女性の生理に関連した病理的变化を中心に理解し、成人看護学での看護過程につなげる。また、現在における小児疾患の診断と治療法及び、予後について学習し、さらに、出生前診断、合併奇形による予後等、小児の将来のQOLを考慮した治療法に関して学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>母子に起こりやすい病態を理解し、病変が小児の成長発達、女性のライフサイクルにおよぼす影響について理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクルにおける、生理的な変化に伴う病変について理解する 2. 女性生殖器の疾患の病態および、診断と治療について理解する 3. 小児期の特異な疾患を、発生学・小児期の病態生理を基に理解する 4. 小児の各疾患の、現在の診断・治療法の基礎、予後について理解する 5. 出生前診断、合併奇形による予後など、小児の将来のQOLを考慮した治療等を理解する 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発生学・小児の生理的特徴、発達の生理等の基礎的知識を整理・予習しておく。 2. 講義の順番は、講師の都合により変更することがある。詳細は後日掲示を参照のこと。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系 看護学全書 24 成人看護学[11]女性生殖器 メヂカルフレンド社 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護叢書 第1巻～第5巻 及川郁子監修 メヂカルフレンド社 2. プリンシプル産科婦人科学1 メヂカルレビュー社 3. プリンシプル産科婦人科学2 メヂカルレビュー社 <p>DVD 講義の際に提示</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 女性生殖器の構造と機能 2. 女性のライフサイクルと健康障害 3. 月経異常と機能性子宮出血、ならびに更年期障害 (1)月経発来機序、ホルモン補充療法	講義 重光先生	
2回	4. 女性生殖器の疾患（子宮の良性腫瘍と悪性腫瘍）と治療 (1)子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌 ①手術療法	講義 重光先生	
3回	5. 女性生殖器の疾患（卵巣の良性腫瘍と悪性腫瘍） (1)卵巣の良性腫瘍（頸皮嚢胞腫など）、卵巣癌 ①化学療法、放射線療法	講義 重光先生	
4回	6. 女性生殖器の疾患（子宮ならびに卵巣の機能性病変、腫瘍）と治療 (1)多嚢胞性卵巣、卵巣出血、子宮内膜症	講義 重光先生	
5回	7. 性感染症と治療 (1)外陰の奇形 (2)膣損傷 (3)膣炎 (4)外陰部搔痒感 8. 性感染症の主な症状と治療 (1) 大量出血 (2) 不正出血 (3)帯下 9. 主な検査方法 (1)内診 (2)内視鏡検査 (3)細菌学検査 (4)卵管疎通性検査	講義 重光先生	
6回 ～ 7回	10. 出生前の疾患：先天異常 (1) マスクリーニングの概念 11. 小児の神経系の疾患と治療 (1) てんかん (2) 脳性まひ (3) 水頭症 (4) 髄膜炎 (5) 頭部外傷	講義 太田先生 (愛正会記念茨城福祉医療センター)	
8回	12. 小児の消化器疾患と治療 (1) 食道閉塞症、肥厚性幽門狭窄症 (2) 胆道閉鎖症 (3) 腸重積症・腸閉塞(イレウス) (4) 臍帯ヘルニア (5) 急性虫垂炎、腹膜炎 (6) ヒルシュスプルング病、鎖肛	講義 太田先生	

授業回数	内 容	方法	備考
9回	13. 小児の免疫・アレルギー性疾患・膠原病と治療 (1) 気管支喘息 (2) 食物アレルギー (3) 若年性突発性関節炎 14. 小児の呼吸器疾患と治療 (1) 細気管支炎・肺炎 (2) クループ症候群 15. 感染症と感染予防、および治療 (1) ウイルス感染症 (2) 細菌性感染症 (3) 真菌感染症 (4) 予防接種	講義 太田先生	
10回	16. 小児の内分泌疾患・成長障害・代謝性疾患 (1) 糖尿病 (2) アセトン血性嘔吐症 (3) クレチン症 (4) 低身長	講義 太田先生	
11回	17. 小児外科の対象となる疾患と治療 18. 外傷と事故 (1) 頭部外傷 (2) 溺水 (3) 熱傷 (4) 熱中症 19. 小児の運動機能障害 活動制限 (1) 小児の骨折 (2) 側弯症 (3) 先天性筋性斜頸 (4) 先天性内反足 (5) 発育性股関節発育不全 (6) ギブス固定、牽引療法	講義 伊部先生 (愛正会記念茨城福祉医療センター)	
12回	20. 小児の泌尿器・生殖器の疾患 (1) 急性糸球体腎炎 (2) 紫斑病性腎炎 (3) ネフローゼ症候群 (4) 陰嚢水腫 (5) 亀頭包皮炎	講義 矢内先生 (茨城県立こども病院)	
13回	21. 小児の循環器疾患と治療 (1) 心室中隔欠損症、心房中隔欠損症 (2) 動脈管開存症 (3) ファロー四徴症、完全大血管転位症 (4) 乳幼児突然死症候群 (SIDS)	講義 堀米先生 (茨城県立こども病院)	

授業回数	内 容	方法	備考
14 回	22. 小児の血液・造血器疾患と治療 (1) 血友病 23. 小児の悪性新生物と治療 (1) ALL、AML (2) 神経芽腫 (3) ウィルムス腫瘍 (4) 骨肉腫	講義 加藤先生 (茨城県立こども病院)	
15 回	まとめ／終講試験		

授業科目： 医療概論	単位（時間）： 1 単位（15 時間）
授業担当： 武島 玲子	開 講 時 期： 1 年次
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>医療、福祉における社会のニーズとともに、看護に対するニーズも変化してきた。医学の目覚ましい進歩は、国民の健康増進に貢献してきた反面、高度専門化した医療現場での課題も大きくなっている。</p> <p>そこで、看護の対象である人々の、社会生活と健康、疾病との関係、ライフサイクルに応じた保健医療の現状と課題を、保険・医療・福祉と関連づけて学習する。</p> <p>目的</p> <p>保健医療の現状と課題を理解し、医療従事者としての姿勢を考える</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療の変遷を、医療技術の進歩と社会のニーズをふまえて理解する 2. 現代における保健医療福祉の課題と、それらに伴う看護の役割を理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療と看護の原点 医療の歩みと医療観の変遷 2～3. 私たちの生活と健康 4. 科学技術の進歩と現代医療 現代医療の新たな課題 5. 医療を見つめ直す新しい視点 6～7. 保健・医療・福祉の潮流 8. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞等で今日的医療に関する記事を集めるなど、関心をもって授業に臨む 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 総合医療論 医学書院 <p>参考図書</p> <p>講義の際に提示</p> <p>健康支援と社会保障制度 現代医療論 メヂカルフレンド社</p> <p>DVD</p> <p>講義の際に提示</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 医療と看護の原点 (1) 命について考える (2) 健康とは (3) 病の体験 他 2. 医療の歩みと医療観の変遷 (1) 現代医学 (2) 20世紀の医療 他	講義	
2～3回	3. 私たちの生活と健康 (1) 救急医療と蘇生術 他 (2) 環境衛生・保健・福祉行政 (3) 疾病の一次予防と健康増進 (4) 少子高齢化社会 (5) ノーマライゼーション (6) 心の健康と精神医療	講義	
4回	4. 科学技術の進歩と現代医療 5. 現代医療の新たな課題 (1) 薬の副作用 (2) 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 他	講義	
5回	6. 医療を見つめ直す新しい視点 (1) 臨床疫学 (2) 患者の安全 (3) 医療の管理と評価 (4) これからの最先端医療 他	講義	
6～7回	7. 保健・医療・福祉の潮流 (1) 21世紀 (2) 新時代の保健・医療の担い手 (3) プライマリケア (4) 医療におけるケアの視点 (5) 保健・医療の国際化 (6) 保健・医療・福祉システムと地域住民の役割	講義	
8回	8. 終講試験		

授業科目： 社会福祉	単位（時間）： 2単位 （30時間）																
授業担当： 埴 富美子、 富田 明子	開講時期： 1年次 前期																
実務経験のある教員等による授業科目（社会福祉士5年以上）																	
<p>科目の概要</p> <p>看護の目標はウェル・ビーイングであり、福祉、医療のルーツでもある。近頃では、医療職と福祉職は協調し、対象の地域や家庭での、生活へのトータルケアマネジメントの視点で活動することが重要になってきた。そこで、社会保障の理念と基本的な制度の考え方、生活者の生活問題に対する、法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解することが必要となる。</p> <p>目的</p> <p>保健・福祉・医療の連携の中で、健康な生活を送るために必要な、社会保障制度を活用するための基礎的な知識を身につける</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・福祉・医療の連携の必要性を理解する 2. 健康な生活を送るために必要な、社会保障制度を理解する 3. 社会保険の役割と制度を学習し、制度の活用について理解する 4. 少子高齢化社会における、社会福祉の課題を理解する 																	
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 保健医療福祉活動の基本方向</td> <td>8. 児童への施策</td> </tr> <tr> <td>2. 社会保険の変遷</td> <td>9. 老人への施策 その他の施策</td> </tr> <tr> <td>3. 医療保険制度</td> <td>10. 保健福祉計画 社会福祉の民間活動</td> </tr> <tr> <td>4. 介護保険制度</td> <td>11. 国、地方公共団体の行政、 組織およびマンパワー</td> </tr> <tr> <td>5. 年金制度 その他の社会保険制度</td> <td>12. 老人保健福祉行政の展開</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉の理念と変遷 生活保護法と施策</td> <td>13～14. 介護と看護の役割と連携について</td> </tr> <tr> <td>7. 障害者（児）の施策</td> <td>福祉学科の学生と話し合いまとめ、発表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 保健医療福祉活動の基本方向	8. 児童への施策	2. 社会保険の変遷	9. 老人への施策 その他の施策	3. 医療保険制度	10. 保健福祉計画 社会福祉の民間活動	4. 介護保険制度	11. 国、地方公共団体の行政、 組織およびマンパワー	5. 年金制度 その他の社会保険制度	12. 老人保健福祉行政の展開	6. 社会福祉の理念と変遷 生活保護法と施策	13～14. 介護と看護の役割と連携について	7. 障害者（児）の施策	福祉学科の学生と話し合いまとめ、発表		15. まとめ／終講試験
1. 保健医療福祉活動の基本方向	8. 児童への施策																
2. 社会保険の変遷	9. 老人への施策 その他の施策																
3. 医療保険制度	10. 保健福祉計画 社会福祉の民間活動																
4. 介護保険制度	11. 国、地方公共団体の行政、 組織およびマンパワー																
5. 年金制度 その他の社会保険制度	12. 老人保健福祉行政の展開																
6. 社会福祉の理念と変遷 生活保護法と施策	13～14. 介護と看護の役割と連携について																
7. 障害者（児）の施策	福祉学科の学生と話し合いまとめ、発表																
	15. まとめ／終講試験																
学習上の注意																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 																	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康支援と社会保障制度3 社会福祉 メヂカルフレンド社 <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>																	

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	1. 保健医療福祉活動の基本方向 (1) 概念, 目的, 機能, 体系, 内容 (2) 人権、日本国憲法 25 条 (3) 倫理 (4) ノーマライゼーション (5) 情報公開、地方分権、参加 (6) 社会保障給付費 (7) 社会保障制度改革	講義	
2 回	2. 社会保険の変遷 (1) 歴史、意義 (2) 国民皆保険・皆年金	講義	
3 回	3. 医療保険制度 (1) 健康保険、国民健康保険と (2) 保険給付と利用者負担 高齢者の医療制度 (3) 医療保険の財政 (4) 保険診療の仕組み (5) 公費負担医療 (6) 国民医療費 (7) 事例 診療報酬、入院費の実際	講義	
4 回	4. 介護保険制度 (1) 制度の基本理念 (2) 保険者・被保険者 (3) 要介護・要支援の認定 (4) 保険給付と利用者負担 (5) ケアマネージメント (6) 介護保険の財政 (7) 介護保険事業計画 (8) 事例 介護保険の流れ	講義	
5 回	5. 年金制度 (1) 制度の体系 (2) 給付と費用負担 6. その他の社会保険制度 (1) 雇用保険法 (2) 労働者災害補償保険法	講義	
6 回	7. 社会福祉の理念と変遷 (1) 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法 (2) 措置制度から選択、利用制度へ (3) 利用者保護の制度 8. 生活保護法と施策 (1) 生活保護の基本原則と実施の原則 (2) 実施機関・扶助の種類と内容 (3) 生活保護の実際 事例	講義	

7回	<p>9. 障害者（児）の施策</p> <p>(1)障害者基本法 (2)障害者自立支援法 (3)身体障害者福祉法 (4)知的障害者福祉法 (5)精神保健及び精神 (6)障害者自立 障害者福祉に関する法律 支援法の課題 事例検討</p>	講義	
8回	<p>10. 児童への施策</p> <p>(1)児童福祉法 (2)児童虐待の防止等に関する法律 (3)母子及び寡婦福祉法 (4)少子化対策</p>	講義	
9回	<p>11. 老人への施策</p> <p>(1)老人福祉法</p> <p>12. その他の施策</p> <p>(1)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する 法律<DV法> *DVの救済に向けた取り組み事例の説明</p>	講義	
10回	<p>13. 保健福祉計画</p> <p>(1)子ども・子育て応援プラン (2)障害者基本計画と障害者プラン</p> <p>14. 社会福祉の民間活動</p> <p>(1)民生委員、児童委員 (2)社会福祉協議会 (3)ボランティア活動 (4)特定非営利活動促進法 <NPO法></p>	講義	
11回	<p>15. 国、地方公共団体の行政、組織およびマンパワー</p> <p>(1)福祉事務所 (2)児童相談所 (3)社会福祉施設 (4)在宅サービス機関 (5)保健師 (6)理学療法士・作業療法士 (7)介護支援専門員<ケアマネージャー> (8)社会福祉士・介護福祉士 (9)精神保健福祉士</p>	講義	
12回	<p>16. 老人保健福祉行政の展開</p> <p>(1)入所措置権の市町村への委譲 (2)市町村および都道府県の老人福祉計画 (3)高齢者の生きがい対策 (4)介護予防</p>	講義	

13～ 14回	17. 介護と看護の役割と連携について 18. 福祉学科の学生と話し合いまとめ、発表する	講義 演習	グループ ワーク
15回	19. まとめ／終講試験		

授業科目： 基礎看護学Ⅰ：(概論)	単位(時間)： 1単位(30時間)										
授業担当： 大槻 解子 後藤 文子	開講時期： 1年次 前期										
実務経験のある教員等による授業科目(病院等で5年以上)											
<p>科目の概要</p> <p>看護職は、健康生活支援の専門家として、専門的知識・技術・態度が求められている。「看護とは何か」「看護職とは何をするのか」看護の歴史や 諸理論から幅広く看護学の主たる概念を学習し、実践の科学である看護に対する理解を深め自らの看護観を明確にしていく。</p> <p>目的</p> <p>看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かについて学び、専門職としての看護のあり方を理解する</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の発展と看護の定義を理解する 2. 看護の対象を理解する 3. 健康の概念を理解する 4. 看護の目的、役割と機能を理解する 5. 看護者としての看護倫理を理解する 											
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 看護とは何か</td> <td>4. 看護の提供者</td> </tr> <tr> <td>2. 看護の対象である人間理解</td> <td>5. 看護における倫理</td> </tr> <tr> <td>3. 健康の捉え方と国民の健康状態</td> <td>6. 看護の提供者の仕組み</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7. 広がる看護の活動領域</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8. 終講試験</td> </tr> </table>		1. 看護とは何か	4. 看護の提供者	2. 看護の対象である人間理解	5. 看護における倫理	3. 健康の捉え方と国民の健康状態	6. 看護の提供者の仕組み		7. 広がる看護の活動領域		8. 終講試験
1. 看護とは何か	4. 看護の提供者										
2. 看護の対象である人間理解	5. 看護における倫理										
3. 健康の捉え方と国民の健康状態	6. 看護の提供者の仕組み										
	7. 広がる看護の活動領域										
	8. 終講試験										
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の基礎であり、積極的な態度で学んでほしい 											
<p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学概論(基礎看護学①) 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学概論 メジカルフレンド社 2. 系統看護学講座 看護 医学書院 <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フローレンス・ナイチンゲール その1、その2 											

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	1. 看護とは (1)看護の本質 ①看護の変遷	講義 DVD (ナインゲール1・2)	大槻 ・「看護覚え書き」 「看護の基本と なるもの」を読み 要点をまとめ
2～3 回	②看護の定義 看護理論家による看護の定義 看護職能団体による看護の定義	演習：G・W「看護 覚え書き」につい て	ておく ・看護の理論家の 看護の定義につ いてまとめる ・ナインゲール ・ヴァージニア・ヘンダー ソン ・アーネストン・ウィーデン バック ・アイダ・ジーン・オランダ ・ジョイス・トラベルビー ・ヒルデガート・E・ ベプロー ・ドロシア・E・オレム ・シスター・カリスタ・ロイ
4 回	(2) 看護の役割と機能 ①看護ケアについて ②看護実践とその質保証に必要な 要件 ③看護の役割と機能の拡大 (3)看護の継続性と情報	講義 演習	
5～7 回	2. 看護の対象である人間理解 (1)人間のこころとからだ (2)生涯発達し続ける存在としての 人間 (3)人間の暮らしの理解	講義	後藤 ・マズローの欲求 段階説について 読み、自己の欲求 について考えて おく ・発達課題とは何 かを考えておく
8～9 回	3. 健康の捉え方と国民の健康状態 (1)WHO の健康の定義 (2)健康の関連要因 (3)社会の変遷と健康観の変化 (4)人々の生活と健康に関する理解 と意義	講義	大槻

10回	<p>4. 看護の提供者</p> <p>(1) 職業としての看護</p> <p>(2) 看護職の育成制度と就業状況</p> <p>(3) 看護職者の教育とキャリア開発</p> <p>(4) 看護職者の養成制度の課題</p>	講義	<p>大槻</p> <p>課題1</p> <p>・我が国における看護職の成り立ちについて明治から第二次大戦後まで</p> <p>・日本看護協会が認定している資格について ・看護職のそれぞれの資格を取得するまでの流れと就業状況についてまとめる</p>
11回	<p>5. 看護の提供の仕組み</p> <p>(1) サービスとしての看護</p> <p>(2) 看護サービスの提供の場</p> <p>(3) 看護をめぐる制度と政策</p> <p>(4) 看護サービスの管理</p> <p>(5) 医療安全と医療の質保証</p>	講義	<p>大槻</p> <p>看護の統合と実践「国際看護」につなげる</p>
12～13回	<p>6. 看護における倫理</p> <p>(1) 看護倫理を学ぶ意義</p> <p>(2) 看護の倫理原則</p> <p>(3) 看護実践上の倫理的概念 アドボカシー 責務 協力 ケアリング</p> <p>(4) 専門職の倫理 ICN 看護師の倫理綱領 看護者の倫理綱領（日本看護協会） 保健師助産師看護師法と倫理</p>	講義	<p>後藤</p> <p>GW「看護者の倫理綱領を読み、看護の使命、看護者としての倫理的義務について話し合い、それらの義務遂行のため、学生として今何をすべきかについてまとめる</p>
14回	<p>7. 広がる看護の活動領域</p> <p>(1) 国際化と看護（国際交流と国際協力）</p> <p>(2) 看護における国際化の状況</p> <p>(3) 災害看護の定義と種類と法律</p>	講義	<p>大槻</p> <p>看護の統合と実践「国際看護」「災害看護」につなげる</p>

15回	8. 終講試験		
-----	---------	--	--

授業科目： 基礎看護学Ⅱ コミュニケーション、看護教育	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当：藤江 祐子 他	開講時期： 1年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>人間関係を発達させる技術として、コミュニケーション技術が不可欠である。コミュニケーションの手段として、相互のメッセージの意味や感情の理解を深め、信頼関係を築くことが必要になってくる。そのための技法を学ぶことが大切である。</p> <p>看護師は人々の健康の維持・促進、回復といった過程に関わるため、基本的ケアの一部として教育・指導は切り離すことができない。看護師は、対象の保健指導として、看護を行うために指導する存在となる。それは、看護師が意識していなくても、教育・指導は看護と深く関係している。</p> <p>目的</p> <p>看護技術の基本的な重要性を学ぶ。また、看護技術を成立させるための手段としてのコミュニケーション技術や指導・教育を修得する</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの特徴と、医療・看護における重要性を理解する 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージの伝え方を学ぶ 3. 看護における教育的関わりを理解する 	
<p>学習概要</p> <p>1～2. 看護技術の概念</p> <p>3. コミュニケーションに関する基礎知識</p> <p>4. 看護とコミュニケーション</p> <p>5. 看護理論とコミュニケーション</p>	<p>6～9. 看護場面におけるコミュニケーション</p> <p>10～11. コミュニケーション障害への対応</p> <p>12～14. 看護における教育・指導</p> <p>15. 終講試験</p>
<p>学習上の注意</p> <p>患者の情報収集をするために必要な技術である。また、患者・スタッフとの会話が成立させるための技術でもある。積極的な態度で臨んでほしい。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、課題の提出状況、終講試験を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 基礎看護学② 医学書院 <p>参考図書 授業の中で提示する</p> <p>DVD 授業の中で提示する</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1～2回	1. 看護技術の概念 (1) 看護技術の特徴 (2) 看護技術の範囲 (3) 本校における技術演習の考え方	講義	技術とは、看護とは何かを調べ、自己の考えをレポートしておく
3回	2. コミュニケーションに関する基礎知識 (1) コミュニケーションの意義と目的 (2) コミュニケーションの構成要素とプロセス (3) 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	講義	関連科目の想起 人間関係論 I
4回	3. 看護とコミュニケーション (1) コミュニケーション技法 ①傾聴の技術 ②情報収集の技術 ③説明の技術 (2) アサーティブネス	講義	
5回	4. 看護理論とコミュニケーション (1) ペプロウ (2) オーランド (3) ウーデンバック (4) トラベルビー	講義	
6～9回	5. 看護場面におけるコミュニケーション (1) ロールプレイング (2) プロセスレコード 【演習：プロセスレコードの書き方】	講義 演習	
10～11回	6. コミュニケーション障害への対応 (1) 特徴 (2) 身体機能 【演習：事例をもとに、コミュニケーションのあり方を話し合う】	講義 演習	

12～14 回	<p>7. 看護における教育・指導</p> <p>(1) 看護における教育的関わり</p> <p>(2) 効果的な教育のプロセス</p> <p>①目的 ②対象者の場面</p> <p>③方法(個別・集団指導)</p> <p>④計画 ⑤実施・評価</p> <p>【演習：事例をもとに看護における教育的関わりを計画する】</p>	講義 演習	看護における指導場面を提示し、看護師役割を考える素地とする 授業終了後レポート提出する
15回	8. 終講試験		

授業科目： 基礎看護学Ⅲ 活動と休息 環境整備	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 大槻 解子 他	開講時期： 1年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>人間にとって生活環境の適・不適は健康の保持増進や療養状態に大きく影響する。特に病室では、採光、照明、色彩、音、室内気候、空気などの物理的環境と共に、生活の場となる病床は患者の療養に適したものでなければならない。この授業では環境整備は、環境の整備とリネン交換に分けられる。病人にとっての環境を学生間で話し合い、快適な環境を整えるための機会となる。環境を整える一環として、ここではリネン交換技術として演習を行う。</p> <p>体位交換技術は日常生活援助技術を行うための基盤となる技術である。体位変換・移動技術は対象の安全安楽な体位保持、移動に関する技術を修得することが必要となる。</p> <p>活動・休息に対する欲求は、人間の基本的欲求の1つである。しかし、病気や障害、治療などによって制約され、行えない場合がある。セルフケア能力を低下させることなく、必要な安静を守り、患者の潜在的能力に働きかけ、可能性の支援を行うことが必要になる。そのために、セルフケア能力や個別の状況に応じた援助方法を工夫し、実施できる能力を身につけさせたい。</p> <p>目的</p> <p>患者にとっての療養環境を理解する。対象者にとっての快適な病床環境整備、ベッドメイキング、リネン交換を修得する。また安全、安楽への配慮を行いながらの体位変換、移動技術を修得する</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者にとって快適な病床環境を理解する 2. 基本的なベッドメイキングを実施する 3. 臥床患者のリネン交換を実施する 4. ボディメカニクス技術を理解する 5. 臥床患者の体位交換を理解する 6. 患者の状態に合わせてベッドから車いすへの移乗、車椅子移送を理解する 7. 患者をベッドからストレッチャーへ移乗し、移送を理解する 8. 患者の歩行・移動介助を理解する 	
<p>学習概要</p> <p>1～6. 環境整備技術</p> <p>7～11. 基本的活動の援助</p>	<p>12～13. 睡眠・覚醒の援助</p> <p>14. 実技テスト</p> <p>15. 終講テスト</p>

学習上の注意

基礎的な援助技術であるため、目的を考えながら援助技術を練習してもらいたい

成績評価の方法

1. 出席状況、課題の提出状況、実技テスト、終講試験を総合して評価する

使用テキスト

1. 系統的看護学講座 **基礎看護学③** 医学書院

参考図書

1. 看護技術がみえる1 メディクメディア
2. 演習実技に役立つ基礎看護技術 ヌーヴェルヒロカワ
3. 考える基礎看護技術 ヌーヴェルヒロカワ
4. その他 授業で提示する

DVD

1. ベットメイキング
2. 看護ケアに役立つリラクゼーション法
3. 体位変換（アスカム）

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	<p>1. 環境調整技術</p> <p>【援助の基礎知識】</p> <p>1) 療養生活の環境</p> <p>① 人と環境</p> <p>② 療養生活と環境</p> <p>③ 生活環境の調整</p> <p>2) 病室の環境のアセスメントと調整</p> <p>(1) 病室・病床の選択</p> <p>① 病室の選択</p> <p>② 病室の構成</p> <p>③ ベッドの選択</p> <p>(2) 温度・湿度</p> <p>① 冷暖房による調節</p> <p>② 窓の開閉による調整</p> <p>(3) 光と音</p> <p>① 採光</p> <p>② 人工照明</p> <p>③ 騒音</p> <p>(4) 色彩</p> <p>(5) 空気の清浄性とにおい</p> <p>(6) 人的環境</p>	講義	1 「 <u>看護がみえる</u> 」 基礎看護技術 ・環境整備 P42～ 参照。
2 回～ 4 回	<p>【援助の実際】</p> <p>3) ベッド周囲の環境整備</p> <p>(1) ケア前の環境整備</p> <p>(2) ワゴン配置</p> <p>4) 病床を整える</p> <p>(1) マットレス・枕の条件</p> <p>(2) ベッドメイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リネン類の取り扱い(シーツ類のたたみかた) ・シーツのしわと患者さんの安楽 ・包布を用いたクローズドベッド・オープンベッドの作成 	講義 演習 DVD	演習前に DVD で学習する

<p>8～9 回</p>	<p>②特殊体位</p> <p>3)移動(体位変換・歩行・移乗・移送)</p> <p>(1)体位変換</p> <p>①援助の基礎知識</p> <p>②援助の実際</p> <p>準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左右への移動 ・仰臥位から側臥位への移動 ・側臥位から仰臥位への移動 ・上方への移動 ・仰臥位からファウラー位への移動 <p>動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仰臥位から長座位への移動 ・長座位から端座位への移動 ・端座位から仰臥位への移動 ・端座位から立位への移動 <p>留意点</p> <p>(2)歩行</p> <p>①援助の基礎知識</p> <p>②援助の実際</p> <p>準備</p> <p>手順</p> <p>留意点</p> <p>(3)移乗・移送</p> <p>①援助の基礎知識</p> <p>②車いすを用いる場合の援助の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移乗 <p>準備</p> <p>手順</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移送→ <u>坂道の移送について</u> <p>③ ストレッチャーを用いる場合の援助の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移乗 <p>準備・移送</p>	<p>講義</p> <p>演習</p> <p>DVD</p>	<p>講義は実習室で行う</p>
--------------	---	--------------------------------	------------------

10 ~ 11 回	<p>・スライディングシートを使用する方法と、ストレッチャーの側板とマットを使用する方法</p> <p>④ 移乗用リフトを用いる場合の援助の実際</p> <p><input type="checkbox"/>準備</p> <p><input type="checkbox"/>手順</p> <p>演習：体位変換、移動の介助、車いす・ストレッチャーの取り扱いと介助】</p>	講義 演習	
12 ~ 13 回	<p>4. 睡眠・覚醒の援助</p> <p>(1)睡眠の種類、メカニズム、リラクゼーション</p> <p>【演習：良肢位保持、足浴】</p>		
14 回	5. 実技テスト（臥床から端座位、車いす移乗まで）		
15 回	6. 終講試験		

授業科目： 基礎看護学Ⅳ 清潔・衣生活と排泄	単位（時間）： 1 単位（30 時間）
授業担当：後藤 文子 渡邊 まどか	開 講 時 期： 1 年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>自分の身体や身につけるものを清潔に保ち、自分の好きな衣服や装備品を身にまとい、好みの方法で身だしなみを整えることは、人間にとって基本的なニーズである。疾病あるいは治療上の制約により自分で清潔を保てなくなった場合、易感染状態になるだけではなく、精神的にも悪影響を与える。また、衣服は、外部からの物理的・化学的刺激から身体を守るだけではなく、自分らしさの表現でもあり、アイデンティティや役割意識に深く関与している。以上のような多義的な観点から患者の日常生活をとらえ、患者が快適で自分らしい清潔行動や整容行為をとることができるように援助することが看護の重要な役割である。</p> <p>排泄は生命維持に欠かすことのできない生理的、基本的欲求である。また、年齢、排泄習慣の自立レベル、性別、職業、生活背景による理解レベル、民族、宗教などにより排泄に対する認識は個々人で大きく異なる。これを理解したうえで特に自立と個別性を重視する技術である。患者の自立に向けて、基本原則に従って自立と個別性という2つの視点で学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>身体が清潔であることや好みの装いを自由に楽しめることがどのような意味を持つか、個別性に配慮しながら看護実践を組み立てていく素地を培う</p> <p>排泄は、患者の個別性を大切にしながら、演習を通じて、自立を促し羞恥心に配慮した安全、安楽な基本的な技術を修得する</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身だしなみをととのえるための援助を理解する 2. 入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察を理解する 3. 清潔を目的とした足浴・手浴の目的・実施手順を理解する 4. 臥床患者の清拭を実施する 5. 臥床患者の洗髪を実施する 6. 臥床患者の寝衣交換を実施する 7. 患者に合わせた便器・尿器を選択し排泄援助を実施する 8. モデル人形に浣腸を実施する 9. モデル人形に一時的導尿を実施する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身だしなみを整える意味 清潔の援助の基本的知識 2. 衣生活援助の基礎知識 3. 入浴に関する基礎知識 	<ol style="list-style-type: none"> 11. 排尿の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 意義、仕組み、排尿のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 床上排泄 尿器・便器の当て方 (2) おむつによる排泄援助 (3) 導尿、膀胱留置カテーテル

<p>4. 全身清拭の基礎知識 5. 寝衣交換の基礎知識 6.7 臥床患者の全身清拭演習 8. 洗髪の基礎知識 9.10 洗髪の実習</p>	<p>12. 排便の援助 1) 排便のアセスメント (1) 浣腸、陰部洗浄 (2) 摘便 (3) 高圧浣腸 13. 排泄の演習 1) 床上尿器・便器の挿入 2) おむつ交換、陰部洗浄 14. 排泄の演習 1) 一時的導尿 2) グリセリン浣腸 15. 終講テスト</p>
<p>学習上の注意 清潔の援助を行うことは、対象の生活を整えることにもつながる。患者の気持ちを考えながら修得する</p>	
<p>成績評価の方法 1. 出席状況、課題の提出状況、実技チェック、終講試験を総合して評価する</p>	
<p>使用テキスト 1. 系統看護学講座 基礎看護学③ 医学書院 参考図書 1. 看護技術がみえる 1 基礎看護技術 メディクメディア 2. 看護技術がみえる 2 臨床看護技術 メディクメディア 3. 演習実技に役立つ基礎看護技術 ニューヴェルヒロカワ 4. 根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社 5. その他 授業で紹介する DVD 1. 実践！看護技術シリーズ清潔の援助技術編 (1) 入浴・シャワー浴 2. 実践！看護技術シリーズ清潔の援助技術編 (2) 全身清拭・陰部洗浄 3. 実践！看護技術シリーズ清潔の援助技術編 (3) 洗髪 4. 実践！看護技術シリーズ清潔の援助技術編 (4) 部分浴 5. 実践！看護技術シリーズ排泄の援助技術編 (1) 排尿・排便の援助 6. 実践！看護技術シリーズ排泄の援助技術編 (2) オムツを用いた排泄の援助 7. 実践！看護技術シリーズ排泄の援助技術編 (3) 導尿・膀胱留置カテーテル 8. 実践！看護技術シリーズ排泄の援助技術編 (4) 浣腸・摘便 9. 実践！看護技術シリーズ日常生活の援助技術編 (2) リネン・寝衣の交換</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回 (後藤)	<p>1・身だしなみを整える意味</p> <p>・清潔・衣生活援助の目的</p> <p>2. 清潔の援助の基礎知識</p> <p>1)皮膚・粘膜の構造と機能</p> <p>2)清潔援助の効果</p> <p>3)清潔援助方法</p> <p>4)清潔援助方法の選択の決定</p>	講義	<p>・自分たちの身だしなみから、病床生活を送る対象の身だしなみを整える意義について考えておく。</p>
2回 (後藤)	<p>3. 衣生活援助の基礎知識</p> <p>1)衣服を用いることの意義</p> <p>2)熱発生と熱放散</p> <p>3)被服気候</p> <p>4)衣生活に関するニーズの把握</p> <p>5)病衣の選択と管理</p>	<p>講義</p> <p>DVD</p>	<p>・グループワークは4~5人程度で組み、準備から実施まで行なう。</p>
3回 (後藤)	<p>4. 入浴に関する基礎知識</p> <p>1)入浴の目的</p> <p>2)入浴の効果</p> <p>3)入浴が身体に及ぼす影響</p> <p>5. 清潔援助の実際(清拭・寝衣交換・洗髪)</p> <p>1)入浴・シャワー浴援助の実際</p> <p>(1)方法選択の判断</p> <p>(2)実施方法</p> <p>(3)留意点</p> <p>(4)機械浴</p> <p>2)手浴</p> <p>3)足浴</p> <p>4)洗面</p>	<p>講義</p> <p>DVD</p>	<p>・技術の練習やチェックは、説明の方法や観察も含めて行う</p> <p>・プライバシーについても考慮していけるようにする</p> <p>・手浴は栄養で、足浴はリラクゼーションで実施する</p>
4回 (後藤)	<p>6. 全身清拭の基礎知識</p> <p>1)清拭の目的</p> <p>2)清拭の種類</p> <p>3)清拭の適応</p> <p>4)清拭に使用する洗剤</p> <p>5)清拭の実際</p>	<p>講義</p> <p>DVD</p>	

5回 (後藤)	7. 寝衣交換の基礎知識 1) 寝衣交換の目的 2) 援助方法選択の判断 3) 寝衣交換の実際 4) 輸液ラインが入っている患者の寝衣交換 5) 麻痺のある患者の寝衣交換	講義 DVD 演習	
6.7回 (後藤)	8. 臥床患者の全身清拭演習	演習	
8回 (後藤)	9. 洗髪の基本知識 1) 洗髪の方法 2) 洗髪の効果 3) 適応 4) 方法、体位 5) 洗髪の実際 6) 洗髪以外の頭部の清潔 7) 整容の目的と種類	講義 DVD	
9.10回 (後藤)	10. 洗髪の演習	演習	
11回 (渡邊)	11. 排泄の援助 1) 意義、仕組み、排尿アセスメント (1) 床上排泄 尿器・便器の当て方 (2) おむつによる排泄援助 (3) 導尿、膀胱留置カテーテル		
12回 (渡邊)	12. 排便の援助 1) 排便のアセスメント (1) 浣腸、陰部洗浄 (2) 摘便 (3) 高圧浣腸		
13.14回 (渡邊)	13. 排泄の演習 1) 床上尿器・便器の挿入 2) おむつ交換、陰部洗浄 14. 排泄の演習 1) 一時的導尿 2) グリセリン浣腸		
15回	5. 終講試験		

授業科目： 基礎看護学V 栄養、呼吸・循環を整える技術	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当：渡邊まどか 藤江祐子 他	開講時期： 1年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>栄養では、食事の意義と栄養面・生活面・行動面からとらえる。好みの食事を準備し、食事を楽しむことは、人間にとって基本的な欲求の一つである。また、必要な栄養量を維持し、栄養状態を保つことは生体としての機能を維持・回復させるための基盤となる。</p> <p>人間が安楽に生きていくうえで、呼吸・循環の意義は大きく、その機能が何らかの原因により阻害された状態は、不安や苦痛を伴う。本科目では呼吸・循環の意義としくみを学び、それらを整えるために必要な看護技術（体温管理・保温の援助、酸素吸入療法、排痰ケア等）を修得していく。</p> <p>目的</p> <p>栄養：人が生きることの根幹にかかわる食事という行為の意味と意義を深く考え、それを配慮しながらの援助技術を修得する。</p> <p>呼吸・循環を整える技術：身体の機能と構造に関する総合的なアセスメント能力を駆使しながら、患者の呼吸・循環の安楽の保持と、苦痛を緩和するための援助技術を修得する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <p>栄養 1. 患者の状態に合わせた食事介助を理解する 2. 経鼻栄養・経鼻経管栄養チューブの管理を理解する</p> <p>呼吸・循環を整える技術</p> <p>1. 呼吸の意義とアセスメントについて理解する 2. 呼吸を楽にする姿勢及び呼吸法を理解する 3. 気道分泌物の排出方法と援助の実際を理解する 4. 酸素療法の意義と方法と援助の実際を理解する 5. 人工呼吸療法の概要を理解する 6. 体温・循環調節の手段としての電法の援助を理解する</p>	
<p>学習概要</p> <p>1. 食べることの意義 2. 摂食・嚥下のメカニズム 3. 食生活の援助に関する基礎知識 4. 食事介助演習 5. 健康障害と食生活 6～7. 経鼻経管栄養法演習 8. 呼吸・循環を整える技術① 呼吸の意義とアセスメント</p>	<p>9. 呼吸・循環を整える技術② 体温管理・保温の援助 10. 呼吸・循環を整える技術③ 酸素吸入療法、人工呼吸療法 11～14. 呼吸・循環を整える技術④ 1) 気道分泌物の排出の援助 体位ドレナージ、スクイーピング、吸引 15. まとめ 終講試験</p>

呼吸を楽にする姿勢と呼吸法

学習上の注意

実技は患者の気持ちを考えながら、苦痛の緩和に努める工夫を考え、深めていくことが重要である。実施する際、観察することを忘れないようにする

成績評価の方法

1. 出席状況、課題の提出状況、演習への取り組み、終講試験を総合して評価する

使用テキスト

- | | | |
|-------------------|--------|------------|
| 1. 系統看護学講座 | 基礎看護学③ | 医学書院 |
| 2. 看護技術が見える Vol1① | 基礎看護技術 | メディック・メディア |
| 3. 看護技術が見える Vol1② | 基礎看護技術 | メディック・メディア |

参考図書

- | | | |
|---------------|---------|-----------|
| 1. 演習・実習に役立つ | 基礎看護技術 | ヌーヴェルヒロカワ |
| 2. ナーシンググラフィカ | 基礎看護技術 | メディカ出版 |
| 3. 新体系看護学全書 | 基礎看護技術③ | メヂカルフレンド社 |
| 4. その他 | 授業で紹介する | |

DVD

講義の際に紹介する

授業回数	内 容	方 法	備 考
1回	1. 食事の意義 (1)生理的意義 (2)心理的意義 (3)社会・文化的意義 2. 食べるために必要な機能	講義 DVD 視聴 渡邊	関連科目を含め 「食べる」について 予習をして臨む * 事前課題 「食べる」に必要な臓 器の解剖生理学をもと に白地図作成
2回	3. 摂食・嚥下のメカニズム (1)嚥下機能・嚥下機能評価・嚥下訓練	講義	水戸協同病院 言語聴覚士 赤木かおり
3回	4. 食生活の援助に関する基礎知識 (1)栄養状態のアセスメント (2)水分・電解質のバランス (3)摂食行動のアセスメント (4)食生活・食への認識のアセスメント	講義 渡邊	ヘンダーソン基本的ニード 「栄養」と結びつける。
4回	5. 食事摂取の介助の実際 (1)食事介助の実際	演習 渡邊	
5回	6. 健康障害と食生活 (1)食事の種類・食形態 7. 非経口的栄養摂取法の基礎知識 (1)経鼻経管栄養法 (2)胃瘻 (3)中心静脈栄養法 (4)末梢静脈栄養法 8. 食べることを支援する看護の役割	講義 渡邊	
6～7回	7. 経鼻経管栄養法、経鼻経管栄養チューブ の挿入の実際 (1)経鼻経管栄養の実際 (2)経鼻経管栄養チューブの挿入 (3)演習後のリフレクション	演習 渡邊	演習手順書の作成を行 い、経鼻経管栄養法・チ ューブ挿入、食事介助 に必要な知識を結びつ ける。

授業回数	内 容	方 法	備 考
8 回	1. 呼吸・循環を整える技術① 1)呼吸の意義とアセスメント (1)呼吸の意義としくみ (2)呼吸状態のアセスメントと、呼吸を整える援助 2)呼吸を楽にする姿勢と呼吸法	講義 藤江	関連科目の想起 ・解剖生理学
9 回	2. 呼吸・循環を整える技術② 1)体温管理・保温の援助 (1)冷罨法 (2)温罨法 【演習：冷罨法・温罨法】	講義 演習 藤江	
10 回	3.呼吸循環を整える技術③ 1)酸素吸入療法 (1)酸素吸入療法の概要 (2)酸素吸入療法の方法 (3)酸素吸入療法の援助の実際 2)人工呼吸療法 (1)人工呼吸療法の概要 【演習：酸素ポンベの取り扱い、酸素吸入】	講義 演習 DVD 藤江	実習室での講義・演習 関連科目の想起 ・解剖生理学 ・物理学
11～12 回	4.呼吸循環を整える技術④ 1)気道分泌物の排出の援助 (1)体位ドレナージ、スクイーピング、その他の排痰法 【演習：体位ドレナージ】	講義 演習 DVD 藤江	実習室での講義・演習 関連科目の想起 ・解剖生理学
13～14 回	5.呼吸循環を整える技術⑤ 1)気道分泌物の排出の援助 (1)吸引 ①一時的吸引 ②持続的吸引 【演習：口腔・鼻腔吸引、気管内吸引】	講義 演習 DVD 藤江	実習室での講義・演習 吸引は、モデル人形を使用する 各自、卒業時の技術到達度を目標に自己練習を継続していくことが望ましい。関連科目の想起・解剖生理学

15回	6. まとめ／終講試験		
-----	-------------	--	--

授業科目：基礎看護学Ⅵ 与薬・注射・創傷管理	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：宮内和代 他	開講時期：1年次 後期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>与薬の技術では、医師の指示に基づいた薬物が安全かつ確実に投与する方法を学ぶ。</p> <p>注射の技術では、与薬での知識を想起しつつ各注射方法について学ぶ。DVDやモデル人形を用いロールプレイで演習を行う。</p> <p>創傷管理では、基本的な知識・技術を理解し、無菌的な操作が行えることを狙いに行っている。創傷管理の技術は急速な発展途上にある分野であるため、その知識は常に新しい知見によって変わりうることを頭におきながら、感染予防の必要性を学び、病院での物品や患者の使用物、汚染物の取り扱い等の知識を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>創傷管理ではスタンダードプリコーションを理解した上での確実な無菌操作、感染予防を修得する。与薬での内容を想起し、安全な注射技術を修得する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬物の特徴を理解し、正しい与薬、薬物の管理方法を理解する 2 経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬の特徴を理解し、実施法を学ぶ 3 静脈・点滴静脈・皮下・皮内・筋肉注射の特徴を理解し、実施法を学ぶ 4 感染予防対策が理解でき、実施できる 5 創傷管理の目的、方法を理解する 	
<p>学習概要</p> <p>1～5 感染管理の基礎知識 6 創傷管理の基礎知識 7 実技テスト 8～10 与薬の基礎知識 11～14 注射の実施と観察 15 まとめ、終講試験</p>	
<p>学習上の注意</p> <p>看護業務の法的位置付けを理解。安全で確実な看護が実施できるよう基本的能力を養う。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、技術テスト、終講試験を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統的看護学講座 基礎看護学③ 医学書院 <p>参考テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術がみえる 2 臨床看護技術 メディクメディア 2. 演習実技に役立つ基礎看護技術 ニューヴェルヒロカワ 3. ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 メディカ出版 <p>DVD 授業で提示する</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	2. 創傷管理の基礎知識 (1) 感染予防 ①手指衛生 : 衛生的手洗い ②個人防護具: マスク ガウン エプロン 手袋 フェイスシールド・ゴーグル キャップ	講義 DVD	宮内
2回	【演習: 衛生的手洗い、個人防護具の着脱】	演習	宮内
3~4回	(2) 洗淨・消毒・滅菌 ①医療器材の洗淨・消毒・滅菌 ②皮膚、創部の消毒 ③無菌操作 ④滅菌物の取り扱い: 滅菌手袋 滅菌ガウンの着脱 滅菌パックの開封と受け渡し 清潔区域に作り方 滅菌包の開け方 鑷子を使った綿球の受け渡し (3) 医療廃棄物の取り扱い	講義 DVD	宮内
5回	【演習: 滅菌手袋 滅菌ガウンの着脱 滅菌パックの開封と受け渡し 清潔区域に作り方 滅菌包の開け方 鑷子を使った綿球の受け渡し】	演習	宮内
6回	創傷管理	講義	宮内
7回	実技試験 (スタンダードプリコーションに基づく手洗い、無菌操作)		宮内

8～9回	1. 与薬の基礎知識 (1) 剤形と吸収経路 (2) 6R (3) 薬事法、日本薬局法 (4) 薬剤の保管 (5) 毒薬・劇薬・麻薬 2. 与薬の実施 (1) 経口薬 (2) 吸入薬 (3) 点眼 (4) 点鼻 (5) 軟膏・貼付剤・経皮的吸収型製剤 (6) 坐薬	講義 DVD	注射の実施については、人形を使い実施する。また、感染やリキップについても学習する。 関連科目の想起 解剖学、薬理学の基礎、臨床病態学、成人看護学につなげる
10回	3. 注射の基礎知識 (1) 注射方法の概要 (2) 薬物血中濃度 (3) シリンジ・注射針の取り扱い (4) 手順と留意点 4. 輸血管理の基礎知識		
11～13回	【演習：注射の準備】 【演習：皮下、筋肉注射】 【演習：静脈注射・点滴静脈内注射】	演習	
15回	終講試験		

授業科目： 基礎看護学Ⅶ（フィジカルアセスメント 1：生体観察、検査介助）	単位（時間）： 1 単位（30 時間）
授業担当：宮内和代 上野富美江 他	開 講 時 期： 1 年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>「看護は観察から始まる」といわれる。看護行為を根拠づけるためには、まず患者を知るところから始まる。ヘルスアセスメントは身体面にとどまらず、心理面、社会面にも目を向ける必要がある。</p> <p>フィジカルアセスメントは、その必要性を理解するだけでなく、実際の個々のフィジカルイグザミネーションを駆使し、五感を使って観察することの重要性とその方法を学ぶ。ここでは、身体測定・バイタルサインの観察・身体診察・検体検査・生体検査・身体情報の持続的モニタリングの学習項目を設定している。これらの技術は、患者の身体の情報を把握するために看護師が行なう基本的技術となる。特に、バイタルサイン（血圧、脈、呼吸、体温）の測定に関しては、確かな技術を習得し、聴診器の使用法、聴診法による観察、視診、触診のための知識・技術を学習する。</p> <p>検査介助についてもこの単元で学ぶが、知識のみになる。実際の介助方法については、臨地実習にゆだねることとする。</p> <p>目的</p> <p>ヘルスアセスメントが患者理解のために必要であることがわかり、バイタルサインの測定方法を習得する</p> <p>フィジカルアセスメントの情報としての検査の種類とその方法を習得する</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの概念と目的を理解し、必要な技術が理解できる 視診、問診、触診、打診、身体計測の方法がわかる バイタルサインが正確に測定でき、測定値から患者の状態をアセスメントする 正確な検査が行えるための患者の準備と介助を理解する 各種検査の目的を理解し、目的に合わせた検体の取り扱い方を理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> ～11. ヘルスアセスメントの概念とフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの方法（バイタルサイン測定） 12. 13. 14. 実技テスト 	<ol style="list-style-type: none"> 15. 検体検査の援助と観察 16. 生体検査援助の実際と観察 17. 終講試験

<p>学習上の注意</p> <p>バイタルサイン測定が正確に行える必要がある。かなりの自己学習の時間を要す。看護師としての観察の眼を育てる重要な科目である。</p>		
<p>成績評価の方法</p> <p>1. 出席状況、課題提出状況、実技テスト、終講試験を総合して評価する。</p>		
<p>使用テキスト</p> <p>1. 系統的看護学講座 基礎看護学②③ 医学書院</p> <p>2. フィジカルアセスメントがみえる メディック メディア</p> <p>参考図書</p> <p>1. 演習実技に役立つ基礎看護技術 ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>2. ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 メディカ出版</p> <p>3. その他</p> <p>DVD</p> <p>1. 山内豊明教授のフィジカルアセスメント 4本 その他</p>		

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. ヘルスアセスメントの概念 (1) ヘルスアセスメントとは (2) ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの関係 (3) ヘルスアセスメントに必要な技術 問診、視診、打診、触診 【演習：聴診器の使用方法、その他】	講義 演習 (教室) DVD	バイタルサイン 測定技術は技術 試験を課す。 関連科目の想起 ：解剖学、臨床病 態学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、 病理学、基礎看護 学Ⅱ（基礎看護技 術Ⅰ）
2回	2. 身体計測、バイタルサインの観察 (1) 身長、体重、腹囲、座高、胸囲、BMI などの基本的体格の理解 【演習：身体測定】 身長・体重・腹囲・座高・胸囲・BMI	講義 演習 (実習室) DVD	宮内
3回	(2) 体温、脈拍、呼吸、血圧を正確に測 定する技術の習得 ①バイタルサインとは ②バイタルサイン観察の目的 ③バイタルサインに影響する因子 ④バイタルサインの正常・異常	講義 演習 (演習)	
4回	【演習：体温・脈拍・呼吸・血圧測定】 演習1：血圧計の取り扱い及び測定 方法	演習 (教室)	
5回	【演習：体温・脈拍・呼吸測定】 演習2：腋窩体温測定 橈骨動脈での脈拍測定 呼吸測定	演習 (実習室)	
6・7回	【演習：体温・脈拍・呼吸・血圧測定】 演習3：腋窩体温測定 橈骨動脈での脈拍測定 呼吸測定 血圧測定	演習 (実習室)	宮内
8・9回	【演習：体温・脈拍・呼吸・血圧測定】 演習4：腋窩体温測定 橈骨動脈での脈拍測定	演習 (実習室)	宮内

	呼吸測定 血圧測定		
10・11回	【演習：体温・脈拍・呼吸・血圧測定】 演習5：腋窩体温測定 橈骨動脈での脈拍測定 呼吸測定 血圧測定	演習 (実習室)	宮内
12・13・14回	バイタルサイン測定技術テスト 設定されたモデル患者のフィジカル アセスメントを行い、教員が評価する	十分な練習期間を保証するため、この 枠は別に後日時間割の中に設定する。 教員全員で対応	
15回	3. 検査の介助と観察 1)検査の意義 2)検査における看護師の役割 3)検査の種類 (1)検体検査の実際と観察 ①血液検査 ②尿検査 ③便検査 ④喀痰検査	講義	上野
16回	(2)生体検査援助の実際と観察 ①レントゲン ②CT ③MRI ④内視鏡検査 ⑤生体情報モニタリング ⑥心電図モニター⑦SpO2 モニター ⑧血管留置カテーテルモニター ⑨中心動脈圧 ⑩肺動脈圧	講義	上野

授業科目： 基礎看護学Ⅸ：看護過程 (看護過程とは 事例検討)	単位 (時間)： 1 単位 (30 時間)								
授業担当： 山口 政実 他	開 講 時 期： 1 年次 後期								
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で5年以上)									
<p>科目の概要</p> <p>看護過程は、あらゆる対象に看護を実践するための科学的思考過程であり、看護を展開するための方法としての技術である。この方法は、対象者と看護者間の良好な人間関係のもと、系統的なプロセスで看護を実践する。人間を捉える事のみに限らず人間関係を基盤として対象を全人的に捉え、人間の反応や体験に目を向け援助していくアプローチについても学習する。</p> <p>目的</p> <p>科学的思考過程を学習し、看護上の問題をみつけ、健康上の援助計画を立案できるようにする</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の目的を達成するため看護過程の意義を理解する 2. 事例をもとに看護解決過程やクリティカルシンキング、情報の分析の方法、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する 3. アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階について、基本的な考え方を理解する 4. 看護記録の方法と実際を理解する 									
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1～3.</td> <td>看護過程とは</td> <td>8～13.</td> <td>事例展開②</td> </tr> <tr> <td>4～7.</td> <td>事例展開①</td> <td>14～15.</td> <td>事例発表会</td> </tr> </table>		1～3.	看護過程とは	8～13.	事例展開②	4～7.	事例展開①	14～15.	事例発表会
1～3.	看護過程とは	8～13.	事例展開②						
4～7.	事例展開①	14～15.	事例発表会						
<p>学習上の注意</p> <p>色々な角度から、患者を観察できる能力を養っていく。</p>									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、授業態度、提出物、終講試験を総合して評価する。 									
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統的看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 看護学生のための実習記録 サイオ出版 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で提示する <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で提示する 									

授業回数	内 容	方法	備考
1～3回	<p>1. 看護過程とは</p> <p>(1) 看護過程の構成要素とその課題 (アセスメント、分析、診断、目標、計画立案、実施、評価、記録について)</p> <p>(2) 看護過程の理解と問題解決方法</p> <p>(3) 看護論 ヘンダーソンの14項目の基本的ニーズに基づく枠組み</p>	講義	<p>関連科目の想起</p> <p>病理学、解剖生理学、臨床病態学、基礎看護学Ⅰ4～6回、11～12回、基礎看護学Ⅱ、論理的思考、家族と社会、</p>
4～7回	<p>2. 事例展開①</p> <p>【演習：看護過程】</p>	講義 演習	
8～13回	<p>3. 事例展開②（脳梗塞の事例）</p> <p>(1) 情報の収集と分析</p> <p>(2) 看護問題の明確化</p> <p>(3) 看護計画、実施、評価</p> <p>(4) 看護記録と看護記録の構成</p> <p>【演習：ヘンダーソン14項目の看護過程】</p>	演習	<p>事例については、日常生活援助が必要な患者を想定して行なう。疾患について、病態・症状・治療等について調べておく。基礎看護学実習で使用する記録用紙を使用し、話し合った内容をまとめる。</p> <p>①事例を基に各自がまとめ、その後グループで討議し発表できるようまとめる</p> <p>事例①を参考にしていく</p>
14～15回	<p>4. 事例発表会</p>		<p>レポート提出</p> <p>課題については後日提示する。</p>

授業科目： 基礎看護学X 臨床看護学総論	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 山口 政実	開講時期： 1年次 後期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>看護は、人間の持つ健康問題に対して援助する専門的職能である。人間が安らかにそれぞれのライフサイクルや健康レベルに適応した生活が送れるように援助することが求められる。</p> <p>生命の危険度の変動を対象者の出生から死の方向への時間的移り変わりの中でとらえ、その特性を疾病の経過だけでなく、対象者の生活の視点に主軸をおいて援助することが必要である。この単元では疾病の経過を治療やケアの必要度から急性期、回復期（移行期）、慢性期、終末期に分け、それぞれ特徴的な看護を学んでいく。それに加え具体的な対象者の症状や治療・検査の基礎的知識を得ることで、実際の患者に起こりうる状態を理解する。既習の「看護学概論」「基礎看護技術」で習得した内容を、臨床の場で会うことの多い症状を具体的に適応できるように事例を通して知識と技術の統合を図る。</p> <p>目的</p> <p>対象者のライフサイクルや健康状態の経過に基づく看護の特徴を学び、臨床看護の理解を深める。また、主要な症状のメカニズムの学習を通し、看護の実践者としてさまざまな対象に応じた看護を総合的に考えることができるようにする。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上のニーズを持つ生活者と家族の看護を理解する 2. 経過に基づく対象の看護の特徴を理解する 3. 主要症状を示す対象の看護を理解する 4. 治療処置を受けている対象の看護を理解する 5. 様々な健康レベルにある患者に必要な看護技術を実施する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ～2 健康生活と看護 3. ～4. 経過別看護の特徴 5. ～6. 主要な症状を示す対象者への看護 	<ol style="list-style-type: none"> 7. ～8. 治療・処置を受ける対象者への看護 9. ～14. 事例展開【回復期にある患者の事例を基に想定される看護技術を実践する】
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、課題の提出状況、終講試験を総合して評価する 2. 演習時の計画・実施時の記録、演習態度、技術テスト結果から評価する 	

使用テキスト

1. 系統学看護学講座 臨床看護総論(基礎看護学④) 医学書院
2. 系統学看護学講座 基礎看護技術 医学書院

参考図書

1. その他 授業で提示する

DVD

1. スピリチュアリティ
 2. 救命救急シリーズ
-

授業回数	内 容	方法	備考
1～2回	1. 健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護 (1) ライフサイクルから捉えた対象者と家族の健康上のニーズ (2) 家族の機能から捉えた対象者の家族の健康上のニーズ (3) 生活と療養の場から捉えた対象者と家族の健康上のニーズ	講義	鈴木 【関連科目の想起： 基礎看護学Ⅰ、関係法規、医療概論、社会福祉、哲学
3～4回	2. 健康状態の経過に基づく看護 (1) 健康状態と看護 (2) 健康の維持・増進を目指す看護 (3) 急性期における看護 (4) 慢性期における看護 (5) 慢性期における看護 (6) リハビリテーション期における看護 (7) 終末期における看護	講義	鈴木
5～6回	3. 主要な症状を示す対象者への看護 (1) 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 (2) 循環に関連する症状を示す対象者への看護 (3) 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 (4) 排泄に関する症状を示す対象者への看護 (5) 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 (6) 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 (7) コーピングに関連する症状を示す対象者への看護	講義	鈴木

	<p>(8) 安全や生態防御昨日に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>(9) 安楽に関連する症状を示す対象者への看護</p>		
7～8回	<p>4. 治療・処置を受ける対象者への看護</p> <p>(1) 輸液療法を受ける対象者への看護</p> <p>(2) 化学療法を受ける対象者への看護</p> <p>(3) 放射線療法を受ける対象者への看護</p> <p>(4) 手術療法を受ける対象者への看護</p> <p>(5) 集中治療を受ける対象者への看護</p> <p>(6) 創傷処置/創傷ケアを受ける対象者への看護</p> <p>(7) 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護</p>	講義	鈴木
9～14回	<p>5. 事例による看護実践の展開</p> <p>リハビリ期にある患者への援助</p> <p>(1) 事例紹介</p> <p>事例 1</p> <p>脳梗塞、半身麻痺、高齢者</p> <p>脳梗塞発症後 2 週間目の看護</p> <p>* 酸素吸入、持続点滴、ベッド上安静</p> <p>①看護過程：援助計画を導く</p> <p>②日常生活の援助・具体策を計画</p> <p>③計画に沿って援助を行う</p> <p>④実施・評価、記録</p>	<p>講義</p> <p>演習</p> <p>グループワーク</p>	<p>・回復期にある患者の事例をもとに想定される看護技術を実践する</p> <p>関連科目の想起</p> <p>臨床病態学、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅵ</p>
15回	6. 終講試験		

授業科目：成人看護学Ⅰ（概論）	単位（時間）：1 単位（30 時間）														
授業担当：大槻 解子	開 講 時 期：1 年次 後期														
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）															
<p>科目の概要</p> <p>成人期の心身社会的特徴を理解するために、援助に必要な看護理論を学び、具体的な看護援助について。成人看護概論では、成人期の人の理解を中心に生活者としての視点で学習を進める。</p> <p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象者の身体的・精神的（霊的を含む）・社会的な特徴を理解し、対象の成長、発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ 2. 成人期にある人々の健康上の諸問題を総合的に学ぶとともに、生活習慣病と健康障害の関連など、成人保健活動の基本について理解する 															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の特徴を理解する 2. 成人期にみられる健康問題を理解する 3. 成人期の健康増進の必要性と方法を理解する 4. 成人期における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する 															
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 成人期の特徴の発達課題</td> <td>10～11. ヘルスプロモーション実際と課題</td> </tr> <tr> <td>2～3. 成人期の健康と援助</td> <td>12～13. 成人期の看護診断</td> </tr> <tr> <td>4～5. 成人期の保健・医療・福祉における動向と課題</td> <td>14. 看護診断の考え方と展開方法</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ、終講試験</td> </tr> <tr> <td>6. 生活習慣病と対策</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7～8. ヘルスプロモーションと理論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. ソーシャルサポート</td> <td></td> </tr> </table>		1. 成人期の特徴の発達課題	10～11. ヘルスプロモーション実際と課題	2～3. 成人期の健康と援助	12～13. 成人期の看護診断	4～5. 成人期の保健・医療・福祉における動向と課題	14. 看護診断の考え方と展開方法		15. まとめ、終講試験	6. 生活習慣病と対策		7～8. ヘルスプロモーションと理論		9. ソーシャルサポート	
1. 成人期の特徴の発達課題	10～11. ヘルスプロモーション実際と課題														
2～3. 成人期の健康と援助	12～13. 成人期の看護診断														
4～5. 成人期の保健・医療・福祉における動向と課題	14. 看護診断の考え方と展開方法														
	15. まとめ、終講試験														
6. 生活習慣病と対策															
7～8. ヘルスプロモーションと理論															
9. ソーシャルサポート															
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題提出状況、終講試験を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学概論 ニーベルヒロカワ 															
<p>参考文献</p>															

授業科目： 老年看護学 I（概論）	単位（時間）： 1 単位（30 時間）														
授業担当： 大槻 解子	開講時期： 1 年次 後期														
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）															
<p>科目の概要</p> <p>老年看護の目的を、高齢者のもつ健康あるいは生活上のリスクを最小限とし、可能性を引き出し、その人が望む自律的な生き方の実現と安らかな死に貢献することと考える。</p> <p>概論では高齢者と高齢者を取り巻く環境、老年看護の目的を多方面から理解するために、老年期の発達的特徴、発達課題、健康阻害要因、統計的動向、医療の現状などについて学ぶ。</p> <p>また、老年看護の目的及び看護活動の特徴について高齢者の健康レベルの状況、家族関係、生活環境、ヘルスケアシステムの視点から理解する。</p> <p>目的</p> <p>老年看護の対象の理解と老年看護の目的及び活動内容を理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老いを生きる高齢者の特徴を心身社会面から理解する 2. 高齢者の健康問題の特性を理解する 3. 高齢者の自立と権利を守るための社会保障制度、地域資源について理解する 4. 老年看護の役割と概要について理解する 															
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 老いるということ</td> <td>9. 高齢者の権利擁護</td> </tr> <tr> <td>2. 老いを生きるということ</td> <td>10. 権利擁護のための制度</td> </tr> <tr> <td>3. 超高齢社会の現況</td> <td>11. 老年看護の役割</td> </tr> <tr> <td>4. 5. 高齢者体験</td> <td>12. 老年看護における理論・概念の活用</td> </tr> <tr> <td>6. 高齢社会における保健医療福祉の動向</td> <td>13. 高齢者とヘルスプロモーション</td> </tr> <tr> <td>7. 介護保険制度、高齢者医療のしくみ</td> <td>14. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護</td> </tr> <tr> <td>8. 高齢者を支える多職種連携と看護活動</td> <td>15. まとめ 終講試験</td> </tr> </table>		1. 老いるということ	9. 高齢者の権利擁護	2. 老いを生きるということ	10. 権利擁護のための制度	3. 超高齢社会の現況	11. 老年看護の役割	4. 5. 高齢者体験	12. 老年看護における理論・概念の活用	6. 高齢社会における保健医療福祉の動向	13. 高齢者とヘルスプロモーション	7. 介護保険制度、高齢者医療のしくみ	14. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	8. 高齢者を支える多職種連携と看護活動	15. まとめ 終講試験
1. 老いるということ	9. 高齢者の権利擁護														
2. 老いを生きるということ	10. 権利擁護のための制度														
3. 超高齢社会の現況	11. 老年看護の役割														
4. 5. 高齢者体験	12. 老年看護における理論・概念の活用														
6. 高齢社会における保健医療福祉の動向	13. 高齢者とヘルスプロモーション														
7. 介護保険制度、高齢者医療のしくみ	14. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護														
8. 高齢者を支える多職種連携と看護活動	15. まとめ 終講試験														
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年者に対する関心と、敬いの気持ちについて学習を通して養う 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 老年看護学</td> <td>医学書院</td> </tr> </table> <p>参考図書</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 老いるとはどういうことか</td> <td>講談社+α文庫</td> </tr> <tr> <td>2. 老いはこうしてつくられる—こころとからだの加齢変化</td> <td>中公新書</td> </tr> </table> <p>DVD 開講の際に提示</p>		1. 老年看護学	医学書院	1. 老いるとはどういうことか	講談社+α文庫	2. 老いはこうしてつくられる—こころとからだの加齢変化	中公新書								
1. 老年看護学	医学書院														
1. 老いるとはどういうことか	講談社+α文庫														
2. 老いはこうしてつくられる—こころとからだの加齢変化	中公新書														

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	<p>1. 老いるということ</p> <p>(1) 加齢と老化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 加齢と老化の関係 ② 老化に関する学説 ③ 生理的老化と病的老化 ④ 新しい老化のとらえ方 <p>(2) 加齢に伴う身体的側面の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 恒常性を土台とした4つの力の変化 ② 疾病をめぐる特徴 <p>(3) 加齢に伴う心理的側面の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 知能 ② 人格 ③ 創造性 <p>(4) 加齢に伴う社会的側面の変化</p>	講義	<p>医学書院老年看護 P. 2～11</p> <p>身近な高齢者から年を重ねることの意味を話し合う機会をもつ</p>
2 回	<p>2. 老いを生きるということ</p> <p>(1) 高齢者の定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者と老年期 ② 高齢者の若返り <p>(2) 発達と成熟</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 老年期の発達課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達理論と発達課題 ・ エリクソンによる発達課題 ・ ベックによる老年期の心理的危機 ・ 老年的超越とジェネティビティ(世代生) ② スピリチュアリティ <ul style="list-style-type: none"> ・ スピリチュアリティとは ・ 高齢者のスピリチュアリティの特徴 <p>(3) 健康と生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 老年期の健康 ② 老年期の生活 	講義	<p>P. 11～20</p> <p>発達理論をもとに高齢者の課題を考える</p> <p>高齢者の手記等を事前に検索し概要をまとめ感想を述べ合う</p>
3 回	<p>3. 超高齢社会の統計的輪郭</p> <p>(1) 超高齢社会の現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高齢化率から見る超高齢社会 ② 平均寿命から見る超高齢社会 		<p>P. 24～35</p> <p>人口動態のグラフを読み取る</p>

	<p>③超高齢社会の将来像</p> <p>(2) 高齢者と家族</p> <p>①高齢者のいる世帯</p> <p>②ひとり暮らし</p> <p>③子どもとの付き合い</p> <p>(3) 高齢者の健康状態</p> <p>①自覚症状</p> <p>②受療の状況</p> <p>③要介護高齢者</p> <p>(4) 高齢者の死亡</p> <p>①死亡率と死因</p> <p>②死亡場所</p> <p>③多死社会</p> <p>(5) 高齢者の暮らし</p> <p>①家計</p> <p>②公的年金</p> <p>③働くこと</p> <p>④社会とのかかわり</p>	講義	<p>仏様や葬式法事の意味について調べる</p>
4回 5回	<p>4. 高齢者体験</p> <p>※高齢者体験モデルの装着を通して、高齢者の身体的・心理的特徴を考える</p>	講義 体験	<p>高齢者体験モデルを通して高齢者とのかかわり考える</p>
6回	<p>5. 高齢者に関わる保健医療福祉の動向</p> <p>(1) 高齢者に関わる保健・医療・福祉システムの構築</p> <p>①保健医療福祉制度の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉の創設 ・老人医療費の増加 ・保健医療福祉の連携と在宅サービスの重視 ・計画的な高齢者保健福祉の推進 ・新たな介護保険制度の開始と高齢者医療制度改革 ・地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の推進 	講義 GW	<p>P. 36～39</p> <p>成人看護で配布された、健康日本 21 の資料を持参する</p>
7回	6. 介護保険制度	講義	P. 41～49

	<p>(1) 介護保険制度の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 介護保険制度の創設と改正 ② 介護保険制度の目的と理念 ③ 介護保険制度のしくみ ④ 介護保険サービス ⑤ 介護予防 <p>7. 高齢者医療のしくみ</p> <p>(1) 高齢者の医療制度を巡る課題</p> <p>(2) 高齢者医療確保法</p>		<p>自身の地域の介護保険制度の概要を知る</p>
8回	<p>8. 高齢者を支える多職種連携と看護活動</p> <p>(1) 高齢者の生活と健康を支える多様な職種</p> <p>(2) 看護職の看護活動の拡大と専門化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 活動の場の広がり ② 専門看護師と認定看護師 <p>(3) 高齢者とソーシャルサポート</p>	講義	<p>P. 50～53</p>
9回	<p>9. 高齢者の権利擁護</p> <p>(1) 高齢者に対するスティグマと差別</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者に対するスティグマ ② エイジズム ③ 権利擁護(アドボカシー) <p>(2) 高齢者虐待</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者虐待防止法と高齢者虐待の定義 ② 高齢者虐待の実態と特徴 ③ 虐待の発生要因と予防に向けた支援 	講義	<p>P. 54～60</p> <p>高齢者の権利について意見交換する</p>

10回	<p>10. 高齢者の権利擁護</p> <p>(3) 身体拘束</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 身体拘束の定義と身体拘束を禁止する規定 ② 身体拘束の例外 3 原則 ③ 身体拘束廃止に向けて ④ 魔の 3 ロック：工夫を生み出す創造力と老年看護の倫理 <p>11. 権利擁護のための制度</p> <p>(1) 成年後見制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 制度の理念となりたち ② 法定後見制度と任意後見制度 <p>(2) 日常生活自立支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域福祉権利擁護事業の制定 ② 現状と今後の課題 	講義	P. 54～66
11回	<p>12. 老年看護のなりたち</p> <p>(1) 老年看護学教育の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 老年看護実践の始まりと広がり ② 教育科目としての老年看護学の成立 ③ 老年看護学教育の高度・専門家と研究活動の推進 <p>(2) 老年看護の定義</p> <p>(3) 老年看護の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 注目すべき 4 つの側面 ② 老年看護の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の意思決定支援 ・ 生活機能の回復 ・ 死に至るプロセスを整える ・ 高齢者の安寧に向けて家族と協力すること ・ 多職種チームを構成し機能させる ・ 住み慣れた場所で最後までを実現する地域包括ケアの推進 	講義	P. 70～77

12 回	<p>13. 老年看護における理論・概念の活用</p> <p>(1) 老年看護における理論の活用</p> <p>(2) 老雄年看護に役立つ理論・概念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 離脱理論と活動理論 ・ サクセスフルエイジング ・ 選択最適化補償理論（SOC理論） ・ ニード論・危機理論・セルフケア理論 ・ コンフォートと理論・ストレングスモデル <p>(3) 老年看護に携わる者の責務</p>	講義	P. 78～82
13 回	<p>14. 高齢者とヘルスプロモーション</p> <p>(1) 老年期のヘルスプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ヘルスプロモーションとは ②健康日本 21 と介護予防 <p>(2) 介護予防とヘルスプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ①介護予防・日常生活支援総合事業 ②プログラムの実際 	講義	<p>P. 360～363</p> <p>在宅看護論のテキスト持参</p> <p>*在宅看護論の学習につなげる</p>
14 回	<p>15. 保健医療福祉施設および居住施設における看護</p> <p>(1) 介護保険施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ①介護老人福祉施設 ②介護老人保健施設 ③介護療養型医療施設 ④介護保険施設で求められる看護 <p>(2) 地域密着型サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ①認知症対応型共同生活介護/介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム) ②小規模多機能型居宅介護 ③地域密着型特定施設入居者生活介護 <p>(3) 住まい</p> <ul style="list-style-type: none"> ①サービス付高齢者向け住宅 <p>(4) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ①家族の形態と機能の変化 ②家族による介護 ③家族への援助 ④多職種連携実践による 383 活動 	講義	<p>P. 365～383</p> <p>介護する人の負担と援助内容について話し合う</p>

15回	16. まとめ 終講試験	試験	筆記試験、課題 レポート、学習 態度による
-----	--------------	----	-----------------------------

授業科目： 老年看護学Ⅱ (高齢者の生活を整える看護)	単位(時間)： 1単位(30時間)														
授業担当： 富永、佐野、村野	開講時期： 1年次 後期														
実務経験のある教員等による授業科目(病院等で5年以上)															
<p>科目の概要</p> <p>高齢者は人生の集大成として、老年期を自らの価値観と生活環境に応じた生活を送っている。老年看護の視点は、様々な健康レベルの高齢者と家族のニーズに基づいた自立した生活への支援を行うことである。ICF(国際生活機能分類)モデルを基本に看護を考える。</p> <p>高齢者の日常生活を整える援助に必要なアセスメントと看護ケアについて理解し、心身の老化によるリスクと活動性の低下を予防するための生活環境を整える知識・技術を身につける。</p> <p>目的</p> <p>高齢者の日常生活の自立にむけた援助の必要性と援助方法を理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の日常生活の自立にむけた援助の必要性を理解する 2. 日常生活動作の評価と援助の実際を理解する 3. 老化に伴うリスクと援助方法を理解する 4. 健康な生活を整えるための援助方法を理解する 															
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 日常生活を支える基本的活動</td> <td>10. セクシュアリティ・社会参加</td> </tr> <tr> <td>2. 3. 転倒のアセスメントと看護</td> <td>11. 認知症とは</td> </tr> <tr> <td>4. 食事・食生活</td> <td>12. 認知症の病態・診断・症状・予防</td> </tr> <tr> <td>5. 排泄</td> <td>13. 認知機能・生活機能の評価</td> </tr> <tr> <td>6. 清潔</td> <td>14. 認知症の看護</td> </tr> <tr> <td>7. 高齢者と生活リズム</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>8. 9. コミュニケーション</td> <td></td> </tr> </table>		1. 日常生活を支える基本的活動	10. セクシュアリティ・社会参加	2. 3. 転倒のアセスメントと看護	11. 認知症とは	4. 食事・食生活	12. 認知症の病態・診断・症状・予防	5. 排泄	13. 認知機能・生活機能の評価	6. 清潔	14. 認知症の看護	7. 高齢者と生活リズム	15. 終講試験	8. 9. コミュニケーション	
1. 日常生活を支える基本的活動	10. セクシュアリティ・社会参加														
2. 3. 転倒のアセスメントと看護	11. 認知症とは														
4. 食事・食生活	12. 認知症の病態・診断・症状・予防														
5. 排泄	13. 認知機能・生活機能の評価														
6. 清潔	14. 認知症の看護														
7. 高齢者と生活リズム	15. 終講試験														
8. 9. コミュニケーション															
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学で学習した日常生活の援助技術を基に、援助技術を深める 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護学 医学書院 <p>参考図書 開講の際に提示</p> <p>DVD 開講の際に提示</p>															

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	<p>1. 日常生活を支える基本的活動</p> <p>(1) 基本動作と環境のアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の基本となる日常生活動作 <p>(2) 基本動作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起き上がり動作と座位姿勢の保持 ・起き上がり動作と立位姿勢の保持 ・移乗動作 ・歩行 <p>(2) 姿勢を支える環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片麻痺のある人のベッドから車椅子への移乗 <p>(3) 日常生活活動(動作)の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標の使い方 ・基本的な ADL の評価指導 ・手段的 ADL の評価指標 	講義 佐野	医学書院 老年看護学 P. 122～133
2 回 3 回	<p>2. 転倒のアセスメントと看護</p> <p>(1) 高齢者と転倒</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 転倒とは ② 転倒のリスク要因 <p>(2) 転倒リスクのアセスメント</p> <p>(3) 転倒予防に向けた援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 基本動作の見守り ② 安全な環境 ③ 歩行補助具の正しい使用 <p>(4) 転倒した高齢者への看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 転倒発生時の対応 ② 転倒の心理・社会的な影響に対するケア ③ 転倒の再発防止 ・ヒッププロテクターの活用 <p>3. 廃用症候群のアセスメントと看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者と廃用症候群 ・ 廃用症候群とは ・ 廃用症候群の主な症状 ② 廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護 ・ 早期離床 ・ 全身状態と生活状況のアセスメント 	講義 佐野	P. 134～146

	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間の同一姿勢による弊害とケア ・リハビリテーション ・心身の活動性を高めるケア 		
4回	<p>4. 食事・食生活</p> <p>(1) 高齢者における食生活の意義</p> <p>(2) 高齢者に特徴的な変調</p> <p>① 加齢に伴う摂食嚥下機能の変化</p> <p>② 老年期に多い疾患による摂食嚥下障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害 ・認知症 ・神経難病 ・廃用症候群 ・薬物 ・栄養状態の変調（PEM、サルコペニア） <p>(3) 食生活のアセスメント</p> <p>① 食事環境のアセスメント</p> <p>② 摂食嚥下能力のアセスメント</p> <p>③ 栄養状態のアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養スクリーニング ・栄養スクリーニングツールとアセスメント ・栄養アセスメント <p>(4) 食生活の支援</p> <p>① 食事前のケア</p> <p>② 食事中のケア</p> <p>③ 食事後のケア</p> <p>④ 多職種協同の食支援（NST）</p>	講義 村野	P. 146～161
5回	<p>5. 排泄</p> <p>(1) 高齢者の排泄ケアの基本</p> <p>① 高齢者の尊厳をまもる排泄ケア</p> <p>② プロセスとしての排泄行動への注目</p> <p>③ 排泄リズムの把握と生活調整</p> <p>④ 排泄のための自助具の活用</p> <p>(2) 排尿障害のアセスメントとケア</p> <p>① 排尿のアセスメント</p> <p>② 排尿障害の特徴</p>	講義 村野	P. 161～171

	<p>③排尿障害のケア</p> <p>(3) 排便障害のアセスメントとケア</p> <p>①排便のアセスメント</p> <p>②排便障害の特徴</p> <p>③下剤の種類と使用時の留意点</p> <p>④排便障害のケア</p>		
6回	<p>6. 清潔</p> <p>(1) 清潔の意義</p> <p>(2) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題</p> <p>①皮膚障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥とかゆみ ・浸軟 ・非薄 ・足白癬・爪白癬 <p>(3) 清潔のアセスメント</p> <p>①皮膚の生活の状態に関するアセスメント</p> <p>②清潔のセルフケア能力に関するアセスメント</p> <p>③関連要因に関する情報</p> <p>④ニードの充足状態の分析と清潔ケアの選択</p> <p>(4) 清潔の援助</p> <p>①入浴</p> <p>②清拭</p> <p>③陰部洗浄</p> <p>④フットケア</p> <p>⑤耳のケア</p> <p>⑥目のケア</p>	講義 村野	P. 172～184
7回	<p>7. 生活リズム</p> <p>(1) 高齢者と生活リズム</p> <p>①生活リズムとは</p> <p>②生活リズムを調整する意義</p> <p>(2) 高齢者に特徴的な変調</p> <p>①睡眠と覚醒の仕組み</p> <p>②加齢に伴う睡眠と覚醒の変な k</p> <p>③高齢者にみられる睡眠障害</p> <p>④生活行動の変化とその影響</p>	講義 富永	P. 185～196

	<p>(3)生活リズムのアセスメント</p> <p>①睡眠の評価</p> <p>②睡眠・覚醒のパターン</p> <p>③生活リズムの変調に影響する要因のアセスメント</p> <p>(4)生活リズムを整える看護</p> <p>①昼間のケア</p> <p>②夜間のケア</p>		
<p>8回</p> <p>9回</p>	<p>8. コミュニケーション</p> <p>(1)高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則</p> <p>①コミュニケーションの基本</p> <p>②高齢者に見られるコミュニケーション上の特徴</p> <p>③高齢者とのコミュニケーションの原則</p> <p>(2)コミュニケーション能力のアセスメント</p> <p>①アセスメントのポイント</p> <p>②高齢者におこりやすいコミュニケーション障害とアセスメント</p> <p>③ベッドサイドでのアセスメント</p> <p>(3)高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法</p> <p>①初対面の高齢者とのコミュニケーションの方法</p> <p>②難聴や視力障害を持つ高齢者とのコミュニケーションの方法</p> <p>③失語症・構音障害のある高齢者とのコミュニケーションの方法</p>	<p>講義</p> <p>演習</p> <p>富永</p>	<p>P. 198～212</p>

10 回	<p>9. セクシュアリティ</p> <p>(1) 高齢者におけるセクシュアリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者のセクシャリティ ② 高齢者の性生活 ③ 男性性、女性性の尊重 <p>(2) 高齢者ケアの場における性に関する問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 性的行動への理解 ② 男性性、女性性への配慮 <p>(3) セクシュアリティのアセスメントと看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ① アセスメントの視点 ② 高齢者のセクシャリティへの対応 <p>10. 社会参加</p> <p>(1) 高齢化の現状と目指す社会の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会参加の意義 ② 生活時間の変化 <p>(2) 地域における高齢者の社会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 就労 ② 生涯学習 ③ 地域活動 ④ 社会参加活動促進に向けて 	講義 富永	P. 213～223
11 回 ～ 14 回	<p>11. 認知症</p> <p>(1) 認知症とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症の定義 ② 認知症高齢者の理解 ③ 認知症の分類 <p>(2) 認知症の症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 認知機能障害(中核症状) ② 認知症の行動・心理症状 <p>(3) 認知症の病態・診断・治療・予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症の病態 ② 認知症の診断プロセス <p>(4) 認知機能および生活機能の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 認知機能の評価 ② 生活機能の評価 ③ 評価尺度の活用方法 	講義 富永	<p>P. 296～315</p> <p>医学書院老年看護 病態・疾患論</p> <p>P. 135～149</p> <p>精神看護学のテキ ストを持参する</p>

	<p>(5) 認知症の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症の看護の原則 ② 認知症高齢者とのコミュニケーション方法 ③ パーソンセンタードケア ④ 認知症高齢者の環境調整 ⑤ 急性期医療における認知症高齢者の看護 ⑥ 認知症高齢者と家族へのサポートシステム 		
15 回	<p>12. まとめ 終講試験</p>	試験	筆記試験、課題レポート、学習態度による

授業科目： 小児看護学 I（概論）	単位（時間）： 1 単位（30 時間）												
授業担当： 宮内、海野、横山	開 講 時 期： 1 年次 後期												
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で 5 年以上）													
<p>科目の概要</p> <p>少子高齢化が進む現代社会の中で、これからの時代を担う子どもが健やかに育つために、看護は重要な役割を担っている。子どもは健全な環境の下、養育と教育により育まれる。</p> <p>このため、小児看護学概論では、小児と小児を取り巻く環境や社会問題、小児看護の特殊性を理解するために、小児医療の変遷、子どもの人権を擁護するための法律、発達課題、成長・発達を促す看護について学ぶ。</p> <p>また、小児看護特有の視点である、養育環境の整え方、および子どもと養育者（家族）を一つの単位として考え、両者を小児看護の対象として援助を行うことの必要性についても理解する。</p> <p>目的</p> <p>小児の各発達段階に応じた成長・発達、健康、家族、養育・教育、看護について学習し、小児の健やかな成長・発達を促すための看護師の役割と援助方法について理解する</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児医療・小児看護の変遷を理解する 2. 子どもの人権について学び、小児看護の特性を理解する 3. 子どもの成長・発達の特徴と、援助方法を理解する 4. 小児各期における健康の保持・増進のために必要な看護について理解する 													
<p>学習概要</p> <table> <tr> <td>1. 小児医療、小児看護の変遷</td> <td>6. 新生児期の看護</td> </tr> <tr> <td>2. 子どもの人権と看護</td> <td>7～8. 乳児期の看護</td> </tr> <tr> <td>3. 児童福祉法、母子健康法、児童虐待の防止等に関する法律</td> <td>9～10. 幼児期の看護</td> </tr> <tr> <td>4. 子どもと家族をとりまく社会の変化</td> <td>11～12. 学童期の看護</td> </tr> <tr> <td>5. 子どもの成長・発達</td> <td>13～14. 思春期の看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 小児医療、小児看護の変遷	6. 新生児期の看護	2. 子どもの人権と看護	7～8. 乳児期の看護	3. 児童福祉法、母子健康法、児童虐待の防止等に関する法律	9～10. 幼児期の看護	4. 子どもと家族をとりまく社会の変化	11～12. 学童期の看護	5. 子どもの成長・発達	13～14. 思春期の看護		15. まとめ／終講試験
1. 小児医療、小児看護の変遷	6. 新生児期の看護												
2. 子どもの人権と看護	7～8. 乳児期の看護												
3. 児童福祉法、母子健康法、児童虐待の防止等に関する法律	9～10. 幼児期の看護												
4. 子どもと家族をとりまく社会の変化	11～12. 学童期の看護												
5. 子どもの成長・発達	13～14. 思春期の看護												
	15. まとめ／終講試験												
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の人権と法律について既習科目と関連づけ学習する 													
<p>成績評価の方法</p> <p>・ 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する</p>													

使用テキスト

1. 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
2. 小児看護技術 南江堂

参考図書

1. 系統看護学講座 社会福祉 第7章 児童福祉法、母子保健施策
2. 系統看護学講座 公衆衛生 第7章 児童福祉法、母子保健法
3. 系統看護学講座 母性看護学2

DVD

1. 子ども虐待 全2巻 京都科学
2. 子どもたちは未来 全3巻 京都科学

その他開講の際に提示

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 小児医療、小児看護の変遷 (1)小児医療の変遷 (2)小児看護の変遷 2. 子どもの人権と看護 (1)子どもの権利と歴史的流れ (2)子どもの看護と倫理的配慮 (3)児童憲章	講義	・事前学習 宮内
2回	3. 児童福祉法、母子保健法、児童虐待の防止等に関する法律 (1)健やか親子 21 (2)権利擁護（アドボカシー） (3)インフォームドアセント	講義	・事前学習 宮内
3回	4. 子どもと家族をとりまく社会の変化 (1)虐待の実際 (2)児童虐待のメカニズムと虐待防止	講義 DVD	宮内
4回	5. 子どもの成長・発達 (1)成長・発達の原則 一般的原則 ・成長・発達に影響する因子 (2)形態的・機能的発達 形態的成長発達 ・機能的発達	講義	海野
5回	(3)心理社会的発達 ・認知・情緒・社会性 ・コミュニケーション ・遊び ・発達課題 (4)発育・発達の評価 ・フィジカルアセスメント ・身体発育の評価 ・精神・運動機能の評価・養育環境のアセスメント	講義 DVD	海野
6回	6. 新生児期の看護 (1)新生児の健康増進と安全な環境の提供 ・低出生体重児 ・栄養 ・感染防止 ・事故防止 (2)新生児のいる家族への看護 ・親子関係 ・地域保健サービスの活用	講義	宮内

授業回数	内 容	方法	備考
7回	7. 乳児期の看護 (1) 乳児の健康増進と安全な環境の提供 ・離乳食 ・運動と遊び・分離不安 ・事故防止	講義	宮内
8回	(2) 乳児のいる家族への看護 ・親子関係 ・地域保健サービスの活用	講義	宮内
9回	8. 幼児期の看護 (1) 幼児の健康増進と安全な環境の提供 ・基本的な生活習慣の確立 ・運動と遊び ・予防接種 ・事故防止	講義	海野
10回	(2) 幼児のいる家族への看護 ・家族関係 ・地域保健サービスの活用	講義 DVD	海野
11回	9. 学童期の看護 (1) 学童の健康増進とセルフケアの発達 ・セルフケアと保健教育 ・食生活 ・学校への適応 ・学習と遊び ・生活習慣病の予防 ・第二次性徴 ・安全教育 ・学校保健	講義	横山
12回	(2) 学童のいる家族への看護 ・学童の情緒と家族関係	講義	横山
13回	10. 思春期の看護 (1) 思春期の子どもの健康増進とアイデンティ ティの確立 ・セルフケアと保健教育・食生活 ・親からの自立 ・異性への関心	講義	海野
14回	(2) 思春期の子どものいる家族への看護 ・子どもをとりまく社会環境 ・子どもの問題行動と家族関係	講義	海野
15回	11. まとめ／終講試験		

授業科目：母性看護学Ⅰ	単位（時間）：1 単位（30 時間）
授業担当：高橋 芳子	開講時期：1 年次 後期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>授業概要・目的</p> <p>概論では母性看護学がどのような考え方に基づいて形成されたのかを、主要な概念・理論、そして、日本や諸外国の母子や家族を取り巻く状況から、なぜそのような事象背景に至ったのかを理解する。また、今日の周産期ケアが時代の変化に対応した母子の健康生活と法律制度の意味するところと周産期医療における連携体制について理解する。母性看護学は生涯を通じた性と生殖の健康の維持・増進・疾病予防を基盤として、次世代の育成を目指すことを役割に、男女両性の学びを通して、異なる性が互いに刺激し、尊重することの重要性を実感できる科目としたい。また、性と生殖という視点を通して自分のからだの構造と機能の理解、生命尊重、生命誕生の見方、価値観・倫理観を形成することに影響すると考える。周産期ケアのエビデンスを準拠し、「正常」「異常」という区別ではない、多様性(ダイバーシティ)の理解と声なき少数派(マイノリティ)の女性・家族にも寄り添い、健康を支えるために、母性看護学と周産期の基盤となる考え方を理解する。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性と周産期の定義と看護について理解する 2. 周産期に役立つ理論と根拠に基づく看護を理解する 3. 母子保健に関する法律・制度、母子保健統計について理解する 4. 女性の選択と決定支援について理解する 5. 周産期に関連するセクシュアリティについて理解する 6. 周産期にあるマイノリティへのケアと想定外のストレス状況へのケアについて理解する 	
<p>学習上の注意</p> <p>この授業は母性看護学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの基礎になる内容です</p> <p>新聞やニュースなどから女性の健康に関する記事に興味関心をもつこと</p> <p>自分の意見を積極的に述べ、他者に倫理的に説明できる能力を養う努力をすること</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する</p>	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護学Ⅰ 2. 母性看護学Ⅱ 医歯薬出版株式会社 	
<p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国民衛生の動向 厚生統計協会 	
<p>VTR・DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. うまれるよ 京都科学 	

授業回数	内容	方法	事前準備学習等
1～2回	1. 母性看護学と周産期 (1) 母性と周産期の定義と看護 (2) 周産期看護の役割 (3) 周産期看護基盤となる考え方	講義	※リプロダクティブヘルス/ライツについて調べておく * 関連科目の想起 倫理的思考、人間関係論Ⅰ・Ⅱ
3～4回	2. 周産期看護への看護理論の適用 (1) 母親役割に関する概念と理論 (2) 母子関係に関する概念と理論 (3) セルフケア不足理論 (4) 危機・喪失に関する概念や理論 (5) 家族機能を中心としたケア	講義	※母性看護学の理論の概要を調べておく * 関連科目の想起 家族と社会学、哲学
5回	3. 母性看護学と法律と施策 (1) 周産期看護に関する法律	講義	※母子保健統計の統計を調べておく 関連科目の想起 関係法規
6回	4. 母性看護学と理論 (1) 女性の選択と決定支援 (2) プライバシーの保護 (3) 人間の性と生殖や医療における倫理	講義 演習	意思決定支援の 実際の演習
7～9回	5. 女性のライフステージと健康問題 (1) ライフイベント体験調査と調査のねらい (2) 健康を促進する考え方と支援 (3) 思春期の健康問題と看護 (4) 成人期の健康問題と看護 (5) 更年期の健康問題と看護	講義 演習	インビューは夏休み課題学習!! * 関連科目の想起 生殖器疾患（子宮癌、卵巣癌、不妊症、性器感染症、月経異常、膀胱炎、骨粗鬆症、更年期障害
10～1	6. 周産期に関連するセクシュアリティ	講義	3～4回の授業

4回	<ul style="list-style-type: none"> (1) 妊娠期と健康課題 (2) 分娩期と健康課題 (3) 産褥期と健康課題 (4) 新生児と健康課題 		<p>の想起から10 ～14回の講義 を通して周産期 の基本的な看護 を知り母性看護 学Ⅲとの関連性 を認知する</p>
15回	7. 終講試験とまとめ	講義	

授業科目： 精神看護学Ⅰ 概論	単位（時間）： 1単位（ 30 時間）														
授業担当：後藤 文子、人見 朗	開 講 時 期： 1 年次 後期														
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）															
<p>科目の概要</p> <p>精神看護学は、心の健康に関する特徴を、身体的、精神的、社会的側面から捉え、精神的健康の増進や向上を図るために必要な援助技術の修得と、増大するストレス社会の中で、精神看護の果たす役割を理解するとともに、人間の権利や倫理について深く学習する専門科目である。概論では、人々の健康の保持・増進や、疾病の予防を図ること、また精神に障害を持つ人に対し看護を実践していくための、基本的な知識や考え方を学習する。また、ライフサイクルや、人々の成長・発達各期における特徴を知り、対象を理解する上での基本的知識を身につける。</p> <p>目的</p> <p>精神看護学における対象を、身体的・精神的・社会的に捉え、心の健康、不健康および、心の病気に対する知識を深め、看護の役割を認識する。</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の発達や心の健康を守るしくみを理解し、精神の健康の保持・増進や、疾病の予防を図るために必要な、看護の基本的知識を修得する 2. 精神科医療や各法律を知り、人権擁護の重要性を考え、社会参加への支援を理解する 3. ライフサイクルや、人々の成長発達各期における、代表的な精神の健康問題について理解を深め、援助の視点を見出す能力を養う 															
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 精神的健康の保持・増進としての精神保健</td> <td>8. 危機理論の概要.</td> </tr> <tr> <td>「精神看護」の分野</td> <td>9. 精神(心)の危機状況と精神保健</td> </tr> <tr> <td>2. 脳の構造と認知機能</td> <td>10～11. 現代社会と精神(心)の健康</td> </tr> <tr> <td>3. 精神(心)の構造とはたらき</td> <td>12～14 地域精神保健(コミュニティ・メンタルヘルス</td> </tr> <tr> <td>4～5. 精神(心)の発達に関する主要な考え方</td> <td>現代社会における精神保健の主な問題</td> </tr> <tr> <td>6. 家族と精神(心)の健康</td> <td>精神保健医療福祉の歴史と現在の姿</td> </tr> <tr> <td>7. 暮らしの場と精神(心)の健康</td> <td>15. まとめ/終講試験</td> </tr> </table>		1. 精神的健康の保持・増進としての精神保健	8. 危機理論の概要.	「精神看護」の分野	9. 精神(心)の危機状況と精神保健	2. 脳の構造と認知機能	10～11. 現代社会と精神(心)の健康	3. 精神(心)の構造とはたらき	12～14 地域精神保健(コミュニティ・メンタルヘルス	4～5. 精神(心)の発達に関する主要な考え方	現代社会における精神保健の主な問題	6. 家族と精神(心)の健康	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿	7. 暮らしの場と精神(心)の健康	15. まとめ/終講試験
1. 精神的健康の保持・増進としての精神保健	8. 危機理論の概要.														
「精神看護」の分野	9. 精神(心)の危機状況と精神保健														
2. 脳の構造と認知機能	10～11. 現代社会と精神(心)の健康														
3. 精神(心)の構造とはたらき	12～14 地域精神保健(コミュニティ・メンタルヘルス														
4～5. 精神(心)の発達に関する主要な考え方	現代社会における精神保健の主な問題														
6. 家族と精神(心)の健康	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿														
7. 暮らしの場と精神(心)の健康	15. まとめ/終講試験														
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当講師には積極的に質問し、学習への理解を深める。 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 															

使用テキスト 1. 精神看護学1 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社 参考図書 講義の際に提示 DVD 講義の際に提示			
授業回数	内 容	内容	備考
1回	1. 精神的健康の保持・増進としての精神保健 (1) 精神障害と精神保健 (2) わが国の精神保健医療政策と方向性 (3) 精神の健康とは (4) 精神の健康を支える要因 (5) ストレスマネジメント 2. 「精神看護」の分野 (1) 精神看護とは (2) 精神看護の専門性	講義	後藤
2回	3. 脳の構造と認知機能 (1) 脳・神経系の構造 (2) 認知機能と神経基盤 (3) 大脳皮質の機能区分 (4) 高次脳機能の研究手法	講義	後藤
3回	4. 精神(心)の構造とはたらき (1) 精神力動理論とその派生理論 (2) 深層心理学:欲動論 (3) 自我心理学:自我の防衛機制 (4) 自己心理学:関係精神分析 (5) 対象関係論 (6) 理論の意義と限界、発展	講義	後藤
4、5回	5. 精神(心)の発達に関する主要な考え方 (1) エリクソンの漸成的発達理論 (2) ボウルビイの愛着理論 (3) マーラーの分離固体化理論 (4) スターンの自己感の発達論 (5) マズローの欲求5段階説 (6) ピアジェの認知発達理論	講義	後藤
6回	8. 家族と精神(心)の健康 (1) 家族とは (2) 夫婦関係 (3) 親子関係 (4) 家族ライフサイクル (5) 家族システム	講義	後藤
7回	9. 暮らしの場と精神(心)の健康 (1) 学校と精神(心)の健康 (2) 職場・仕事と精神(心)の健康 (3) 地域における生活と精神(心)の健康	講義	後藤

8回	10. 危機理論の概要 (1) フィンク (2) コーン (3)アグィレラ (4) ムース	講義	後藤
9回	11. 精神(心)の危機状況と精神保健 (1)ストレスとコーピング (2)適応と不適応(適度なストレス状況とは) (3)セルフマネジメント	講義	後藤
10～11回	12. 現代社会と精神(心)の健康 (1) 現代社会の特徴：社会構造の変化と社会病理 (2) 現代社会における精神保健の主な問題 ⑦アルコール問題(アルコール依存) ⑧薬物問題(危険ドラッグ) ⑨犯罪・非行 ⑩ギャンブル依存 ⑪IT依存 13. 地域精神保健(コミュニティ・メンタルヘルス) (1)入院医療中心から地域生活中心へ (2)地域精神保健における第1次予防、第2次予防、第3次予防 (3)リカバリーを機軸とした精神医療 (4)障害者権利条約の批准	講義	後藤
12回	14. 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 (1)精神医療の歴史 ①諸外国における精神医療の歴史と現在 ②日本における精神医療の歴史と現在 (3)精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 ①入院医療の形態 ②入院患者の処遇と権利擁護	講義	後藤
13～14回	12. (2)現代社会における精神保健の主な問題 ①ひきこもり ②虐待 ③ドメスティック・バイオレンス ④職場におけるハラスメント ⑤自殺 ⑥不登校 ⑦いじめ ⑧自傷行為 14. (2)精神障害をもつ人を守る法・制度 ①精神保健福祉法 ②障害者基本法 ③障害者総合支援法 ④障害者虐待防止法 ⑤発達障害者支援法 ⑥自殺対策基本法 ⑦その他:生活保護法 障害年金制度 社会福祉法 障害者雇用促進法 成年後見制度 心神喪失者等医療観察法 犯罪被害者等基本法	講義	人見
15回	16. まとめ/終講試験	講義	

2年次シラバス



6期生

水戸看護福祉専門学校 看護学科

授業科目： 論理的思考	単位（時間）： 1単位（30時間）						
授業担当者：市川 直子	開講時期： 2年次 前半						
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）							
<p>科目の概要</p> <p>看護に携わっていく上で必要となる文書作成（感想文、各種レポート、論文等）に関する知識や技術を身につける。また、文章を読み取る力、表現する力、論理的思考力を養う。</p> <p>目的</p> <p>言語を正しく使い、論理的に表現する能力を養う</p>							
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 漠然とした自分の考えを、具体的な言語表現として文章に書きだすには、どのように考え、進めていけばいいのか、具体的な方法を身につける 2. 身の回りの出来事を観察し、事実を読み取り、要約する 3. 自分が感じたこと、考えたこと、実践したことを文章表現する 4. 自分の考えを、読み手が理解しやすいように、表現する方法の基礎を身につける 							
<p>学習概要</p> <table> <tr> <td>1. 人間の思考と言語</td> <td>8～13. 応用編</td> </tr> <tr> <td>2. 推論の基礎</td> <td>14. 発表 効果的表現・構成、推敲</td> </tr> <tr> <td>3～7. 基礎編</td> <td>15. まとめ／応用</td> </tr> </table>		1. 人間の思考と言語	8～13. 応用編	2. 推論の基礎	14. 発表 効果的表現・構成、推敲	3～7. 基礎編	15. まとめ／応用
1. 人間の思考と言語	8～13. 応用編						
2. 推論の基礎	14. 発表 効果的表現・構成、推敲						
3～7. 基礎編	15. まとめ／応用						
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日頃、日常生活の中で新聞や雑誌等を読む習慣をつける。また、文の構成や表現方法を意識しながら書く習慣をつける。 							
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 							
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作文の論理 わかる文章の仕組み 東信堂 絶版 							
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小笠原喜康著：新版 大学生のためのレポート・論文術、講談社現代新書 2. 山川・佐藤共著：ナースのための文章表現法 一資格・進学受験対策とキャリアアップのために、看護の科学社 3. よくわかる文章表現の技術 II文章校正編「新版」・III発想編・IV文体編 <p>DVD 講義の際に提示</p>							

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	1. 人間の思考と言語 (1)論理的思考とは	講義	
2 回	2. 推論の基礎 (1)演繹法 (2)帰納法	講義	
3～7 回	3. 基礎編 (1)考えを表現する ①自分の考えを表現する最も基本的な形式 ②「～は～である。なぜならば～」の実例 (2)納得して貰えるように説明する ①「考え+理由を説明」する文を書き継ぐ方法 (3)根拠を挙げる ①筋道の立て方(根拠となる事実等の挙げ方) (4)構成を考える ①構成形式の基本(考え・理由・根拠の順序) (5)全体をまとめる/小論文の完成 ①まとめる際の注意事項、推敲、細部の表現	講義	根拠となる文献・資料を検索しておく
8～13 回	4. 応用編 (1)問題提起と答え/形式文の特色と留意点 (2)課題作文/特定のテーマを与えられた場合 (3)字数制限への対応 ①字数制限を課せられた場合の対処の仕方 (4)キーワードと要約の仕方 (5)論理的文章の書き方 1 (6)論理的文書の書き方 2	演習 課題	
14 回	5. 発表/効果的な表現・構成、推敲 (1)表現や構成上の工夫とその効果、留意点		
15 回	6. まとめ/要約 作成したレポートで評価		

授業科目： 心理学	単位（時間）： 1単位 （30時間）										
授業担当： 高岡 美記	開講時期： 2年次 前期										
実務経験のある教員等による授業科目（認定心理士5年以上）											
<p>科目の概要</p> <p>心理学は「こころ」を科学する学問である。目に見えないこころを表すものが、人間の表情や状態、行動などである。こころのメカニズムを現れた行動により解明することで、行動に変化を与えることができる。こころは大変複雑であるため、心理学には多くの研究領域がある。その中で、看護に密接に関係する領域を中心に学習し、臨床心理での具体的事例の心理的援助方法を学習する。さらに、学生自身が自己概念を考え、学生生活の中で達成感を感じるための、ポジティブシンキングを身につける。</p> <p>目的</p> <p>看護の対象の心理面を理解するための方法を修得する</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基礎的知識を理解し、看護へ関連して考える 2. 人間の行動から、こころの動きを理論的に導き出すための、心理学の知識を理解する 3. 健康に関する心理的なアプローチについて理解し、自身の心の健康へのセルフコントロールをする 											
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 人間の心とは</td> <td>11. 体験発表</td> </tr> <tr> <td>心理学の背景とその目標</td> <td>12. 心理学の応用Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>2～6. 看護に関係する心理学の基礎</td> <td>13～14. ポジティブな態度を</td> </tr> <tr> <td>7～10. 心理学の応用Ⅰ</td> <td>身につけること</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 人間の心とは	11. 体験発表	心理学の背景とその目標	12. 心理学の応用Ⅱ	2～6. 看護に関係する心理学の基礎	13～14. ポジティブな態度を	7～10. 心理学の応用Ⅰ	身につけること		15. まとめ／終講試験
1. 人間の心とは	11. 体験発表										
心理学の背景とその目標	12. 心理学の応用Ⅱ										
2～6. 看護に関係する心理学の基礎	13～14. ポジティブな態度を										
7～10. 心理学の応用Ⅰ	身につけること										
	15. まとめ／終講試験										
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身のこころに浮かんだことや感情について、他者に理解してもらうことを心がける 											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の際に提示 <p>参考図書 講義の際に提示 DVD 講義の際に提示</p>											

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 人間の心とは 2. 心理学の背景とその目標	講義	予習をして おく
2～6回	3. 看護に関係する心理学の基礎 (1)感情と認知とその心理的・生理的影響 (2)日本人の特性：文化と Well-Being (3)発達段階による特性 (4)ポジティブ感情と情動知覚 (5)心理アセスメント (6)心理療法	講義	
7～ 10回	4. 心理学の応用 I (1)対人関係、パーソナリティについて (2)自己認識と関係性 (3)ストレス理論 (4)メンタルヘルスについて	講義	
11回	5. 体験発表 (1)実習で体験した患者の心に触れたこと	講義 演習	グループ ワーク
12回	6. 心理学の応用 II (1)患者の心理状態の理解	講義	レポート 提出
13～ 14回	7. ポジティブな態度を身につけること (1)健康生成論とポジティブ思考 (2)ポジティブな社会と介入 * 幸福感、生きがい、人間関係 (3)ポジティブシンキングの実際	講義	
15回	8. まとめ／終講試験		

授業科目： 人間関係論Ⅱ（討議法）	単位（時間）： 1単位（15時間）
授業担当： 長谷川福子 他	開講時期： 2年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（認定心理士5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>看護は対人関係と医療チームの中で展開される。感情や意思をもった人間を看護するとき、人間尊厳の態度が求められる。また、より質の高い看護を提供しようとするとき、チームでの協同する力が必要になる。そのため、人間集団において活用されるカウンセリング（相談）と、グループダイナミックス（集団力学）の理論をもとに、よりよい看護とチーム活動を考えていく。</p> <p>また、集団における自己の位置と役割を自覚し、今なすべきことに邁進する力を育てる。</p>	
<p>目的</p> <p>集団力学の理論をもとに討議法の実際を理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団力学（グループダイナミックス）の理論と技法を理解する 2. 討議法の理論と技法を理解する 3. コミュニケーションに障害のある人との、コミュニケーション技術として手話の基本を身につける 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～2. 集団の理解（グループダイナミックス） 3～4. 討議法 5～7. コミュニケーション障害がある人とのコミュニケーション 8. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活のあらゆる場面と関連させながら理論を学習していく。また、学習したことは、日常生活の中で実践していくことで身につけていく。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート提出、出席状況や授業態度により評価する。 	
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平野馨著：対人関係の基礎知識－カウンセリングとグループダイナミックスの活用－，日本看護協会出版会 2. 鶴田一郎：看護に生かすカウンセリング－その理論と技法，医学書院 3. 川島・杉野共著：看護カンファレンス 第3版，医学書院 	

授業回数	内 容	方法	備考
1～2回	1. 集団の理解（グループダイナミックス） (1) 集団の概念、集団の機能 (2) リーダーシップ (3) メンバーシップ	講義	
3～5回	2. 討議法 (1) 話し合う意味、討議集団の特性 (2) 討議のまとめ方—K J 法 (3) リーダーとメンバーは上下関係か？ (4) グループワークのまとめ	講義 演習	・付箋準備 ・パワーポイント使用 ・グループワーク ・発表
6～8回	3. コミュニケーションに障害のある人との コミュニケーション (1) 手話によるコミュニケーション (2) 手話の実際（日常会話） *手話を使った会話の実際	講義 演習	手話の資料は後日 配布
(9回)	4. 終講試験		

授業科目： 人間関係論Ⅲ（カウンセリング）	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 長谷川 福子	開講時期： 2年次 後期
実務経験のある教員等による授業科目（認定心理士5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>看護は対人関係と医療チームの中で展開される。感情や意思をもった人間を看護するとき、人間尊厳の態度が求められる。また、より質の高い看護を提供しようとするとき、チームでの協同する力が必要になる。そのため、人間集団において活用されるカウンセリング（相談）と、グループダイナミクス（集団力学）の理論をもとに、よりよい看護とチーム活動を考えていく。</p> <p>また、集団における自己の位置と役割を自覚し、今なすべきことに邁進する力を育てる。</p> <p>目的</p> <p>看護師が看護上で携わる人達と、良好な関係性を築くための基礎的能力を養う。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間について、「生きるとは」、「病むとは」、どういうことか考えを深める 2. 人間援助の方法（カウンセリング）の理論と技法を理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間理解の基礎 2～14. 人間援助の方法 15. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活のあらゆる場面と関連させながら理論を学習していく。また、学習したことは、日常生活の中で実践していくことで身につけていく。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート提出、出席状況や授業態度により評価する。 	
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平野馨著：対人関係の基礎知識－カウンセリングとグループダイナミクスの活用－，日本看護協会出版会 2. 鶴田一郎：看護に生かすカウンセリング－その理論と技法，医学書院 3. 川島・杉野共著：看護カンファレンス 第3版，医学書院 <p>DVD 講義の際に提示</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 人間理解の基礎 (1)病む人間 (2)人間存在の意味	講義	
2～ 14回	2. 人間援助の方法 (1)援助的態度 (2)カウンセリング過程 (3)危機介入 (4)グループカウンセリング (5)自己啓発 *グループカウンセリングの内容について オリエンテーションし、目的をもって参加させる	講義 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 ・2日間継続して演習を行う ・エンカウンターグループワーク ・テーマに沿って、話し合いを行う
15回	3. まとめ *評価は課題をもとに行う		

授業科目： 臨床英語の基礎	単位（時間）： 1単位 （30時間）
授業担当： 菅野哲夫	開講時期： 2年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>看護場面で外国人への対応ができるよう、世界に通用する医療人に必要な、基本的臨床看護英会話を身につける。</p>	
<p>目的</p> <p>看護場面で、外国人との基本的なコミュニケーションをとる能力を身につける。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <p>1. 看護場面で外国人に対応する際、英語で会話ができるための基礎的な英語力を身につける</p>	
<p>学習概要</p> <p>別紙参照</p>	
<p>学習上の注意</p> <p>1. 毎日、予習・復習をして専門用語に慣れるようにする。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</p>	
<p>使用テキスト</p> <p>1. メディカル英会話 メディカ出版</p>	

授業科目： 微生物学	単位（時間）： 1単位 （30時間）
授業担当： 安蔵 栢内 千野 関 鴨志田	開講時期： 2年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>生体や環境にとっての微生物の役割を知るとともに、人間の健康に及ぼす影響及び、病原微生物に対する防御について理解する。さらに、感染の経路や症状を理解し、感染症の予防及び治療法を理解する。</p> <p>目的</p> <p>感染に係る病原微生物について理解し、感染症の診断と治療に関する知識を身につける。さらに、感染予防の方法を理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体や環境にとっての、微生物の役割（生物浄化と感染）について理解する 2. 感染を起こす病原微生物の種類、特徴、生態防御、症状を理解する 3. 感染予防の方法、病原微生物を死滅・消毒する方法を理解する 4. 代表的な感染症の病態及び治療方法を理解する 5. 病理学検査方法を理解する 	
<p>学習概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物とは ・感染と生体防御 ・感染予防 ・感染症の検査 ・消毒と滅菌 ・主な感染症 ・免疫のしくみ ・自己免疫疾患 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習を自身の感染予防に役立てるとともに、院内感染予防に努める。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の成り立ちと回復の経過 微生物学 メヂカルフレンド社 2. 系統看護学講座 アレルギー、膠原病、感染症 医学書院 <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>	

回数	内 容	講師	方法	備考
1回	1. 微生物学の基礎 (1) 微生物の概要 (2) 微生物の性状の主な相違点 (3) 細菌の形態と基本構造 (4) 細菌の染色・培養	安蔵 先生	講義	
2回	2. 感染と発症	安蔵 先生	講義	
3回	3. 感染と生体防御のしくみ (1) 免疫とは (2) 免疫応答 (3) 抗原抗体反応と補体 (4) 細胞性免疫 (5) 感染免疫 (6) 免疫による予防と治療	安蔵 先生	講義	
4回	4. 感染症の基礎 (1) 感染症の基礎 (2) 感染症の分類 *微生物学診断としての塗沫培養法の実際	関 先生	講義	
5~6 回	5. 微生物と感染症 (1) 細菌 (2) リケッチア (3) クラミジア (4) 真菌 (5) ウイルス (6) 寄生虫 (7) プリオン	関 先生	講義	
7回	6. 感染防御学の基礎 (1) 感染制御に関連する法律 (2) 感染制御対策 7. 感染防御の実際 (1) 感染症の予防 ・滅菌と滅菌法 ・消毒と消毒法 ・予防接種・ワクチン	栢内 先生	講義	予防接種 については、小児看護学の予防接種に関連させる

8回	8. 感染防御の実際 (2) 感染症の治療 ・化学療法 ・血清療法	鴨志田先生	講義	
9～11回	感染症 疾患の理解 (1) 発熱・不明熱 (2) 上気道感染症 (3) 下気道感染症 (4) 心血管系感染症 (5) 消化管感染症 (6) 肝胆道系感染症 (7) 尿路感染症 (8) 性感染症 (9) 皮膚軟部組織感染症 (10) 眼の感染症 (11) 中枢神経感染症 (12) 悪性腫瘍、造血幹細胞移植、固形臓器移植に伴う感染症 (13) 菌血症・敗血症 (14) 人動物咬傷 (15) ウイルス性感染症 麻疹 風疹 水痘 (16) 真菌感染症 カンジタ症 その他 (17) 寄生虫感染症 (18) HIV感染症と日和見感染症 (19) 新興, 再興感染症 (20) 多剤耐性菌感染症	千野先生	講義	系統看護学講座 11 P268 ～ 320
12回	免疫のしくみとアレルギー (1) 免疫反応と病気 (2) アレルギーに関与する免疫担当細胞と伝達物質 (3) アレルギーのしくみ	千野先生	講義	系統看護学講座 11 P10～24
13～14回	膠原病 (1) 自己免疫疾患の機序 (2) 症状とその病態生理 (3) 関節リウマチ (4) 全身性エリトマトーデス	千野先生	講義	系統看護学講座 11 P98～149

	<ul style="list-style-type: none"> (5) 抗リン脂質抗体症候群 (6) 全身性強皮症 (7) 多発性筋炎 (8) 混合性結合組織病 (9) シェーグレン症候群 (10) ベーチェット病 (11) 血管炎症候群 (12) リウマチ性多発筋痛症 (13) 成人スティル病 			
15回	終講試験			

授業科目： 栄養学	単位（時間）： 1単位（30時間）												
授業担当：鈴木美紀 武島玲子 川上美智子	開講時期： 2年次												
実務経験のある教員等による授業科目（栄養士5年以上）													
<p>科目の概要</p> <p>人間にとっての食生活の意義を理解し、栄養の基本的概念を学ぶとともに、健康の保持・増進、健康障害の治療、食事療法に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、食事療法および栄養状態を把握・評価する方法を学ぶ。摂取内容が生体の必要とする量と大きくずれると、生体の恒常性による調整能力を超え、代謝異常がおこり、疾病状態に移行する。食習慣が誘因となって発症する慢性疾患（生活習慣病）、傷病者や高齢者にみられる低栄養状態に対する栄養補給、カテーテルを用いる経管栄養食品・栄養剤などの特殊栄養食品等の栄養補給についても学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>看護職として活動する上で必要な、健康の保持・増進のための、食品や食事の選択に関する基本的な知識を修得する。</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の正しい食事と健康の関連について理解する 2. 栄養食事療法の、意義・目的を理解する 3. 栄養食事療法の、計画立案・実施・評価の仕方を理解する 4. 栄養代謝障害について理解する 													
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 人間栄養学と看護</td> <td>5～8.</td> <td>臨床栄養</td> </tr> <tr> <td>2. ライフステージと栄養</td> <td>9～11.</td> <td>調理実習</td> </tr> <tr> <td>3. 栄養ケア・マネジメント</td> <td>12～14.</td> <td>食事と食品</td> </tr> <tr> <td>4. 栄養状態の評価・判定</td> <td>15.</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>		1. 人間栄養学と看護	5～8.	臨床栄養	2. ライフステージと栄養	9～11.	調理実習	3. 栄養ケア・マネジメント	12～14.	食事と食品	4. 栄養状態の評価・判定	15.	終講試験
1. 人間栄養学と看護	5～8.	臨床栄養											
2. ライフステージと栄養	9～11.	調理実習											
3. 栄養ケア・マネジメント	12～14.	食事と食品											
4. 栄養状態の評価・判定	15.	終講試験											
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める 													
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 													
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 栄養学 医学書院 2. 系統看護学講座 内分泌・代謝 医学書院 													
<p>参考図書</p>													

授業回数	内 容	方法	備考 *講師名
1回	1. 人間栄養学と看護 (1) 栄養を学ぶということ (2) 保健・医療における栄養学 (3) 看護と栄養	講義	*水戸協同病院 鈴木美紀先生
2回	2. ライフステージと栄養 (1) 乳児期・幼児期・学童期における栄養 (2) 思春期・青年期・成人期における栄養 (3) 妊娠期・授乳期・更年期・高齢期における栄養	講義	*水戸協同病院 鈴木美紀先生
3回	3. 栄養ケア・マネジメント (1) 栄養ケア・マネジメント (2) 栄養スクリーニング (3) 栄養アセスメント (4) 栄養計画の実施 (5) 栄養ケア・マネジメントの評価	講義	*水戸協同病院 鈴木美紀先生
4回	4. 栄養状態の評価・判定 (1) 栄養アセスメントとその歴史 (2) 栄養アセスメントの目的 (3) 栄養状態の評価・判定法	講義	*水戸協同病院 鈴木美紀先生
5～ 8回	5. 臨床栄養 疾患の理解：代謝疾患 (1) 糖尿病 (2) 脂質異常症 (3) 肥満症とメタボリックシンドローム (4) 尿酸代謝異常 疾患別食事療法の実際 (1) 循環器疾患 (2) 消化器疾患 (3) 栄養・代謝疾患、 (4) 腎臓疾患 (5) 血液疾患 (6) 食物アレルギー疾患	講義	武島玲子先生 系統看護学 講座6 内分泌・代謝 P132～183 系統看護学 講座 栄養学 P204～242
9～ 11回	6. 調理実習 (1) カロリー計算とカロリー制限食	講義 演習	*水戸協同病院

	(2) 減塩食		鈴木美紀先生 エプロン・三角巾準備
12～ 14回	7. 食事と食品 (1) 人間の食事と食文化 (2) 日本人の食事摂取基準 (3) 食品と栄養素 (4) 食品群とその分類法 (5) 食品の調理	講義	川上美智子先生
15回	8. 終講試験		

授業科目： 公衆衛生	単位（時間）： 1 単位（15 時間）
授業担当：大谷 俊裕 内桶里子 栢内 ^{かやうち} 直美 上野富美江	開 講 時 期： 2 年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で 5 年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>健康づくりには人々の生活習慣、環境整備が重要であり、ヘルスプロモーションが、公衆衛生活動の中心になった。自分自身はもとより、家族や職場、地域の健康づくりを推進するための方法を学習し、実践に活かすことが望まれる。</p> <p>ここでは、公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方について理解する。</p> <p>目的</p> <p>国民の健康的な生活に向けた、思想及び活動を理解するための、基本的な知識を身につける</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の目的と方法を理解する 2. 生活に関連する、生活環境因子や対策を理解する 3. ヘルスプロモーションの推進のための保健活動と、衛生行政を理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の活動対象 2. 公衆衛生のしくみ 3. 環境と健康 4. 集団の健康をとらえるための疫学 5. 地域保健 6. 職場と健康 7. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ここでの知識を、専門分野Ⅱの各領域別看護の保健活動に関連させる 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 2 公衆衛生 医学書院 <p>参考図書 講義の際に提示</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 公衆衛生の活動対象 2. 公衆衛生のしくみ (1) 政策展開 (2) 国と地方自治体の役割 (3) 専門職のはたらき	講義	笠間市保健 センター 保健師 内桶里子
2回	3. 環境と健康 (1) 地球規模の環境と健康 ・地球温暖化 ・オゾン層の破壊 ・水質汚濁 ・大気汚染 ・土壌汚染 ・放射性物質 (2) 身のまわりの環境と健康 ・室内環境 ・食品管理 ・家庭用品 ・ごみ、廃棄物問題 ・バリアフリー	講義	内桶里子
3回	4. 集団の健康をとらえるための手法・疫学 (1) 公衆衛生の場での疫学—集団をとらえる (2) 公衆衛生の場での疫学—原因を分析する (3) 公衆衛生の場での疫学—対策を計画・実施する (4) エビデンスを使う・つかう	講義	石岡第一 病院 薬剤師 大谷俊裕
4～5回	5. 地域における公衆衛生の実践 (1) 母子保健 (2) 成人保健 (3) 高齢者保健 (4) 精神保健 (5) 歯科保健 (6) 難病支援・障害支援	講義	内桶里子
6回	6. 感染症とその予防対策 (1) 感染症とその予防の基礎知識 (2) わが国の感染症予防対策 (3) 院内感染とその予防 (4) 公衆衛生上の重要な感染症とその対策	講義	水戸協同病院 感染管理認定 看護師 栢内直美
7回	7. 職場と健康 (1) 職場における健康 (2) 産業保健・看護活動の展開 (3) 産業保健における今後の課題と新たな動き	講義	上野富美江

8回	8. 終講試験		
----	---------	--	--

授業科目： 関係法規	単位（時間）： 1 単位 （15 時間）
授業担当：菅野哲夫	開 講 時 期： 2 年次 後期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>人々の健康を守るためのサービス提供機関と、従事者の役割・機能に関する基本的な法律について理解することは、専門職業人としての自覚と責任ある活動へとつながる。</p> <p>そのため、既習の看護の知識を、法的根拠のもとに確認することが必要である。</p> <p>目的</p> <p>専門職業人としての、看護の役割を担うために必要な、法的根拠を理解する</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉に関する法則を学び、保健医療福祉チームの連携と役割を理解する 2. 看護業務を遂行するうえで必要な、法的根拠を理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師助産師看護師法 2. 医療関係法規 3～6. 医療サービスの供給体制 7. 看護職員の確保・労働と関係法規 8. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護六法や法令集を参考にする 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度4 関係法規 メヂカルフレンド社 <p>参考図書</p> <p>講義の際に提示</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 保健師助産師看護師法 (1)目的・定義 (2)免許 (3)業務 (4)守秘義務	講義	
2回	2. 医療関係法規 (1)医療法 (2)医師法 (3)薬剤師法 (4)診療放射線技師法 (5)臨床検査技師等に関する法律 (6)理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法 (7)社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法	講義	
3～6回	3. 医療サービスの供給体制 (1)医療施設の機能 (2)救急医療の充実 (3)診療記録・情報公開 (4)在宅医療 (5)訪問看護ステーション (6)助産院 (7)薬局の種類と機能 (8)医薬品と医療用具の取り扱い (9)毒薬・劇薬の取り扱い (10)医療過誤	講義	
7回	4. 看護職員の確保・労働と関係法規 (1)労働基準法 (2)育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う 労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法> (3)看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	
8回	5. まとめ／終講試験		

授業科目：成人看護学Ⅱ（急性期・回復期・ リハビリテーション期 ①）	単位（時間）：1 単位（30 時間）								
授業担当：根本 谷田部 加藤木 坪井	開 講 時 期：2 年次 前期								
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で 5 年以上）									
<p>科目の概要</p> <p>急性期にある患者は急激な健康障害にともなう、さまざまな反応を起こしている。急性期であることによる特徴を理解し、必要な看護援助を学ぶ。</p> <p>回復期・リハビリテーション期とは急激な健康障害を乗り越え、機能の回復を図る過程の時期と位置づける。</p> <p>急性期から回復過程にある患者及び家族を理解し、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援するための理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>急性期にある患者及び家族を理解し、恒常性の回復促進、合併症の予防、苦痛の緩和にむけた看護援助を理解する。</p> <p>回復期・リハビリテーション期にある患者及び家族を理解し、回復への支援・生活の再構築を必要としている患者及び家族の支援に必要な看護援助について理解する。</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期看護の考え方を理解する 2. 急性期にある人、急性期から回復過程にある人の特徴を理解する 3. 呼吸機能障害のある患者の看護を理解する 4. 循環機能障害のある患者の看護を理解する 									
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2. 急性期看護の考え方</td> <td>8～10. 循環機能障害のある対象の看護</td> </tr> <tr> <td>急性期にある人の特徴と理解</td> <td>11～14. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>3. 急性期にある人々への看護援助</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>4～7. 呼吸機能障害のある患者の看護</td> <td></td> </tr> </table>		1～2. 急性期看護の考え方	8～10. 循環機能障害のある対象の看護	急性期にある人の特徴と理解	11～14. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開	3. 急性期にある人々への看護援助	15. 終講試験	4～7. 呼吸機能障害のある患者の看護	
1～2. 急性期看護の考え方	8～10. 循環機能障害のある対象の看護								
急性期にある人の特徴と理解	11～14. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開								
3. 急性期にある人々への看護援助	15. 終講試験								
4～7. 呼吸機能障害のある患者の看護									
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 									
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 急性期看護論 ヌーベルヒロカワ <p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学 3 循環器 医学書院 3. 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 									

授業回数	授 業 内 容	方法	備考
1～2回	1. 急性期看護の考え方 (1) 急性期とは (2) 急性期看護の対象 (3) 急性期にある対象と家族の特徴 (4) 急性期看護の特徴 2. 急性期にある人の特徴と理解 (1) 急な発症における身体的反応 (2) 急な発症における心理的反応	講義	坪井
3回	3. 急性期にある人々への看護援助 (1) 看護援助に必要な概念 (2) 急性期の看護活動 ・治療の実施と介助 ・合併症予防 ・モニタリング活動 ・疼痛管理 ・環境調整 ・患者、家族の精神的援助	講義	坪井
4～5回	4. 呼吸機能障害のある患者の看護 (1) 代表的な呼吸機能障害のある患者の看護 肺炎患者の看護 喘息発作患者の看護 自然気胸患者の看護 (2) 検査を受ける患者の看護 気管支鏡を受ける患者 (3) 治療・処置を受ける患者の看護 胸腔ドレナージを受ける患者の看護	講義	水戸協同病院 看護師長 鈴木真理 (参考文献) 系統看護学講座 成人看護学 呼吸器 医学書院
6～7回	4. 呼吸機能障害のある患者の看護 (3) 治療用医療機器の原理と実際 ・人工呼吸器 ・胸腔ドレーン	講義 演習	水戸協同病院 臨床工学部長 谷田部哲夫 (参考文献) 系統看護学講座 成人看護学 呼吸器 臨床看護学総論 医学書院

8～9回	<p>5. 循環機能障害のある患者の看護</p> <p>(1) 代表的な循環機能障害のある患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性心筋梗塞患者の看護 ・急性大動脈解離患者の看護 ・心不全患者の看護 <p>(2) 検査・治療を受ける患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓カテーテル法 ・経皮的冠状動脈インターベンション (PCI) <p>(3) 回復期・リハビリテーション看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓リハビリテーション ・生活に及ぼす影響、教育的支援 	講義	<p>水戸協同病院 看護師長 鈴木真理</p> <p>(参考文献) 系統看護学講座 成人看護学 循環器 医学書院</p>
10回	<p>5. 循環機能障害のある患者の看護</p> <p>(4) 検査・治療を受ける患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心電図の測定方法 	演習	専任教員
11～12回	<p>6. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開 ゴードンの機能的パターンの枠組み</p>	演習	<p>専任教員 事例については 別紙参照</p> <p>* 実習記録様式を用 いて実施する</p>
13～14回	<p>6. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開 発表</p>	演習	専任教員
15回	終講試験		

授業科目：成人看護学Ⅲ（急性期・回復期・リハビリテーション期②）	単位（時間）：1単位（30時間）		
授業担当：中川 赤木 前嶋 大部	開講時期：2年次 前期		
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）			
<p>科目の概要</p> <p>急性期にある患者は急激な健康障害にともなう、さまざまな反応を起こしている。急性期であることによる特徴を理解し、必要な看護援助を学ぶ。</p> <p>回復期・リハビリテーション期とは急激な健康障害を乗り越え、機能の回復を図る過程の時期と位置づける。</p> <p>急性期から回復過程にある患者及び家族を理解し、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援するための理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>急性期にある患者及び家族を理解し、恒常性の回復促進、合併症の予防、苦痛の緩和にむけた看護援助を理解する。</p> <p>回復期・リハビリテーション期にある患者及び家族を理解し、回復への支援・生活の再構築を必要としている患者及び家族の支援に必要な看護援助について理解する。</p>			
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション看護の考え方を理解する 2. 急性期から回復過程にある人の特徴を理解する 3. 生活の再構築を支える看護援助について理解する 4. 生活機能障害別リハビリテーション看護について理解する 			
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. リハビリテーション看護の考え方 障害者施策の変遷と倫理的課題 経過別リハビリテーション</td> <td>7～10. 疾患別リハビリテーション看護 11～14. 生活機能障害別リハビリテーション看護 15. 終講試験</td> </tr> </table> <p>2～6. リハビリテーションを必要とする人への看護援助</p>		1. リハビリテーション看護の考え方 障害者施策の変遷と倫理的課題 経過別リハビリテーション	7～10. 疾患別リハビリテーション看護 11～14. 生活機能障害別リハビリテーション看護 15. 終講試験
1. リハビリテーション看護の考え方 障害者施策の変遷と倫理的課題 経過別リハビリテーション	7～10. 疾患別リハビリテーション看護 11～14. 生活機能障害別リハビリテーション看護 15. 終講試験		
<p>学習上の注意 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む</p>			
<p>成績評価の方法 1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する</p>			
<p>使用テキスト</p> <p>1. 成人看護学 リハビリテーション看護論 ニューベルヒロカワ</p> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学10 運動器 医学書院 			

授業回数	授業内容	方法	備考
1回	1. リハビリテーション看護の考え方 (1) リハビリテーションの歴史 (2) 看護師の役割・専門性 (3) リハビリテーション看護の展開 2. 障害者施策の変遷と倫理的課題 3. 経過別リハビリテーション (1) 急性期リハビリテーション看護 (2) 回復期のリハビリテーション看護 (3) 維持期のリハビリテーション看護	講義	大久保病院 看護師 大部はるみ
2回	4. リハビリテーションを必要とする人への看護援助 (1) 全身状態を整える看護援助 (2) 障害を負った人の心を支える看護援助 (3) ADL の再獲得を支援する看護援助 (4) 家族への支援 (5) 生活の再構築を支える社会資源	講義	大部はるみ
3～6回	4. リハビリテーションを必要とする人への看護援助 (6) 身体機能維持・回復を促す看護援助 <ul style="list-style-type: none"> ・筋・骨格系障害、脳・神経障害とアセスメント ・機能の維持・回復のための訓練 ・関節可動域訓練 ・筋力強化訓練 ・廃用性障害と予防 ・呼吸理学療法 	講義 演習	水戸協同病院 理学療法士 中川義嗣
7～9回	5. 疾患別リハビリテーション看護 (1) 脳卒中の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・急性期の看護 ・回復期・リハビリテーション期の看護 ・看護過程の展開 	講義	未定 事例については 別紙参照
10回	5. 疾患別リハビリテーション看護 (2) 脊髄損傷を負った人の看護 (3) 大腿骨近位部骨折を負った人の看護	講義	水戸協同病院 看護師長 前嶋由起子

11～12回	6. 生活機能障害別リハビリテーション看護 日常生活行動の再獲得を支援する看護援助 (食事) (1) 嚥下障害がある人の看護 (2) 言語障害がある人の看護		水戸協同病院 言語聴覚士 赤木かおり
13～14回	6. 生活機能障害別リハビリテーション看護 日常生活行動の再獲得を支援する看護援助 (食事) (3) 排泄機能障害がある人の看護 (4) 高次脳機能障害がある人の看護 (5) 視覚障害がある人の看護 (6) 聴覚障害がある人の看護	講義	大部はるみ
15回	終講試験		

授業科目：成人看護学Ⅳ（周手術期）	単位（時間）：1 単位（30 時間）									
授業担当：渡辺 前嶋 小笠原 海老根 海老原 後藤	開 講 時 期：2 年次 前期									
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）										
<p>科目の概要</p> <p>周手術期にある人の特徴を理解し、手術侵襲からの早期回復を促進する看護援助について学ぶ。また周手術過程に応じた看護について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>手術療法を受ける患者とその家族を理解し、術後合併症のリスクを予測して、術後の回復を促進する看護を理解する。</p>										
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期看護の専門性と看護の役割を理解する 2. 周手術期にある人の特徴を理解し、必要な看護援助を理解する 3. 周手術期に応じた看護の特徴を理解する 4. 術後合併症と予防のための看護援助を理解する 										
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 周手術期看護の考え方</td> <td>7～12.</td> <td>術式による特徴的な手術看護</td> </tr> <tr> <td>2. 周手術期にある人の特徴と理解</td> <td>13～14.</td> <td>直腸がんの手術を受ける人の看護</td> </tr> <tr> <td>周手術期にある人への看護援助</td> <td>15.</td> <td>終講試験</td> </tr> </table> <p>3～4. 周手術過程に応じた看護 術前・術中・術直後</p> <p>5～6. 術後合併症と予防のための看護技術</p>		1. 周手術期看護の考え方	7～12.	術式による特徴的な手術看護	2. 周手術期にある人の特徴と理解	13～14.	直腸がんの手術を受ける人の看護	周手術期にある人への看護援助	15.	終講試験
1. 周手術期看護の考え方	7～12.	術式による特徴的な手術看護								
2. 周手術期にある人の特徴と理解	13～14.	直腸がんの手術を受ける人の看護								
周手術期にある人への看護援助	15.	終講試験								
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 										
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 										
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 周手術期看護論 ヌーベルヒロカワ 										
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学3 循環器 医学書院 3. 系統看護学講座 成人看護学5 消化器 医学書院 4. 系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経 医学書院 5. 系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 6. 系統看護学講座 成人看護学10 運動器 医学書院 										

授業回数	授業内容	方法	備考
1回	1. 周手術期看護の考え方 (1)手術の定義・変遷 (2)周手術期看護の理念と専門性 (3)周手術期看護をめぐる課題と看護の役割	講義	水戸協同病院 看護主任 渡辺広美
2回	2. 周手術期にある人の特徴と理解 (1)手術侵襲に対する生体反応と回復過程 (2)手術患者の不安 (3)術後疼痛 (3)ボディイメージの変容 3. 周手術期にある人への看護援助 (1)主体的取り組みへのサポート (2)手術に対する不安・恐怖・喪失 (3)新たな健康管理能力の獲得 (4)安全の保証	講義	後藤
3～4回	4. 周手術過程に応じた看護 (1)術前の看護 ・手術オリエンテーション ・手術に向けた身体準備 (2)術中の看護 ・環境管理と看護 ・麻酔の基礎知識と麻酔導入の援助 ・麻酔導入の援助 ・手術体位 ・器械出し、外回り看護師の役割 (3)術後の看護 ・術直後のモニタリング ・疼痛マネジメント ・術後回復促進のケア	講義	水戸協同病院 看護主任 渡辺広美
5～6回	5. 術後合併症と予防のための看護技術 (1)肺合併症 (2)循環不全 (3)イレウス (4)術後感染 (5)縫合不全 (6)深部静脈血栓と肺塞栓症	講義	専任教員未定

	(7)DIC・MOF (8)術後せん妄		
7～12回	6. 術式による特徴的な手術看護 (1) 開頭術の手術を受ける人の看護 (2) 開心術の手術を受ける人の看護 (3) 開胸術の手術を受ける人の看護 (4) 開腹術の手術を受ける人の看護 (5) 乳がんの手術を受ける人の看護 (6) 運動器の手術を受ける人の看護 (7) 頭頸部の手術を受ける人の看護 (8) 腹腔鏡下手術を受ける人の看護 (9) 子宮がんの手術を受ける人の看護	講義	水戸協同病院 看護主任 小笠原恵子(開腹、 腹腔鏡、乳がん) 看護師長 前嶋由起子(運動 器) 看護師長 海老根幸代(頭頸 部) 専任教員未定
13～14回	9. 直腸がんの手術を受ける人の看護 膀胱癌の手術を受ける人の看護 (1)術前の看護問題 術後に起こりうる問題 (2)ストーマ増設の準備と術後管理 (3)尿路変更術とウロストマの管理	講義	協和中央病院 海老原副看護部長
15回	10. 終講試験		

授業科目：成人看護学Ⅴ（慢性期）	単位（時間）：1単位（30時間）										
授業担当：馬場康子 他	開講時期：2年次 前期										
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）											
<p>科目の概要</p> <p>慢性期とは慢性の状態にある時期であり、長期にわたり患者と医療者が病気をマネジメントしていく時期である。慢性期にある人の看護は、慢性期にある患者とその家族のもつ力を重視し、患者が自らの問題に気づき、病気と折り合いをつけて生活できるように働きかけることが重要である。</p> <p>患者に必要な生活の質の維持・充実を目標とした看護実践について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>慢性期にある患者及び家族の特徴を理解し、生涯にわたって治療や療養のマネジメントを必要とする患者及び家族へ必要な看護援助について理解する。</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期看護の考え方を理解する 2. 慢性期にある人の特徴、必要な看護援助を理解する 3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護を理解する 4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護を理解する 5. 慢性の代謝機能障害・内部環境調整障害をもつ患者の看護を理解する 6. 慢性の造血機能障害・生体防御機能の障害・運動機能障害をもつ患者の看護を理解する 7. 化学療養・放射線療法を受ける患者の看護を理解する 											
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2. 慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と看護 慢性期にある人への看護援助</td> <td>9～10. 慢性の造血機能障害・生体防御機能障害をもつ患者の看護 慢性の運動機能障害を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護</td> <td>11. 化学療法を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護</td> <td>放射線療法を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>5～8. 慢性の代謝機能障害・内部環境調整障害をもつ患者の看護</td> <td>12～14. 看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 終講試験</td> </tr> </table>		1～2. 慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と看護 慢性期にある人への看護援助	9～10. 慢性の造血機能障害・生体防御機能障害をもつ患者の看護 慢性の運動機能障害を受ける患者の看護	3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護	11. 化学療法を受ける患者の看護	4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護	放射線療法を受ける患者の看護	5～8. 慢性の代謝機能障害・内部環境調整障害をもつ患者の看護	12～14. 看護過程の展開		15. 終講試験
1～2. 慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と看護 慢性期にある人への看護援助	9～10. 慢性の造血機能障害・生体防御機能障害をもつ患者の看護 慢性の運動機能障害を受ける患者の看護										
3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護	11. 化学療法を受ける患者の看護										
4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護	放射線療法を受ける患者の看護										
5～8. 慢性の代謝機能障害・内部環境調整障害をもつ患者の看護	12～14. 看護過程の展開										
	15. 終講試験										
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 慢性期看護論 スーベルヒロカワ 											

参考図書

1. 系統看護学講座 成人看護学5 消化器 医学書院

授業回数	授業内容	方法	備考
1～2回	1. 慢性期看護の考え方 2. 慢性期にある人の特徴と理解 (1) 心理社会的特徴・ライフサイクルに及ぼす影響 (2) 病みの軌跡・疾病の受け入れ過程 (3) 自己のゆらぎ 3. 慢性期にある人への看護援助 (1) セルフケア支援 (2) ストレスコーピングを促す支援 (3) 行動変容を促す支援	講義	大久保病院 看護師 大部はるみ
3～4回	4. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護 (1) 基礎知識 (2) 肺がん患者への看護 5. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護 (1) 基礎知識 (2) 慢性肝炎、肝硬変の患者への看護 (3) 肝臓がん患者への看護	講義	
5～8回	6. 慢性の代謝機能障害・内部環境調整障害をもつ患者の看護 (1) 基礎知識 (2) 糖尿病の患者への看護 ・看護アセスメント ・症状マネジメント ・日常生活への援助 ・教育的支援 ・心理社会的支援 (3) 慢性腎不全の患者への看護 ・症状アセスメント	講義 演習	水戸協同病院 馬場康子

	<ul style="list-style-type: none"> ・透析療法 (3) 看護過程の展開 合併症を併発した糖尿病患者の看護 (4) 血糖測定（自己血糖測定）演習 		
9～10回	<ul style="list-style-type: none"> 7. 慢性の造血機能障害・生体防御機能の障害をもつ患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎知識 (2) 白血病患者への看護 (3) HIV 感染者・AIDS 患者への看護 8. 慢性の運動機能障害をもつ患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎知識 (2) 関節リウマチ患者への看護 	講義	
11回	<ul style="list-style-type: none"> 8. 化学療法を受ける患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎知識 (2) 外来化学療法を受ける患者の看護 9. 放射線療法を受ける患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎知識 (2) 外来放射線療法を受ける患者の看護 		
12～14回	<ul style="list-style-type: none"> 10. 看護過程の展開 <ul style="list-style-type: none"> (1) 肝硬変患者の看護 	演習	<p>事例については別紙参照</p> <p>* 実習記録様式を用いて実施する</p>
15回	11. 終講試験		

授業科目：成人看護学Ⅵ（ターミナル期）	単位（時間）：1単位（30時間）						
授業担当：鯉沼 石橋 他	開講時期：2年次 後期						
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）							
<p>科目の概要</p> <p>ターミナルケアとは身体的な健康レベルが低くなって、非可逆的な状態となり、死を迎える時期に提供されるケアをさしている。そこで提供されるケアの第一義的な目的は症状の緩和と患者の視点からみた QOL の改善である。患者のおかれている状況によって目標は異なり、その患者に最も適切なケアを提供するために必要な看護援助について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>ターミナル期にある患者及び家族を理解し、苦痛の緩和、QOL の改善、日常生活を支える看護援助について理解する。</p>							
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ターミナルケア・緩和ケアの考え方を理解する 2. ターミナル期にある人とその家族の特徴、必要な看護援助を理解する 3. 症状メカニズムとそのマネジメントを理解する 4. コミュニケーション技法、心理的支援の方法について理解する 							
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2. ターミナルケア・緩和ケアの考え方 死にまつわる文化 ターミナル期にある人の療養の場</td> <td>4～5. 症状メカニズムとそのマネジメント 薬剤の活用と副作用への対処方法</td> </tr> <tr> <td>死をめぐる倫理的課題</td> <td>6. コミュニケーション技術と技法 心理的支援の方法</td> </tr> <tr> <td>3. ターミナル期にある人とその家族の 特徴と理解 ターミナル期にある人とその家族 への看護援助</td> <td>7. 死後の処置 8～14. 看護過程の展開 15. 終講試験</td> </tr> </table>		1～2. ターミナルケア・緩和ケアの考え方 死にまつわる文化 ターミナル期にある人の療養の場	4～5. 症状メカニズムとそのマネジメント 薬剤の活用と副作用への対処方法	死をめぐる倫理的課題	6. コミュニケーション技術と技法 心理的支援の方法	3. ターミナル期にある人とその家族の 特徴と理解 ターミナル期にある人とその家族 への看護援助	7. 死後の処置 8～14. 看護過程の展開 15. 終講試験
1～2. ターミナルケア・緩和ケアの考え方 死にまつわる文化 ターミナル期にある人の療養の場	4～5. 症状メカニズムとそのマネジメント 薬剤の活用と副作用への対処方法						
死をめぐる倫理的課題	6. コミュニケーション技術と技法 心理的支援の方法						
3. ターミナル期にある人とその家族の 特徴と理解 ターミナル期にある人とその家族 への看護援助	7. 死後の処置 8～14. 看護過程の展開 15. 終講試験						
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 							
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 							
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 スーベルヒロカワ 							

授業回数	授業内容	方法	備考
1～2回	1. ターミナルケア・緩和ケアの考え方 2. 死にまつわる文化 3. ターミナル期にある人の療養の場 (1) 一般病棟における終末期ケア (2) 緩和・ホスピス病棟における終末期ケア (3) 在宅における終末期ケア 4. 死をめぐる倫理的課題 (1) 真実を伝える (2) 意思決定のケア (3) アドバンスディレクティブ、リビング ウィル (4) 安楽死・尊厳死 (5) 脳死の定義	講義 演習	レポート課題 死生観について 県立中央病院 看護師長 鯉沼とも子
3回	5. ターミナル期にある人とその家族の特徴と 理解 (1) ターミナル期にある人の身体的特徴 (2) ターミナル期にある人の心理的・社会的・ 霊的特徴 (3) ターミナル期にある人の死にゆくことに 対する態度 (4) ターミナル期にある人の家族 6. ターミナル期にある人とその家族への看護 援助	講義	県立中央病院 看護師長 鯉沼とも子
4～5回	7. 症状のメカニズムとそのマネジメント ①倦怠感 ②痛み ③浮腫 ④呼吸器症状 ⑤消化器症状 ⑥精神症状 8. 薬剤の活用と副作用への対処方法 ①痛み ②倦怠感 ③精神症状	講義	水戸協同病院 石橋敦
6回	9. コミュニケーション技術と技法 10. 心理的支援の方法	講義	県立中央病院 看護師長 鯉沼とも子
7回	11. 死後の処置	講義	

8～14回	<p>12. 看護過程の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期：白血病患者 再燃～死 (1) 事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> ① クリーンルームでの看護 ② 再燃による個室隔離 (2) アセスメント (3) 看護問題 (4) 看護目標と援助計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 壮年期：乳がん患者の看護 (1) 事例紹介：再燃による個室隔離 (2) アセスメント (3) 看護問題 (4) 看護目標と援助計画 	演習	<p>演習方法について 後日、別紙配布</p> <p>最終日に発表</p>
15回	13. 終講試験		

授業科目： 老年看護学Ⅲ (治療を必要とする高齢者の看護)	単位 (時間)： 1 単位 (30 時間)																		
授業担当： 藤江 祐子	開 講 時 期： 2 年次 前期																		
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で5年以上)																			
<p>科目の概要</p> <p>高齢者は老化に伴い健康障害を起こしやすくなり、健康障害により日常生活の自立が困難な状況に陥りやすい傾向にある。そのため、老年看護は高齢者の健康状態を把握するためのより適切な知識・技術が必要である。</p> <p>高齢者の心身機能の特徴、疾患や検査、手術療法や薬物療法などの知識をもとに、高齢者の健康問題をアセスメントできる力を身につける必要がある。高齢者のアセスメントに必要な観察技術を用いて、高齢者に起こりやすい健康上の問題や症状の理解を深め在宅看護学へつなげていく。</p> <p>目的</p> <p>高齢者の健康障害の特徴を理解し、ヘルスアセスメントの目的、方法が理解できる</p>																			
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化に伴う高齢者の生理的特徴と健康障害につながる症状を理解し、それらの看護の具体的な援助方法を理解する 2. 高齢者の特徴をふまえたフィジカルアセスメントの目的、方法について理解する 																			
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 高齢者のヘルスアセスメントの基本</td> <td>8. 症候のアセスメントと看護④ 意識障害、せん妄、熱中症</td> </tr> <tr> <td>2. 身体に加齢変化とアセスメント</td> <td>9. 症候のアセスメントと看護⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 高齢者のフィジカルアセスメント</td> <td>腰背痛、やせ、手足のしびれ</td> </tr> <tr> <td>4. 栄養評価・検査</td> <td>10. 検査を受ける高齢者の看護</td> </tr> <tr> <td>5. 症候のアセスメントと看護① 発熱、痛み、掻痒</td> <td>11. 薬物療法を受ける高齢者の看護</td> </tr> <tr> <td>6. 症候のアセスメントと看護② 脱水、嘔吐、浮腫</td> <td>12. 手術療法を受ける高齢者の看護.</td> </tr> <tr> <td>7. 症候のアセスメントと看護③ 倦怠感、褥瘡・スキン-ケア</td> <td>13. リハビリテーションを受ける高齢者の看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 入院治療を受ける高齢者の看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ・終講試験</td> </tr> </table>		1. 高齢者のヘルスアセスメントの基本	8. 症候のアセスメントと看護④ 意識障害、せん妄、熱中症	2. 身体に加齢変化とアセスメント	9. 症候のアセスメントと看護⑤	3. 高齢者のフィジカルアセスメント	腰背痛、やせ、手足のしびれ	4. 栄養評価・検査	10. 検査を受ける高齢者の看護	5. 症候のアセスメントと看護① 発熱、痛み、掻痒	11. 薬物療法を受ける高齢者の看護	6. 症候のアセスメントと看護② 脱水、嘔吐、浮腫	12. 手術療法を受ける高齢者の看護.	7. 症候のアセスメントと看護③ 倦怠感、褥瘡・スキン-ケア	13. リハビリテーションを受ける高齢者の看護		14. 入院治療を受ける高齢者の看護		15. まとめ・終講試験
1. 高齢者のヘルスアセスメントの基本	8. 症候のアセスメントと看護④ 意識障害、せん妄、熱中症																		
2. 身体に加齢変化とアセスメント	9. 症候のアセスメントと看護⑤																		
3. 高齢者のフィジカルアセスメント	腰背痛、やせ、手足のしびれ																		
4. 栄養評価・検査	10. 検査を受ける高齢者の看護																		
5. 症候のアセスメントと看護① 発熱、痛み、掻痒	11. 薬物療法を受ける高齢者の看護																		
6. 症候のアセスメントと看護② 脱水、嘔吐、浮腫	12. 手術療法を受ける高齢者の看護.																		
7. 症候のアセスメントと看護③ 倦怠感、褥瘡・スキン-ケア	13. リハビリテーションを受ける高齢者の看護																		
	14. 入院治療を受ける高齢者の看護																		
	15. まとめ・終講試験																		
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護技術をもとに演習室で練習を積極的に行い、より適切な技術を身につける 																			
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する 																			
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 老年看護学</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2. 老年看護学 病態・疾患論</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>		1. 老年看護学	医学書院	2. 老年看護学 病態・疾患論	医学書院														
1. 老年看護学	医学書院																		
2. 老年看護学 病態・疾患論	医学書院																		

参考図書	開講時に提示		
DVD	開講時に提示		
授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 高齢者のヘルスアセスメントの基本 (1)ヘルスアセスメントの枠組み ①身体的健康のアセスメント ②生活の自立状態のアセスメント ③心理・社会的健康のアセスメント ④環境のアセスメント ⑤生活史のアセスメント ⑥高齢者総合機能評価 (CGA)	講義 藤江	医学書院老年看護 P. 86～92 医学書院老年看護 病態・疾患論P. 124～127

<p>2回</p>	<p>2. 身体に加齢変化とアセスメント</p> <p>(1)皮膚とその付属器</p> <p>①構造と機能の変化</p> <p>②アセスメントの方法</p> <p>(2)視聴覚とそのほかの感覚</p> <p>①視覚</p> <p>②聴覚</p> <p>③その他の感覚(平衡覚、味覚、嗅覚)</p> <p>(3)循環系</p> <p>①構造と機能の変化</p> <p>②アセスメントの方法</p> <p>(4)呼吸器系</p> <p>①構造と機能の変化</p> <p>②アセスメントの方法</p> <p>(5)消化器系</p> <p>①構造と機能の変化</p> <p>②アセスメントの方法</p> <p>(6)ホルモンの分泌</p> <p>①構造と機能の変化</p> <p>②ホルモンの分泌の変化と臨床症状</p> <p>(7)泌尿生殖器</p> <p>①構造と機能の変化</p> <p>②アセスメントの方法</p> <p>(8)運動系</p> <p>①構造と機能の変化</p> <p>②アセスメントの方法</p> <p>③ロコモティブシンドローム</p> <p>④サルコペニア</p>	<p>講義 GW 藤江</p>	<p>P. 94～118</p> <p>医学書院老年看護 病態・疾患論 P. 34～43 参照</p> <p>グループで話し合 いまとめたものを 発表する</p>
<p>3回</p>	<p>3. 高齢者のフィジカルアセスメント</p> <p>(1)問診</p> <p>(2)視診</p> <p>(3)触診</p> <p>(4)打診</p> <p>(5)聴診</p> <p>4. 高齢者のバイタルサイン測定・高齢者の身体測定</p>	<p>講義 演習 藤江</p>	<p>医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 94～110</p> <p>高齢者のフィジカ ルアセスメント 演習</p>

4回	<p>5. 高齢者の栄養評価、検査</p> <p>(1) 高齢者の栄養評価</p> <p>(2) 検査</p> <p>①画像検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CT ・MRI ・エコー検査 ・内視鏡検査 <p>②生理機能検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心電図 ・呼吸機能検査 ・動脈血ガス分析 <p>③血液検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液学的検査 ・生理学検査 <p>(肝臓機能検査・膵臓機能検査・腎臓機能検査・電解質・血清総タンパク質、血清アルブミン・尿酸・脂質代謝・血糖値・内分泌検査・炎症反応検査)</p> <p>(3) 高齢者総合機能評価 (CGA)</p>	講義 藤江	<p>医学書院老年看護病態・疾病論</p> <p>P. 111～127</p>
5回	<p>6. 高齢者の症候のアセスメント①</p> <p>(1) 発熱</p> <ul style="list-style-type: none"> ①症状の成り立ちと臨床的特徴 ②アセスメント ③看護の要点 <p>(2) 痛み</p> <ul style="list-style-type: none"> ①症状の成り立ちと臨床的特徴 ②アセスメント ③看護の要点 <p>(3) 掻痒 (かゆみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①症状の成り立ちと臨床的特徴 ②老人性皮膚掻痒症がある高齢者の看護 ③疥癬に罹患した高齢者の看護 	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 P. 226～237</p> <p>医学書院老年看護病態・疾病論 P. 59～61 参照</p> <p>1年次に学習した臨床病態学のテキスト、ノートを活用する</p>

6回	<p>7. 症候のアセスメントと看護②</p> <p>(4) 脱水</p> <p>① 症状の成り立ちと臨床的特徴</p> <p>② アセスメント</p> <p>③ 看護の要点</p> <p>(5) 嘔吐</p> <p>① 症状の成り立ちと臨床的特徴</p> <p>② アセスメント</p> <p>③ 看護の要点</p> <p>(6) 浮腫</p> <p>① 症状の成り立ちと臨床的特徴</p> <p>② アセスメント</p> <p>③ 看護の要点</p>	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 P. 238～244</p> <p>医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 57～58 参照</p> <p>1年次に学習した 臨床病態学のテキ スト、ノートを活 用する</p>
7回	<p>8. 症候のアセスメントと看護③</p> <p>(7) 倦怠感</p> <p>① 症状の成り立ちと臨床的特徴</p> <p>② アセスメント</p> <p>③ 看護の要点</p> <p>(8) 褥瘡・スキン-ケア</p> <p>① 症状の成り立ちと臨床的特徴</p> <p>② アセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡の発生要因のリスクアセスメント ・ 褥瘡リスクの評価ツール <p>③ 看護の要点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡の予防 ・ 褥瘡の治療 <p>④ スキン-ケア</p>	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 P. 246～253</p> <p>1年次に学習した 臨床病態学のテキ スト、ノートを活 用する</p>

8回	<p>9. 症候のアセスメントと看護④</p> <p>(9) 意識障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 症状の成り立ちと臨床的特徴 ② アセスメント ③ 看護の要点 <p>(10) せん妄</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 症状の成り立ちと臨床的特徴 ② アセスメント ③ 看護の要点 <p>(11) 熱中症</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 症状の成り立ちと臨床的特徴 ② アセスメント ③ 看護の要点 	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 52～56</p> <p>1年次に学習した 臨床病態学のテキ スト、ノートを活 用する</p>
9回	<p>10. 症候のアセスメントと看護⑤</p> <p>(12) 腰背痛</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 症状の成り立ちと臨床的特徴 ② アセスメント ③ 看護の要点 <p>(13) やせ（るいそう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 症状の成り立ちと臨床的特徴 ② アセスメント ③ 看護の要点 <p>(14) 手足のしびれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 症状の成り立ちと臨床的特徴 ② アセスメント ③ 看護の要点 	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 62～66</p> <p>1年次に学習した 臨床病態学のテキ スト、ノートを活 用する</p>
10回・ 11回	<p>11. 検査を受ける高齢者の看護</p> <p>(1) 高齢者が受けることが多い検査</p> <p>(2) 検査を受ける高齢者への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 円滑な検査実施への援助 ② 検査結果のアセスメント 	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 P. 318～320</p>

11 回	<p>12. 薬物療法を受ける高齢者の看護</p> <p>(1) 加齢に伴う薬物動態の変化</p> <p>(2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象</p> <p>(3) 老年症候群と薬物有害事象</p> <p>① 老年症候群とは</p> <p>② 老年症候群の分類</p> <p>③ 老年症候群と薬物有害事象</p> <p>(4) 薬物療法における援助</p> <p>① 患者主体の服薬アドヒアランス</p> <p>② 服薬支援</p>	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 P. 321～324</p> <p>医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 272～277</p> <p>1 年次に学習した 薬理学のテキスト、 ノートを持参する</p>
12 回	<p>13. 手術を受ける高齢者の看護</p> <p>(1) 手術を受ける高齢者の特徴</p> <p>(2) 術前の看護マネジメント</p> <p>① 術前管理</p> <p>② 術前オリエンテーション</p> <p>③ 術前から始める術後合併症予防</p> <p>④ 手術当日の術前看護</p> <p>(3) 術後のマネジメント</p> <p>① 術直後からの観察</p> <p>② 術後合併症の予防ケア</p> <p>(4) 高齢者に特徴的な手術</p> <p>① 腸閉塞とそれに伴う人工肛門造設</p> <p>② 老人性白内障への超音波乳化吸引術と眼内レンズ挿入</p>	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 P. 327～333</p> <p>成人看護学周手術 期の看護テキスト、 ノートを持参する</p>

13回	<p>14. リハビリテーションを受ける高齢者の看護</p> <p>(1) リハビリテーションを必要とする高齢者</p> <p>① リハビリテーションの意義</p> <p>② 高齢者のリハビリテーションの特徴</p> <p>③ 高齢者の包括的リハビリテーション</p> <p>(2) 経過別リハビリテーション</p> <p>① 急性期リハビリテーション</p> <p>② 回復期リハビリテーション</p> <p>③ 生活期(維持期)リハビリテーション</p> <p>(3) 内部障害リハビリテーション</p> <p>① 呼吸リハビリテーション</p> <p>② 心臓リハビリテーション</p> <p>(4) 廃用性疾患のリハビリテーション</p> <p>(5) フレイル・サルコペニアとリハビリテーション</p>	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 P. 334～337</p> <p>医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 284～303 参照</p> <p>事例紹介 高齢者の廃用症候 群のリスクと予防 方法をまとめる</p>
14回	<p>15. 入院治療を受ける高齢者の看護</p> <p>(1) 治療を担う医療施設の状況</p> <p>(2) 入院に伴う環境の変化と高齢者への影響</p> <p>(3) 入院初期の援助</p> <p>(4) 家族への配慮</p> <p>(5) チーム医療</p> <p>(6) 退院調整・退院支援</p> <p>① 退院調整と退院支援</p> <p>② 退院指導</p> <p>③ 退院調整のポイント</p>	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 P. 339～344</p>
15回	<p>16. まとめ 終講試験</p>	試験	<p>試験、課題の提出 状況・内容、授業 態度で評価する</p>

授業科目： 老年看護学Ⅳ（看護過程）	単位（時間）： 1単位（30時間）										
授業担当： 後藤・高木・藤江	開講時期： 2年次 後期										
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）											
<p>科目の概要</p> <p>心身機能の老化に伴い高齢者におこりやすい疾患の病態・検査・治療・処置について理解し、さらに高齢者の看護について理解する。</p> <p>臨床病態学で学習した病態や診断・治療に関する知識をもとに、高齢者の代表的な疾患に関する観察、特徴的な経過・症状、治療に伴う援助、苦痛の緩和、予防方法などについて学習する。</p> <p>老年看護の理念、特徴を踏まえた援助の実際を、事例の看護過程演習を行い理解する。</p> <p>目的</p> <p>高齢者に起こりやすい疾患と、健康障害時の看護を理解する</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者におこりやすい健康障害の経過、症状、治療方法について理解する 2. 健康障害時の高齢者の心身の特徴を理解する 3. 高齢者の健康障害時の看護を事例の看護過程の展開を通して理解を深める 											
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 高齢者の看護過程の考え方</td> <td>10～11. エンドオブライフケア</td> </tr> <tr> <td>2～4. 運動器系疾患の看護</td> <td>12～13. フットケア</td> </tr> <tr> <td>5～6. 感染症・呼吸器系疾患の看護</td> <td>14. 事例発表</td> </tr> <tr> <td>7～8. 循環器系疾患の看護</td> <td>15. まとめ・終講試験</td> </tr> <tr> <td>8～9. 精神・神経系疾患の看護</td> <td></td> </tr> </table>		1. 高齢者の看護過程の考え方	10～11. エンドオブライフケア	2～4. 運動器系疾患の看護	12～13. フットケア	5～6. 感染症・呼吸器系疾患の看護	14. 事例発表	7～8. 循環器系疾患の看護	15. まとめ・終講試験	8～9. 精神・神経系疾患の看護	
1. 高齢者の看護過程の考え方	10～11. エンドオブライフケア										
2～4. 運動器系疾患の看護	12～13. フットケア										
5～6. 感染症・呼吸器系疾患の看護	14. 事例発表										
7～8. 循環器系疾患の看護	15. まとめ・終講試験										
8～9. 精神・神経系疾患の看護											
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例検討は、余暇時間を利用して積極的に取り組む 											
<p>成績評価の方法 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する</p>											
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 老年看護学</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2. 老年看護学 病態・疾患論</td> <td>医学書院</td> </tr> </table> <p>参考文献 開講の際に提示</p> <p>VTR・DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護のためのアセスメント事例集 大腿骨頸部骨折患者の看護事例 2. その他開講の際に提示 		1. 老年看護学	医学書院	2. 老年看護学 病態・疾患論	医学書院						
1. 老年看護学	医学書院										
2. 老年看護学 病態・疾患論	医学書院										

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 高齢者の看護過程の考え方 (1) 看護過程の基本 (2) 高齢者の特徴を生かした看護過程の考え方 ① 行動生活モデルによる看護過程 ② 目標指向型思考 (3) 事例展開の実際	講義 藤江	医学書院老年看護 P. 408～420 高齢者の看護過程 の特徴を成人看護 学と比較し考えを まとめる
2～ 4回	2. 運動器系疾患の看護 (1) 骨粗鬆症 ① 骨粗鬆症の病態と要因 ② 症状と生活への影響のアセスメント ③ 予防のための援助 ④ 治療と援助 (2) 大腿骨頸部骨折（看護過程の展開） ① 高齢者の骨折の特徴と要因 ② 症状と生活への影響のアセスメント ③ 治療と援助（手術療法） ・ 麻酔・手術侵襲が高齢者に与える影響 ・ 高齢者の手術療法におけるインフォームドコン セントと看護の役割 ・ 術前準備における高齢者への援助 ・ 術中における高齢患者への援助 ・ 高齢者に起こりやすい術後合併症	講義	医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 230～240 事例紹介 看護過程は後日、 グループでまとめ て課題提出
5～ 6回	3. 感染症の看護 (1) 高齢者の感染症の病態と要因 (2) 感染症の罹患予防と感染拡大の防止策 ① インフルエンザ ② 白癬 ③ ノロウイルス 4. 呼吸器系疾患の看護 (1) 閉塞性肺疾患（気管支喘息、肺気腫） (2) 誤嚥性肺炎	講義 藤江	医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 176～186 P. 268～269 医学書院老年看護 P. 270～274 参照

7回	<p>5. 脳卒中の看護</p> <p>(1)脳梗塞</p> <p>(2)脳出血</p> <p>(3)慢性硬膜下血腫</p> <p>(4)くも膜下血腫</p> <p>6. 循環器系疾患の看護</p> <p>(1)虚血性心疾患</p> <p>(2)心不全</p> <p>(3)不整脈</p> <p>(4)高血圧症・動脈硬化</p>	講義 藤江	<p>医学書院老年看護 254～260</p> <p>病態・疾病論 P. 150～158、 P. 164～175</p>
8～ 9回	<p>7. 精神・神経疾患の看護</p> <p>(1)うつ病</p> <p>①高齢者のうつ病の特徴と要因</p> <p>②症状と生活への影響のアセスメント</p> <p>③治療と援助</p> <p>(2)パーキンソン症候群（パーキンソニズム）</p> <p>①高齢者のパーキンソン症候群の病態と要因</p> <p>②パーキンソン症候群の症状と生活への影響のアセスメント</p> <p>③パーキンソン症候群の治療と援助</p>	講義 後藤	<p>医学書院老年看護 P. 282～286</p> <p>P. 267～269</p> <p>医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 159～161 参照</p> <p>精神看護学のテキストを持参する</p>
10～ 11回	<p>8. エンドオブライフケア</p> <p>(1)エンドオブライフケアの概念</p> <p>(2)「生きることを支えるケア」</p> <p>(3)意志決定への支援</p> <p>(4)末期段階にもとめられる援助</p> <p>(5)家族への支援</p> <p>(6)終末期における入院医療と在宅医療の連携</p> <p>(7)高齢者医療におけるチーム医療</p>	講義 演習 高木	<p>医学書院老年看護 P. 348～357</p> <p>医学書院老年看護 病態・疾病論 P. 312～317</p> <p>成人看護学終末期の看護、在宅看護論終末期と合わせて理解する</p>

<p>12～ 13回</p>	<p>9. 高齢者のフットケア (1)フットケアの意義 ①爪の構造 ②フットケアの意義 ③白癬、爪白癬 ④肥厚爪、巻き爪 (2)爪きりの技術 ①ニッパーの使い方 (3)手指の爪きり演習</p>	<p>講義 演習 藤江</p>	<p>配布資料参照 爪の切り方を演習を通して学ぶ</p>
<p>14回</p>	<p>10. 事例発表 (1)呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患（COPD） (2)慢性心不全 ※1 事例：GW 発表、1 事例：個人提出</p>	<p>講義 藤江</p>	<p>グループ毎に発表 課題提出</p>
<p>15回</p>	<p>11. まとめ 終講試験</p>	<p>試験</p>	<p>試験、提出物(内容含む)、グループワーク参加度</p>

授業科目： 小児看護学Ⅱ (健康障害をもつ小児の生活と看護)	単位(時間)： 1単位(30時間)												
授業担当：海野、猪野 宮内	開講時期： 2年次 前期												
実務経験のある教員等による授業科目(病院等で5年以上)													
<p>科目の概要</p> <p>子どもが病気や障害をもつことは、家族にも心身社会面で多大な影響を与える。また、現代の医療では完治する望みがなく、長期にわたる療養の後、死を迎える子どももいる。健康障害や治療、療養生活が子どもと家族に及ぼすストレスと、そのストレスを軽減させる援助方法を理解し、看護実践に役立てる。</p> <p>目的</p> <p>健康障害を持つ子どもと家族の苦痛やストレスを軽減させ、健康の回復を促進、あるいは穏やかな死を迎えるための援助方法を理解する</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害や入院生活が子どもと家族に与えるストレスと、看護を理解する 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解する 3. 基本的な小児看護技術について理解する 													
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 病気や障害が子どもと家族に与える影響</td> <td>7. 急性期にある子どもと家族の看護</td> </tr> <tr> <td>2. 入院中の子どもと家族の看護</td> <td>8. 周手術期の子どもと家族の看護</td> </tr> <tr> <td>3. 外来における子どもと家族の看護</td> <td>9. 終末期の子どもと家族の看護</td> </tr> <tr> <td>4. 在宅療養中の子どもと家族の看護</td> <td>10. 障害のある子どもと家族の看護</td> </tr> <tr> <td>5. 災害時の子どもと家族の看護</td> <td>11. 検査・処置を受ける子どもの看護</td> </tr> <tr> <td>6. 慢性期にある子どもと家族の看護</td> <td>12. まとめ 終講試験</td> </tr> </table>		1. 病気や障害が子どもと家族に与える影響	7. 急性期にある子どもと家族の看護	2. 入院中の子どもと家族の看護	8. 周手術期の子どもと家族の看護	3. 外来における子どもと家族の看護	9. 終末期の子どもと家族の看護	4. 在宅療養中の子どもと家族の看護	10. 障害のある子どもと家族の看護	5. 災害時の子どもと家族の看護	11. 検査・処置を受ける子どもの看護	6. 慢性期にある子どもと家族の看護	12. まとめ 終講試験
1. 病気や障害が子どもと家族に与える影響	7. 急性期にある子どもと家族の看護												
2. 入院中の子どもと家族の看護	8. 周手術期の子どもと家族の看護												
3. 外来における子どもと家族の看護	9. 終末期の子どもと家族の看護												
4. 在宅療養中の子どもと家族の看護	10. 障害のある子どもと家族の看護												
5. 災害時の子どもと家族の看護	11. 検査・処置を受ける子どもの看護												
6. 慢性期にある子どもと家族の看護	12. まとめ 終講試験												
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の学びが実習の基礎となるので、ノート・プリント類はきちんと整理する 2. 小児の病気や社会問題に関する新聞記事をスクラップする習慣をつける 3. 基本的な小児看護技術について理解する 													
<p>成績評価の方法</p> <p>・終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する</p>													
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 系統看護学講座 小児看護学①</td> <td>小児看護学概論</td> <td>小児臨床看護総論</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2. 系統看護学講座 小児看護学②</td> <td>小児臨床看護各論</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3. 小児看護技術</td> <td></td> <td></td> <td>南江堂</td> </tr> </table> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 母性看護学2 2. 系統看護学講座 救急看護 医学書院 		1. 系統看護学講座 小児看護学①	小児看護学概論	小児臨床看護総論	医学書院	2. 系統看護学講座 小児看護学②	小児臨床看護各論		医学書院	3. 小児看護技術			南江堂
1. 系統看護学講座 小児看護学①	小児看護学概論	小児臨床看護総論	医学書院										
2. 系統看護学講座 小児看護学②	小児臨床看護各論		医学書院										
3. 小児看護技術			南江堂										

<p>3. 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院</p> <p>DVD</p> <p>1. 子どもの病気と看護技術 全3巻 京都科学</p> <p>2. 小児のフィジカルアセスメント 全3巻 京都科学</p> <p>3. ダウン症児のめざめ 京都科学</p> <p style="text-align: right;">その他 開講の際に提示</p>

授業回数	内 容	方法	備考
1回	<p>1. 病気や障害が子どもや家族に与える影響</p> <p>(1) 病気・障害に対する子どもの反応</p> <p>(2) 子どもの病気・障害に対する家族の反応</p> <p>(3) 子どもの健康問題と看護</p> <p>2. 入院中の子ども家族の看護</p> <p>(1) 入院環境と看護の役割</p> <p>(2) 入院中の子どもと家族の特徴</p> <p>(3) 入院中の子ども家族の看護</p>	講義	猪野
2回	<p>3. 外来における子どもと家族の看護</p> <p>(1) 外来の特徴と看護の役割</p> <p>(2) 外来の環境</p> <p>(3) 外来を受診する子どもと家族の特徴</p> <p>(4) 外来における子どもと家族の看護</p> <p>4. 在宅療養中の子どもと家族の看護</p> <p>(1) 在宅療養の環境と看護の役割</p> <p>(2) 在宅療養中の子どもと家族の特徴</p> <p>(3) 在宅療養中の子どもと家族の看護</p>	講義 演習 DVD	常磐大学 海野潔美
3回	<p>5. 災害時の子どもと家族の看護</p> <p>(1) 被災地の環境と看護の役割</p> <p>(2) 災害時の子どもと看護の特徴</p> <p>(3) 災害時の子どもと家族の看護</p>	講義	猪野
4回	<p>6. 慢性期にある子どもと家族の看護</p> <p>(1) 慢性期の特徴</p> <p>(2) 慢性状態が子どもに与える影響</p> <p>(3) 慢性期にある子どもと家族の看護</p>	講義	海野潔美
5回	<p>7. 急性期にある子どもと家族の看護</p> <p>(1) 急性期の特徴</p> <p>(2) 急性期にある子どもと家族の看護</p>	講義	海野潔美

授業回数	内 容	方法	備考
6回	8. 周手術期の子どもと家族の看護 (1)周手術期の特徴 (2) 周手術期の子どもと家族の看護	講義	猪野
7回	9. 終末期の子どもと家族の看護 (1)終末期の特徴 (2)子供の生命・死についてのとらえ方 (3) 子どもと家族の看護 (4)子どもを亡くした家族の看護 (5)終末期におけるチームアプローチ	講義	猪野
8回 9回	10. 障害のある子どもと家族の看護 (1)障害のとらえ方 (2)障害のある子どもと家族の特徴 (3)障害のある子どもと家族の社会的支援 *愛正会茨城福祉医療センターの見学実習あり	講義	海野潔美
10回 11回 12回	11. 検査・処置を受ける子どもの看護 (1)子どもにとっての検査・処置体験と看護の役割 (2)薬物動態と薬用量の決定 (3)与薬：経口与薬 点耳 点眼 点鼻 注射 輸液管理 (4)抑制 (5)採尿 (6)採便 (7)採血 (8)骨髄穿刺 (9)腰椎穿刺 (10)罨法 (11) 経管栄養 (12)吸引 (13)吸入療法 (14)酸素療法 (15)清潔 (16)排泄	講義 演習	海野潔美 ・DVD 「子どもの病気 と看護技術②」 ・演習内容 ①バイタルサインの測定 ②検査時の介助

授業回数	内 容	方法	備考
13回 14回	15. 救急救命処置が必要な子どもと家族 (1)子どもの事故（統計より） (2)主な誤飲物質と処置 (3)子どもの熱傷の特徴、重症度および処置 (4)子どもの一次救命処置 (5)乳幼児の意識レベル (6)救急処置を受ける子どもと家族の不安の緩和	講義	日赤小児安全法 講師 宮内
15回	17. まとめ／終講試験		

授業科目： 小児看護学Ⅲ（病児の看護）	単位（時間）： 1 単位（30 時間）																
授業担当：子ども病院看護師 佐藤麗子 宮内	開 講 時 期： 2 年次																
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）																	
<p>科目の概要</p> <p>小児には、小児期特有の疾病や症状の現れ方があり、検査や治療においても成人・老年とは異なった配慮や看護技術を要する。また、入院期間を通して養育者(家族)との関わりや生活指導など、家族的な支援が不可欠である。</p> <p>このため、小児の成長・発達段階に応じた看護を展開し、健康の回復を促進するために、病児及び養育者にむけた看護のアセスメントの視点と援助に必要な知識・技術を身につける。</p> <p>目的</p> <p>病児及び養育者にむけた看護のアセスメントの視点と、援助に必要な知識・技術を理解する</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病態に応じた子ども看護を理解する 2. 症状別看護及びヘルスアセスメントの実際を理解する 																	
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 熱と機嫌</td> <td>9. アレルギー疾患を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>2. 呼吸・循環系の症状</td> <td>10. 感染症を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>3. 消化器症状</td> <td>11. 血液疾患を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>4. 脱水・浮腫</td> <td>12. 悪性新生物を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>5. 出血・貧血</td> <td>13. 腎・泌尿器疾患を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>6. けいれん・意識障害・黄疸</td> <td>14. 運動器に疾患を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>7. 循環器疾患を持つ小児の看護</td> <td>15. まとめ 終講試験</td> </tr> <tr> <td>8. 内分泌疾患を持つ小児の看護</td> <td></td> </tr> </table>		1. 熱と機嫌	9. アレルギー疾患を持つ小児の看護	2. 呼吸・循環系の症状	10. 感染症を持つ小児の看護	3. 消化器症状	11. 血液疾患を持つ小児の看護	4. 脱水・浮腫	12. 悪性新生物を持つ小児の看護	5. 出血・貧血	13. 腎・泌尿器疾患を持つ小児の看護	6. けいれん・意識障害・黄疸	14. 運動器に疾患を持つ小児の看護	7. 循環器疾患を持つ小児の看護	15. まとめ 終講試験	8. 内分泌疾患を持つ小児の看護	
1. 熱と機嫌	9. アレルギー疾患を持つ小児の看護																
2. 呼吸・循環系の症状	10. 感染症を持つ小児の看護																
3. 消化器症状	11. 血液疾患を持つ小児の看護																
4. 脱水・浮腫	12. 悪性新生物を持つ小児の看護																
5. 出血・貧血	13. 腎・泌尿器疾患を持つ小児の看護																
6. けいれん・意識障害・黄疸	14. 運動器に疾患を持つ小児の看護																
7. 循環器疾患を持つ小児の看護	15. まとめ 終講試験																
8. 内分泌疾患を持つ小児の看護																	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントはゴードンの11の機能的健康パターンを用いて行う 2. 小児看護学Ⅰ、Ⅱの内容を事前に復習する 																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 																	

使用テキスト

1. 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
2. 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院
3. 小児看護技術 南江堂

参考図書

1. 系統看護学講座 母性看護学2
2. 系統看護学講座 公衆衛生

DVD

1. 子どもの病気と看護技術 全3巻 京都化学
2. 子ども虐待 全2巻 京都科学

授業回数	内 容	方法	備考
1回	I. 症状を示す小児の看護 1. 熱と機嫌、啼泣、痛み 2. 呼吸・循環系の症状 (1)呼吸困難 (2)チアノーゼ (3)ショック (4) アセスメントの視点	講義	こども病院 専門看護師 佐藤麗子
2回	3. 消化器症状 (1)嘔吐、下痢、便秘 (2)浣腸 (3) アセスメントの視点	講義	佐藤麗子
3回	4. 脱水・浮腫 (1)脱水の分類とデータの読み方 (2)浮腫のメカニズムとアセスメントスケール (3) アセスメントの視点	講義	佐藤麗子
4回	5. 出血・貧血 (1)データの読み方、止血機構 (2)貧血の原因、症状、成長発達への影響 (3) アセスメントの視点	講義	佐藤麗子
5回	6. けいれん・意識障害・黄疸 (1)観察方法、主な処置 (2)アセスメントの視点	講義	佐藤麗子
6回	II. 疾病に応じた看護 1. 循環器疾患をもつ小児の看護 (1)先天性心疾患をもつ小児の看護 (2)川崎病の小児の看護 (3)アセスメントの視点	講義	茨城県立子ども 病院看護師 テキスト P188～189 P210～220
7回	2. 代謝・内分泌疾患をもつ小児の看護 (1)1型糖尿病をもつ小児の看護 *入院から退院、自宅での療養について (2)成長ホルモンの病気をもつ小児の看護 (3)甲状腺疾患の小児の看護 (4)アセスメントの視点	講義	茨城県立子ども 病院看護師 テキスト P66 P73～84 P86～89 P95～96 P99～102
8回	3. アレルギー疾患をもつ小児の看護 (1)食物アレルギー疾患の小児の看護 (2)気管支喘息の小児の看護 (3)若年性突発性リウマチ（JIA）の小児の看護 (4)アセスメントの視点	講義	海野潔美 ・病態生理学の アレルギー疾 患の資料を持 参する

授業回数	内 容	方法	備考
9回	4. 感染症をもつ小児の看護 (1) ウイルス感染症の小児の看護 麻疹、水痘、風疹、ムンプス、髄膜炎 など (2) 細菌性感染症の小児の看護 (3) アセスメントの視点	講義	佐藤麗子
10回	5. 血液疾患をもつ小児の看護 (1) 血友病の小児の看護 (2) 再生不良性貧血の小児の看護 (3) アセスメントの視点	講義	茨城県立子ども 病院看護師 テキスト P278 P290～296
11回	6. 悪性新生物をもつ小児の看護 (1) 脳腫瘍の小児の看護 テキストにないためR元年は削除した (2) 白血病の小児の看護 (3) 神経芽腫の小児の看護 (3) アセスメントの視点	講義	茨城県立子ども 病院看護師 テキスト P298～306 P326～330
12回	7. 腎・泌尿器疾患をもつ小児の看護 (1) ネフローゼ症候群の小児の看護 (2) 腎炎の小児の看護 (3) アセスメントの視点	講義	佐藤麗子
13回 14回	8. 運動器に疾患をもつ小児の看護 (1) 先天性股関節脱臼の小児の看護 (2) 内反足の小児の看護 (2) 骨折した小児の看護 (3) アセスメントの視点	講義	宮内
15回	まとめ／終講試験		

授業科目： 小児看護学Ⅳ (看護過程)	単位 (時間)： 1 単位 (30 時間)
授業担当： 宮内 和代	開 講 時 期： 2 年次 後期
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で5年以上)	
<p>科目の概要</p> <p>これまでに学んだ小児看護における看護過程の基本的な考え方をもとに、それぞれの発達段階に応じた看護について学びを深める。</p> <p>臨床での看護実践につなげられるように、乳児期・幼児期・学童期と発達段階の異なる3事例について演習を行い、具体的な看護の展開方法を理解する。</p> <p>目的</p> <p>健康障害のある小児への看護の展開と、小児看護の特殊性について理解する</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害のある幼児と学童の看護上の問題を適確に判断し、看護計画を立案する 2. 3事例をもとに、発達段階や安全に配慮した具体的な看護計画を展開することで、小児看護の特殊性を理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例紹介 (乳児期・幼児期・学童期) 2. ゴードンの看護診断について 小児期の特徴 3. 情報収集 (小児期の基本情報 小児の成長・発達評価) 4. アセスメント 5. 看護計画 (検査・処置の看護、入院中の遊び) 6. 評価 7. 全体像のまとめ 8. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護技術 (看護過程) を復習して臨むこと 2. 事例3事例を演習する 	
<p>成績評価の方法</p> <p>・終講試験、課題レポート (事例)、出席状況、授業態度、演習態度を総合して評価する</p>	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院 3. 小児看護技術 南江堂 <p>参考図書 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	1. 事例による看護過程の展開 1) 事例の紹介 (1) 事例 1: ロタウイルスに罹患した乳児の看護 (2) 事例 2: 川崎病の幼児の看護 (3) 事例 3: 学童期の重症心身障害児の看護 2) ゴードンの看護診断と小児期の特徴 (1) 各事例の発達段階・発達課題を考える (2) 経過別看護を考える	講義	※3 事例の看護過程の展開をする ※個人ワークで看護計画を立案していく
2 回 3 回 4 回 5 回	3) 事例展開 (1) 事例 1 患児情報 (21 号用紙)、成長発達記録 (18 号用紙) 情報の解釈 (7 号用紙)、関連図 (8 号用紙)、看護計画 (9 号用紙)	演習	個人添削指導
6 回 7 回 8 回 9 回	(2) 事例 2 患児情報 (21 号用紙)、成長発達記録 (18 号用紙) 情報の解釈 (7 号用紙)、関連図 (8 号用紙)、看護計画 (9 号用紙) 発表 (2) 療養中の遊びの工夫 ① 床上で出来るあそびを計画する ② ①を実施する上で必要な玩具を製作する	演習	個人添削指導 【冬休みの課題】 玩具の製作
10 回 11 回 12 回 13 回	(3) 事例 3 患児情報 (21 号用紙)、成長発達記録 (18 号用紙) 情報の解釈 (7 号用紙)、関連図 (8 号用紙)、看護計画 (9 号用紙)	演習	個人添削指導
14 回	4) 事例の発表・まとめ	演習	
15 回	まとめ/終講試験		

授業科目：母性看護学Ⅱ	単位（時間）：1単位（15時間）
授業担当：浅野智恵	開講時期：2年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目概要：人間の性としくみについて学ぶ。</p> <p>人間の性といのちをめぐる問題および女性の健康と倫理・看護について理解する。</p> <p>目的：人間の性と生殖，母性看護の対象となる周産期の女性の権利と女性の健康に関する倫理的問題と看護の提供について理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セクシュアリティの概念・意義・特徴を知りセクシュアリティの発達と健康課題について理解する 2. 性と生殖に関する身体の機構について理解する 3. 母性看護における倫理的問題と看護について理解する 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～2 セクシュアリティ 3～5 妊娠期の身体のしくみ 6～7 遺伝と母性看護 8 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の性と生殖をどう考えるか、性の多様性・性をめぐる諸問題を理解すると同時に、性に対する態度・価値観を認知する 2. 女性生殖器の形態・構造，男性生殖器の形態・構造を理解し、人間の性反応について身体的な側面から科学的に認知する 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 母性看護学① 母性看護学概論 メヂカルフレンド社 2. 新体系看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 	
<p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブヘルス 南江堂 2. 遺伝カウンセリングマニュアル 改訂版第2版 南江堂 3. セクシュアリティの看護 メヂカルフレンド社 	
<p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の継続 2. 女性生殖器・男性生殖器 	

授業回数	内容	備考
1～2回	<p>1. セクシュアリティ</p> <p>1) セクシュアリティの概念</p> <p>2) セクシュアリティの特徴</p> <p>3) ライフサイクルにおけるセクシュアリティの発達と健康問題</p>	<p>母性看護学①</p> <p>母性看護学概論</p> <p>ウイメンズヘルスと看護</p>
3～5回	<p>2. 妊娠期の身体のしくみ</p> <p>1) 妊娠の定義</p> <p>① 妊娠とは</p> <p>② 妊娠期間</p> <p>2) 妊娠のメカニズム</p> <p>① 卵子と精子</p> <p>② 受精</p> <p>③ 着床</p> <p>3) 胎児の成長・発達</p> <p>① 胎児の発育</p> <p>② 成熟胎児</p> <p>③ 胎児付属物</p> <p>4) 妊娠時の母体変化</p>	<p>母性看護学②</p> <p>マタニティサイクルにおける母子の健康と看護</p>
6～7回	<p>3. 遺伝と母性看護</p> <p>1) 母性看護における遺伝学の重要性</p> <p>① 遺伝子と染色体</p> <p>② 単一遺伝病</p> <p>③ 染色体異常</p> <p>④ 受精の重要性</p> <p>2) 遺伝的課題をもつ人に対する配慮点</p>	<p>母性看護学①</p> <p>母性看護学概論</p> <p>ウイメンズヘルスと看護</p>
8回	まとめと終了試験	<p>BBT を測定</p> <p>*排卵の有無と排卵日の予測を知る</p>

授業科目：母性看護学Ⅲ	単位（時間）；1 単位（30 時間）								
授業担当：菊池亜衣、関根梓	開講時期；2 年次 前期								
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）									
<p>授業概要・目的</p> <p>母子の健康レベルが仮に正常な状態であったとしても、健康障害へ移行しやすいことを意識して母子の健康状態をアセスメントする必要性を学びます。そこで、「正常な妊婦・産婦・褥婦・新生児」と「健康障害を伴う妊婦・産婦・褥婦・新生児」を切り離さずに、正常な状態と健康障害の状態をマタニティサイクル各期のなかで母子の看護について理解します。</p> <p>目的：正常な経過を辿る妊婦・産婦・褥婦・新生児と健康障害を伴う妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について理解します。</p>									
<p>授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクルにおけるチーム医療・看護職の役割について理解できる 2. 妊娠期の身体のしくみと疾患の理解と母子の看護について理解できる 3. 分娩期の身体のしくみと疾患の理解と母子の看護について理解できる 4. 産褥期の身体のしくみと疾患の理解と母子の看護について理解できる 5. 新生児の身体のしくみと疾患の理解と母子の看護について理解できる 									
<p>学習上の注意</p> <p>産む性を選択した妊婦・産婦・褥婦と新生児に関する看護内容です。</p> <p>母性看護学実習に役立つ方法として、自分でつくる母性看護学実習のノートづくりに挑戦すること</p>									
<p>成績評価の方法</p> <p>終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する</p>									
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレド社 									
<p>参考文献</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 周産期ナーシング</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2. ウェルネス診断に基づく母性看護過程</td> <td>医歯薬社</td> </tr> <tr> <td>3. パーフェクト看護技術マニュアル</td> <td>照林社</td> </tr> <tr> <td>4. クイックスター・母性看護学</td> <td>医学芸術社</td> </tr> </table>		1. 周産期ナーシング	ヌーヴェルヒロカワ	2. ウェルネス診断に基づく母性看護過程	医歯薬社	3. パーフェクト看護技術マニュアル	照林社	4. クイックスター・母性看護学	医学芸術社
1. 周産期ナーシング	ヌーヴェルヒロカワ								
2. ウェルネス診断に基づく母性看護過程	医歯薬社								
3. パーフェクト看護技術マニュアル	照林社								
4. クイックスター・母性看護学	医学芸術社								
<p>VTR・DVD</p> <table border="0"> <tr> <td>目でみる母性看護</td> <td>医学映像教育センター</td> </tr> <tr> <td>目でみる新生児看護</td> <td>医学映像教育センター</td> </tr> </table>		目でみる母性看護	医学映像教育センター	目でみる新生児看護	医学映像教育センター				
目でみる母性看護	医学映像教育センター								
目でみる新生児看護	医学映像教育センター								

授業回数	内容	備考
1～2回	<p>1. マタニティサイクルにおける母子の健康 マタニティサイクルとは</p> <p>1) 定義</p> <p>2) マタニティサイクルにおけるチーム医療と看護職の役割</p> <p>2. 妊娠期の身体のしくみと疾患の理解</p> <p>1) 妊娠期の身体のしくみ</p> <p>2) ハイリスク妊娠</p> <p>3) 妊婦と胎児にみられる異常</p>	<p>母性看護学Ⅰの授業、思春期の健康問題について「内分泌変化と基礎体温の関係」を読んでくる。</p> <p>*疾患別領域との関連想起</p> <p>流産、早産、胎状奇胎、妊娠悪阻、妊娠性高血圧症候群、妊娠貧血、妊娠糖尿病、血液型不適合妊娠、前置胎盤</p>
3回	<p>3. 分娩期の身体のしくみと疾患の理解</p> <p>1) 分娩の生理</p> <p>2) 無痛分娩</p> <p>3) 産婦にみられる異常</p>	<p>分娩第一期、分娩第二期、分娩第三期に関する重要用語を調べてくる</p> <p>*疾患別領域との関連想起</p> <p>常位胎盤早期剥離</p>
4回	<p>4. 産褥期の身体のしくみと疾患の理解</p> <p>1) 産褥の経過</p> <p>2) 褥婦にみられる異常</p>	<p>*疾患別領域との関連想起</p> <p>産褥精神障害</p> <p>感染症合併した分娩（性器ヘルペス、B型肝炎、C型肝炎、GBS）</p>
5回	<p>5. 新生児の身体のしくみと疾患の理解</p> <p>1) 新生児の特徴</p> <p>2) 子宮外環境への適応</p> <p>3) 新生児にみられる異常</p>	<p>新生児に多く使用する重要用語について調べてくる</p> <p>*疾患別領域との関連想起</p>

		新生児ヘルペス 新生児仮死 胎便吸引症候群 動脈開存症、鎖肛 頭蓋内出血
6回	6. 心理社会的な変化 1) 母親の心理社会的な変化 2) 母親に起こりやすい心の病理とその変化 7. 家族の変化 1) 家族形成期の家族理解 2) 家族形成期の家族の看護	* 関連科目の想起 家族と社会 人間関係論 I
7～ 8回	8. 妊娠期における母子の看護 1) アセスメント 2) 母子の健康を保つための看護 3) 健康問題をもつ母子の看護	* 関連科目の想起 人間関係論 II
9～ 10回	9. 分娩期における母子の看護 1) アセスメント 2) 母子の健康を保つための看護 3) 健康問題をもつ母子の看護	
11～ 12回	10. 産褥期・育児期における母子の看護 1) アセスメント 2) 母子の健康を促す看護 3) 健康問題をもつ母子の看護	* 疾患別領域との 関連想起 産褥期精神障害 乳児虐待の予備軍
13～ 14回	11. 新生児の看護 1) 母親および家族の健康状態と関連するリスク 2) 出生直後から生後 24 時間以内の看護 3) 24 時間を過ぎてからの看護 4) 健康問題をもつ新生児の看護	* 疾患別領域との 関連想起 病理学Ⅷ第 7, 9 回
15回	12. 終講試験	

授業科目：母性看護学Ⅳ	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：瓜生裕子	開講時期：2年次 後期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
授業概要・目的 母性看護学で学んだ基礎的な知識を、実際の看護展開に活用できるよう、看護過程の事例展開を複数行い、母性看護学領域に特有な思考過程を習得する 母性看護学領域に特有な技術演習を習得できる	
授業の到達目標 1. 母性看護学で学んだ看護理論、他科目との関連をとらえて看護の実際を考える 2. 母子の健康状態をアセスメントし、看護援助の計画・立案をする 3. 母性看護学の対象、援助の特徴をふまえて看護技術を習得する 4. 母性看護学実習を行う上での必要な看護実践能力を養う	
学習上の注意 演習が主体であるため、事前準備学習を行い、授業に参加する	
成績評価の方法 沐浴技術試験、母性看護技術(DVD 聴講後)レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する	
使用テキスト 1. 母性看護学Ⅰ 医歯薬出版 2. 母性看護学Ⅱ 医歯薬出版	
参考文献 1. 母性看護技術 メヂカルフレンド社 2. 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ 3. ウェルネス診断に基づく母性看護過程展開 医歯薬社 4. ナーシンググラフィカ 母性看護学 ② メディカ出版 5. ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社	
VTR・DVD 1. 目でみる母性看護学全6巻 京都科学 2. あなたにもできる母乳育児支援全2巻 京都科学	

授業回数	内容	事前・事後準備学習
1～2回	<p>1. 疑似妊婦体験：演習</p> <p>目標 1. 妊婦の身体的状況について妊婦モデルを実体験し、特有な健康問題や予防についての看護を考える</p> <p>学習内容：講義・演習</p> <p>妊婦の日常生活（寝る・起きる・食事・階段昇降・排泄動作）を、疑似体験し、日常生活を安全に安楽に過ごすための生活指導を考え、体験レポートを提出する</p>	<p>※授業開始前にグループ編成と学習内容の説明を行う</p> <p>※体験後のレポートをまとめ提出する</p>
3回	<p>2. 産婦・褥婦のアセスメントおよび必要な援助の演習</p> <p>目標 1. 分娩期、産褥期における身体的ケアの看護技術を理解する（問診、触診、聴診、諸計測）</p> <p>学習内容</p> <p>目で見る母性看護学 DVD</p>	<p>※DVD 聴講後の学びをレポート課題とし提出する</p>
4～5回	<p>3. 新生児のアセスメントおよび必要な援助の演習</p> <p>目標 1. 新生児の日常生活援助技術を理解する</p> <p>学習内容</p> <p>母乳育児支援の DVD・人形モデルによる新生児のオムツ交換、授乳、更衣、抱き方、災害時の搬送、計測、聴診など</p>	<p>※DVD 聴講後の学びをレポート課題とし提出する</p>
6～9回	<p>4. 新生児の日常生活援助の演習</p> <p>目標 1. 人形モデルにて沐浴が一人でできる</p> <p>学習内容</p> <p>教員のデモンストレーション見学、中間テスト実施・実習前に沐浴技術テストを行う・ドライテクニクの効用とケア方法</p>	<p>※技術演習テストを事前に示し、沐浴技術の留意点を考え臨むこと</p>
10～14回	<p>5. 母性看護過程展開</p> <p>（1）正常な褥婦の事例（2）正常な新生児の事例（3）予定帝王切開術を受ける事例</p> <p>学習内容</p> <p>①各自、事例により母子看護過程展開する</p> <p>②母子看護過程記録用紙を使ってアセスメント・看護計画の立案</p> <p>③記録提出により学習到達度の評価</p>	<p>※看護過程を展開し、実習に臨める準備をすること</p>
15回	<p>終講試験</p>	

授業科目： 精神看護学Ⅱ 援助論 1	単位（時間）： 1 単位（ 30 時間 ）																		
授業担当： 高橋・加藤・綿引・後藤	開 講 時 期： 2 年次 前期																		
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）																			
<p>科目の概要</p> <p>精神障害者に対する医療・看護に際しては、疾患を抱えた人と、疾患そのものの両面を総合的に理解することが重要である。援助論Ⅰでは、精神障害の概念を理解し、看護の基本的姿勢及び、患者を支える家族への支援方法を学ぶ。</p> <p>適切な援助を実践するために必要な知識として、症状に応じた看護および、主な検査や治療時の援助方法を学び、さらに心身相関の視点から、リエゾン看護師の役割について学ぶ。又、欧米諸国をモデルにした医療観察法の施行に伴い、法的な問題と精神的な問題を併せ持つ人々を対象とした医療及び看護について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>精神の障害に対する理解を深め、症状や状況に応じた看護を実践するために必要な、基礎的能力を養う。</p>																			
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.精神障害者への理解を深め、人権尊重の態度を身に付ける 2.精神障害者と、その家族への支援方法を理解する 3.症状に応じた看護を理解する 4.各検査・治療に必要な援助を理解する 5.リエゾン看護師の役割を理解する 6.司法精神医療と司法精神看護について理解する 																			
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 精神障害者の理解</td> <td>9～11.</td> <td>診察・検査に伴う看護</td> </tr> <tr> <td>2～4. 精神障害をもつ人との関わり方</td> <td></td> <td>治療に伴う看護</td> </tr> <tr> <td>5. 精神障害をもつ人を介護する家族への支援</td> <td>12.</td> <td>リエゾン精神看護</td> </tr> <tr> <td>6～8. 精神症状に対する看護</td> <td>13.</td> <td>司法精神医学と看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14.</td> <td>災害時の精神保健</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15.</td> <td>まとめ／ 終講試験</td> </tr> </table>		1. 精神障害者の理解	9～11.	診察・検査に伴う看護	2～4. 精神障害をもつ人との関わり方		治療に伴う看護	5. 精神障害をもつ人を介護する家族への支援	12.	リエゾン精神看護	6～8. 精神症状に対する看護	13.	司法精神医学と看護		14.	災害時の精神保健		15.	まとめ／ 終講試験
1. 精神障害者の理解	9～11.	診察・検査に伴う看護																	
2～4. 精神障害をもつ人との関わり方		治療に伴う看護																	
5. 精神障害をもつ人を介護する家族への支援	12.	リエゾン精神看護																	
6～8. 精神症状に対する看護	13.	司法精神医学と看護																	
	14.	災害時の精神保健																	
	15.	まとめ／ 終講試験																	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前・事後学習は十分行う。 2. 担当講師には積極的に質問し学習への理解を深める。 																			
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 																			

使用テキスト 1. 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社 参考図書 講義の際に提示 DVD 講義の際に提示			
授業回数	内 容	方法	備 考
1回	1. 精神障害者の理解 (1)精神医療の歴史と返遷	講義	
2～5回	2. 精神障害をもつ人との関わり方 (1)「患者－看護師」関係の目指すこと (2)「患者－看護師」関係を理解する為の手がかり (3)関係構築にあたっての基本的な態度 (4)患者とのかかわりで起こりうることと対処 (5)コミュニケーションとは (6)精神障害を持つ人とのコミュニケーションの特徴 (7)コミュニケーション技法 (8)精神障害をもつ人にとっての入院の意味 (9)病室環境の調整 (10)入院生活上の問題とケアの視点	講義	1～6回 後藤
6回	3. 精神障害をもつ人を介護する家族への支援 (1)患者家族の体験 (2)家族のケア提供 (3)家族が危機を乗り越えるための援助	講義	
7～8回	4. 主な症状に対する看護 (1)精神症状と看護 (2)神経症状と看護 (3)認知症状態	講義	高橋先生

9～11回	<p>5. 診察・検査および治療に伴う看護</p> <p>(1) 診察に伴う看護</p> <p>(2) 検査に伴う看護</p> <p>(3) 薬物療法に伴う看護</p> <p>(4) 電気痙攣療法を受ける患者の看護</p> <p>(5) 精神療法を受ける患者の看護</p> <p>(6) 社会療法を受ける患者の援助</p>	講義	加藤先生
12回	<p>6. リエゾン精神看護</p> <p>(1) リエゾン精神看護とは</p> <p>(2) リエゾン精神看護活動</p> <p>(3) ケアの実際</p>	講義	後藤
13回	<p>7. 司法精神医学と看護</p> <p>(1) 司法精神医療と司法精神看護</p> <p>(2) 法精神障害者の処遇としての司法精神医療</p> <p>(3) 暴力被害者の支援としての司法精神看護</p>	講義	後藤
14回	<p>8. 災害時の精神保健</p> <p>(1) 災害時の精神保健医療活動の基本</p> <p>(2) 災害とストレス</p> <p>(3) 災害時の精神保健書記対応</p> <p>(4) 災害派遣精神医療チーム(DPAT)</p> <p>(5) 被災した精神障害者への支援</p>	講義	綿引先生
15回	9. まとめ／ 終講試験	講義	

授業科目： 精神看護学Ⅲ 援助論 2	単位（時間）： 1 単位（ 30 時間 ）
授業担当： 池内彰子	開 講 時 期： 2 年次
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>精神障害者に対する医療・看護に際しては、疾患を抱えた人と、疾患そのものの両面を総合的に理解することが重要である。援助論2では、疾患に応じた看護の方法を理解する。また、適切な看護を提供する上では、患者 - 看護師間での信頼関係が重要である。よって、その構築に必要な治療的なコミュニケーション技術を学ぶとともに、看護場面の再構成法を学び、自己の傾向や看護観を認識し、自己の理解も深めていく。</p> <p>更に、精神医療において課題となっている、リハビリテーションの現状と精神障害をもつ人の地域生活支援の実際を学び、他職種との連携と看護の役割を考える。</p> <p>目的</p> <p>疾患に応じた看護の方法を学び、対象への適切な支援方法を理解する。</p> <p>良好な援助関係を築くために必要な、コミュニケーション技術を習得する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な精神看護の実践を行なうために、疾患に応じた看護援助を理解する 2. 地域精神保健福祉の仕組みと精神障害をもつ人の地域生活支援の実際について理解する 3. 対人関係における自己の傾向を認識し、コミュニケーション技術の発展につなげる 	
<p>学習概要</p> <p>1～9. 精神障害者の看護</p> <p>10～12. 地域精神保健福祉と社会参加</p> <p>13～14. 精神障害をもつ人との関係の振り返り</p> <p>15. まとめ／終講試験</p>	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前・事後学習は十分行う。 2. 担当講師には積極的に質問し学習への理解を深める。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <p>1. 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社</p> <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>	

授業回数	内 容	方 法	備 考
1～9 回	1. 精神障害者の看護 (1)アルツハイマー病患者の看護 (2)脳腫瘍患者の看護 (3)頭部外傷患者の看護 (4)症状精神病患者の看護 (5)アルコール・薬物依存患者の看護 (6)てんかん患者の看護 (7)統合失調症患者の看護 (8)躁うつ病患者の看護 (9)心因性精神病と神経症患者の看護 (10)人格障害患者の看護 (11)精神遅滞児・自閉症患者の看護 (12)身体合併症患者の看護 ①悪性腫瘍 ②糖尿病 ③肝障害 ④甲状腺機能異常 ⑤脳腫瘍 ⑥窒息 ⑦誤嚥 ⑧急性肺血栓症 ⑨麻痺性イレウス ⑩肺炎 ⑪骨折 (13)摂食障害児の看護	講義	
10～12 回	2. 地域精神保健福祉と社会参加 (1)地域精神保健福祉の考え方 (2)精神障害をもつ人の社会参加 (3)地域精神保健福祉における多職種連携とアウトリーチ (4)地域生活を支える社会制度 (5)地域生活支援における保健師の役割 (6)長期入院患者の地域生活への移行支援 (7)地域生活支援の実際 (8)就労支援	講義	
13～14 回	3. 精神障害をもつ人との関係の振り返り (1)振り返ることの意味 (2)プロセスレコード (3)プロセスレコードの書き方と振り返りの実際	講義	
15 回	まとめ／終講試験		

授業科目： 精神看護学Ⅳ 看護過程	単位（時間）： 1単位（ 15時間 ）				
授業担当： 後藤文子	開講時期： 2年次 後期				
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）					
<p>科目の概要</p> <p>オレム・アンダーウッドモデルを用いて、精神に障害を持つ人に対してのセルフケアの維持・向上を目的とした看護の展開方法を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>精神に障害を持つ人に対して、セルフケアの維持・向上を目的とした、看護が展開できる基礎的能力を養う。</p>					
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報と収集方法を理解する 2. アセスメントの方法を理解する 3. 看護問題の導きかたを理解する 4. 看護目標と計画立案方法を理解する 5. 実施結果の評価方法を理解する 					
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 看護師の役割・看護倫理 精神看護学の捉え方 精神看護学の目的・目標</td> <td>5～7. 事例による看護過程の展開 個人ワーク 情報収集/アセスメント/看護問題の</td> </tr> <tr> <td>2～4. 看護過程に基づいたセルフケア援助 情報収集/アセスメント/看護問題の 明確化/看護計画立案/評価（サマリー）</td> <td>8. まとめ</td> </tr> </table>		1. 看護師の役割・看護倫理 精神看護学の捉え方 精神看護学の目的・目標	5～7. 事例による看護過程の展開 個人ワーク 情報収集/アセスメント/看護問題の	2～4. 看護過程に基づいたセルフケア援助 情報収集/アセスメント/看護問題の 明確化/看護計画立案/評価（サマリー）	8. まとめ
1. 看護師の役割・看護倫理 精神看護学の捉え方 精神看護学の目的・目標	5～7. 事例による看護過程の展開 個人ワーク 情報収集/アセスメント/看護問題の				
2～4. 看護過程に基づいたセルフケア援助 情報収集/アセスメント/看護問題の 明確化/看護計画立案/評価（サマリー）	8. まとめ				
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前・事後学習をおこない、担当講師には積極的に質問し学習への理解を深める。 2. グループワークでは自己の意見をはっきり伝える。また、他者の意見を冷静に受入れ、より良い援助を見出し、適切な計画が立案できるよう、メンバー間で協力しながら取り組む。 					
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 <p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社 <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>					

授業回数	内 容	方法	備 考
1 回	1. 看護師の役割、看護の倫理を考える 1) 精神科の看護師の役割 2) 全ての看護ケアに伴う倫理的側面 2. 精神看護学の捉え方 1) 精神障害者に対する看護実践の目的 2) 精神看護学の知識と技術 3) 看護実践の特徴 3. 精神看護学実習の目的目標 1) 当校の目的及び目標	講義 後藤	【事前学習】 配布された資料をよく読み、セルフケアとは何かを再確認し、理解した上で授業に望む 各自、臨床病態学VI、薬理学を復習し、事例の病態、治療等を、復習しておく。 精神に障害を持つ人への、現在の自分が抱くイメージを認識し、これまでの学びを踏まえ、臨地実習の心構えの一つとする。
2～4 回	4. 看護過程に基づいたセルフケア援助 1) 事例紹介 2) 情報収集方法 (1) 情報収集の視点 3) アセスメントの方法 (1) アセスメントの視点 (2) セルフケアレベル 4) 看護問題の明確化・計画立案 (1) セルフケア上の問題の明確化 (2) 長期目標・短期目標の設定 (3) 計画の立案	講義 後藤	事例① 統合失調症（慢性期） 男性 年齢 50 歳代 事例② 授業の際に提示する
5～7 回	5. 事例による看護過程の展開 1) 個人ワークで事例による看護過程の展開 6. サマリー作成	演習 講義 後藤	事例②で展開する 個人ワーク中の質問は適宜受け付ける
8 回	7. まとめの授業	講義 演習 後藤	記録物提出

授業科目： 在宅看護論 I（概論）	単位（時間）： 1 単位（15 時間）								
授業担当： 上野富美江	開講時期： 2 年次 前期								
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）									
<p>科目の概要</p> <p>少子高齢化社会で社会における医療の役割が見直され、在宅看護へのニーズも大きく、看護活動の場が病院・診療所などの医療現場に限らず地域や施設などへ拡大している。</p> <p>在宅看護は地域看護の中で、対象及び家族にその時その場の状況に応じた援助を計画的に実践することが求められている。訪問看護は対象の生活の場に直接出向き、効率的に看護を実践することから、確かな技術と、対象の環境やニーズ等に応じて臨機応変に対応することも必要となる。さらに、対象との信頼関係のもと、より専門的な知識、技術と想像力が求められる。</p> <p>目的</p> <p>地域の公衆衛生に基付き、在宅ケアの在宅療養者の環境、在宅看護の変遷、特徴を学び、在宅看護の必要性と課題について理解する。</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護中の在宅看護の位置づけ、関連性を理解する 2. 在宅看護の対象の特徴及び社会の動向から在宅看護の役割を理解する 3. 在宅看護、訪問看護の目的、役割を理解する 4. 在宅療養者の権利保障を理解し、在宅看護に求められている倫理感を養う 									
<p>授業概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 在宅における医療、看護</td> <td>5. 在宅看護の特徴</td> </tr> <tr> <td>2. 在宅看護の歴史と変遷</td> <td>6. 訪問看護の活動</td> </tr> <tr> <td>3. 在宅療養者と家族</td> <td>7. 在宅看護の基本理念と展望</td> </tr> <tr> <td>4. 関係機関と社会資源</td> <td>8. 終講試験</td> </tr> </table>		1. 在宅における医療、看護	5. 在宅看護の特徴	2. 在宅看護の歴史と変遷	6. 訪問看護の活動	3. 在宅療養者と家族	7. 在宅看護の基本理念と展望	4. 関係機関と社会資源	8. 終講試験
1. 在宅における医療、看護	5. 在宅看護の特徴								
2. 在宅看護の歴史と変遷	6. 訪問看護の活動								
3. 在宅療養者と家族	7. 在宅看護の基本理念と展望								
4. 関係機関と社会資源	8. 終講試験								
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、演習、実習と必要な知識及び技術を確実に身につけていくために、自己学習を行う。 2. 自身及び家族の生活の場である市町村の保健医療福祉の現状に関心を持ち、情報を集める。 									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 									
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護論－実践をことばに：ヌーヴェルヒロカワ <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護を基盤とした在宅看護論 日本看護協会出版会 <p>DVD 講義に際に提示</p>									

授業回数	内容	方法	備考
1回	1. 在宅における医療と看護 (1) 在宅医療 (2) 在宅看護とケア (3) 看護の現状と目的 (4) 地域看護、在宅看護、訪問看護の関連	講義	
2回	2. 在宅看護の歴史と変遷 (1) 歴史的背景 (2) 高齢社会の課題 (3) 家族構成の変化 (4) 福祉施策の概要	講義	
3回	3. 在宅療養者と家族 (1) 人権の尊重と権利性 (2) 家族構成、役割の変化 (3) 家族関係 (4) 生活自立困難者の支援	講義 演習	課題提示 事例紹介 グループワーク
4回	4. 関係職種と社会資源 (1) 在宅看護に関わる法規 (2) 関係機関と関係職種の役割 (3) 介護保険とケアマネージャー	講義	関係法規の教科書 を持参
5回	5. 在宅看護の特徴 (1) 医療施設看護との比較 (2) 地域ケアシステム (3) 退院計画と連携	講義	
6回	6. 訪問看護の活動 (1) 訪問看護の場 (2) 訪問看護ステーション	講義	
7回	7. 在宅看護の基本理念 (1) 訪問看護の実践方法 (2) 災害、緊急時の看護 (3) 在宅看護の倫理的課題	講義	
8回	8. 終講試験	講義	

授業科目： 在宅看護論Ⅱ（看護技術）	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当：五十嵐まゆみ	開講時期： 2年次
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要・目的</p> <p>実際の在宅看護を行うには、対象者の健康状態と治療処置内容、生活環境、家族の支援状況等を考慮し、サポートチームと連携しながら計画的に進められる。特に、訪問看護は施設内の看護と比較すると、判断力と応用力が求められることが多く、それに伴い対象の状況に応じた適切な技術の獲得が求められる。</p> <p>目的</p> <p>在宅療養者に必要な日常生活の援助技術及び特殊技術の目的、方法を理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養することの意義と在宅療養者のニーズに応じた看護を理解する。 2. 在宅療養者の健康レベルと生活状態を考慮した看護の目的及び方法を理解する。 3. 日常生活を整える援助に必要な技術の基本を身につける。 4. 医療上の観察、処置を必要とする療養者への看護が理解する。 	
<p>授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養の意義 在宅でのコミュニケーション 2～5. 日常生活の援助技術 6. 受診と服薬 在宅リハビリ 7～14. 医療的ケアに関する技術 15. まとめ、終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅実習室での演習を中心に行う。 2. 自身の自宅での援助についても考える機会とする。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護論 ノーヴェルヒロカワ <p>参考文献 家族看護を基盤とした看護を在宅看護論 日本看護協会出版会 DVD 開講の際に提示</p>	

授業回数	内容	方法	備考
1回	1. 在宅療養の意義 (1)在宅療養者の生活及びニーズに応じた看護目的 2. 在宅でのコミュニケーション (1)在宅での面接技法 (2)難聴、失語症の人とのコミュニケーション (3)認知症の人とのコミュニケーション	講義	
2回	3. 日常生活の援助 (1)住居環境を整えること (2)食生活の援助 ①嚥下困難者への援助の実際 ②経管栄養の実際	講義 演習	
3回	(3)排泄の援助 (4)排泄困難な人への援助方法 排泄援助機器の紹介	講義	
4回	(5)清潔の援助 ①入浴の介助、 ②ベッド上での吸水パッド洗髪 ③ケリーパッドを作成する	演習	在宅看護室で演習
5回	(6)移動の援助 (7)睡眠と休息の援助	演習	在宅看護室で演習
6回	4. 受診と服薬の援助 5. 在宅リハビリテーションの実際	講義	
7回	6. 医療的ケアに関する技術 (1)在宅酸素療法の導入時の援助 ①在宅酸素の取り扱い ②在宅酸素療法患者への保健指導の実際	演習	
8回	(2)在宅人工呼吸療法の適応と準備 ①在宅での実際 ②安全な取扱い方	講義	
9回	(3)CAPD療法の原理と方法、合併症 ①CAPD患者のアセスメント ②社会資源の活用 *事例紹介	講義 演習	
10回	(4)ストーマの種類と管理方法	講義	

	①ストーマケアの実際 ②装具の交換 ③トラブル防止		
11回	(5)褥瘡予防と適応 ①スキンケアの実際 *褥瘡の観察方法と具体的ケアについて DVDを見ながら、処置方法と根拠を考える	講義 演習	DVD
12回	(6)在宅中心栄養の適応と種類 ①輸液方法の管理の実際	講義	
13回	(7)吸引のリスクと実際と指導 ①喀痰の援助 ②気管切開口のケア	講義 演習	病院で行う吸引 と在宅で行うと きの注意点
14回	(8)疼痛コントロールの実際 ①持続硬膜外ブロック ②持続注射法	講義	
15回	7. まとめ 終講試験		

授業科目： 在宅看護論Ⅲ（看護過程）	単位（時間）： 1単位（30時間）												
授業担当：上野富美江 他	開講時期： 2年次 後期												
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）													
<p>科目の概要・目的</p> <p>在宅療養者は主に高齢者が多く、高齢者に起こりやすい病気やそれに伴う合併症、寝たきり状態、認知症等の状態になりやすい。また、長期療養を必要とする難病患者や精神病患者やがん患者への援助が多い。</p> <p>それらの疾患の理解と症状・状態別の看護を理解し、適切な援助を行うためには看護過程にそって展開を行う。さらに、具体的な援助技術を適用し、個々の在宅療養者及び家族への具体的な援助を理解する。</p> <p>目的</p> <p>在宅療養者の症状・状態別看護を理解し、訪問看護における看護過程の展開を理解する</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者個々の看護過程にそった展開方法を理解する 2. 高齢療養者の状態と看護過程の展開方法を理解する 3. 難病患者の在宅療養時の看護の在り方を理解する 4. 在宅ターミナルケアの実際について理解する 5. その他の障害を持つ人、家族への看護の実際を理解する 													
<p>授業概要</p> <table> <tr> <td>1～2. 訪問看護における看護過程の展開方法</td> <td>11. 精神障害者への在宅支援</td> </tr> <tr> <td>3. 在宅移行時の看護展開</td> <td>12～14 在宅のターミナルケア</td> </tr> <tr> <td>4～6. 脳梗塞療養者への看護の実際</td> <td>15. まとめ、終講試験</td> </tr> <tr> <td>7. 感染症の療養者への看護の実際</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8～9. 難病療養への看護の実際</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 認知症療養者と家族への支援</td> <td></td> </tr> </table>		1～2. 訪問看護における看護過程の展開方法	11. 精神障害者への在宅支援	3. 在宅移行時の看護展開	12～14 在宅のターミナルケア	4～6. 脳梗塞療養者への看護の実際	15. まとめ、終講試験	7. 感染症の療養者への看護の実際		8～9. 難病療養への看護の実際		10. 認知症療養者と家族への支援	
1～2. 訪問看護における看護過程の展開方法	11. 精神障害者への在宅支援												
3. 在宅移行時の看護展開	12～14 在宅のターミナルケア												
4～6. 脳梗塞療養者への看護の実際	15. まとめ、終講試験												
7. 感染症の療養者への看護の実際													
8～9. 難病療養への看護の実際													
10. 認知症療養者と家族への支援													
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住み慣れた地域、家庭での療養を行うためには、地域住民としてどのような援助ができるかを家族と話し合う機会をもつ。 													
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 													
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護論 ニューヴェルヒロカワ <p>参考文献 開講の際に提示</p> <p>DVD 開講の際に提示</p>													

授業回数	内容	方法	備考 事前準備学習等
1～2回	1. 在宅看護における看護過程の展開方法 (1) 訪問看護計画と記録 *具体例紹介 (2) 訪問計画の実際	講義 演習	課題：事例の訪問 計画 初回訪問時状況把握と訪問計画を考える
3～4回	2. 在宅移行時の看護展開 (1) 在宅移行時の看護 (2) 事例展開	講義 演習	事例紹介
5回	3. 脳梗塞療養者の看護 (1) 寝たきり療養者の経過と援助 (2) 家族の経過と援助 (3) リハビリ看護と社会資源の活用	講義 演習	グループワークにより 事例の看護計画を考える
6回	4. 感染症療養者の看護 (1) 感染症療養者の在宅看護の視点 (2) 感染症をもつ療養者と家族への援助	講義 演習	事例紹介
7回	5. 難病患者の在宅看護の役割と実際 (1) チーム医療における他職種の連携 (2) ALS患者、家族の在宅療養を考える *事例紹介	演習	ビデオを2回以上 観照し患者、家族の気持ちの変化について考える
8回	6. 認知症を持つ療養者と家族への支援 (1) 認知症療養者と家族の問題 (2) 認知症療養者への対応 (3) 家族への対応	講義 演習	*事例紹介
9回	7. 精神障害者への在宅支援 (1) 精神障害者の地域の受け入れ (2) 在宅療養導入の視点	講義	*事例紹介
10回～ 11回	8. 在宅でのターミナルケア (1) 在宅ターミナルケアの視点 (2) 症状コントロール (3) 看護の実際 *事例の看護計画をまとめる	講義 演習	グループワークで 事例の在宅での看護計画をまとめ、 提出する

<p>12回～ 14回</p>	<p>9. 看護過程展開</p> <p>(1) 在宅事例：必要な情報と収集方法</p> <p>(2) 心身社会面からの情報の整理と統合</p> <p>(3) 援助の方向性と援助計画</p> <p>(4) 継続的な訪問を通しての評価の視点</p>	<p>演習</p>	<p>グループワーク</p>
<p>15回</p>	<p>まとめ 終講試験</p>		

授業科目：在宅看護論Ⅳ（地域看護）	単位（時間）：1単位（15時間）								
授業担当：吉田美恵子 他	開講時期：2年次 後期								
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）									
<p>科目の概要</p> <p>地域住民の健康保持、増進にむけた住民主体の、地域医療や在宅医療推進のための技術開発が、環境整備が国をあげて進められている。</p> <p>人間の健康的な生活への支援が看護の目的であり、看護師として病院以外の場での住民主体の看護の役割とグローバルな視点での理解することが望まれる。</p> <p>目的</p> <p>在宅で療養する人の環境である地域の視点で必要な看護を学び、プライマリーケア及びヘルスプロモーションの理念と保健医療福祉の連携、地域の保健福祉活動の実際を通して、その中での看護の役割を理解する。</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域と施設の関係が分かり、継続看護の必要性と方法を理解する 2. 地域の人々の健康問題と主な健康増進の施策を理解する 3. 地域看護に関わるチームケアと社会資源を理解する 4. 地域看護活動展開方法と住民へのサービス内容を理解する 									
<p>授業概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 地域看護活動の理念 地域看護の理論</td> <td>5. 学校保健と産業保健の保健活動 6. 継続看護の視点と活動 施設看護と在宅看護の関連 自立支援法</td> </tr> <tr> <td>2. 地域住民の保健活動 地域保健活動の展開方法</td> <td>7. これからの地域看護と在宅看護</td> </tr> <tr> <td>3. 地域をとりまく保健医療福祉の施策と法律</td> <td>8. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>4. 保健所と市町村保健センターの役割</td> <td></td> </tr> </table>		1. 地域看護活動の理念 地域看護の理論	5. 学校保健と産業保健の保健活動 6. 継続看護の視点と活動 施設看護と在宅看護の関連 自立支援法	2. 地域住民の保健活動 地域保健活動の展開方法	7. これからの地域看護と在宅看護	3. 地域をとりまく保健医療福祉の施策と法律	8. 終講試験	4. 保健所と市町村保健センターの役割	
1. 地域看護活動の理念 地域看護の理論	5. 学校保健と産業保健の保健活動 6. 継続看護の視点と活動 施設看護と在宅看護の関連 自立支援法								
2. 地域住民の保健活動 地域保健活動の展開方法	7. これからの地域看護と在宅看護								
3. 地域をとりまく保健医療福祉の施策と法律	8. 終講試験								
4. 保健所と市町村保健センターの役割									
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の保健センターでの住民サービスについて関心を持ち、市報等を集める。 									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート，出席状況・授業態度を総合して評価する。 									
<p>使用テキスト</p> <p>1. ナースのための地域看護概論：ヌーヴェルヒロカワ 絶版</p> <p>参考文献 開講の際に提示</p> <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 退院シリーズ2巻 									

授業回数	内容	方法	備考
1回	1. 地域看護活動の理念 2. 地域看護活動用いられる理論	講義	テキストが地域看護概説に変更になる
2回	3. 地域住民の生活環境変化による健康問題 4. 地域保健活動展開方法	講義 演習	グループワーク
3回	5. 地域をとりまく保健医療福祉の施策と法律	講義	
4回	6. 保健所と市町村保健センターの役割	講義	
5回	7. 学校保健と産業保健の保健活動	講義	吉田先生
6回	8. 継続看護の視点と活動 9. 施設看護と在宅看護の関連 10. 自立支援の活動	講義	吉田先生
7回	11. これからの地域看護と在宅看護	講義	吉田先生
8回	終講試験	講義	

授業科目：看護の統合と実践 I (チーム医療と看護管理)	単位 (時間)：1 単位 (15 時間)																				
授業担当：川又光子	開講時期：3 年次 前期																				
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で 5 年以上)																					
<p>科目の概要・目的</p> <p>看護は保健医療福祉の連携によるチーム医療の中で行われている。</p> <p>看護管理は看護師が看護の役割を効果的に担うため、対象である患者が満足できる療養環境を提供するためにチームの全員が問題意識を持ち改善することを目指している。</p> <p>看護の統合と実践 I では医療チームの一員としてのあり方を実際の臨床場面をもとに考</p> <p>えることで、チーム医療・看護ケアにおける看護してのマネジメントができる基礎的能力を養う。</p>																					
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の中の多職種との連携・協働の必要性和実際が理解できる 2. 看護師が働き組織における、管理の必要性が理解できる 3. 看護基準・手順、マニュアルの活用について理解できる 4. 看護場面の安全管理、情報管理の正しいあり方が考えられる 																					
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 保健医療福祉の連携の必要性和実際</td> <td>看護基準・手順の必要性和活用</td> </tr> <tr> <td>2. 病院の中でのチーム医療の実際</td> <td>病院組織の中での看護組織の役割</td> </tr> <tr> <td>3. 看護におけるマネジメント</td> <td>リーダーシップとメンバーシップ</td> </tr> <tr> <td>看護管理の定義</td> <td>キャリア形成への支援</td> </tr> <tr> <td>診療報酬と患者の権利</td> <td>5～6. 安全管理</td> </tr> <tr> <td>入院料と患者サービス</td> <td>7. 労務管理</td> </tr> <tr> <td>患者満足度調査の活用</td> <td>看護職の組織</td> </tr> <tr> <td>4. 組織とは</td> <td>8. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>チームナーシングとプライマリナー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シング</td> <td></td> </tr> </table>		1. 保健医療福祉の連携の必要性和実際	看護基準・手順の必要性和活用	2. 病院の中でのチーム医療の実際	病院組織の中での看護組織の役割	3. 看護におけるマネジメント	リーダーシップとメンバーシップ	看護管理の定義	キャリア形成への支援	診療報酬と患者の権利	5～6. 安全管理	入院料と患者サービス	7. 労務管理	患者満足度調査の活用	看護職の組織	4. 組織とは	8. 終講試験	チームナーシングとプライマリナー		シング	
1. 保健医療福祉の連携の必要性和実際	看護基準・手順の必要性和活用																				
2. 病院の中でのチーム医療の実際	病院組織の中での看護組織の役割																				
3. 看護におけるマネジメント	リーダーシップとメンバーシップ																				
看護管理の定義	キャリア形成への支援																				
診療報酬と患者の権利	5～6. 安全管理																				
入院料と患者サービス	7. 労務管理																				
患者満足度調査の活用	看護職の組織																				
4. 組織とは	8. 終講試験																				
チームナーシングとプライマリナー																					
シング																					
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の医療安全の学習をもとに、実習施設での安全管理について確認する 																					
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート、学習態度、終講試験で総合的に評価する 																					
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 看護管理 医学書院 <p>参考図書</p>																					

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 保健医療福祉の連携の必要性と実際 (1)医療職者に求められている時代のニーズ (2)病院の外の職種との連携の必要性と実際	講義	
2回	2. 病院の中でのチーム医療の実際 (1)他職種の役割の理解と調整 (2)協働作業の中で看護師の役割 (3)医療事故、院内感染の予防と対策	講義	実習中に関わった職種を想起
3回	3. 看護におけるマネージメント 4. 看護管理の定義 (1)情報管理 (2)物品管理 5. 診療報酬と患者の権利 6. 入院料と患者サービス 7. 患者満足度調査の活用	講義	入院費用の仕組み、医療保険について調べる
4回	8. 組織とは 9. チームナーシングとプライマリナーシング 10. 看護基準・手順の必要性と活用 11. 病院組織の中での看護組織の役割 12. リーダーシップとメンバーシップ 13. キャリア形成への支援	講義	自分のキャリア形成についてまとめる
5～6回	14. 安全管理 倫理規定と倫理委員会の活動 看護師の法的責任 看護業務の中の判断基準 *事例検討 (1)複数患者の要求、業務の優先順位 (2)看護業務の構築とチームナーシング	講義 演習	倫理綱領を再読し、内容を確認する 事例をもとにグループで判断基準を検討する
7回	15. 労務管理 人材フロー 労働管理と勤務体制 看護職員の精神的負担への支援 看護職員のストレスの実際 ストレスに対する対策情報管理	講義	ストレス耐性とストレスの処理について自分の行動を振り返る

	16. 看護職の組織		
8回	17. 終講試験	講義	

授業科目：看護の統合と実践Ⅱ *看護技術の統合	単位（時間）：1 単位（30 時間）
授業担当：鈴木真里	開講時期：3 年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>看護は対象に応じた看護技術を適切に実施することであり、そのために対象理解と倫理的な視点をもとに総合的に実施する能力が求められる。看護師教育の記述項目 13 項目すべてをよりよく実践するためには、看護専門職業人としてさらに研鑽をつまらなくてはならない。ここでは、より高度な医療的ケアに必要な看護技術と各技術を統合して行う看護業務の実際について理解し、実践するうえでの判断力を身に着けるとともに次への課題を明らかにする。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケア看護の基本について理解する 2. クリティカルな状態にある患者の全身管理と日常性への支援について理解する 3. 急変時の対応・救急看護の実際について理解する 4. 臨床場面に対応できる看護に必要な判断力を養う <ol style="list-style-type: none"> (1) 複数患者の対応 (2) 急変時の臨床判断力と必要な看護技術 (3) 看護技術の評価と課題 <p>看護技術チェック表をもとに自分が修得している看護技術をアセスメント・評価する</p>	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケア看護の基本 2～4. クリティカルな状態にある患者の全身管理と日常性への支援 5～6. 急変時の対応 7～8. 臨床判断プロセスの可視化 9～12. 救急看護の実際 *事例展開 13～14. 看護実践に必要な看護技術 15. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習態度、終講試験で総合的に評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 急性期看護・クリティカルケア メヂカルフレンド社 <p>参考図書</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. クリティカルケア看護の基本 (1) クリティカルケア看護とは (2) クリティカルケア看護の場 (3) クリティカルケア看護の対象	講義	水戸協同病院 看護師長 鈴木真里
2～4回	2. クリティカルな状態にある患者の全身管理 と日常性への支援 (1) 全身管理 ① 呼吸管理 ② 体液・循環管理 ③ 体温 ④ 栄養管理 ⑤ 代謝管理 ⑥ 鎮痛・鎮 静管理 ⑦ 感染予防 (2) 日常性への援助 ① ポジショニング ② 清潔ケア ③ 口腔ケア ④ 排泄ケア ⑤ リハビ リテーション ⑥ コミュニケーション	講義	
5～6回	3. 急変時の対応 (1) 急変時の対応 (2) 心肺蘇生法 ① 1次救命処置(BLS) ② 2次救命処置(ALS)	講義 演習	視聴覚室 演習室
7～8回	4. 臨床判断プロセスの可視化 (1) 意識障害 (2) 呼吸困難 (3) 胸痛 (4) 腹痛 (5) 浮腫 (6) ショック (7) せん妄	講義	
9～12回	5. 救急看護の実際 (1) ARDS 患者の看護 ① 情報収集とアセスメント ② 患者・家族への看護ケア (2) 大動脈解離患者の看護 ① 情報収集とアセスメント ② 患者・家族への看護ケア (3) くも膜下出血患者の看護	講義 演習	グループに分かれ て1事例の救急初 期対応の看護計画 を発表する。 発表方法について は授業開始時に説 明する。

	<ul style="list-style-type: none"> ① 情報収集とアセスメント ② 患者・家族への看護ケア <p>(4) 熱傷患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 情報収集とアセスメント ② 患者・家族への看護ケア <p>(5) 外傷患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 情報収集とアセスメント ② 患者・家族への看護ケア 		
13～14回	<p>6. 看護実践に必要な看護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 3年間で学習した看護技術の到達度の確認 (2) 看護実践に必要な看護技術 	演習	<p>専任教員</p> <p>経験が不足している技術内容について再演習を行う</p> <p>*2月以降に行う</p>
15回	7. 終講試験		

授業科目：看護の統合と実践Ⅲ ＊災害看護、国際看護、多重課題	単位（時間）：1 単位（30 時間）		
授業担当： 渡辺智美 青木正志 他	開講時期：3 年次 前期		
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）			
<p>科目の概要・目的</p> <p>阪神淡路大震災や東日本大震災などに代表される地震災害をはじめ、地球環境の変化がもたらす自然災害や、人間が関与する人為災害など、災害立国日本の看護師として、災害現場に直ちに対応できる知識・技術・態度を身に着けることは必須である。さらに、看護職には災害を日本の国内の出来事と捉えるのではなく、地球規模で起きていることとして、全世界の人々と手を携え、自身の健康を守りながら救護チームとして被災した人々を支援することも必要である。看護専門職としての経験を積みながらこれらの支援に携わっていきける知識と技術を身に着けていくことが必要である。ここでは、災害地の人々の実際の声に耳を傾け、被災した人々の心身社会面の健康に向けた援助活動のあり方と看護の国際化の動きを学ぶ。</p> <p>看護師は臨床の中で複数患者を受け持ち、それぞれに必要な処置や治療、看護ケアを迅速かつ安全・丁寧に、時間内に行い、医師からの急な指示変更や指示追加に対応したり、家族とコミュニケーションする時間を設けたりと、その都度看護ケアの方法や、時間帯等を変更、追加しながら実践する多重課題を行っている。</p> <p>多重課題とは複数の患者対応の中で、安全な看護ケアが提供できるように優先順位を考えて行動することであり、多重課題に一番大切なことはきちんとアセスメントをした上で優先順位をつけて対応することである。優先順位をつける際に、第一に重要なのは「生命の危険の有無」について考えること、第二に、「安全」、「患者への配慮」、「時間管理」の視点をもとに業務を行うことである。</p> <p>授業の中では場面設定をした多重課題の状況で、どのように対応すればよいかを考え優先順位をつけて行動する演習を行う。この状況を振り返ることが自分の看護を客観的に考え、自分の課題を明らかにする機会をなす。</p>			
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時に直ちに行動し、被災者を尊重した態度をとれるように心がけることができる 2. 地球規模で災害支援を考えられる国際化に対応できる能力を身に着ける 3. 複数の患者対応の中で、優先順位を考えた行動を考えることができる 			
<p>学習概要</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の歩み 2. 災害時各期の看護支援 3. 国内の災害の歴史と現状 災害各期の看護支援 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 7. 国際救護活動の定義と実際 8. 国際看護学とは 9. 国際社会の現状と看護活動の課題 10. 開発と健康 保健医療の国際協力 </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の歩み 2. 災害時各期の看護支援 3. 国内の災害の歴史と現状 災害各期の看護支援 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 国際救護活動の定義と実際 8. 国際看護学とは 9. 国際社会の現状と看護活動の課題 10. 開発と健康 保健医療の国際協力
<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の歩み 2. 災害時各期の看護支援 3. 国内の災害の歴史と現状 災害各期の看護支援 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 国際救護活動の定義と実際 8. 国際看護学とは 9. 国際社会の現状と看護活動の課題 10. 開発と健康 保健医療の国際協力 		

4. トリアージの実際（演習）	11～14. 複数受持ち患者の多重課題にむけて
5. 災害時の応急処置	て
6. 被災者の心理とケア	15. まとめ／終講試験

学習上の注意

1. 実習施設の災害時の対応について確認する

成績評価の方法

2. 課題レポート、学習態度、終講試験で総合的に評価する

使用テキスト

1. 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院

DVDを使用する

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 災害看護の歩み 2. 災害医療の基礎知識 3. 災害看護の基礎知識	講義	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
2回	4. 災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護	講義	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
3回	5. 被災者特性に応じた災害看護の展開	講義	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
4回	6. 地震災害看護の展開 トリアージ 他	演習	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
5回	7. 災害とこころのケア	講義	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
6回	国際看護学 8. 国際看護学とは 9. グローバルヘルス	講義	青木
7回	10. 国際協力のしくみ 11. 文化を考慮した看護	講義	青木
8回	12. 開発協力と看護 13 国際救援と看護 14. 21 世紀の国際協力の課題	講義	青木
9~10回	12. 国際看護の実際と看護の役割 (1) 近年の国際災害の現状 (2) 国際救護の看護の実際	講義	青木
11回 ~14回	13. 複数受持ちの多重課題の看護 2名の患者を受け持つ課題事例	演習 GW	
15回	14. まとめ/終講試験		

授業科目：看護の統合と実践Ⅳ（看護研究）	単位（時間）：1 単位（30 時間）
授業担当：吉良淳子 富田美加 後藤文子 各担当教員	開講時期：2 年次～3 年次
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で 5 年以上）	
<p>科目の概要・目的</p> <p>看護の実践や看護の発展に必要な看護研究のプロセスを学ぶ</p> <p>実習での看護実践をケーススタディに論理的な思考をもとにまとめ、研究的視野で看護を探究する態度を身に着ける</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義・重要性を理解する 2. 看護研究の種類と研究プロセスを理解する 3. 実習での看護場面をケーススタディとしてまとめ、自身の看護課題を明らかにする 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における研究の意義・重要性 2. 看護研究の種類と研究プロセス 3. 文献検索の重要性・文献活用の必要性 4. 看護研究上の諸注意と配慮（経済性・倫理性など） 5. ケーススタディの意義とまとめ方 6. 看護研究 文献検索 7. 研究テーマ 仮説決定 8. 研究目的 事例紹介 9. 文献リスト 検索 10. 看護場面のまとめ 11. 分析 12. 考察・結論 13. 論文のまとめ、評価 14. 発表 15. 発表・まとめ 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習での援助場面を批判的思考で看護を考え、研究テーマにつなげられるように、実習終了時のまとめを行う 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 看護研究、プロセスの態度と発表をもって評価する 	
<p>使用テキスト 1. 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p> <p>参考図書 1. 数間恵子他編・看護研究のすすめ方、読み方、使い方 日本看護協会出版会</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 看護における研究の意義・重要性	講義	
2回	2. 看護研究の種類と研究プロセス	講義	
3回	3. 文献検索の重要性・文献活用の必要性	講義	
4回	4. 看護研究上の諸注意と配慮（経済性・倫理性等）	講義	
5回	5. ケーススタディの意義とまとめ方	講義	
6回	6. 看護研究 文献検索 図書館の活用	講義 演習	
7回	7. 研究テーマ、仮説決定	演習	この時期に担当教員決定
8回	8. 研究の目的、事例紹介	演習	担当教員と講師の指導のもと進める
9回	9. 文献リスト 検索	演習	
10回	10. 看護場面のまとめ	演習	
11回	11. 分析	演習	
12回	12. 考察、結論	演習	
13回	13. 論文のまとめ、評価	演習	
14回	14. 発表		
15回	15. 発表・まとめ		

授業科目： 医療安全	単位（時間）： 1単位 （15時間）
授業担当： 長山一恵	開講時期： 3年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>哲学で倫理的思想を理解し、看護における正しい倫理的行動を学習した。</p> <p>かけがえのない命を守る立場の医療職でありながら、忙しい臨床現場で、患者を危険にさらしてしまう場面に直面することもある中で、正義や善に関する倫理上の迷いや、ジレンマを感じることも多い。</p> <p>そこで、医療職員としての基本的な倫理観はもとより、医療安全に関する知識・技術を獲得し、組織の一員として、医療安全活動に積極的に取り組む態度を身につける。</p> <p>目的</p> <p>看護における倫理観を基に、医療安全に関する基本的な知識を身につける。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンエラーの構造と、分析方法の基本を理解する 2. 倫理的思想を理解し、看護における正しい倫理的行動を考える 3. 看護業務の特性と、医療事故の構造を理解し、看護師として、医療事故防止の責任と役割を理解する 4. 組織としての医療安全管理を理解し、組織の一員としての医療安全行動を身につける 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全と医療倫理 2. 医療安全の重要性 3～4. 倫理的意思決定モデル（演習を含む） 5～6. 看護業務と医療事故（演習を含む） 7. 看護倫理と法的問題 医療事故取組の実際 8. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習では対象への援助過程で、安全への配慮と根拠のある行動が必要であることを意識し学習に臨む。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松木光子編：看護倫理学－看護実践における倫理的基礎－、NOUVELLE HIROKAWA DVD 講義の際に提示 	

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	1. 医療安全と医療倫理 (1)医療倫理の重要概念、臨床現場における倫理的問題 (2)看護倫理の基本理論、看護倫理とは、倫理的行動基準と原則	講義	水戸協同病院 看護副部長 長山一恵
2 回	2. 医療安全の重要性 (1)ヒューマンエラーの概念 (2)医療職の安全努力の責務	講義	
3～4 回	3. 倫理的意思決定モデル (1)倫理的意思決定モデル *意思決定の方法（事例分析）	講義 演習	事例分析を グループで 行う
5～6 回	4. 看護業務と医療事故 (1)療養上の世話における医療事故 ①転倒転落事故 ②誤嚥 (2)診療の補助における医療事故 ①誤薬 ②チューブ管理	講義 演習	事例分析を グループで 行う
7 回	5. 看護倫理と法的問題 (1)保助看法とその違反、医療事故と医療過誤、法的責任 6. 医療事故取組の実際 (1)リスクマネジメント (2)インシデント報告の意義	講義	
8 回	7. まとめ／終講試験	講義	

3年次シラバス



第5期生

水戸看護福祉専門学校 看護学科

授業科目： 医療安全	単位（時間）： 1単位（15時間）
授業担当： 長山一恵	開講時期： 3年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>哲学で倫理的思想を理解し、看護における正しい倫理的行動を学習した。</p> <p>かけがえのない命を守る立場の医療職でありながら、忙しい臨床現場で、患者を危険にさらしてしまう場面に直面することもある中で、正義や善に関する倫理上の迷いや、ジレンマを感じることも多い。</p> <p>そこで、医療職員としての基本的な倫理観はもとより、医療安全に関する知識・技術を獲得し、組織の一員として、医療安全活動に積極的に取り組む態度を身につける。</p> <p>目的</p> <p>看護における倫理観を基に、医療安全に関する基本的な知識を身につける。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンエラーの構造と、分析方法の基本を理解する 2. 倫理的思想を理解し、看護における正しい倫理的行動を考える 3. 看護業務の特性と、医療事故の構造を理解し、看護師として、医療事故防止の責任と役割を理解する 4. 組織としての医療安全管理を理解し、組織の一員としての医療安全行動を身につける 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故防止の考え方 2～3. 診療の補助の事故防止 4～5. 療養上の世話の事故防止 6. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 7. 組織的な安全管理体制への取り組み 8. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習では対象への援助過程で、安全への配慮と根拠のある行動が必要であることを意識し学習に臨む。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松木光子編：看護倫理学－看護実践における倫理的基礎－、NOUVELLE HIROKAWA DVD 講義の際に提示 	

授業回数	内 容	方法	備考
1 回	1. 事故防止の考え方 (1) 医療事故と看護業務 (2) 看護事故の構造 (3) 看護事故防止の考え方	講義	水戸協同病院 看護副部長 長山一恵
2～3 回	2. 診療の補助の事故防止 (1) 注射業務 (2) 注射業務に用いる機器 (3) 輸血業務 (4) 内服予薬業務 (5) 経管栄養（注入）業務 (6) チューブ管理	講義	
4～5 回	3. 療養上の世話の事故防止 (1) 転倒・転落 (2) 窒息・誤嚥 (3) 異食事故 (4) 入浴中の事故	講義 演習	事例分析を グループで 行う
6 回	4. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 (1) 職業感染 (2) 抗がん剤の曝露防止 (3) 放射線被爆 (4) ラテックスアレルギー (5) 院内暴力	講義	
7 回	5. 組織的な安全管理体制への取り組み (1) 組織として医療安全対策 (2) システムとしての事故防止の具体例 (3) 重大事故発生時の医療チーム及び組織の対応	講義	
8 回	6. 終講試験		

授業科目：看護の統合と実践 I (チーム医療と看護管理)	単位 (時間)：1 単位 (15 時間)																		
授業担当： 川又光子	開講時期：3 年次 前期、後期																		
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で 5 年以上)																			
<p>科目の概要・目的</p> <p>看護は保健医療福祉の連携によるチーム医療の中で行われている。</p> <p>看護管理は看護師が看護の役割を効果的に担うため、対象である患者が満足できる療養環境を提供するためにチームの全員が問題意識を持ち改善することを目指している。</p> <p>看護の統合と実践 I では医療チームの一員としてのあり方を実際の臨床場面をもとに考えることで、チーム医療・看護ケアにおける看護してのマネジメントができる基礎的能力を養う。</p>																			
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の中の多職種との連携・協働の必要性と実際が理解できる 2. 看護師が働き組織における、管理の必要性が理解できる 3. 看護基準・手順、マニュアルの活用について理解できる 4. 看護場面の安全管理、情報管理の正しいあり方が考えられる 																			
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 保健医療福祉の連携の必要性と実際</td> <td>看護基準・手順の必要性と活用</td> </tr> <tr> <td>2. 病院の中でのチーム医療の実際</td> <td>病院組織の中での看護組織の役割</td> </tr> <tr> <td>3. 看護におけるマネジメント</td> <td>リーダーシップとメンバーシップ</td> </tr> <tr> <td>看護管理の定義</td> <td>キャリア形成への支援</td> </tr> <tr> <td>診療報酬と患者の権利</td> <td>5～6. 安全管理</td> </tr> <tr> <td>入院料と患者サービス</td> <td>7. 労務管理</td> </tr> <tr> <td>患者満足度調査の活用</td> <td>看護職の組織</td> </tr> <tr> <td>4. 組織とは</td> <td>8. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>チームナーシングとプライマリーナーシング</td> <td></td> </tr> </table>		1. 保健医療福祉の連携の必要性と実際	看護基準・手順の必要性と活用	2. 病院の中でのチーム医療の実際	病院組織の中での看護組織の役割	3. 看護におけるマネジメント	リーダーシップとメンバーシップ	看護管理の定義	キャリア形成への支援	診療報酬と患者の権利	5～6. 安全管理	入院料と患者サービス	7. 労務管理	患者満足度調査の活用	看護職の組織	4. 組織とは	8. 終講試験	チームナーシングとプライマリーナーシング	
1. 保健医療福祉の連携の必要性と実際	看護基準・手順の必要性と活用																		
2. 病院の中でのチーム医療の実際	病院組織の中での看護組織の役割																		
3. 看護におけるマネジメント	リーダーシップとメンバーシップ																		
看護管理の定義	キャリア形成への支援																		
診療報酬と患者の権利	5～6. 安全管理																		
入院料と患者サービス	7. 労務管理																		
患者満足度調査の活用	看護職の組織																		
4. 組織とは	8. 終講試験																		
チームナーシングとプライマリーナーシング																			
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の医療安全の学習をもとに、実習施設での安全管理について確認する 																			
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート、学習態度、終講試験で総合的に評価する 																			
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理・・・医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始一か月前までに提示する 2. DVD も使用する 																			

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. 保健医療福祉の連携の必要性と実際 (1)医療職者に求められている時代のニーズ (2)病院の外の職種との連携の必要性と実際	講義	
2回	2. 病院の中でのチーム医療の実際 (1)他職種の役割の理解と調整 (2)協働作業の中で看護師の役割 (3)医療事故、院内感染の予防と対策	講義	実習中に関わった職種を想起
3回	3. 看護におけるマネージメント 4. 看護管理の定義 (1)情報管理 (2)物品管理 5. 診療報酬と患者の権利 6. 入院料と患者サービス 7. 患者満足度調査の活用	講義	入院費用の仕組み、医療保険について調べる
4回	8. 組織とは 9. チームナーシングとプライマリナーシング 10. 看護基準・手順の必要性と活用 11. 病院組織の中での看護組織の役割 12. リーダーシップとメンバーシップ 13. キャリア形成への支援	講義	自分のキャリア形成についてまとめる
5~6回	14. 安全管理 倫理規定と倫理委員会の活動 看護師の法的責任 看護業務の中の判断基準 *事例検討 (1)複数患者の要求、業務の優先順位 (2)看護業務の構築とチームナーシング	講義 演習	倫理綱領を再読し、内容を確認する 事例をもとにグループで判断基準を検討する
7回	15. 労務管理 人材フロー 労働管理と勤務体制 看護職員の精神的負担への支援 看護職員のストレスの実際 ストレスに対する対策情報管理 16. 看護職の組織	講義	ストレス耐性とストレスの処理について自分の行動を振り返る
8回	17. 終講試験	講義	

授業科目：看護の統合と実践Ⅱ *看護技術の統合	単位（時間）：1 単位（30 時間）
授業担当：鈴木真里	開講時期：3 年次 前期
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）	
<p>科目の概要</p> <p>看護は対象に応じた看護技術を適切に実施することであり、そのために対象理解と倫理的な視点をもとに総合的に実施する能力が求められる。看護師教育の記述項目 13 項目すべてをよりよく実践するためには、看護専門職業人としてさらに研鑽をつまらなくてはならない。ここでは、より高度な医療的ケアに必要な看護技術と各技術を統合して行う看護業務の実際について理解し、実践するうえでの判断力を身に着けるとともに次への課題を明らかにする。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <p>4. クリティカルケア看護の基本について理解する</p> <p>5. クリティカルな状態にある患者の全身管理と日常性への支援について理解する</p> <p>6. 急変時の対応・救急看護の実際について理解する</p> <p>4. 臨床場面に対応できる看護に必要な判断力を養う</p> <p>(1) 複数患者の対応</p> <p>(2) 急変時の臨床判断力と必要な看護技術</p> <p>(3) 看護技術の評価と課題</p> <p>看護技術チェック表をもとに自分が修得している看護技術をアセスメント・評価する</p>	
<p>学習概要</p> <p>2. クリティカルケア看護の基本</p> <p>2～4. クリティカルな状態にある患者の全身管理と日常性への支援</p> <p>5～6. 急変時の対応</p> <p>7～8. 臨床判断プロセスの可視化</p> <p>9～12. 救急看護の実際 *事例展開</p> <p>13～14. 看護実践に必要な看護技術</p> <p>15. 終講試験</p>	
<p>学習上の注意</p> <p>1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>1. 学習態度、終講試験で総合的に評価する</p>	
<p>使用テキスト</p> <p>1. 新体系看護学全書 急性期看護・クリティカルケア メヂカルフレンド社</p> <p>参考図書</p>	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	1. クリティカルケア看護の基本 (1) クリティカルケア看護とは (2) クリティカルケア看護の場 (3) クリティカルケア看護の対象	講義	水戸協同病院 看護師長 鈴木真里
2～4回	2. クリティカルな状態にある患者の全身管理 と日常性への支援 (1) 全身管理 ① 呼吸管理 ② 体液・循環管理 ③ 体温 ④ 栄養管理 ⑤ 代謝管理 ⑥ 鎮痛・鎮 静管理 ⑦ 感染予防 (2) 日常性への援助 ① ポジショニング ② 清潔ケア ③ 口腔ケア ④ 排泄ケア ⑤ リハビ リテーション ⑥ コミュニケーション	講義	
5～6回	3. 急変時の対応 (1) 急変時の対応 (2) 心肺蘇生法 ① 1次救命処置(BLS) ② 2次救命処置(ALS)	講義 演習	
7～8回	4. 臨床判断プロセスの可視化 (1) 意識障害 (2) 呼吸困難 (3) 胸痛 (4) 腹痛 (5) 浮腫 (6) ショック (7) せん妄	講義	
9～12回	5. 救急看護の実際 (1) ARDS 患者の看護 ① 情報収集とアセスメント ② 患者・家族への看護ケア (2) 大動脈解離患者の看護 ① 情報収集とアセスメント ② 患者・家族への看護ケア	講義 演習	グループに分かれ て1事例の救急初 期対応の看護計画 を発表する。 発表方法について は授業開始時に説

	<p>(3) くも膜下出血患者の看護</p> <p>① 情報収集とアセスメント</p> <p>② 患者・家族への看護ケア</p> <p>(4) 熱傷患者の看護</p> <p>① 情報収集とアセスメント</p> <p>② 患者・家族への看護ケア</p> <p>(5) 外傷患者の看護</p> <p>① 情報収集とアセスメント</p> <p>② 患者・家族への看護ケア</p>		明する。
13～14回	<p>6. 看護実践に必要な看護技術</p> <p>(1) 3年間で学習した看護技術の到達度の確認</p> <p>(2) 看護実践に必要な看護技術</p>	演習	<p>専任教員</p> <p>経験が不足している技術内容について再演習を行う</p> <p>*2月以降に行う</p>
15回	7. 終講試験		

授業科目：看護の統合と実践Ⅲ ＊災害看護、国際看護、多重課題	単位（時間）：1 単位（30 時間）						
授業担当： 渡辺智美 青木正志 他	開講時期：3 年次 前期、後期						
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）							
<p>科目の概要・目的</p> <p>阪神淡路大震災や東日本大震災などに代表される地震災害をはじめ、地球環境の変化がもたらす自然災害や、人間が関与する人為災害など、災害立国日本の看護師として、災害現場に直ちに対応できる知識・技術・態度を身に着けることは必須である。さらに、看護職には災害を日本の国内の出来事と捉えるのではなく、地球規模で起きていることとして、全世界の人々と手を携え、自身の健康を守りながら救護チームとして被災した人々を支援することも必要である。看護専門職としての経験を積みながらこれらの支援に携わっていきける知識と技術を身に着けていくことが必要である。ここでは、災害地の人々の実際の声に耳を傾け、被災した人々の心身社会面の健康に向けた援助活動のあり方と看護の国際化の動きを学ぶ。</p> <p>看護師は臨床の中で複数患者を受け持ち、それぞれに必要な処置や治療、看護ケアを迅速かつ安全・丁寧に、時間内に行い、医師からの急な指示変更や指示追加に対応したり、家族とコミュニケーションする時間を設けたりと、その都度看護ケアの方法や、時間帯等を変更、追加しながら実践する多重課題を行っている。</p> <p>多重課題とは複数の患者対応の中で、安全な看護ケアが提供できるように優先順位を考えて行動することであり、多重課題に一番大切なことはきちんとアセスメントをした上で優先順位をつけて対応することである。優先順位をつける際に、第一に重要なのは「生命の危険の有無」について考えること、第二に、「安全」、「患者への配慮」、「時間管理」の視点をもとに業務を行うことである。</p> <p>授業の中では場面設定をした多重課題の状況で、どのように対応すればよいかを考え優先順位をつけて行動する演習を行う。この状況を振り返ることが自分の看護を客観的に考え、自分の課題を明らかにする機会をなす。</p>							
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時に直ちに行動し、被災者を尊重した態度をとれるように心がけることができる 2. 地球規模で災害支援を考えられる国際化に対応できる能力を身につける 3. 複数の患者対応の中で、優先順位を考えた行動を考えることができる 							
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="236 1765 794 1854"> 1. 災害看護の歩み 災害医療・看護の基礎知識 </td> <td data-bbox="802 1765 1364 1854"> 7. 国際協力のしくみ 文化を考慮した看護 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="236 1865 794 1955"> 2. 災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護 </td> <td data-bbox="802 1865 1364 1955"> 8. 国際看護活動の展開過程 開発協力と看護 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="236 1966 794 1989"> 3. 被災者犠牲に応じた災害看護の展開 </td> <td data-bbox="802 1966 1364 1989"> 9～10. 国際救援と看護 </td> </tr> </table>		1. 災害看護の歩み 災害医療・看護の基礎知識	7. 国際協力のしくみ 文化を考慮した看護	2. 災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護	8. 国際看護活動の展開過程 開発協力と看護	3. 被災者犠牲に応じた災害看護の展開	9～10. 国際救援と看護
1. 災害看護の歩み 災害医療・看護の基礎知識	7. 国際協力のしくみ 文化を考慮した看護						
2. 災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護	8. 国際看護活動の展開過程 開発協力と看護						
3. 被災者犠牲に応じた災害看護の展開	9～10. 国際救援と看護						

4. 地震災害看護の展開	21 世紀の国際協力の課題
5. 災害とこころのケア	11～14. 複数受持ちの多重課題の看護
6. 国際看護学とは	15. 終講試験
学習上の注意	
1. 実習施設の災害時の対応について確認する	
成績評価の方法	
1. 課題レポート、学習態度、終講試験で総合的に評価する	
使用テキスト	
1. 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院	

授業回数	内 容	方法	備考
1回	災害看護 1. 災害看護の歩み 2. 災害医療の基礎知識 3. 災害看護の基礎知識	講義	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
2回	4. 災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護	講義	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
3回	5. 被災者特性に応じた災害看護の展開	講義	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
4回	6. 地震災害看護の展開 トリアージ 他	演習	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
5回	7. 災害とこころのケア	講義	水戸協同病院 看護師 渡辺智美
6回	国際看護学 8. 国際看護学とは 9. グローバルヘルス	講義	
7回	10. 国際協力のしくみ 11. 文化を考慮した看護	講義	
8回	12. 国際看護活動の展開過程 13. 開発協力と看護	講義	
9~10回	14. 国際救援と看護 15. 21世紀の国際協力の課題	講義	課題:国際看護の課題について
11回 ~14回	16. 複数受持ちの多重課題の看護 2名の患者を受け持つ課題事例	演習 GW	
15回	17. まとめ/終講試験		

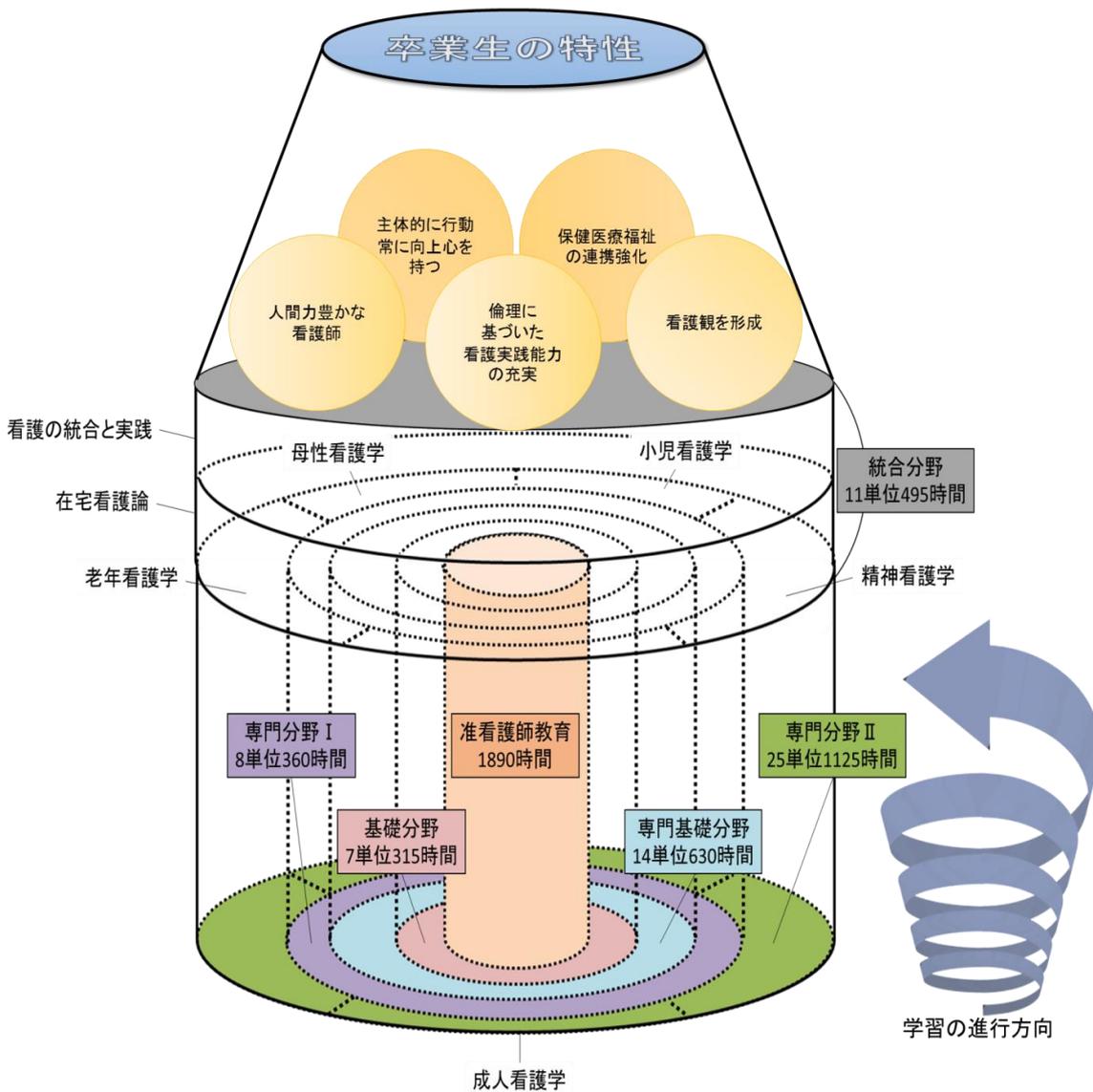
2020年度 入学生

教育計画

水戸看護福祉専門学校 看護学科通信制

カリキュラム構造図

教育課程は学生の持つ、7年以上の准看護師としての知識及び経験を柱として進めていく。基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野へと段階を追いながら、当校の理念に基づく卒業生像に向かって、柱の厚みを増すように発展し、螺旋を描き上昇しながら近づいていくカリキュラムデザインとした。統合分野は、あらゆる領域のあらゆる場に関連するものとして上位に位置づけている。



教育の基本概念

人間

- 1) 人間は身体的・精神的・社会的側面をもつ統合体である
- 2) 人間は胎生期から死まで環境と絶えず相互作用をしながら変化し続ける存在である
- 3) 人間は人権をもち、ひとりの人格を持った存在である
- 4) 人間は様々なニードを充足し、自己実現を目指して生活している存在である

健康

- 1) 健康は身体的・精神的・社会的に最適な状態である
- 2) 健康は人間と環境との相互作用により常に流動的であり、健康と病気は連続体である
- 3) 健康は個別的なものであり、自らの責任によって作り出されるものである
- 4) 健康は自分の能力を十分に発揮することができる状態である

環境

- 1) 人間も環境の一部である
- 2) 環境は個人や集団を取り囲み、その発達や行動に影響を与える条件や状況のすべてである
- 3) 環境は自然、文化、生活などの外部環境と身体内部の生理的・心理的機能の内部環境がある
- 4) 環境は人間と相互に影響し合いながら絶えず変化している

看護

- 1) 看護は人間関係を基盤に行うものである
- 2) 看護はあらゆる発達段階、あらゆる健康、様々な場にある人々を対象とする
- 3) 看護は最良の健康状態をもたらすために、人間の生活行動に働きかける科学的根拠に基づいた実践活動である
- 4) 看護は保健・医療・福祉チームの中で専門職としての役割を果たす

教育

- 1) 教育は人格の形成の基盤であり、社会で生きていくための成長・発達を支援することである
- 2) 教育とは学習者と教授者が相互関係の中で共に成長・発達していく過程である
- 3) 教育とは学習者が主体的に学び、潜在能力を最大限に引き出すように支援することである
- 4) 教育とは、学習者が経験を通して自らの可能性に気づき、主体的に行動を変容しそれを持続できるよう促すことである

<教育内容>

各分野の設定の概略と各科目のねらい

1 各分野の設定の概略

当校の教育理念に基づき、社会に貢献できる人間力豊かな看護師を育成していくことを目的とし、カリキュラムを構築した。

各分野の科目設定は、学生の准看護師としての知識及び経験を柱とし、看護の専門職業人としての専門的知識・技術及び看護観をさらに培い発展させることに留意し、教育目標から抽出された学習内容に基づいて行った。

1) 基礎分野

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ並びに統合分野の学習の基礎となる分野である。ここでは看護に関する種々の基礎的な知識を学び、これらの知識を論理的に組み立ててこれまでの自らの看護活動を振り返り考えることを目的としたカリキュラム構成とした。指定規則にある科目設定の考え方から基礎分野では科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き自由で主体的な判断と行動を強化する内容とともに、人間と社会を幅広く理解できる内容、情報化、国際化に対応しうる能力を高める内容を学ぶ。また、人権の重要性について理解し、人権意識の普及と高揚とともに、職業的倫理観の向上が図られる内容を留意した科目設定とした。科学的思考の基盤となる科目として、論理的思考、心理学の2科目を、人間と人間生活を理解するものとして人間関係論、社会学の2科目の計4科目を設定した。

- A. 科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断を促す内容
- B. 人間と社会（環境）を幅広く理解する内容
- C. 国際化及び情報化に対応する能力を身につける内容
- D. 人権意識の普及や高揚、職業的倫理観の向上が図られる内容
- E. 専門職業人として自ら学び続ける基礎的能力を身につけられる内容

領域	教科目	内容
科学的思考の基礎	論理的思考 2単位	A、B、C
	心理学 1単位	A、B、D、E
人間と生活、社会の理解	人間関係論 2単位	A、B、D
	社会学 2単位	B、C、D、E

2) 専門基礎分野

専門基礎分野は、基礎分野の上に位置し、医学の基礎的知識や看護を取り巻く社会的な仕組みを学ぶ分野である。また、専門分野・統合分野の学習の基盤ともなり、基礎分野での学習を専門分野・統合分野につなぐ内容を学習する。このことを踏まえて、専門基礎分野では「人体の構造と機能」では人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力の強化を促す内容の科目として、解剖生理学、栄養学の2科目を、「疾病の成り立ちと回復の促進」の科目として、病理学、微生物学、薬理学の3科目を、「社会保障制度と生活者の健康」では、人々が生涯を通じて、健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養う内容として、公衆衛生、社会福祉の2科目の計7科目を設定した。

3) 専門分野 I

基礎看護学は、看護学の基礎となる看護の概念・理論・倫理・歴史と看護、実践の基礎的技術を学ぶ分野であり、専門分野Ⅱおよび統合分野に共通の基礎的理論や基礎的技術を学習する。学生にとってこれまでの自らの看護活動を振り返り、省察するにあたっての思考基盤となることを目的とし5科目を設定した。基礎看護学概論では、看護実践に必要な主要な知識・技術について、看護の歴史や看護理論を踏まえながら理解を深める。看護過程は看護実践の根幹となる重要な思考過程であり、看護過程の基礎の科目では看護問題を科学的根拠に基づいて解決するための方法を学び、事例演習を通して看護過程の展開の実践能力を高める内容とした。看護の共通基本技術、日常生活の援助技術、診療に伴う援助技術では看護技術を適応する方法の基礎と共に看護師の倫理的態度を再考し、それぞれコミュニケーション・フィジカルアセスメントを強化する内容とした。

4) 専門分野Ⅱ

成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学で構成され、看護の対象および目的の理解、予防、健康の回復、保持増進について看護の方法を学ぶ。また、各看護学では、成長発達に応じた各期の特徴とその健康上の問題を明らかにし、その多様なニーズや特徴を踏まえながら、対象に応じた看護が実践できる基礎的な能力や技術を学ぶことを目的とし、成人看護学概論、成人看護学方法論、老年看護学概論、老年看護学方法論、小児看護学概論、小児看護学方法論、母性看護学概論、母性看護学方法論、精神看護学概論、精神看護学方法論の計10科目を設定した。

成人看護学では、成人期の特徴に基づいた看護を学ぶとともに、以後の学習の基盤となり得る経過別・機能障害別看護について理解を深める内容とした。老年看護学ではライフステージにおける老年期の特徴と共に生活機能の観点からアセスメントし看護を展開する方法を学び終末期看護を含む内容とした。小児看護学は対象の成長段階・発達課題に応じた看護について学ぶ内容とした。母性看護学は、女性のライフステージ各期の特徴を踏まえ、対象者支援のための看護を学ぶ内容とした。精神看護学では、精神の健康の保持増進と精神障害者の看護を統合的に学習できる内容とすした。

〈成人看護学 経過別看護別到達内容と使用する理論〉

	卒業時の到達内容	理論等
健康の保持増進 疾病	①成人期における健康の保持増進や疾病予防に関するヘルスプロモーションへの支援ができる。対象及び家族に健康問題への対処能力を高める教育的関わりができる	・ヘルスプロモーション
	②対象が療養していく中での社会環境を経過別に理解し、必要な社会資源に関する情報を提供できる	・自己効力理論
	③療養環境を支える社会資源の活用の具体的内容が分かる	
	④健康レベルに応じた具体的な保健指導ができる	

急性期・回復期	①急激な変化状態（周手術期、急激な病状の変化、救命処置の必要等）にある人の病態と治療について理解できる ②急激な変化状態にある人に治療が及ぼす影響について理解できる ③対象の健康状態や治療を踏まえ、看護の優先順位を理解できる ④急激な変化に備え、基本的な救命救急処置の方法を理解できる ⑤状態の変化に対処することを理解し、症状の変化を迅速に報告できる ⑥合併症予防の療養生活を支援できる ⑦日常生活の自立に向けたリハビリテーションを支援できる ⑧対象の心理を理解し、状況を受け止められるように支援できる	・エンパワーメントアプローチ ・健康モデル ・生体侵襲 ・危機理論
慢性期	①慢性的経過をたどる人の病態と治療について理解できる ②慢性的経過をたどる人に治療が及ぼす影響について理解する 対象及び家族が健康障害を受容していく過程を支援できる ③必要な治療計画を生活の中に取り入れられるように支援する（患者教育） 必要な治療を継続できるようなソーシャルサポートについて理解できる ④急性憎悪の予防にむけて継続的に観察できる ⑤慢性的な健康障害を有しながらの生活の質向上にむけて支援できる	・ノーマライゼーション ・障害受容過程 ・アンドラゴジー ・コンプライアンスとアドヒアランス ・自己概念 ・セルフケア

*健康のあらゆる段階に用いられる理論

- ・エンパワーメント・ストレス理論、ストレスコーピング理論（ロイの適応理論）
- ・ケアリング理論 ・ニード理論（ヘンダーソンの基本的ニード論）

5) 統合分野

統合分野は、看護学の統合と位置付け、在宅看護論と看護の統合と実践の2つで構成されている。あらゆる医療活動の場にある対象の看護の必要性を判断し、適切な方法で援助するための看護実践能力を高めることを目的とした領域であり、チーム医療・他職種との協働の中での看護師の役割を理解しマネジメントの基礎的能力や、看護師として倫理的に判断し行動するための基礎的能力を養う内容、医療安全・災害時看護の基礎知識を修得する科目を設定している。

在宅看護論では、在宅における基礎的な看護技術を身につけ、家族を含む対象者を理解し、多職種と協働する中での看護の役割を学ぶため、在宅看護概論、在宅看護方法論を設定した。また、看護の統合と実践では、組織における看護師の役割と管理を理解するとともに、看護師として緊急・突発要件の発生時の適切な判断や対応について、さらには諸外国との協力について学ぶため、それぞれ医療安全、看護管理、災害・国際看護を設定した。

6) 臨地実習

通信課程においては、「紙上事例演習」「病院見学実習」「面接授業」をもって臨地実習とする。准看護師としての知識及び経験を柱に、紙上事例演習によって学んだ知識・技術を病院見学実習にて看護実践の場面に統合し、面接授業をもって看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うことをねらいとする。6つの専門分野（基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学）と統合分野（在宅看護論、看護の統合と実践）について実習を行う。

各科目のねらい

区分	教育内容	科目名	ねらい
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	(国語表現・論理・数的処理) 科学的思考力の基盤を養うものとして、事実を正しく解釈・表現し、小論文を書く力を養う。数学的な処理ができることや論理的な思考を身に付ける。またキャリア教育として研究活動などの看護の発展にも必要な基礎的な能力を養う。
		心理学	心理学は行動の科学とも言われている。人間の心理や行動について、多くの人が共有できる一般性をもつとされる代表的な理論を学び、理解を深める。
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	看護実践者として専門的な人間関係を形成するためのコミュニケーションの技法と、基礎的なカウンセリング理論を学ぶために設定した。
		社会学	人間を取り巻く環境としての社会や家族・文化が、人間にどのように影響を与えているかを理解し、人間を社会的存在として多角的に学習するために設定した。
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	生活行動の目的から人体の構造と機能を学ぶ。疾患によって人体が受ける構造と機能の変化を理解する基礎を学ぶ。
		栄養学	生体を構成している物質の構造、食餌性の栄養物質が生命活動の中でどう変化するかを学ぶ。また、食生活をQOL、ライフサイクルから捉え、健康的な生活を営む上で必要な栄養について、消化・吸収、疾病と食事の関係について生化学の視点も交え学ぶ。
	疾病の成り立ちと日復の促進	病理学	疾病の原因とそれによって生じる変化、基本的な病変の概念について理解できる。疾病による身体内部の変化と生活への影響、疾病の回復過程とそれを促進する要因について学ぶ。
		微生物学	微生物の特徴、人体に及ぼす影響と免疫に関する知識を身に付け、疾病の予防・治療との関連を学び、感染防止について理解する。
		薬理学	薬物の特徴・作用機序を理解し、人体への影響および薬物の管理を理解する。
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生	公衆衛生に関連する統計情報を理解し、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の基本的な知識を理解する。
		社会福祉	社会福祉の理念・制度の歴史と現行制度および法規を理解し、看護職として活用すべき社会資源・関係法規について知識を深める。
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学概論	看護実践に必要な主要な知識・技術について、看護の歴史や看護理論を踏まえながら理解を深める。現代における看護の機能や役割、及び課題を理解する。
		看護の共通基本技術	看護を実践する上での基礎であり、様々な看護活動に共通する基礎的な看護技術を理解する。
		看護過程の基礎	看護の核となる思考の学習であり、看護問題を科学的根拠に基づいて解決するための方法を学び、事例演習を通して看護過程の展開の実践能力を高める。
		日常生活の援助技術	看護における技術の概念、科学的根拠に基づき看護技術を提供することの意義を理解する。そして、看護技術の科学的根拠を明らかにして、さらに発展させることができる思考力を養う。また、学習をもとに自己の援助技術を振り返り、知識の再構築を行う。
		診療に伴う援助技術	診療に伴う援助の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される治療、検査、処置などに必要な基本的知識、援助技術の方法と看護を習得する。

専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	多様な社会的役割を担う成人期にある対象を総合的に学び、様々な健康レベルに合った看護の意義と課題について理解する。
		成人看護学方法論	成人期にある人々の特徴的な健康障害や危機をもたらす状況について経過別・機能障害別に理解を深め、成人の健康回復・維持の具体的方法、看護の展開について学ぶ。
	老年看護学	老年看護学概論	高齢者のライフステージにおける老年期の特徴を理解し、高齢者の生命と健康生活を支える看護や終末期高齢者と家族を支える看護を実践していくための基本的知識・技術について学ぶ。
		老年看護学方法論	老年期にある対象とその家族の特徴を理解し、加齢と健康障害の程度に応じたアセスメントや、看護を展開する過程を学ぶ。
	小児看護学	小児看護学概論	小児看護の対象、目的、子供を取り巻く社会環境について学ぶ。子供の成長発達の特徴を捉え、健やかに成長発達することができるように、それぞれの健康レベルに応じた援助と看護の役割について理解を深める。
		小児看護学方法論	小児各時期の成長段階・発達課題から、発達段階に応じた生活が遂行できるための援助を学ぶ。 また、小児の健康障害の特徴と疾病や入院が小児・家族に及ぼす影響を理解し、健康障害に伴う治療・検査・処置に必要な看護技術、小児および家族への援助を学ぶ。
	母性看護学	母性看護学概論	母性の概念および母性の発達段階に応じた女性の健康と健康問題を通して、母性看護に必要な知識を学ぶ。
		母性看護学方法論	女性のライフステージ各期の特徴と健康問題のある対象の看護を理解する。また、子どもを産み育てる人々のニーズを理解し、対象者支援のための看護を学ぶ。
	精神看護学	精神看護学概論	精神看護の基本的な概念・理論・歴史の変遷・法律・施策を学び、心の健康および精神の疾患・障害がある人への総合的な理解を深める。
		精神看護学方法論	主な精神疾患の特徴と治療・検査について理解する。また、精神看護の基本技法・役割について学び、自己決定とセルフケア行動・家族看護についての理解を深める。
統合分野	看護の統合と実践	在宅看護概論	在宅看護の意義・目的について学び、在宅ケアニーズの動向、在宅療養を支える法律制度を理解する。また、訪問看護の機能と看護の対象である家族の機能と役割について理解する。
		在宅看護方法論	在宅療養者とその家族の健康問題やニーズ、対象に応じた日常生活の援助の基本と医療処置に伴う援助技術について理解する。療養者とその家族のニーズに基づくアセスメントや、生活の質の向上・維持にむけての看護の展開を理解する。
		看諧管理	医療の仕組みを理解し、医療チームの一員としての、看護サービスが実践・遂行できる能力を身に付け、看護をマネジメントできる基礎的能力を理解する。また、看護専門職としての倫理を学ぶ。
		医療安全	安全で質の高い看護実践を提供するために、医療安全の概念、医療事故防止対策の必要性、感染管理、看護の責任について理解する。
		災害・国際看護	災害医療、災害看護に関する基礎知識を学ぶ。医療・看護の国際協力とその仕組み、国際医療、看護活動の実際などについての理解を深める。

臨地実習	基礎看護学実習	看護の問題に対して科学的思考のプロセスを用いて、看護過程を展開する能力を養うとともに、対象を取り巻く環境と看護活動の援助の実際について学ぶ。
	成人看護学実習	成人における健康上の問題や看護上の問題に対して、科学的思考のプロセスを用いて、看護過程を展開する能力を養うとともに、問題解決の方策や健康回復・維持、人生の終末段階のための援助の実際について学ぶ。
	老年看護学実習	老年における健康上の問題や看護上の問題に対して、科学的プロセスを用いて、看護過程を展開する能力を養うとともに、問題解決の方策と実施に必要な知識と技術を学び、高齢者の生命と健康生活を支える援助の実際について学ぶ。
	小児看護学実習	小児の健康上の問題や看護上の問題に対して、科学的プロセスを用いて、看護過程を展開する能力を養うとともに、健康レベルと発達過程、発達課題に応じた援助の実際について学ぶ。
	母性看護学実習	母性の健康上の問題や看護上の問題に対して、科学的プロセスを用いて、看護過程を展開する能力を養うとともに母性各期の健康課題や問題の援助の実際について学ぶ。
	精神看護学実習	精神の健康上の問題や看護上の問題に対して、科学的プロセスを用いて、看護過程を展開する能力を養うとともに対人関係技術や精神看護実践について学ぶ。
	在宅看護論実習	在宅における療養者および家族の、看護上の問題に対して、科学的思考のプロセスを用いて、看護過程を展開する能力を養うとともに、対象を取り巻く環境と看護活動の援助の実際について学ぶ。
	看護の統合と実践実習	安全で安楽な看護を提供する為に各施設では医療安全対策としてどのような体制で行われるかを学ぶ。チーム医療における他職種との連携や看護管理の実際を学ぶ。また災害発生時には施設としてどのような対策を行っているかについても学ぶ。

別表Ⅲ

教育課程(看護学科通信制)

区分	教育内容	科目名	単位	時間	授業形態	履修時期	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	2	90	放送大学	← 選択 →	
		心理学	1	45	本校	2年次必修	
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	2	90	放送大学	← 選択 →	
		社会学	2	90	放送大学	← 選択 →	
	小計		7	315			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	2	90	放送大学	← 選択 →	
		栄養学	2	90	放送大学	← 選択 →	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	2	90	放送大学	← 選択 →	
		微生物学	2	90	放送大学	← 選択 →	
		薬理学	2	90	放送大学	← 選択 →	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生	2	90	放送大学	← 選択 →	
		社会福祉	2	90	本校	2年次必修	
小計		14	630				
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	2	90	放送大学	← 選択 →	
		看護の共通基本技術	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修	
		看護過程の基礎	1	45	本校面接授業	1年次必修	
		日常生活の援助技術	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修	
		診療に伴う援助技術	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修	
	基礎看護学実習	基礎看護学事例演習	1	45	紙上事例演習(自宅学習)	1年次必修	
		基礎看護学実習	1	45	病院見学実習+面接授業	1年次必修	
小計		8	360				
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修	
		成人看護学方法論	2	90	本校(通信+面接)	1年次必修	
	老年看護学	老年看護学概論	2	90	放送大学	1年次必修	
		老年看護学方法論	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修	
	小児看護学	小児看護学概論	2	90	放送大学	1年次必修	
		小児看護学方法論	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修	
	母性看護学	母性看護学概論	2	90	放送大学	1年次必修	
		母性看護学方法論	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修	
	精神看護学	精神看護学概論	2	90	放送大学	1年次必修	
		精神看護学方法論	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修	
	成人看護学実習	成人看護学事例演習	1	45	紙上事例演習(自宅学習)	基礎実習修了後	
		成人看護学実習	1	45	病院見学実習+面接授業	基礎実習修了後	
	老年看護学実習	老年看護学事例演習	1	45	紙上事例演習(自宅学習)	基礎実習修了後	
		老年看護学実習	1	45	病院見学実習+面接授業	基礎実習修了後	
	小児看護学実習	小児看護学事例演習	1	45	紙上事例演習(自宅学習)	基礎実習修了後	
		小児看護学実習	1	45	病院見学実習+面接授業	基礎実習修了後	
	母性看護学実習	母性看護学事例演習	1	45	紙上事例演習(自宅学習)	基礎実習修了後	
		母性看護学実習	1	45	病院見学実習+面接授業	基礎実習修了後	
	精神看護学実習	精神看護学事例演習	1	45	紙上事例演習(自宅学習)	基礎実習修了後	
		精神看護学実習	1	45	病院見学実習+面接授業	基礎実習修了後	
	小計		25	1125			
	統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	2	90	放送大学	1年次必修
			在宅看護方法論	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修
		看護の統合と実践	看護管理	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修
			医療安全	1	45	本校(通信+面接)	1年次必修
災害・国際看護			2	90	放送大学	← 選択 →	
在宅看護論実習		在宅看護論事例演習	1	45	紙上事例演習(自宅学習)	基礎実習修了後	
		在宅看護論実習	1	45	病院見学実習+面接授業	基礎実習修了後	
看護の統合と実践実習		看護の統合と実践事例演習	1	45	紙上事例演習(自宅学習)	基礎実習修了後	
		看護の統合と実践実習	1	45	病院見学実習+面接授業	基礎実習修了後	
小計		11	495				
合計		65	2925				

水戸看護福祉専門学校 看護学科 通信制 放送大学履修科目一覧

(合計 32 単位)

教育内容		本校の科目名	本校の単位数	放送大学の対応科目
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	2	問題解決の進め方（'19）
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	2	心理カウンセリング序説（'15）
		社会学	2	健康と社会（'17）
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	2	人体の構造と機能（'18）
		栄養学	2	食と健康（'18）
	疾病の成立と回復の促進	病理学	2	疾病の成立と回復促進（'17）
		微生物学	2	感染症と生体防御（'18）
		薬理学	2	疾病の回復を促進する薬（'17）
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生	2	公衆衛生（'19）
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	2	看護学概説（'16）
専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学概論	2	老年看護学（'19）（夏季集中科目）
	小児看護学	小児看護学概論	2	小児看護学（'16）（夏季集中科目）
	母性看護学	母性看護学概論	2	母性看護学（'14）（夏季集中科目）
	精神看護学	精神看護学概論	2	精神看護学（'19）（夏季集中科目）
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	2	在宅看護論（'17）
	看護の統合と実践	災害・国際看護	2	災害看護学・国際看護学（'14）

基礎分野

科目名	心理学		指導担当者名 高山 かおり
学年・時期	2年次・前期		
単位・時間数	1単位(45時間)		
学習目的	心理学は「こころ」を科学する学問である。目に見えないこころを表すものが、人間の表情や状態、行動などである。こころのメカニズムを現れた行動により解明することで、行動に変化を与えることができる。こころは大変複雑であるため、心理学には多くの研究領域がある。その中で、看護に密接に関係する領域を中心に学習しする。さらに、学生自身が自己概念を考え、学生生活の中で達成感を感じるための、ポジティブシンキングを身につける。		
学習目標	1. 心理学の基礎的知識を理解し、看護へ関連して考える 2. 人間の行動から、こころの動きを理論的に導き出すための、心理学の知識を理解する 3. 健康に関する心理的なアプローチについて理解し、自身の心の健康へのセルフコントロールを理解する		
回数	項目	授業内容	授業形態
1	心理学とは	1. 人間の心とは 2. 対人援助と対人援助職	本校 通信学習
2	感覚と知覚、記憶	1. 外界を理解する心のはたらき 2. 感覚と知覚のしくみとはたらき 3. 記憶のメカニズム 4. 記憶の種類と忘却	本校 通信学習
3	思考・言語・知能、 学習	1. 思考 2. 言語とコミュニケーション 3. 知能 4. 学習とは (1) 古典的条件付け (2) オペラント条件付け (3) 社会的学習	本校 通信学習
4	感情と動機づけ 性格とパーソナリティ	1. 感情の諸相 2. 感情のメカニズム 3. 動機づけ 4. 動機づけの理論	本校 通信学習
5	性格とパーソナリティ 集団の心理	1. 対人関係、パーソナリティについて 2. 自己認識と関係性 3. 社会的認知 4. 対人関係と対人魅力	本校 通信学習
6	発達	1. 発達とは 2. 各段階の発達 (1) 乳幼児 (2) 児童・青年期 (3) 成人・高齢期	本校 通信学習
7	心理臨床	1. 心理臨床と臨床心理学 2. 心の適応と不適応 3. 心理療法	本校 通信学習
8	医療・看護と心理	1. 医療職と対人援助 2. 患者の心理 3. 医療・看護職の心理 4. 医療・看護職の心のケア	本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記を用いた試験		
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院		
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）			

専門基礎分野

科目名	社会福祉		指導担当者名	埜 富美子
学年・時期	2年次・前期			
単位・時間数	2単位(90時間)			
学習目的	社会福祉の理念と基本的な制度の考え方、生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解し、保健・福祉・医療の連携の中で、健康な生活を送るために必要な、社会保障制度を活用するための基礎的な知識および関係法規について学ぶ			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・福祉・医療の連携の必要性を理解する 2. 健康な生活を送るために必要な、社会保障制度を理解する 3. 社会保険の役割と制度を学習し、制度の活用について理解する 4. 少子高齢化社会における、社会福祉の課題を理解する 			
回数	項目	授業内容		授業形態
1	保健医療福祉活動の基本方向	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概念, 目的, 機能, 体系, 内容 3. 倫理 5. 情報公開、地方分権、参加 7. 社会保障制度改革 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 人権、日本国憲法25条 4. ノーマライゼーション 6. 社会保障給付費 	本校 通信学習
2	社会保険の変遷	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史、意義 2. 国民皆保険・皆年金 		本校 通信学習
3	医療保険制度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康保険、国民健康保険と高齢者の医療制度 2. 保険給付と利用者負担 3. 医療保険の財政 4. 保険診療の仕組み 5. 公費負担医療 6. 国民医療費 7. 事例 診療報酬、入院費の実際 		本校 通信学習
4	介護保険制度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 制度の基本理念 2. 保険者・被保険者 3. 要介護・要支援の認定 4. 保険給付と利用者負担 5. ケアマネージメント 6. 介護保険の財政 7. 介護保険事業計画 8. 事例 介護保険の流れ 		本校 通信学習
5	年金制度・その他の社会保険制度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 制度の体系 2. 給付と費用負担 3. 雇用保険法 4. 労働者災害補償保険法 		本校 通信学習
6	社会福祉の理念と変遷 生活保護法と施策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法 2. 措置制度から選択、利用制度へ 3. 利用者保護の制度 4. 生活保護の基本原則と実施の原則 5. 実施機関・扶助の種類と内容 6. 生活保護の実際 事例 		本校 通信学習
7	障害者（児）への施策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者基本法 2. 障害者自立支援法 3. 身体障害者福祉法 4. 知的障害者福祉法 5. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 6. 障害者自立支援法の課題 		本校 通信学習
8	児童への施策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉法 2. 児童虐待の防止等に関する法律 3. 母子及び寡婦福祉法 4. 少子化対策 		本校 通信学習
9	高齢者への施策 その他の施策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人福祉法 2. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 <DV法>*DVの救済に向けた取り組み事例 		本校 通信学習

10	保健福祉計画 社会福祉の民間活動	1. 地域社会の変化 2. 社会福祉制度の変化 3. 住民と行政の関わり 4. 民生委員、児童委員 5. 社会福祉協議会 6. ボランティア活動 7. 特定非営利活動促進法<NPO法>	本校 通信学習
11	国、地方公共団体の 行政、組織およびマン パワー	1. 福祉事務所 2. 児童相談所 3. 社会福祉施設 4. 在宅サービス機関 5. 保健師 6. 理学療法士・作業療法士 7. 介護支援専門員<ケアマネージャー> 8. 社会福祉士・介護福祉士 9. 精神保健福祉士	本校 通信学習
12	老人保健福祉行政の 展開	1. 入所措置権の市町村への委譲 2. 市町村および都道府県の老人福祉計画 3. 高齢者の生きがい対策 4. 介護予防	本校 通信学習
13	地域ケアシステム1 (高齢者と長期ケア)	1. 地域包括ケアシステムとは 2. 地域包括支援センター 3. 地域ケアコーディネーター	本校 通信学習
14	地域ケアシステム2 (24時間在宅ケア)	1. 医療と介護の連携 2. 地域間格差の問題	本校 通信学習
15	介護と看護の役割と 連携	まとめ	本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	健康支援と社会保障制度3 社会福祉 メガカルフレンド社		
実務経験のある教員等による授業科目 (病院等で5年以上)			

専門分野 I

科目名	看護の共通基本技術		指導担当者名	木植 益弘
学年・時期	1年次・前期			
単位・時間数	1単位(45時間)			
学習目的	看護行為に共通する援助技術について学び、対象を総合的に理解して援助する能力を高める。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージの伝え方を学ぶ。 2. 看護における教育的関わりを理解する。 3. バイタルサインの基礎的知識を理解する。 4. 全身状態を系統的に把握する方法を学ぶ。 5. 看護過程の基礎的知識を学ぶ。 			
回数	項目	授業内容		授業形態
1	人間関係を発達させる技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションを成立させる要素 2. 効果的なコミュニケーション技術 3. 効果的なコミュニケーションの実際 		本校 通信学習
2	看護における教育・指導	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における教育的関わり 2. 効果的な教育のプロセス 3. 教育者およびカウンセラーとしての役割 		本校 通信学習
3	身体的情報をアセスメントする技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメント・ヘルスアセスメントの概念 2. バイタルサイン測定時のポイント 3. フィジカルアセスメントの意義 4. フィジカルアセスメントの基本技術 		本校 通信学習
4	快適な病床環境をつくる技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者にとって快適な病床環境を理解する 2. 環境を整える技術 3. 基本的活動の援助（体位変換・移動・移乗） 		本校 通信学習
5	感染防止・安全を確保する技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の成立させる要素と成立過程 2. 感染症を予防する 3. 安全の意義と保証 		本校 通信学習
6	安楽促進と呼吸循環を整える技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安楽の定義 2. ポジショニングの技術 3. 吸引の基礎知識 		本校 通信学習
7	看護を展開するための技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の構成要素 2. 看護過程の理解と問題解決方法 3. 報告の必要性と方法 		本校 通信学習
8	看護ケアの継続をはかる技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続して看護を提供する必要性 2. 具体的な情報交換の内容と方法 		本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 医学書院			
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）				

専門分野 I

科目名	看護過程の基礎		指導担当者名	木植 益弘（面接授業）
学年・時期	1年次・前期			
単位・時間数	1単位(45時間)			
学習目的	あらゆる対象に看護を実践するための科学的思考過程である看護過程について理解を深め、事例演習を通して看護過程の展開の実践能力を高める。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の目的を達成するため看護過程の意義を理解する。 2. 事例をもとに看護解決過程やクリティカルシンキング、情報の分析の方法、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する。 3. アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階について、基本的な考え方を理解する。 4. ヘンダーソンの看護論に基づいた看護過程の展開が、紙上事例を通してできる。 			
回数	項目	授業内容		授業形態
1	看護過程とは	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素とその課題 3. 看護論 ヘンダーソンの14項目の基本的ニーズに基づく枠組み 		本校講義
2	看護過程の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を展開するために必要な基礎知識 2. 紙上事例演習の目的 		本校講義
3	事例を用いた看護過程の展開①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集・整理 2. 関連図の記入 		本校講義 演習 グループ ワーク
4	事例を用いた看護過程の展開②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の分析・解釈 		
5	事例を用いた看護過程の展開③	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護問題の明確化 2. 問題点の優先順位 		
6	事例を用いた看護過程の展開④	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護計画、実施、看護目標の設定 		
7	事例を用いた看護過程の展開⑤	<ol style="list-style-type: none"> 1. 援助方法の選択 2. 具体策の立案 3. 看護計画、評価 		
8	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習での学び、及び課題の明確化 2. 基礎看護学紙上事例演習の説明 		本校講義
評価方法	レポート			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践第3版ヌーヴェルヒロカワ			
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）				

専門分野 I

科目名	日常生活の援助技術		指導担当者名 木植 益弘
学年・時期	1年次・前期		
単位・時間数	1単位(45時間)		
学習目的	日常生活援助技術として、生活環境全般にかかわる、食と排泄を整える技術、清潔を整える技術、運動と休息のバランスを整える技術などについて学ぶ。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力を養う。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な援助を安全に実施するための知識・技術を理解する。 2. 健康を維持向上させる生活援助技術を理解する。 3. 医療専門職としての看護師の基本的態度を習得する。 		
回数	項目	授業内容	授業形態
1	活動・運動を援助する技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動動作への援助の意義 2. 移動動作への援助 	本校 通信学習
2	休息・睡眠を促す技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 休息・睡眠の意義 2. 休息・睡眠のニーズに関するアセスメント 3. 休息・睡眠を促す方法の選択 	本校 通信学習
3	身体の清潔の援助技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体清潔の意義 2. 身体清潔に関する基礎知識 3. 被髪頭部の清潔への援助 4. 皮膚の清潔 5. 粘膜その他の清潔 	本校 通信学習
4	食事・栄養の援助技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養と食生活の意義 2. 栄養と食事に関する基礎知識 3. 食事の援助 	本校 通信学習
5	排泄の援助技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄の意義 2. 排泄に関する基礎知識 3. 排泄の援助 	本校 通信学習
6	呼吸を楽にする技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸の生理的メカニズム 2. 呼吸のニーズに関するアセスメント 3. 呼吸を楽にする方法の選択 	本校 通信学習
7	体温を調節する技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣生活の意義 2. 体温調節のメカニズム 3. 電法の効果 4. 病衣（患者の衣類）の選択と条件 	本校 通信学習
8	安全・安楽に関する技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全・安楽の意義 2. 安全とその援助 3. 安楽とその援助 	本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門2 「基礎看護技術Ⅰ」医学書院 系統看護学講座 専門3 「基礎看護技術Ⅱ」医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院		
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）			

専門分野 I

科目名	診療に伴う援助技術		指導担当者名 木植 益弘
学年・時期	1年次・前期		
単位・時間数	1単位(45時間)		
学習目的	健康障害をもつ患者および家族を理解し、健康障害に応じた看護の基本について学びを深める。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ人と家族について理解し、健康レベルに応じた看護の役割を学ぶ。 2. 経過に伴う患者の看護について理解できる。 3. 主要症状を示す患者の観察・看護について理解できる。 4. 治療や処置に応じた看護や対象への配慮が考えられる。 		
回数	項目	授業内容	授業形態
1	臨床の場と対象理解への基礎知識①	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクル 2. 健康な人々への看護 3. 通院患者とその家族への看護 4. 入院患者とその家族への看護 	本校 通信学習
2	臨床の場と対象理解への基礎知識②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人とその家族の看護 2. 健康障害を持つ老人とその家族の看護 3. 健康障害を持つ子どもとその家族の看護 4. 健康障害を持つ母となる人とその家族の看護 	本校 通信学習
3	経過に基づく患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある患者の看護 2. 慢性期にある患者の看護 3. 回復・リハビリテーションと看護 4. 終末期にある患者への看護 	本校 通信学習
4	主要症状を示す患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 痛みのある患者の看護 2. 呼吸障害のある患者の看護 3. 循環障害のある患者の看護 4. 意識障害のある患者の看護 	本校 通信学習
5	検査を受ける患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体検査・検体検査援助の実際と観察の意義 2. 生体検査を受ける患者の看護 3. 医療用機器の取り扱いと生体観察 	本校 通信学習
6	治療・処置を受けている患者の看護①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬を安全かつ正確に行う技術 2. 皮膚・創傷を管理する技術 	本校 通信学習
7	治療・処置を受けている患者の看護②	<ol style="list-style-type: none"> 3. 手術療法時の看護 4. 放射線療法を受ける患者の看護 5. 化学療法を受ける患者の看護 6. 集中治療を受ける患者の看護 	本校 通信学習
8	生命の危機的状況にある人の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急時における看護師の役割 2. 生命の危機的状況のアセスメント 3. 一次救命処置と二次救命処置 	本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座(別巻) 臨床外科看護総論 医学書院		
実務経験のある教員等による授業科目(病院等で5年以上)			

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学概論		指導担当者名	浅井 将弘
学年・時期	1年次・前期			
単位・時間数	1単位(45時間)			
学習目的	成人期にある対象を総合的に理解し、対象とその家族に対して健康の保持・増進および様々な健康レベルでの障害時の看護を実践する能力を養う。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を身体的・精神的（霊的を含む）・社会的側面から総合的に理解する。 2. 成人期の健康問題と影響を及ぼす要因を理解する。 3. あらゆる健康状態にある成人期の対象及び家族に対し、看護の方法と役割を理解する。 4. 成人保健の動向および保健システムを理解し、保健医療チームの一員としての役割を理解する。 			
回数	項目	授業内容	授業形態	
1	成人の生活と健康	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の理解 2. 対象の生活 3. 大人の生活からとらえる健康 4. 生活と健康を守りはぐくむシステム 	本校 通信学習	
2	成人への看護アプローチの基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 2. 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 3. 看護におけるマネジメント 4. 看護実践における倫理的判断 5. 意思決定支援 6. 家族支援 	本校 通信学習	
3	成人の健康レベルに対応した看護 1	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプロモーションと理論 (1)ヘルスプロモーションの新しい考え方 ①ヘルスケアシステムモデル (2)エンパワーメント (3)ストレスコーピング理論 (4)自己効力理論 	本校 通信学習	
4	成人の健康レベルに対応した看護 2	<ol style="list-style-type: none"> (5)健康信念モデル (6)ヘルスローカス・オブコントロール (7)グループダイナミックス (8)自己効力理論 	本校 通信学習	
5	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の危機状態 1) 外傷・事故・中毒 2) 急性疾患 3) がん及びがん告知 4) 侵襲的治療 5) 集中治療 6) 慢性病の急性増悪 2. 急激な健康破綻をきたした人の特徴 1) 侵襲刺激に対する生体反応 2) 侵襲期の心理的反応 3) 健康破綻による危機状況 	本校 通信学習	
6	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 危機にある人々への支援（アギュララとメズニックのモデル・フィンクのモデル） 2. 合併症の予防 3. 健康破綻からの回復を促進する看護 4. 家族の看護 5. 救急医療における救急看護 6. 救急看護の特徴と実際 	本校 通信学習	
7	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者の理解 1) 慢性病患者の経験する無力感 2) 痛み軌跡 2. 慢性病患者のたえない取り組み 1) セルフケア 3. 慢性病との共存の過程を支える看護 1) セルフマネジメントの支援 2) セルフマネジメント支援の構成要素 	本校 通信学習	
8	障害がある人の生活とリハビリテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害がある人とリハビリテーション 2. 障害がある人の障害の認識過程 3. 看護の実際 	本校 通信学習	
評価方法	レポート、筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 成人看護学〔1〕～〔15〕医学書院			
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）				

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学方法論		指導担当者名	浅井 将弘
学年・時期	1年次・前期			
単位・時間数	2単位(90時間)			
学習目的	成人期にある人々の特徴的な健康障害や危機をもたらす状況について経過別・機能障害別に理解を深め、成人の健康回復・維持の具体的方法、看護の展開について学ぶ。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の特徴を理解する。 2. 成人期にみられる健康問題を理解する。 3. 成人期の健康増進の必要性と方法を理解する。 4. 成人期における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。 			
回数	項目	授業内容		授業形態
1	成人期の特徴の発達課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の特徴と発達課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 成人期の社会的特徴 <ol style="list-style-type: none"> ① 社会的責任相互作用 ② 自己概念、自己実現 ③ セクシャリティ 母性、父性 (2) 成人期の発達課題 (3) マズロー階層による成人期のニーズ 		本校 通信学習
2	成人期の健康と援助①	<ol style="list-style-type: none"> 2. 成人期の健康と援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康レベルによる成人期の特徴 <ol style="list-style-type: none"> ① ヘルスプロモーション ② 治療を必要とする対象 ③ 健康の再構築 ④ ターミナルケア 		本校 通信学習
3	成人期の健康と援助②	<ol style="list-style-type: none"> (2) 成人期の看護展開 <ol style="list-style-type: none"> ① 看護診断の考えと看護過程 (3) 成人期の倫理 <ol style="list-style-type: none"> ① がん治療における倫理的対応 ② 終末期医療における倫理的対応 ③ 感染症対策 		本校 通信学習
4	呼吸機能障害のある患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護 		本校 通信学習
5	循環機能障害のある患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護 		本校 通信学習
6	消化・吸収機能障害のある患者への看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護 		本校 通信学習
7	栄養代謝機能障害のある患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護 		本校 通信学習
8	内部環境(体温、血糖、体液量、電解質、酸塩基平衡)調節機能障害のある患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護 		本校 通信学習

9	内分泌機能障害のある患者の看護	1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護	本校 通信学習
10	身体防御機能の障害のある患者の看護	1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護	本校 通信学習
11	感覚機能障害のある患者の看護	1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護	本校 通信学習
12	脳・神経機能障害のある患者の看護	1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護	本校 通信学習
13	運動機能障害のある患者の看護	1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護	本校 通信学習
14	排泄機能障害のある患者の看護	1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護	本校 通信学習
15	性・生殖機能障害のある患者の看護	1. 機能障害のアセスメント 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 5. 機能障害を持ちながら生活する人の看護	本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 成人看護学〔1〕～〔15〕医学書院		
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）			

専門分野Ⅱ

科目名	老年看護学方法論		指導担当者名	佐藤 好子
学年・時期	1年次・前期			
単位・時間数	1単位(45時間)			
学習目的	老年期にある人が健康的な生活を営むために必要な、看護の基本的な知識・技術・態度を学ぶ。老年の身体的・心理的・社会的特徴、疾病の特徴を踏まえてのアセスメントや、高齢者の生命と健康生活を支える看護を学ぶ。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の老化に伴うリスクと活動性の低下を予防するための生活環境を整える知識・技術を身につける。 2. 高齢者のフィジカルアセスメントについて理解する。 3. 高齢者に起こりやすい健康障害に応じた看護実践について理解する。 4. 高齢者を取り巻く社会環境を理解する。 			
回数	項目	授業内容		授業形態
1	老年看護の基盤	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護のなりたち 2. 老年看護の役割 3. 老年看護に携わる者の責務 		本校 通信学習
2	老年者の生理的特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知・知覚機能の老化 2. 呼吸・循環器機能の老化 3. 代謝・排泄・免疫機能の老化 4. 運動・性機能の老化 		本校 通信学習
3	高齢者の生活機能を整える看護の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活を支える基本的活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事・食生活 2) 排泄・清潔 3) 生活リズム・コミュニケーション 		本校 通信学習
4	高齢者のフィジカルアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体に加齢変化とアセスメント 2. 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント 		本校 通信学習
5	主要な症候	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発熱、痛み、かゆみ、ショック、意識障害、睡眠障害、呼吸困難 2. 摂食、嚥下障害、失禁 3. 転倒、骨折、震戦 		本校 通信学習
6	疾患を持つ高齢者への看護 1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症、脳神経疾患、精神障害、循環器系の疾患 2. 消化器系、代謝疾患 		本校 通信学習
7	疾患を持つ高齢者への看護 2	<ol style="list-style-type: none"> 3. 内分泌疾患、膠原病、血液疾患、感染症 4. 運動器 		本校 通信学習
8	高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の在宅医療における看護の役割 2. 終末期における入院医療と在宅医療の連携 3. エンドオブライフケア 4. 高齢者医療におけるチーム医療 		本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門21 老年看護病態・疾患論 医学書院			
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）				

専門分野Ⅱ

科目名	小児看護学方法論		指導担当者名 宮本 紗由理
学年・時期	1年次・後期		
単位・時間数	1単位(45時間)		
学習目的	小児期にある子どもの身体的・心理的・社会的特徴、発達課題、疾病の特徴を踏まえてのアセスメントや、子どもの生命と健康生活や家族を支える看護を学ぶ。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期における健康の保持・増進のために必要な看護について理解する。 2. 健康障害や入院生活が子どもと家族に与えるストレスと、看護を理解する。 3. さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解する。 4. 健康障害をもつ子どもと家族に及ぼす影響を考慮した看護援助が考えられる。 		
回数	項目	授業内容	授業形態
1	子どものアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントに必要な技術 2. 身体的アセスメント 	本校 通信学習
2	症状を示す小児の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 熱と機嫌 2. 呼吸・循環系の症状 3. 消化器症状 4. 脱水・浮腫 5. 出血・貧血 6. けいれん・意識障害・黄疸 	本校 通信学習
3	検査・処置を受ける小児の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査・処置総論 2. 小児の与薬 3. 検査・処置各論 	本校 通信学習
4	健康障害を持つ子どもと家族の看護(1)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気や入院が家族に与える影響 2. 外来における子どもと家族 3. 検査や処置を受ける子どもと家族 	本校 通信学習
5	健康障害を持つ子どもと家族の看護(2)	<ol style="list-style-type: none"> 4. 活動制限が必要な子どもと家族 5. 感染対策上隔離が必要な子どもと家族 	本校 通信学習
6	健康障害を持つ子どもと家族の看護(3)	<ol style="list-style-type: none"> 6. ハイリスク新生児と家族 7. 先天的な問題のある子どもと家族 8. 周手術期における子どもと家族 9. 心身障害のある子どもと家族 	本校 通信学習
7	健康障害を持つ子どもと家族の看護(4)	<ol style="list-style-type: none"> 10. 急性期にある子どもと家族 11. 慢性期にある子どもと家族 12. 痛みのある子どもと家族・在宅における子どもと家族の看護 	本校 通信学習
8	健康障害を持つ子どもと家族の看護(5)	<ol style="list-style-type: none"> 13. 救急救命処置が必要な子どもと家族 14. 災害を受けた子どもと家族 15. まとめ 	本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	・系統看護学講座小児看護学 [1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 ・系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院		
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）			

専門分野Ⅱ

科目名	母性看護学方法論		指導担当者名	大川 加奈
学年・時期	1年次・前期			
単位・時間数	1単位(45時間)			
学習目的	女性の生物学的側面、心理・社会・文化的側面を重視するウイメンズヘルスの視点から女性の健康をとらえ、ライフサイクルにおける女性の健康問題と健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的能力を養う			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖に関わる看護について学ぶ。 2. 正常な経過にある妊産褥婦・新生児の特性と看護について学ぶ。 3. 異常経過にある妊産褥婦・新生児の看護と起こりやすい問題について理解する。 4. 妊産褥婦・新生児の看護過程の展開について理解する。 			
回数	項目	授業内容		授業形態
1	母性看護の対象理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2. 女性のライフサイクルと家族 3. 母性の発達・成熟・継承 		本校 通信学習
2	女性のライフステージ各期における看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 思春期の健康と看護 2. 成熟期の健康と看護 3. 更年期の健康と看護 4. 老年期の健康と看護 		本校 通信学習
3	出生前からのリプロダクティブヘルスケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブヘルスケアの必要性 2. 遺伝相談 3. 不妊治療と看護 		本校 通信学習
4	妊娠期における看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の身体的特性 2. 妊娠期の心理・社会的特性 3. 妊婦と胎児のアセスメント 4. 妊婦と家族の看護 		本校 通信学習
5	分娩期における看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩の要素 2. 分娩の経過 3. 産婦・胎児、家族のアセスメント 4. 産婦と家族の看護 5. 分娩期の看護の実際 		本校 通信学習
6	産褥期における看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産婦の経過 2. 褥婦のアセスメント 3. 褥婦と家族の看護 4. 施設退院後の看護 		本校 通信学習
7	妊娠・分娩・新生児・産褥期の異常	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠異常と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) ハイリスク妊娠 2. 分娩の異常の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 産道・娩出力・胎児及び付属物の異常、産科手術 3. 新生児の異常と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新生児仮死と分娩外傷、低出生体重児 4. 産褥の異常と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子宮復古の異常、感染症、乳房トラブル 5. 精神障害合併妊婦と家族の看護 		本校 通信学習
8	母性看護に必要な看護技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護における看護過程 2. 情報収集・アセスメント技術 3. 母性看護に使われる看護技術 		本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門24 母性看護学[1] 専門25 母性看護学[2] 医学書院			
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）				

専門分野Ⅱ

科目名	精神看護学方法論		指導担当者名 人見 朗
学年・時期	1年次・後期		
単位・時間数	1単位(45時間)		
学習目的	精神の健康の保持増進、精神の健康障害の予防、および障害をきたした人々に対する適切な看護援助について学び、これらの学びを通して、広く看護全般に活用しうる精神看護学の知識を養う。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康の保持増進と、その予防の重要性を理解する。 2. 精神の疾患や、主な症状および治療に必要な看護援助を理解する。 3. 精神障害者の、地域生活を支えていくための援助について理解する。 		
回数	項目	授業内容	授業形態
1	精神の健康と障害	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康とは 2. 精神障害の体験 3. 精神障害のとらえかた 	本校 通信学習
2	人間の心のはたらき	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の心の諸活動 2. 心のしくみと人格の発達 3. 危機介入とストレス理論 	本校 通信学習
3	関係の中の個人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体としての家族 2. 人間と集団 	本校 通信学習
4	精神科で出会う人々	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神を病むことと生きること 2. 精神症状論と状態像・理解への手がかり 3. 精神障害の診断と分類 	本校 通信学習
5	精神科での治療	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法 2. 精神療法 3. 行動療法およびリラクセーション 4. 環境療法・社会療法 5. 集団精神療法 6. 家族療法 	本校 通信学習
6	ケアの人間関係	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアの前提 2. ケアの原則 3. ケアの方法 4. 関係をアセスメントする 5. 患者-看護師関係でおこること 6. チームのダイナミクス 	本校 通信学習
7	精神科における看護の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院の意味を理解する 2. 治療的環境をつくる 3. 安全をまもる 4. 緊急事態に対処する 5. 回復を助ける 	本校 通信学習
8	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師のイメージ 2. 看護師の不安と防衛 3. 感情労働としての看護 4. 看護師の感情ワーク 5. 看護における共感の光と影 6. 感情労働の代償 7. 感情労働を生きのびるために 	本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院 精神看護学Ⅱ 精神看護の展開 医学書院		
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）			

統合分野

科目名	在宅看護方法論		指導担当者名 関水 仁美
学年・時期	1年次・後期		
単位・時間数	1単位(45時間)		
学習目的	在宅看護概論での学びを基礎に、健康問題やそれに伴う生活障害を持ちながら生活する療養者とその家族のニーズに基づくアセスメントや、生活の質の維持・向上に向けての看護を理解する。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養することの意義と在宅療養者のニーズに応じた看護を理解できる。 2. 在宅療養者の健康レベルと生活状態を考慮した看護の目的及び方法を理解できる。 3. 日常生活を整える援助に必要な技術の基本を学ぶことができる 4. 医療上の観察、処置を必要とする療養者への看護を理解できる。 		
回数	項目	授業内容	授業形態
1	在宅看護の目的と特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目ざすもの <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護が提供される場 2) 在宅看護の場の広がり 3) あらゆる面からQOLを考える 2. 在宅看護における看護師の機能と役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者社会の進展と地域連携システム 2) 医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割 3) 在宅看護における看護師の倫理 	本校 通信学習
2	在宅看護の対象者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 年齢からみた対象者の特徴 2) 疾患からみた対象者の特徴 3) 障害からみた対象者の特徴 4) 訪問看護制度の経緯からみた対象者 2. 住まい方と健康 3. 家族 	本校 通信学習
3	在宅療養の支援	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の提供方法 2. 療養の場の移行 3. 在宅看護の基本となるもの 	本校 通信学習
4	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護制度の創設と発展経緯 2. 在宅看護にかかわる法令・制度 3. 介護保険制度 4. 訪問看護の制度 5. 訪問看護サービスの提供 6. ケアマネジメントと社会資源の活用 7. 地域における多職種連携 	本校 通信学習
5	在宅看護の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護過程展開のポイント 2. 在宅看護過程の展開方法 3. 療養上のリスクマネジメント 4. 在宅看護における権利保障 	本校 通信学習
6	在宅看護技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で看護を展開するにあたって 2. 在宅で求められる看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸に関する在宅看護技術 2) 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 3) 排泄に関する在宅看護技術 4) 移動・移乗に関する在宅看護技術 5) 清潔に関する在宅看護技術 6) 認知機能のアセスメント法と援助技術 7) コミュニケーションの支援 8) 在宅におけるエンドオブライフケア 	本校 通信学習
7	在宅看護技術	<ol style="list-style-type: none"> 3. 在宅における医療管理を要する人の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 褥瘡の予防とケア 2) 尿道留置カテーテル 3) ストーマ(人工肛門・人工膀胱) 4) 経管栄養法 5) 在宅中心静脈栄養法(HPN) 6) 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) 7) 在宅酸素療法(HOT) 8) 在宅人工呼吸療法(HMV)と吸引 9) 外来がん治療の支援 10) 疼痛管理 	本校 通信学習

8	在宅看護の実際	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開 1 療養者についての情報 2 アセスメント 3 看護目標・計画 4 訪問看護の実施経過と評価	本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 在宅看護論 医学書院		
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）			

統合分野

科目名	看護管理		指導担当者名	人見 朗
学年・時期	1年次・後期			
単位・時間数	1単位(45時間)			
学習目的	医療チームの一員としてのあり方を実際の臨床場面をもとに考えることで、チーム医療・看護ケアにおける看護としてのマネジメントができる基礎的能力を養う。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の中の多職種との連携・協働の必要性と実際が理解できる。 2. 看護における管理の意味と必要性が理解できる。 3. 看護ケアにおける看護管理が理解できる。 4. 看護サービスにおける看護管理が理解できる。 5. 諸制度と看護管理について理解できる。 6. マネジメントに必要な知識と技術が理解できる。 			
回数	項目	授業内容		授業形態
1	看護を取り巻く諸制度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の定義 2. 看護職 3. 看護実践の領域と場 		本校 通信学習
2	看護管理とは	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の定義と目的 2. 看護管理過程 3. 看護職に求められるマネジメント 		本校 通信学習
3	病院の中でのチーム医療の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他職種の役割の理解と調整 2. 協働作業の中での看護師の役割 3. 医療事故、院内感染の予防と対策 		本校 通信学習
4	看護におけるマネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護ケアにおける看護管理とは 2. チーム医療と看護師の役割 		本校 通信学習
5	看護サービスと看護管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報管理 2. 物品管理 3. 診療報酬と患者の権利 4. 入院料と患者サービス 		本校 通信学習
6	看護サービスと看護管理	<ol style="list-style-type: none"> 5. 患者満足度調査の活用 6. 組織と看護管理 7. 看護サービスの管理 		本校 通信学習
7	安全管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理規定と倫理委員会の活動 2. 看護師の法的責任 3. 看護業務の中の判断基準 		本校 通信学習
8	労務管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 労働管理と勤務体制 2. 看護職員の精神的負担への支援 3. 看護職員のストレスの実際 		本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 看護管理 医学書院			
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）				

統合分野

科目名	医療安全		指導担当者名	佐藤 好子
学年・時期	1年次・後期			
単位・時間数	1単位(45時間)			
学習目的	医療安全における基本的な知識、および看護職の責務と役割について学習する。また、医療現場における危険の予知と回避、および事故防止などの安全対策の理論と方法を学習する			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の基本的な知識を深めることができる。 2. 看護業務の範囲と責任について理解できる。 3. ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について理解できる。 4. 事故報告の意味と必要性について理解できる。 			
回数	項目	授業内容		授業形態
1	医療安全と看護の理念	<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ医療安全を学ぶのか 2. 医療安全に関わる動向 3. 医療安全の対象 4. 医療安全に関する基礎知識 		本校 通信学習
2	医療安全への取り組みと医療の質の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法における安全対策 2. 医療事故の定義・分類 		本校 通信学習
3	医療機関における安全対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織としての取り組み 2. 自己の原因と対策 		本校 通信学習
4	看護における医療事故と安全対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護業務と事故発生要因 2. 医療事故の種類と分析・安全対策 		本校 通信学習
5	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事故発生のメカニズム 2. 自己分析 3. リスク軽減の考え方 		本校 通信学習
6	患者・家族との協同と安全文化の醸成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・家族との協同 2. 医療安全管理者 3. 全員参加の医療安全 		本校 通信学習
7	医療事故とその対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故発生時の初期対応 2. 紛争化の防止対策 3. 専門職としての個々の備え 		本校 通信学習
8	看護業務上の危険とその安全対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 危険を伴う看護業務と安全対策 2. 習得すべき看護技術のリスクと安全 		本校 通信学習
評価方法	レポート、筆記試験			
テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(2)：医療安全 第3版 メディカ出版			
実務経験のある教員等による授業科目（病院等で5年以上）				

水戸看護福祉専門学校

2020年度

前期教授要目

学校法人 八文字学園

水戸看護福祉専門学校

介護福祉学科 2年生

目次

介護福祉学科2年 前期シラバス

大項目	中項目	科目名	(ページ)
教科目（人間と社会）			… 3
人間と社会	必須科目	文化と礼作法Ⅱ（美容）	… 4
教科目（介護）			… 5
介護	介護の基本	介護福祉論Ⅲ	… 6
		対人関係論	… 8
		介護の基本（リハビリ）	… 7
	生活支援技術	生活自立支援技術Ⅲ	… 9
		生きがい支援技術（福祉レク）	… 11
	介護過程	介護過程実践	… 12
		介護サービス論	… 13
	介護総合演習	介護総合演習Ⅲ	… 14
	介護実習	介護実習Ⅳ	… 15
	教科目（こころとからだのしくみ）		
教科目（介護関連技術）			… 17
介護関連技術	介護事務	介護事務	… 18
教科目（医療的ケア）			… 19
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅡ	… 20
		医療的ケアⅢ	… 21

【大項目】	人間と社会
--------------	--------------

【教科目責任者】	山本 真由美
【教科目の概要】	人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーション、社会の理解、また職業人として身につけなければならない文化と礼作法など、介護福祉士にとって基盤となる知識や倫理的態度を学ぶ。
【目的とねらい】	<p>①介護を必要とする者に対する全人的理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。</p> <p>②利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>③アカウンタビリティや根拠に基づく介護実践のための、分かりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。</p> <p>④介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や障害者自立支援法を中心に、社会保障の制度、施策について基礎を学ぶ。</p>

中項目	小項目	時間数	単位数	講義形態	前・後期
人間の尊厳と自立	人間福祉論	30	2	講義	1年後期
人間関係と コミュニケーション	人間関係論	30	2	講義	1年前期
	手話	30	1	演習	1年前期
	情報リテラシー	30	1	演習	1年後期
社会の理解	法と社会保障	30	2	講義	1年後期
	社会福祉の基礎	30	2	講義	1年前期
必須科目	文化と礼作法Ⅰ(国際教養)	30	2	講義	1年前期
	文化と礼作法Ⅱ(美容)	60	4	講義	2年前期

【科目名】	文化と礼作法Ⅱ(美容)																																		
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	講義																														
【授業回数】	30回	【授業時間】	60時間	【単位数】	4単位(必修)																														
【大項目】	人間と社会		【中項目】	必須科目																															
【担当者】	美容師としてサロンで10年以上経験			【実務経験】	有																														
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 利用者のQOL(生活の質)を高め、いつまでも生き生きと活発に生活するために、美容の視点を取り入れた整容、清潔の支援(美容福祉)を習得する。</p> <p><授業の概要> 講義の中に演習を交えながら実際的な学習を展開する。 ハンドマッサージ、化粧療法、ヘアスタイリング、ネイルケアの実際を学ぶ。</p>																																		
【授業計画】	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 美容福祉の実際ヘアスタイル③</td> </tr> <tr> <td>2. 美容と介護の関係</td> <td>17. メイクセラピーを理解する</td> </tr> <tr> <td>3. 自立と美容福祉 美容福祉の効果</td> <td>18. カウンセリング概論</td> </tr> <tr> <td>4. 美容福祉の実際(化粧療法)口紅①</td> <td>19. 顔と心の化粧の関係</td> </tr> <tr> <td>5. 〃 (化粧療法)口紅②</td> <td>20. スキンケア概論</td> </tr> <tr> <td>6. 〃 (化粧療法)眉①</td> <td>21. 〃</td> </tr> <tr> <td>7. 〃 (化粧療法)眉②</td> <td>22. メイクアップ概論</td> </tr> <tr> <td>8. 〃 ファンデーション①</td> <td>23. 〃</td> </tr> <tr> <td>9. 〃 ファンデーション②</td> <td>24. 〃</td> </tr> <tr> <td>10. 〃 ハンドマッサージ①</td> <td>25. 〃</td> </tr> <tr> <td>11. 〃 ハンドマッサージ②</td> <td>26. 検定対策①</td> </tr> <tr> <td>12. 〃 フェイスマッサージ①</td> <td>27. 〃 ②</td> </tr> <tr> <td>13. 〃 フェイスマッサージ②</td> <td>28. 〃 ③</td> </tr> <tr> <td>14. 〃 ヘアスタイル①</td> <td>29. 〃 ④</td> </tr> <tr> <td>15. 〃 ヘアスタイル②</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>					1. 授業オリエンテーション	16. 美容福祉の実際ヘアスタイル③	2. 美容と介護の関係	17. メイクセラピーを理解する	3. 自立と美容福祉 美容福祉の効果	18. カウンセリング概論	4. 美容福祉の実際(化粧療法)口紅①	19. 顔と心の化粧の関係	5. 〃 (化粧療法)口紅②	20. スキンケア概論	6. 〃 (化粧療法)眉①	21. 〃	7. 〃 (化粧療法)眉②	22. メイクアップ概論	8. 〃 ファンデーション①	23. 〃	9. 〃 ファンデーション②	24. 〃	10. 〃 ハンドマッサージ①	25. 〃	11. 〃 ハンドマッサージ②	26. 検定対策①	12. 〃 フェイスマッサージ①	27. 〃 ②	13. 〃 フェイスマッサージ②	28. 〃 ③	14. 〃 ヘアスタイル①	29. 〃 ④	15. 〃 ヘアスタイル②	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 美容福祉の実際ヘアスタイル③																																		
2. 美容と介護の関係	17. メイクセラピーを理解する																																		
3. 自立と美容福祉 美容福祉の効果	18. カウンセリング概論																																		
4. 美容福祉の実際(化粧療法)口紅①	19. 顔と心の化粧の関係																																		
5. 〃 (化粧療法)口紅②	20. スキンケア概論																																		
6. 〃 (化粧療法)眉①	21. 〃																																		
7. 〃 (化粧療法)眉②	22. メイクアップ概論																																		
8. 〃 ファンデーション①	23. 〃																																		
9. 〃 ファンデーション②	24. 〃																																		
10. 〃 ハンドマッサージ①	25. 〃																																		
11. 〃 ハンドマッサージ②	26. 検定対策①																																		
12. 〃 フェイスマッサージ①	27. 〃 ②																																		
13. 〃 フェイスマッサージ②	28. 〃 ③																																		
14. 〃 ヘアスタイル①	29. 〃 ④																																		
15. 〃 ヘアスタイル②	30. 期末試験																																		
【関連資格】	介護福祉士国家資格 NPO法人日本人材教育協会メイクセラピー検定3級																																		
【評価方法】	出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。																																		
【テキスト】	「メイクセラピー入門(3級対策)」 ※ 参考文献「美容福祉の魔法のちから」講談社、2007年(プリント作成)																																		
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。																																		

【大項目】	介護
--------------	-----------

【教科目責任者】	埜 富美子
【教科目の概要】	介護福祉士養成カリキュラムの中核を担う科目群を束ねるのが、本教科目である。換言すれば、介護福祉士となるために最重要学習課題が集結していることになる。一年次から継続的に行う科目がほとんどであるが、これは介護福祉士養成課程のすべての時間にわたって学習が必要な科目であることを意味している。一つ一つの学習を、煉瓦で家を建てるがごとく積み重ねていくことが大切である。
【目的とねらい】	本教科目の目的は、介護福祉士として必要な学習の習得であるが、二年次生においてはさらに「生活者の視点」を重視して学習に取り組むこととしたい。本教科目のねらいとしては、われわれの生活の延長線上に介護という領域が存在することを再確認し、介護という営みが机上の空論とならないよう援助者側が認識を高めることとしている。これらが達成されることで、様々な領域で活躍できる介護福祉士を目指すのである。

中項目	小項目	時間数	単位数	講義形態	前・後期
介護の基本	介護福祉論Ⅰ	60	4	講義	1年前期
	介護福祉論Ⅱ	30	2	講義	1年後期
	介護福祉論Ⅲ	30	2	講義	2年前期
	介護の基本(リハビリ)	30	2	講義	2年前期
	行動支援	30	2	講義	2年後期
コミュニケーション技術	コミュニケーション	30	1	演習	1年後期
	対人関係論	30	2	講義	2年前期
生活支援技術	生活自立支援Ⅰ	60	2	演習	1年前期
	生活自立支援Ⅱ	60	2	演習	1年後期
	生活自立支援Ⅲ	30	1	演習	2年前期
	生活自立支援Ⅳ	30	1	演習	2年後期
	レクリエーション活動援助法Ⅰ	60	2	演習	1年前期
	生きがい支援技術Ⅰ	30	1	演習	1年後期
	生きがい支援技術Ⅱ	60	2	演習	2年前期
	生きがい支援技術Ⅲ	30	1	演習	2年後期
介護過程	介護過程理論Ⅰ	60	4	講義	1年前期
	介護過程理論Ⅱ	30	2	講義	1年後期
	介護過程実践	30	2	講義	2年前期
	介護サービス論	30	2	講義	2年前期
介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	60	2	演習	1年前期
	介護総合演習Ⅱ	60	2	演習	1年後期
	介護総合演習Ⅲ	30	1	演習	2年前期
介護実習	介護実習Ⅰ	48	1	実習	1年前期
	介護実習Ⅱ	96	2	実習	1年後期
	介護実習Ⅲ	120	3	実習	1年後期
	介護実習Ⅳ	160	3.5	実習	2年前期
	介護実習Ⅴ(在宅介護実習)	26	0.5	実習	2年後期

【科目名】	介護福祉論Ⅲ				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	講義
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	介護の基本	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 家庭生活の意義を理解し、生活の基盤となる衣食住の支援に焦点をあてた介護の基本を学習する。及び、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。</p> <p><授業の概要> 食生活の分野における知識は、講義形式および演習問題を行う中で習得する。技術・技法は実際の作業をとおして理解を深める。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 家庭生活の理解・営み 3. 家庭生活にかかわる基本知識① 4. 家庭生活にかかわる基本知識② 5. 居住環境の整備の意義と目的 6. 安心して快適な生活の場づくり 7. 食事と生活習慣病 8. 献立の立て方 9. 高齢者・障害者の栄養と調理① 10. 高齢者・障害者の栄養と調理② 11. 高齢者・障害者の栄養と調理③ 12. 高齢者・障害者の栄養と調理④ 13. 高齢者・障害者の栄養と調理⑤ 14. 高齢者・障害者の栄養と調理⑥ 15. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況、受講態度、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」中央法規 必要に応じて、講義時に資料を配付します。				
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

【科目名】	介護の基本（リハビリ）				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	講義
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	介護の基本	
【担当者】	理学療法士として福祉施設で10年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 介護の基本としてリハビリの観点から、身体障害・精神障害をもつ方に対して、病理学的理解・リスクマネジメントを踏まえたADL・IADLの援助方法を学ぶ。また、リハビリ職との連携について学ぶ。</p> <p><授業の概要> ①リハビリテーション理念とその体系について、②ADLの基本、③身体障害（脳卒中、整形疾患、内部障害、難病）、④精神障害について。講義、実技演習、レポート課題を行う。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. リハビリテーション理念と障害、リハビリテーション体系 3. 高齢化による機能障害 4. 脳卒中とADL① 5. 脳卒中とADL② 6. 脳卒中とADL③ 7. 整形疾患 8. 内部障害 9. 難病 10. 知的障害・精神障害 11. 小児の障害 12. 認知症 13. まとめ① 14. まとめ② 15. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	講談社「新しい介護」				
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

【科目名】	対人関係論				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	講義
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	コミュニケーション技術	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 介護を実践する上で求められるコミュニケーションの基礎的なスキルを習得し、利用者の心身の状態を適切にアセスメントできる技能も習得する。また、支援を実践する上で求められる職場内・間の連携の必要性を知り、スキルの習得も目指す。</p> <p><授業の概要> 座学と演習を通して、介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、技能を習得する。講義は演習をメインとして展開する。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護におけるコミュニケーションとは？ 2. 介護におけるコミュニケーションの役割 3. 介護における生活支援とコミュニケーション 4. 話を聴く技法 5. 利用者の感情表現を察する技法・利用者の納得と同意を得る技法 6. 質問の技法 7. 相談・助言・指導の技法 8. 利用者の意欲を引き出す技法 9. 利用者と家族の意向を調整する技法 10. 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法 11. コミュニケーション障害の理解と対応 12. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 13. チームのコミュニケーション 14. 記録・報告・連絡・相談・会議 15. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況、受講態度、授業ごとの演習への取り組み、期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	最新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」中央法規 ※ その他、随時資料を配付します。				
【備考】	分からないことがあれば、適宜質問してください。 授業への主体的な取り組みの程度も評価に含めます。				

【科目名】	生活自立支援技術Ⅲ				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	演習
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	1単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	生活支援技術	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 1年次で身につけた基本的な介護技術を、さらに実践的に活用できるよう学習を展開する。様々な障害があつたとしても介護を必要とする人の尊厳を保持し、個別的介護の考え方や技法を、実践的に体得する。</p> <p><授業の概要> 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点を考え、根拠に基づいた個別的介護ができるように実践を重ねていく。さらに、安心・安全な技術の習得と知識の獲得を目指す。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 利用者の状況に応じた身支度の介護① 3. 利用者の状況に応じた身支度の介護② 4. 利用者の状況に応じた身支度の介護③ 5. 利用者の状況に応じた移動の介護 6. 中間試験（複合的介助） 7. 中間試験（複合的介助） 8. 利用者の状況に応じた排泄の介護① 9. 利用者の状況に応じた排泄の介護② 10. 利用者の状況に応じた清潔保持の介護① 11. 利用者の状況に応じた清潔保持の介護② 12. 在宅介助 13. 期末試験対策 14. 期末試験（複合的介助） 15. 期末試験（複合的介助） 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	実技試験，出席状況，授業態度等，総合的評価				
【テキスト】	新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅲ」中央法規				
【備考】	事故防止に十分留意し，安心安全な演習をこころがけること。 演習にあたっては事前に身だしなみを整え準備をしておくこと。				

【科目名】	家政学				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	演習
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	生活支援技術	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 家政学は生活支援において不可欠である。要介護者の生活に関与し快適な生活環境を創出し、生活を安定させることがたいせつである。家政の在り方によって、介護の質が左右される点からも介護福祉士として基礎知識を身につける。</p> <p><授業の概要> 生活経営、衣食住について学び、利用者の状態・状況に応じた、根拠に基づいた個別的介護ができるように学ぶ。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 生活支援とは 3. 介護における家政学の意義 4. 生活主体と自立支援 5. 家事支援サービスと地域ネットワーク 6. 生活に関する制度や法律 7. 介護福祉における被服と衣生活 8. 高齢者とおしゃれ 9. 被服の機能・性能と素材 10. 食生活と食文化 11. 高齢者・障害のある人の食生活と自立支援 12. 食生活と栄養 13. 高齢・障害による機能低下と住 14. 安全 15. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	実技試験，出席状況，授業態度等，総合的評価				
【テキスト】	新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅲ」中央法規				
【備考】	事故防止に十分留意し，安心安全な演習をこころがけること。 演習にあたっては事前に身だしなみを整え準備をしておくこと。				

【科目名】	生きがい支援技術Ⅱ（福祉レク）																																		
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	演習																														
【授業回数】	30回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)																														
【大項目】	介護		【中項目】	生活支援技術																															
【担当者】	福利レクリエーションインストラクターとして県協会で5年以上経験			【実務経験】	有																														
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 福祉サービスを利用する人々に寄り添いながら満を足りた気持ちを感じたり、生きがいや張り合いとなる活動の手助け、その人らしい元気の回復を支える生活支援技術を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>生きがい支援を通して、人々の成長や生きがい、人と人とのつながりなどを創り出すことができる。</p>																																		
【授業計画】	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 自立的な生きがい活動の追及</td> </tr> <tr> <td>2. 個人への介入の構造</td> <td>17. 支援の基本的な考え方と方法</td> </tr> <tr> <td>3. 個人への介入方法を生かした活動の展開</td> <td>18. 社会資源の実際</td> </tr> <tr> <td>4. 通所施設での展開事例</td> <td>19. 事例1、2</td> </tr> <tr> <td>5. 入居施設での展開事例</td> <td>20. 事例3、4</td> </tr> <tr> <td>6. 介護施設での展開事例</td> <td>21. 事例5、6</td> </tr> <tr> <td>7. 1対1のレクリエーション活動例</td> <td>22. 活動のアレンジ</td> </tr> <tr> <td>8. 対象者同士の相互作用を引き出すレクリエーション</td> <td>23. 元になるレクリエーションを知る</td> </tr> <tr> <td>9. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方</td> <td>24. アレンジと創作の実際</td> </tr> <tr> <td>10. 小集団を生かしたプログラムづくり</td> <td>25. アレンジのポイント</td> </tr> <tr> <td>11. 事例1</td> <td>26. アレンジを生かした活動例1～3</td> </tr> <tr> <td>12. 事例2</td> <td>27. アレンジを生かした活動例4～6</td> </tr> <tr> <td>13. 事例3</td> <td>28. アレンジを生かした活動例7～9</td> </tr> <tr> <td>14. 事例4</td> <td>29. まとめ</td> </tr> <tr> <td>15. 事例5</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>					1. 授業オリエンテーション	16. 自立的な生きがい活動の追及	2. 個人への介入の構造	17. 支援の基本的な考え方と方法	3. 個人への介入方法を生かした活動の展開	18. 社会資源の実際	4. 通所施設での展開事例	19. 事例1、2	5. 入居施設での展開事例	20. 事例3、4	6. 介護施設での展開事例	21. 事例5、6	7. 1対1のレクリエーション活動例	22. 活動のアレンジ	8. 対象者同士の相互作用を引き出すレクリエーション	23. 元になるレクリエーションを知る	9. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方	24. アレンジと創作の実際	10. 小集団を生かしたプログラムづくり	25. アレンジのポイント	11. 事例1	26. アレンジを生かした活動例1～3	12. 事例2	27. アレンジを生かした活動例4～6	13. 事例3	28. アレンジを生かした活動例7～9	14. 事例4	29. まとめ	15. 事例5	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 自立的な生きがい活動の追及																																		
2. 個人への介入の構造	17. 支援の基本的な考え方と方法																																		
3. 個人への介入方法を生かした活動の展開	18. 社会資源の実際																																		
4. 通所施設での展開事例	19. 事例1、2																																		
5. 入居施設での展開事例	20. 事例3、4																																		
6. 介護施設での展開事例	21. 事例5、6																																		
7. 1対1のレクリエーション活動例	22. 活動のアレンジ																																		
8. 対象者同士の相互作用を引き出すレクリエーション	23. 元になるレクリエーションを知る																																		
9. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方	24. アレンジと創作の実際																																		
10. 小集団を生かしたプログラムづくり	25. アレンジのポイント																																		
11. 事例1	26. アレンジを生かした活動例1～3																																		
12. 事例2	27. アレンジを生かした活動例4～6																																		
13. 事例3	28. アレンジを生かした活動例7～9																																		
14. 事例4	29. まとめ																																		
15. 事例5	30. 期末試験																																		
【関連資格】	介護福祉士国家資格																																		
【評価方法】	出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。																																		
【テキスト】	日本レクリエーション協会「楽しさの追及を支えるための介入技術」、2013アイスブレーキングゲーム集																																		
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。																																		

【科目名】	介護過程実践				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	講義
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	介護過程	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい></p> <p>(1) 1年次までに学習した介護過程の基礎理論・技術を確実に修得し活用できるようになる。 (2) 利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護を介護を提供することができるようになる。(3) 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。(4) 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を実践することができるようになる。</p> <p><授業の概要></p> <p>授業全般において、教科書の基礎理論を振り返りながら、多くの模擬事例・実習事例を検討することにより、福祉現場の実践に対応できる理論及び援助技術の修得を目指します。事例検討については、グループディスカッションや、全体討議、発表の場を多く設定します。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 介護過程実践を考えるⅠ（基礎事例検討） 3. 介護過程実践を考えるⅡ（基礎事例検討） 4. 介護過程の展開の基礎Ⅰ（事例検討） 5. 介護過程の展開の基礎Ⅱ（事例検討） 6. 介護過程の展開の基礎Ⅲ（事例検討） 7. 介護過程の展開の基礎Ⅳ（事例検討） 8. 介護過程の展開の基礎Ⅴ（事例検討） 9. 介護技術の計画と評価Ⅰ（事例検討） 10. 介護技術の計画と評価Ⅱ（事例検討） 11. 介護技術の計画と評価Ⅲ（事例検討） 12. 介護技術の計画と評価Ⅳ（事例検討） 13. 介護技術の計画と評価Ⅴ（事例検討） 14. 全体の振り返り 15. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	<p>授業への積極的な参加度（発表、課題への取り組み、受講態度等）50%、定期試験50%とし、総合的に評価する。 ※受講態度に問題がある場合は上記の割合に関わらず減点の措置を講じます。</p>				
【テキスト】	<p>新・介護福祉士養成講座9「介護過程」 ※ その他、随時補助教材を配付します。</p>				
【備考】	<p>自ら学ぶ意識を強く持つこと。わからない内容は適宜質問をすること。 ※授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>				

【科目名】	介護サービス論				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	講義
【授業回数】	14回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	介護過程	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 介護福祉士の知識には、介護保険制度に精通していることも求められている。本講義では、介護保険事務の中核を担う介護事務管理士資格を取得するために必要な総論（制度論）と、各論（給付管理）を学習する。</p> <p><授業の概要> 前半部分では介護保険制度論について全体的な整理を行い、後半部分では介護保険請求の中心である給付管理業務や窓口業務について学習を行う。対象者が、日常生活に支障を有する方たちであることを念頭に置き学習されたい。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション・制度の仕組み 2. 介護保険制度の仕組み① 3. 介護保険制度のしくみ② 4. 介護保険サービスの種類 5. 介護保険サービス提供の流れ 6. 支給限度額と給付管理業務① 7. 支給限度額と給付管理業務② 8. 請求と支払 9. 利用者負担の徴収と他制度との関係① 10. 利用者負担の徴収と他制度との関係② 11. 利用者負担の徴収と他制度との関係③ 12. 利用者負担の軽減策 13. 介護従事者の基本知識 14. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況，受講態度，提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	介護事務テキスト1「介護保険制度のしくみ」・テキスト2「算定の方法」 介護事務テキスト3「レセプトの書き方」・サービスコード表（ソラスト）				
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

【科目名】	介護総合演習Ⅲ				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	演習
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	1単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	介護総合演習	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 6月に実施される介護実習Ⅳ(22日間176時間)に向けて、そして、介護施設での最後の実習に向けて、Plan Do Seeの視点から学習を行う。具体的には、学習者が自らの実習課題を設定し、それを達成しうるための方策を検討する場とする。</p> <p><授業の概要> 一年次に履修した介護実習Ⅰ～Ⅲでの経験や報告点を生かし、4週間実習で学ぶべきものを多くするための検討を重ねる。そのためにはグループワークを多く取り入れ、他者の意見に耳を傾けること、話し合いの記録を作成すること、発表によるプレゼンテーション能力などのスキルを高めていきたい。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 第4段階介護実習準備①前回までの報告と今後の展望 3. 前回の続き、および、個人票、実習テーマ、実習施設概要表作成 4. 前回の続き、および、実習計画書作成 5. 実習事前訪問 6. 実習事前訪問報告書の提出と確認 7. 実習報告会準備 8. 実習報告会準備 9. 実習報告会準備 10. 実習報告会準備 11. 実習報告会発表 12. 実習報告会発表 13. 第5段階実習準備 14. 第5段階実習準備 15. 第5段階実習準備 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況、受講態度(特に、発表形式演習時を最重要視する)、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	そのつど資料を配付します。				
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

【科目名】	介護実習Ⅳ				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	---	【授業形態】	実習
【授業回数】	17回	【授業時間】	135時間	【単位数】	3単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	介護実習	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><実習の目的・ねらい> 介護施設・事業所等での実習をとおして、利用者の生活課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた介護計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p><実習の概要> 介護施設・事業所等において一定期間継続して実習を行う中で、利用者の介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実施する。さらに、適宜実習施設担当者からのスーパービジョンを受け、さらに学びを深める。</p>				
【授業計画】	<p><介護実習Ⅳ> 実習期間：17日間</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 利用者の個別性を理解し、利用者のニーズに応える援助方法を学ぶために個別介護過程を展開し、その技術を修得する。 ② 利用者のニーズを考慮した日常生活援助を学ぶ。 ③ 夜間実習を体験することで、施設の援助全般について理解する。 ④ 通所サービス、短期入所サービスなどの居宅サービスの体験から、サービスの現状を把握し、地域における施設の役割を学ぶ。 ⑤ 指導者のスーパービジョンを受けながら、介護の計画の立て方や記録について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。 ⑥ 他の専門職との有機的連携を図ることを実践現場で学ぶ。 <p>具体的行動目標</p> <p>*第1週 施設業務に参加し利用者を観察、担当する利用者を決定する。</p> <p>*第2週 担当する利用者の情報収集（アセスメント）を行う。</p> <p>*第3週 必要に応じて、目標の設定と介護計画の策定、更にもその実施を行う。</p> <p>*第4週 必要に応じて、介護計画に沿った実際を行う。 必要に応じて、介護計画の実践について評価・考察する。</p>				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	規定時間の出席、実習施設指導者および本科担当教員による総合的評価にもとづく。				
【テキスト】					
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

【大項目】	こころとからだのしくみ
--------------	--------------------

【教科目責任者】	埜 富美子
【教科目の概要】	対象者の生活支援を行う上で、身体及び心身の基礎的な理解は必須である。対象者を理解するための初歩として、同じ“ヒト”である“自分”の理解は不可欠である。近年増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野でも対応できる技能習得のためにも、本教科目では、自らの生活習慣を振り返りながら、「人間とは何か」を問い続け、常に自分との投影を行いながら検討をしていく。
【目的とねらい】	①人間の発達と老化を理解し、根拠に基づいたケアの実践ができる。 ②認知症や障害に関する基礎的知識を習得し、認知症や障害のある人への適切なケア、家族への支援ができる。 ③介護福祉士として専門性の追求や政策への提案を検討し、実践することができる。 ④領域介護に関する知識の統合ができる。

中項目	小項目	時間数	単位数	講義形態	前・後期
発達と老化の理解	基礎心理	30	2	講義	1年後期
	生涯過程	30	2	講義	2年後期
認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	30	2	講義	1年前期
	認知症の理解Ⅱ	30	2	講義	1年後期
障害の理解	障害の理解Ⅰ	30	2	講義	1年後期
	障害の理解Ⅱ	30	2	講義	2年後期
こころと からだのしくみ	基礎医学Ⅰ	30	2	講義	1年前期
	基礎医学Ⅱ	30	2	講義	1年前期
	基礎医学Ⅲ	30	2	講義	1年後期
	精神保健	30	2	講義	2年後期

【大項目】	介護関連技術
--------------	---------------

【教科目責任者】	埴 富美子
【教科目の概要】	介護福祉士に求められる社会的ニーズには、単に個別的ケアの実践にとどまらなくなっている。これは、介護が家庭内の問題から社会的問題に拡大した時代的背景によるところも大きい。しかし、何より専門職として社会に果たすべき責任を、介護福祉士自らが自覚をもつ時期となったことを意味している。資格制度化されて二十余年が経過し、介護福祉士も新たなステージを目指すときが来たのである。
【目的とねらい】	介護福祉士が社会に貢献しうる専門職となるためには、①自らの実践について常にエビデンスを持つこと、②実践の積み重ねこそが社会へ貢献する材料となるという自覚、そして③職業人としての専門職という認識、という点があげられる。これらは所謂「心得」たるものとも認識されるが、学術的な観点からこれらの自己覚知を促していくことを目的としたい。

中項目	小項目	時間数	単位数	講義形態	前・後期
介護事務	介護事務	60	2	演習	2年前期
	住環境支援技術Ⅰ	30	2	講義	1年前期
	住環境支援技術Ⅱ	30	2	講義	1年後期
卒業研究	卒業研究	90	4	講義 演習	2年通年

【科目名】	介護事務																																												
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	演習																																								
【授業回数】	30回	【授業時間】	60時間	【単位数】	2単位(必修)																																								
【大項目】	介護関連技術		【中項目】	介護事務																																									
【担当者】	介護事務管理士として福祉説で3年以上経験			【実務経験】	有																																								
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 介護保険施設において業務の中心のひとつとなる、介護保険請求業務について学習する。介護報酬の単位計算を学ぶことで、介護サービスの仕組みを理解し、最終的には介護事務管理士資格の取得を目指すことを目標とする。</p> <p><授業の概要> 介護事務管理士となるために必要なスキルの習得と、介護事務業務に求められる基礎知識を身につけていく。各介護サービスについての練習問題をとおして理解を深めていく。</p>																																												
【授業内容】	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション(インデックス付)</td> <td>21. 居宅サービスのレセプト(6 41. 介護試験問題(6)</td> </tr> <tr> <td>2. 居宅サービスの算定(1)</td> <td>22. 支援サービスのレセプト(1 42.</td> </tr> <tr> <td>3. 居宅サービスの算定(2)</td> <td>23. 支援サービスのレセプト(2 43.</td> </tr> <tr> <td>4. 居宅サービスの算定(3)</td> <td>24. 支援サービスのレセプト(3 44. 試験</td> </tr> <tr> <td>5. 居宅サービスの算定(4)</td> <td>25. 施設サービスのレセプト(1 45. 試験</td> </tr> <tr> <td>6. 居宅サービスの算定(5)</td> <td>26. 施設サービスのレセプト(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 支援サービス・施設サービス</td> <td>27. 施設サービスのレセプト(3)</td> </tr> <tr> <td>8. 施設サービス(1)</td> <td>28. 施設サービスのレセプト(4)</td> </tr> <tr> <td>9. 施設サービス(2)</td> <td>29. 施設サービスのレセプト(5)</td> </tr> <tr> <td>10. 施設サービス(3)</td> <td>30. 施設サービスのレセプト(6)</td> </tr> <tr> <td>11. 施設サービス(4)</td> <td>31. 学科</td> </tr> <tr> <td>12. 施設サービス(5)</td> <td>32. 介護試験問題(1)</td> </tr> <tr> <td>13. 地域密着サービス(1)</td> <td>33. 介護試験問題(1)</td> </tr> <tr> <td>14. 地域密着サービス(2)</td> <td>34. 介護試験問題(2)</td> </tr> <tr> <td>15. 地域密着サービス(3)</td> <td>35. 介護試験問題(2)</td> </tr> <tr> <td>16. 居宅サービスのレセプト(1)</td> <td>36. 介護試験問題(3)</td> </tr> <tr> <td>17. 居宅サービスのレセプト(2)</td> <td>37. 介護試験問題(3)</td> </tr> <tr> <td>18. 居宅サービスのレセプト(3)</td> <td>38. 介護試験問題(4)</td> </tr> <tr> <td>19. 居宅サービスのレセプト(4)</td> <td>39. 介護試験問題(4)</td> </tr> <tr> <td>20. 居宅サービスのレセプト(5)</td> <td>40. 介護試験問題(5)</td> </tr> </table>					1. 授業オリエンテーション(インデックス付)	21. 居宅サービスのレセプト(6 41. 介護試験問題(6)	2. 居宅サービスの算定(1)	22. 支援サービスのレセプト(1 42.	3. 居宅サービスの算定(2)	23. 支援サービスのレセプト(2 43.	4. 居宅サービスの算定(3)	24. 支援サービスのレセプト(3 44. 試験	5. 居宅サービスの算定(4)	25. 施設サービスのレセプト(1 45. 試験	6. 居宅サービスの算定(5)	26. 施設サービスのレセプト(2)	7. 支援サービス・施設サービス	27. 施設サービスのレセプト(3)	8. 施設サービス(1)	28. 施設サービスのレセプト(4)	9. 施設サービス(2)	29. 施設サービスのレセプト(5)	10. 施設サービス(3)	30. 施設サービスのレセプト(6)	11. 施設サービス(4)	31. 学科	12. 施設サービス(5)	32. 介護試験問題(1)	13. 地域密着サービス(1)	33. 介護試験問題(1)	14. 地域密着サービス(2)	34. 介護試験問題(2)	15. 地域密着サービス(3)	35. 介護試験問題(2)	16. 居宅サービスのレセプト(1)	36. 介護試験問題(3)	17. 居宅サービスのレセプト(2)	37. 介護試験問題(3)	18. 居宅サービスのレセプト(3)	38. 介護試験問題(4)	19. 居宅サービスのレセプト(4)	39. 介護試験問題(4)	20. 居宅サービスのレセプト(5)	40. 介護試験問題(5)
1. 授業オリエンテーション(インデックス付)	21. 居宅サービスのレセプト(6 41. 介護試験問題(6)																																												
2. 居宅サービスの算定(1)	22. 支援サービスのレセプト(1 42.																																												
3. 居宅サービスの算定(2)	23. 支援サービスのレセプト(2 43.																																												
4. 居宅サービスの算定(3)	24. 支援サービスのレセプト(3 44. 試験																																												
5. 居宅サービスの算定(4)	25. 施設サービスのレセプト(1 45. 試験																																												
6. 居宅サービスの算定(5)	26. 施設サービスのレセプト(2)																																												
7. 支援サービス・施設サービス	27. 施設サービスのレセプト(3)																																												
8. 施設サービス(1)	28. 施設サービスのレセプト(4)																																												
9. 施設サービス(2)	29. 施設サービスのレセプト(5)																																												
10. 施設サービス(3)	30. 施設サービスのレセプト(6)																																												
11. 施設サービス(4)	31. 学科																																												
12. 施設サービス(5)	32. 介護試験問題(1)																																												
13. 地域密着サービス(1)	33. 介護試験問題(1)																																												
14. 地域密着サービス(2)	34. 介護試験問題(2)																																												
15. 地域密着サービス(3)	35. 介護試験問題(2)																																												
16. 居宅サービスのレセプト(1)	36. 介護試験問題(3)																																												
17. 居宅サービスのレセプト(2)	37. 介護試験問題(3)																																												
18. 居宅サービスのレセプト(3)	38. 介護試験問題(4)																																												
19. 居宅サービスのレセプト(4)	39. 介護試験問題(4)																																												
20. 居宅サービスのレセプト(5)	40. 介護試験問題(5)																																												
【関連資格】	技能認定振興協会主催		介護事務管理士																																										
【評価方法】	出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。																																												
【テキスト】	介護報酬の算定、介護レセプトの書き方、学習サポートブック ※ その他、資料を配付します。																																												
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。																																												

【大項目】	医療的ケア
【教科目責任者】	大貫 千代子
【教科目の概要】	<p>社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正により、介護福祉士は、平成27年度から、医師の指示の下で「診療の補助」として喀痰吸引等を行うことが認められた。そのため学校における教育が必要となり、本領域および本科目が設定された。</p> <p>学習内容には以下のものがある。①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引の基礎的知識と実施手順（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引 ③経管栄養の基礎的知識と実施手順（胃ろう・腸ろう経管栄養・経鼻経管栄養） ④演習</p> <p>□</p>
【目的とねらい】	医療職との連携のもとで、医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術・態度を修得する。

中項目	小項目	時間数	単位数	講義形態	前・後期
医療的ケア	医療的ケアⅠ（講義）	34	2	講義	1年後期
	医療的ケアⅡ（講義）	34	2	講義	2年前期
	医療的ケアⅢ（演習）	36	1	演習	2年前期
	医療的ケアⅣ（演習）	36	1	演習	2年後期

【科目名】	医療的ケアⅡ				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	講義
【授業回数】	17回	【授業時間】	34時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	医療的ケア		【中項目】	医療的ケア	
【担当者】	看護師として病院で10年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい></p> <p>2013(平成25)年4月から、介護福祉士の業務として“医師の指示の下”医療的ケア(喀痰吸引や経管栄養)が位置づけられた。その為、医療職との連携の下で医療的ケア(喀痰吸引や経管栄養)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術・態度を習得することが必要となった。</p> <p>ゆえに医療的ケア(喀痰吸引や経管栄養)を安全・適切に実施する際に必要な知識・技術・態度を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>「喀痰吸引」と「経管栄養」を安全・適切に実施するために必要な知識・技術・態度を講義する。喀痰吸引は2回(4コマ)経管栄養は2回(4コマ)の演習を行う。その他、部分的な演習を2回(3コマ)行う。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手順：喀痰吸引の実施の手順と留意点 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部 2. 準備演習：手洗い・吸引器の扱い・チューブの扱い・演習のオリエンテーション 3. 演習：喀痰吸引(口腔内・鼻腔内)の実際 4. 演習：喀痰吸引(口腔内・鼻腔内)の実際 5. 演習：喀痰吸引(気管カニューレ内部)の実際 6. 演習：喀痰吸引(気管カニューレ内部)の実際 7. 1 高齢者および障害児・者の「経管栄養」 2 消化器のおもな症状 8. 3 経管栄養とは 4 器具・機材とそのしくみ 5 注入する内容に関する知識 9. 6 経管栄養実施上の留意点 7 子どもの経管栄養 8 経管栄養に必要なケア 10. 9 利用者や家族の気持ち 10 感染と予防 11 生じる危険、注入後の安全確認 12 急変・事故発生時の対応と事前対策 13 報告および記録 11. 準備演習：①物品の準備と確認②カテーテルとイルリガートルの接続③栄養剤の滴下 12. 準備演習：④声掛けと観察⑤カテーテルチップシリンジの扱い・演習オリエンテーション 13. 演習：経管栄養(胃ろう)の実際 14. 演習：経管栄養(胃ろう)の実際 15. 演習：経管栄養(経鼻経管栄養)の実際 16. 演習：経管栄養(経鼻経管栄養)の実際 17. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	<p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p> <p>※ その他、随時資料を配付。</p>				
【テキスト】	<p>最新介護福祉全書13「医療的ケア」メヂカルフレンド社</p> <p>「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版 ※ その他、随時資料を配付。</p>				
【備考】	<p>授業内容は十分に理解するよう努力し、分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>				

【科目名】	医療的ケアⅢ				
【学 科 名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年前期	【授業形態】	演習
【授業回数】	18回	【授業時間】	36時間	【単 位 数】	1単位(必修)
【大 項 目】	医療的ケア		【中 項 目】	医療的ケア	
【担 当 者】	看護師として病院で10年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい></p> <p>喀痰吸引（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引）を安全・適切に、一人で手順どおりに実施するための知識・技術・態度を習得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>喀痰吸引を「手順通りに実施できる」ことを目指し演習を行う。口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部吸引を各5回以上実施する。5回目には「手順通りに実施できる」ことを目指す為、個人の学習や練習が重要となる。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習：授業オリエンテーション・口腔内吸引 2. 演習：口腔内吸引 3. 演習：口腔内吸引 4. 演習：口腔内吸引 5. 演習：口腔内吸引 6. 演習：口腔内吸引 7. 演習：鼻腔内吸引 8. 演習：鼻腔内吸引 9. 演習：鼻腔内吸引 10. 演習：鼻腔内吸引 11. 演習：気管カニューレ内部吸引 12. 演習：気管カニューレ内部吸引 13. 演習：気管カニューレ内部吸引 14. 演習：気管カニューレ内部吸引 15. 演習：気管カニューレ内部吸引 16. 演習：気管カニューレ内部吸引 17. 演習：気管カニューレ内部吸引 18. 演習：気管カニューレ内部吸引 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況，受講態度，提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	最新介護福祉全書13「医療的ケア」メヂカルフレンド社 ※ その他，随時資料を配付。				
【備 考】	演習内容は十分に理解するよう努力し，分からない内容は適宜質問をすること。 演習中の私語厳禁。演習態度に十分気をつけること。				

水戸看護福祉専門学校

2020年度

後期教授要目

学校法人 八文字学園

水戸看護福祉専門学校

介護福祉学科 2年生

目次

介護福祉学科2年 後期シラバス

大項目	中項目	科目名	(ページ)
教科目（介護）			… 3
介護	介護の基本	行動支援（応用行動分析）	… 4
	生活支援技術	生活自立支援技術Ⅳ	… 5
		生きがい支援技術Ⅲ（福祉レク）	… 6
	介護実習	在宅介護実習	… 7
教科目（こころとからだのしくみ）			… 8
こころと からだの しくみ	発達と老化の理解	生涯過程	… 9
	障害の理解	障害の理解Ⅱ	… 10
	こころとからだのしくみ	精神保健	… 11
教科目（介護関連技術）			… 12
介護関連技術	卒業研究	卒業研究Ⅱ	… 13
教科目（医療的ケア）			… 14
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅣ	… 15

【大項目】	介護
--------------	-----------

【教科目責任者】	山本真由美
【教科目の概要】	介護福祉士養成カリキュラムの中核を担う科目群を束ねるのが、本教科目である。換言すれば、介護福祉士となるために最重要学習課題が集結していることになる。一年次から継続的に行う科目がほとんどであるが、これは介護福祉士養成課程のすべての時間にわたって学習が必要な科目であることを意味している。一つ一つの学習を、煉瓦で家を建てるがごとく積み重ねていくことが大切である。
【目的とねらい】	本教科目の目的は、介護福祉士として必要な学習の習得であるが、二年次生においてはさらに「生活者の視点」を重視して学習に取り組むこととしたい。本教科目のねらいとしては、われわれの生活の延長線上に介護という領域が存在することを再確認し、介護という営みが机上の空論とならないよう援助者側が認識を高めることとしている。これらが達成されることで、様々な領域で活躍できる介護福祉士を目指すのである。

中項目	小項目	時間数	単位数	講義形態	前・後期
介護の基本	介護福祉論Ⅰ	60	4	講義	1年前期
	介護福祉論Ⅱ	30	2	講義	1年後期
	介護福祉論Ⅲ	30	2	講義	2年前期
	介護の基本(リハビリ)	30	2	講義	2年前期
	行動支援	30	2	講義	2年後期
コミュニケーション技術	コミュニケーション	30	1	演習	1年後期
	対人関係論	30	2	演習	2年前期
生活支援技術	生活自立支援Ⅰ	60	2	演習	1年前期
	生活自立支援Ⅱ	60	2	演習	1年後期
	生活自立支援Ⅲ	30	1	演習	2年前期
	生活自立支援Ⅳ	30	1	演習	2年後期
	家政学	30	2	演習	2年前期
	レクリエーション活動援助法Ⅰ	60	2	演習	1年前期
	レクリエーション活動援助法Ⅱ	30	1	演習	1年後期
	生きがい支援技術Ⅰ	30	1	演習	1年後期
	生きがい支援技術Ⅱ	60	2	演習	2年前期
	生きがい支援技術Ⅲ	60	2	演習	2年後期
介護過程	介護過程理論Ⅰ	60	4	講義	1年前期
	介護過程理論Ⅱ	30	2	講義	1年後期
	介護過程実践	30	2	講義	2年前期
	介護サービス論	30	2	講義	2年前期
介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	60	2	演習	1年前期
	介護総合演習Ⅱ	60	2	演習	1年後期
	介護総合演習Ⅲ	30	1	演習	2年前期
介護実習	介護実習Ⅰ	48	1	実習	1年前期
	介護実習Ⅱ	96	2	実習	1年後期
	介護実習Ⅲ	96	2	実習	1年後期
	介護実習Ⅳ	176	4	実習	2年前期
	在宅介護実習	40	1	実習	2年後期

【科目名】	行動支援（応用行動分析）				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年後期	【授業形態】	講義
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	介護の基本	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 本講では、「根拠に基づく援助」の実践的理論と具体的援助方略を習得する。特に、徹底的行動主義を哲学的基盤とする、行動分析学を理論的基盤とし、対人援助学という実践の科学を学び、援助の理論的裏付けを学ぶ。</p> <p><授業の概要> 学問基盤の背景、実用的理論の講義を学んだ後、それに基づいた援助方法を演習によって体得する。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（援助哲学としての徹底的行動主義，援助理論として応用行動分析学 2. スキナーの視点（行動分析学の歴史から，人と環境のつながりを考える 3. 対人援助学としての応用行動分析学 4. 基礎理論（強化の原理，弱化の原理 5. 基礎理論（消去の原理，復帰の原理 6. 基礎理論（弁別刺激と，非弁別刺激，スケジュール 7. 基礎理論（ABC分析，理論的分析 8. 基礎理論（アセスメントと実験的デザイン 9. 基礎理論（介入という援助方法；行動変容アプローチ 10. 実践編（問題行動に対する援助 11. 実践編（問題行動に対する援助 12. 実践編（望ましい行動の生起，望ましい行動の増加を図る援助 13. 実践編（望ましい行動の生起，望ましい行動の増加を図る援助 14. まとめ（対人援助学の展望 15. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況，受講態度，授業ごとのミニレポートの提出状況，提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	ジョン・O・クーパー，ティモシー・E・ヘロン，ウィリアム・L・ヒューワード（訳，中野良顕）（2013），応用行動分析学，明石書店				
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。授業中の居眠り・私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

【科目名】	生活自立支援技術Ⅳ				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年後期	【授業形態】	演習
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	1単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	生活支援技術	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 生活支援技術では、単にできないことを援助する「補完的介護」ではなく、本人の持っている力を最大限に引出し、個別的な自立・自律に向けた支援の考え方や、技術・技法の習得を実践的に体得する。</p> <p><授業の概要> 根拠に基づいた個別ケアを展開できるように実践を重ねていく。1年次、2年次前期に学んだ支援技術を各学生と確認、評価を行いながら、安心・安全な技術の習得と知識の獲得を目指す。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 複合的介護演習Ⅰ-1 3. 複合的介護演習Ⅰ-2 4. 複合的介護演習Ⅱ-1 5. 複合的介護演習Ⅱ-2 6. 複合的介護演習Ⅲ-1 7. 複合的介護演習Ⅲ-2 8. 複合的介護演習Ⅳ-1 9. 複合的介護演習Ⅳ-2 10. 複合的介護演習Ⅴ-1 11. 複合的介護演習Ⅴ-2 12. 期末試験対策 13. 期末試験対策 14. 期末試験 15. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	実技試験，出席状況，授業態度等，総合的評価				
【テキスト】	新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」中央法規				
【備考】	事故防止に十分留意し，安心安全な演習をこころがけること。 演習にあたっては事前に身だしなみを整え準備をしておくこと。				

【科目名】	生きがい支援技術Ⅲ（福祉レク）																																		
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年後期	【授業形態】	演習																														
【授業回数】	30回	【授業時間】	60時間	【単位数】	2単位(必修)																														
【大項目】	介護		【中項目】	生活支援技術																															
【担当者】	福祉レクリエーションインストラクターとして県協会にて5年以上経験			【実務経験】	有																														
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 対象者の生きがいや張り合いのある生活実現のための支援技術を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもったプログラムや行事の計画立案や運営の方法 ・見通しと根拠をもって個人やグループを支える方法 																																		
【授業計画】	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援</td> </tr> <tr> <td>2. グループレクリエーションの考え方</td> <td>17. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方</td> </tr> <tr> <td>3. " 計画立案の考え方</td> <td>18. レクリエーション活動例</td> </tr> <tr> <td>4. 事例（介護老人保健施設）</td> <td>19. "</td> </tr> <tr> <td>5. 事例（認知症デイサービス）</td> <td>20. 生きがい活動・余暇自立促進の方法</td> </tr> <tr> <td>6. グループレクリエーションで心掛けること</td> <td>21. "</td> </tr> <tr> <td>7. 行事・イベントとは（施設別事例）</td> <td>22. レクリエーション活動の特性を知る</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td>23. アレンジと創作の実際</td> </tr> <tr> <td>9. 行事・イベントの計画のポイント</td> <td>24. "</td> </tr> <tr> <td>10. 福祉レクリエーション支援の評価方法</td> <td>25. "</td> </tr> <tr> <td>11. 個人への支援と構造と展開</td> <td>26. アレンジのポイント</td> </tr> <tr> <td>12. "</td> <td>27. アレンジを生かしたレクリエーション活動</td> </tr> <tr> <td>13. 個人で楽しむ活動の展開</td> <td>28. "</td> </tr> <tr> <td>14. "</td> <td>29. まとめ</td> </tr> <tr> <td>15. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>					1. 授業オリエンテーション	16. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援	2. グループレクリエーションの考え方	17. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方	3. " 計画立案の考え方	18. レクリエーション活動例	4. 事例（介護老人保健施設）	19. "	5. 事例（認知症デイサービス）	20. 生きがい活動・余暇自立促進の方法	6. グループレクリエーションで心掛けること	21. "	7. 行事・イベントとは（施設別事例）	22. レクリエーション活動の特性を知る	8. "	23. アレンジと創作の実際	9. 行事・イベントの計画のポイント	24. "	10. 福祉レクリエーション支援の評価方法	25. "	11. 個人への支援と構造と展開	26. アレンジのポイント	12. "	27. アレンジを生かしたレクリエーション活動	13. 個人で楽しむ活動の展開	28. "	14. "	29. まとめ	15. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援																																		
2. グループレクリエーションの考え方	17. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方																																		
3. " 計画立案の考え方	18. レクリエーション活動例																																		
4. 事例（介護老人保健施設）	19. "																																		
5. 事例（認知症デイサービス）	20. 生きがい活動・余暇自立促進の方法																																		
6. グループレクリエーションで心掛けること	21. "																																		
7. 行事・イベントとは（施設別事例）	22. レクリエーション活動の特性を知る																																		
8. "	23. アレンジと創作の実際																																		
9. 行事・イベントの計画のポイント	24. "																																		
10. 福祉レクリエーション支援の評価方法	25. "																																		
11. 個人への支援と構造と展開	26. アレンジのポイント																																		
12. "	27. アレンジを生かしたレクリエーション活動																																		
13. 個人で楽しむ活動の展開	28. "																																		
14. "	29. まとめ																																		
15. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援	30. 期末試験																																		
【関連資格】	介護福祉士国家資格																																		
【評価方法】	出欠状況，受講態度，授業ごとのミニレポートの提出状況，提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。																																		
【テキスト】	日本レクリエーション協会「楽しさの追及を支えるサービスの企画と実施」，2013 日本レクリエーション協会「楽しさの追及を支えるための介入技術」，2013																																		
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。																																		

【科目名】	在宅介護実習				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年後期	【授業形態】	実習
【授業回数】	---	【授業時間】	45時間	【単位数】	1単位(必修)
【大項目】	介護		【中項目】	介護実習	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> これまでの介護総合演習および介護福祉実習の総括をする。そのため、最も多様な事例がみられ、総合的な介護スキルが必要とされる在宅支援分野の実習を経験する。本実習を通して、介護福祉士としての基本的な実践スキルを完成させる。</p> <p><授業の概要> ケアプラン演習は行わないが、インテーク、アセスメント、プランニング、実施というサイクルを前提とした援助実践を、在宅支援現場で体験する。また、多様なコミュニケーションの展開は勿論、限られた時間で援助場面に順応する力を養う。</p>				
	<p>基本的には、在宅支援事業所における在宅介護実習を設定する。 具体的には、以下の事業種別とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームヘルプサービス事業所（高齢者，障害者） ・デイサービス事業所（高齢者，障害者） ・グループホーム事業所（高齢者，障害者） ・小規模多機能型居宅介護事業所 ・その他，高齢者福祉分野または障害者支援分野の在宅支援事業所 <p>実習には1～3名でチームを組み，参加する。</p> <p>実習期間は，1日8時間×5日間とする。</p>				
【関連資格】	介護福祉士				
【評価方法】	規定時間の出席，実習施設指導者および本科担当教員による総合評価に基づく。				
【テキスト】	これまでの授業で用いた教科書の中で，実習先の種別および実習内容に関連する資料				
【備考】	実習内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。				

【大項目】	こころとからだのしくみ
--------------	--------------------

【教科目責任者】	渡辺 修宏
【教科目の概要】	対象者の生活支援を行う上で、身体及び心身の基礎的な理解は必須である。対象者を理解するための初歩として、同じ“ヒト”である“自分”の理解は不可欠である。近年増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野でも対応できる技能習得のためにも、本教科目では、自らの生活習慣を振り返りながら、「人間とは何か」を問い続け、常に自分との投影を行いながら検討をしていく。
【目的とねらい】	①人間の発達と老化を理解し、根拠に基づいたケアの実践ができる。 ②認知症や障害に関する基礎的知識を習得し、認知症や障害のある人への適切なケア、家族への支援ができる。 ③介護福祉士として専門性の追求や政策への提案を検討し、実践することができる。 ④領域介護に関する知識の統合ができる。

中項目	小項目	時間数	単位数	講義形態	前・後期
発達と老化の理解	基礎心理	30	2	講義	1年後期
	生涯過程	30	2	講義	2年後期
認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	30	2	講義	1年前期
	認知症の理解Ⅱ	30	2	講義	1年後期
障害の理解	障害の理解Ⅰ	30	2	講義	1年後期
	障害の理解Ⅱ	30	2	講義	2年後期
こころと からだのしくみ	基礎医学Ⅰ	30	2	講義	1年前期
	基礎医学Ⅱ	30	2	講義	1年前期
	基礎医学Ⅲ	30	2	講義	1年後期
	精神保健	30	2	講義	2年後期

【科目名】	生涯過程				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年後期	【授業形態】	講義
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	こころとからだのしくみ		【中項目】	発達と老化の理解	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 介護の対象は老化や病気等から生活機能に障害が生じた“人間”である。介護の対象に適切な介護を提供するためには、対象の理解が必要であり、人間を発達と老化の面から理解する必要がある。 人間を発達と老化の面から理解する為に①人間の正常な成長・発達②老化に伴う体とこころ及び日常生活③社会の中の高齢者④高齢者に多い症状・病気とその対応等を学習する。</p> <p><授業の概要> 人間を発達と老化の側面から理解するために、上記の4項目について講義する。実習体験を振り返り、体験を生かした講義にしていく。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション・1章 人間の成長と発達の基礎的理解 2. 1章 人間の成長と発達の基礎的理解 3. 1章 人間の成長と発達の基礎的理解 2章 社会からみた老年期 4. 2章 社会からみた老年期 5. 3章 ライフサイクルのなかの老年期 6. 3章 ライフサイクルのなかの老年期 4章 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 7. 4章 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 8. 4章 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 9. 5章 高齢者の心理 10. 6章 高齢者に多い症状・病気 I 症状と日常生活での留意点 11. 6章 高齢者に多い症状・病気 I 症状と日常生活での留意点 12. 6章 高齢者に多い症状・病気 II 病気と日常生活での留意点 13. 6章 高齢者に多い症状・病気 II 病気と日常生活での留意点 14. 6章 高齢者に多い症状・病気 II 病気と日常生活での留意点 15. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	最新介護福祉全書9「発達と老化の理解」メヂカルフレンド社 ※ その他、随時資料を配付。				
【備考】	分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

【科目名】	障害の理解Ⅱ				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年後期	【授業形態】	講義
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	こころとからだのしくみ		【中項目】	障害の理解	
【担当者】	看護師として病院で10年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を整理するとともに、障害の在る人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得することが本授業の目的である。</p> <p><授業の概要> 障害者の地域生活に関わる事例をもとにした学習を主とする。また、可能な限り、映像や音声を用いたアクティブまたはパッシブラーニングを転換する。また、最新の国（政府）の動向を踏まえた障害者福祉に関する施策についても随時触れていく。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目の狙いと進め方，授業内外勉強の仕方，輪番式課題発表について 2. 我が国の障害者福祉政策と，厚生労働省の動向について 3. 障害者総合支援法と障害の在る人の生活の理解Ⅰ 4. 障害者総合支援法と障害の在る人の生活の理解Ⅱ 5. 障害者総合支援法と障害の在る人の生活の理解Ⅲ 6. 障害者総合支援法と障害の在る人に対する介護Ⅰ 7. 障害者総合支援法と障害の在る人に対する介護Ⅱ 8. 障害者総合支援法と障害の在る人に対する介護Ⅲ 9. 障害者の家族への支援Ⅰ 10. 障害者の家族への支援Ⅱ 11. 連携と協働Ⅰ 12. 連携と協働Ⅱ 13. 利用者主体の援助 14. 障害者福祉の展望 15. 総まとめ 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況，受講態度，授業ごとのミニレポートの提出状況，提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	新・介護福祉士養成講座13「障害の理解」。福祉臨床シリーズ9「臨床に必要な障害者福祉」 ※ その他，随時資料を配付。				
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

【科目名】	精神保健				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年後期	【授業形態】	講義
【授業回数】	15回	【授業時間】	30時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	こころとからだのしくみ		【中項目】	こころとからだのしくみ	
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> “考える”そして“共有する”という作業をとおしながら、障害のある人たちの心身状態を把握することを学ぶ。その上で、全人間的なケアを行えるようにする。</p> <p><授業の概要> 主として障害のある人たちとその家族への支援とともに、チームアプローチの重要性について学習する。講義と共に、可能な限り演習を用いた授業を展開する。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 精神障害のある人の生活① 3. 精神障害のある人の生活② 4. 精神障害のある人の生活③ 5. 精神障害のある人の生活④ 6. 精神障害の歴史と動向 7. 精神障害のある人への支援① 8. 精神障害のある人への支援② 9. 精神障害のある人への支援③ 10. 家族への支援① 11. 家族への支援② 12. 家族への支援③ 13. 地域におけるサポート① 14. 地域におけるサポート② 15. 期末試験 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。				
【テキスト】	新・介護福祉士養成講座13「障害の理解」 ※ その他、随時資料を配付します。				
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

【大項目】	介護関連技術
--------------	---------------

【教科目責任者】	山本 真由美
-----------------	--------

【教科目の概要】	介護福祉士に求められる社会的ニーズには、単に個別的ケアの実践にとどまらなくなっている。これは、介護が家庭内の問題から社会的問題に拡大した時代的背景によるところも大きい。しかし、何より専門職として社会に果たすべき責任を、介護福祉士自らが自覚をもつ時期となったことを意味している。資格制度化されて二十余年が経過し、介護福祉士も新たなステージを目指すときが来たのである。
-----------------	--

【目的とねらい】	介護福祉士が社会に貢献しうる専門職となるためには、①自らの実践について常にエビデンスを持つこと、②実践の積み重ねこそが社会へ貢献する材料となるという自覚、そして③職業人としての専門職という認識、という点があげられる。これらは所謂「心得」たるものとも認識されるが、学術的な観点からこれらの自己覚知を促していくことを目的としたい。
-----------------	---

中項目	小項目	時間数	単位数	講義形態	前・後期
介護事務	介護事務	90	2	演習	2年前期
	住環境支援技術Ⅰ	30	2	講義	1年前期
	住環境支援技術Ⅱ	30	2	講義	1年後期
卒業研究	卒業研究	90	4	講義 演習	2年後期

【科目名】	卒業研究Ⅱ						
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年後期	【授業形態】	講義		
【授業回数】	30回	【授業時間】	120時間	【単位数】	4単位(選択)		
【大項目】	介護関連技術		【中項目】	卒業研究			
【担当者】	介護福祉士として福祉施設で5年以上経験			【実務経験】	有		
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい> 研究は、ある事象に疑問を持ち、その事象を様々な視点から捉え、それを検証していく作業である。研究の視点は“根拠に基づいたケア”の実践においても重要な見方を提供する。本授業では介護福祉研究の理論と実践を行う。</p> <p><授業の概要> 研究の理論及び手続きを踏まえ、介護福祉領域の発展に寄与する実践研究の完成を目指す。また、学内に留まらず、可能な限り介護福祉領域及び関連領域に従事する職員等に対して発信を行う。</p>						
【授業計画】	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 研究活動① 2. 3. 研究活動② 4. 5. 研究活動③ 6. 7. 研究活動④ 8. 9. 研究活動⑤ 10. 11. 卒業論文の執筆及び所産の提出に関して 12. 13. 研究活動及び執筆① 14. 15. 16. 研究活動及び執筆② </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 17. 研究活動及び執筆③ 18. 19. 研究活動及び執筆④ 20. 21. 研究活動及び執筆⑤ 22. 23. 学内発表会準備① 24. 25. 学内発表会準備② 26. 27. 学内発表会準備③ 28. 29. まとめ 30. </td> </tr> </table>					1. 研究活動① 2. 3. 研究活動② 4. 5. 研究活動③ 6. 7. 研究活動④ 8. 9. 研究活動⑤ 10. 11. 卒業論文の執筆及び所産の提出に関して 12. 13. 研究活動及び執筆① 14. 15. 16. 研究活動及び執筆②	17. 研究活動及び執筆③ 18. 19. 研究活動及び執筆④ 20. 21. 研究活動及び執筆⑤ 22. 23. 学内発表会準備① 24. 25. 学内発表会準備② 26. 27. 学内発表会準備③ 28. 29. まとめ 30.
1. 研究活動① 2. 3. 研究活動② 4. 5. 研究活動③ 6. 7. 研究活動④ 8. 9. 研究活動⑤ 10. 11. 卒業論文の執筆及び所産の提出に関して 12. 13. 研究活動及び執筆① 14. 15. 16. 研究活動及び執筆②	17. 研究活動及び執筆③ 18. 19. 研究活動及び執筆④ 20. 21. 研究活動及び執筆⑤ 22. 23. 学内発表会準備① 24. 25. 学内発表会準備② 26. 27. 学内発表会準備③ 28. 29. まとめ 30.						
【関連資格】	---						
【評価方法】	出欠状況、受講態度、提出課題等により総合的に評価を行う。 卒業研究発表会：平成31年2月頃を予定						
【テキスト】	そのつど資料を配付します。						
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業時間外での活動がメインとなります。自発的な調査研究活動が行われることが求められます。						

【大項目】	医療的ケア
【教科目責任者】	大貫 千代子
【教科目の概要】	<p>社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正により、介護福祉士は、平成27年度から、医師の指示の下で「診療の補助」として喀痰吸引等を行うことが認められた。そのため学校における教育が必要となり、本領域および本科目が設定された。</p> <p>学習内容には以下のものがある。①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引の基礎的知識と実施手順（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引 ③経管栄養の基礎的知識と実施手順（胃ろう・腸ろう経管栄養・経鼻経管栄養） ④演習</p> <p>□</p>
【目的とねらい】	医療職との連携のもとで、医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術・態度を修得する。

中項目	小項目	時間数	単位数	講義形態	前・後期
医療的ケア	医療的ケアⅠ（講義）	34	2	講義	1年後期
	医療的ケアⅡ（講義）	34	2	講義	2年前期
	医療的ケアⅢ（演習）	36	1	演習	2年前期
	医療的ケアⅣ（演習）	36	1	演習	2年後期

【科目名】	医療的ケアⅣ				
【学科名】	介護福祉学科	【開講年次】	2年後期	【授業形態】	講義
【授業回数】	18回	【授業時間】	36時間	【単位数】	2単位(必修)
【大項目】	医療的ケア		【中項目】	医療的ケア	
【担当者】	看護師として病院で10年以上経験			【実務経験】	有
【授業概要】	<p><授業の目的・ねらい></p> <p>2013(平成25)年4月から、介護福祉士の業務に“医師の指示の下”医療的ケア(喀痰吸引や経管栄養)が位置づけられた。その為、医療職との連携の下に医療的ケア(喀痰吸引や経管栄養)を安全に・適切に実施するために必要な、知識・技術・態度を習得する必要がある。</p> <p>経管栄養を実施する為に必要な知識・技術・態度を、講義で学んだことを基に演習を行い、習得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>胃ろうまたは腸ろう・経鼻経管栄養の演習を一人5回実施する。5回目にはすべての評価項目が「手順通りに実施できる」ことを目指す。その為、個人ワークが重要となる。</p>				
【授業計画】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習：オリエンテーション・胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 1回 2. 演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 1回 3. 演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 2回 4. 演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 2回 5. 演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 3回 6. 演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 3回 7. 演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 4回 8. 演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 4回 9. 演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 5回 10. 演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 5回 11. 演習：経鼻経管栄養 6回 12. 演習：経鼻経管栄養 6回 13. 演習：経鼻経管栄養 7回 14. 演習：経鼻経管栄養 7回 15. 演習：経鼻経管栄養 8回 16. 演習：経鼻経管栄養 8回 17. 演習：経鼻経管栄養 9回 18. 演習：経鼻経管栄養 9回 				
【関連資格】	介護福祉士国家資格				
【評価方法】	評価表に基づき評価する。5回目の実施で全項目が「ア」となることで合格となる。 ※ その他、随時資料を配付。				
【テキスト】	最新介護福祉全書13「医療的ケア」 メヂカルフレンド社 ※ その他、随時資料を配付。				
【備考】	授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。				

1. 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

○令和元年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(3年制)	学年	1	学生数	43	
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	1	5	14	15	6	2
下位 1/4に該当する人数 10 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 63 点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(3年制)	学年	2	学生数	39	
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	2	7	13	10	5	2
下位 1/4に該当する人数 9 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 53点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(3年制)	学年	3	学生数	33	
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	0	0	6	13	12	2
下位 1/4に該当する人数 8 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 71 点以下						

